

は じ め に

この報告書は、2018・20 年度 関西学院大学社会学部授業科目 研究演習・社会調査実習の研究成果をまとめたものである。

まず、関西学院大学大谷ゼミ 21 期生のゼミ活動について簡単に整理しておこう。大谷研究室では、2016 年度から学術振興会科研費基盤研究(A)「政策形成に貢献し調査困難状況に対応可能な社会調査方法の研究」を受給しており、2017 年には、先輩の 18・19 期生が「愛媛・長崎県民生活実態調査」を実施した。21 期生は、その報告書である大谷信介編『愛媛・長崎県民生活実態調査報告書』(2018 年 3 月)と 18 期生が卒業時にまとめた『47 都道府県庁が実施する社会調査の実態把握―「県民意識調査」の実施状況と問題点』の 2 冊の報告書を輪読することからゼミが始まった。3 回生になって、19 期生が卒業時にまとめた『国民生活の実態を明らかにする社会調査の可能性―「愛媛・長崎県民生活実態調査」報告書』の研究成果を、一つ上の 20 期生とともに詳細に検討し、新たな調査票を開発するとともに、各市 2000 サンプルの「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」を 2019 年夏に実施した。調査過程では、サンプリング作業・郵送作業・調査窓口対応等の調査業務にも実際に体験している。調査業務は、大学から支給された研究ラボを中心に作業を進め、調査経費は科研費の研究費によって出費された。3 回時のゼミ活動は、本格的な社会調査の全体像を体験したとても貴重なゼミ活動と位置づけられる。その反動だったのか 4 回時のゼミは、新型コロナウイルス感染症の影響で、対面ゼミは全くできず、Zoom を使ったオンラインゼミが 1 年間続くことになった。2019 年の夏に天橋立のある宮津市で実施したゼミ合宿だけが大学生らしいゼミ活動の唯一の思い出となってしまった。4 回時のゼミでは、2020 年に入学式もなくオンライン授業だけで 1 年間過ごすこととなってしまった 1 回生の「社会調査入門 B」という必修科目で、受講生に実際に社会調査を体験してもらおうと「関学親版生活実態調査」を実施し、生活実態調査の研究を進めてきた。

この報告書に掲載されている原稿は、各人の卒業論文をベースとして、報告書原稿として再構成したものである。卒論提出後、編集長加藤凜沙子・越智和歌音・中川明日菜・藤原佳詠・酒井美羽・西田有梨沙・久木元勝太・桑山航太郎が編集委員となって編集作業を進めた。序章と全体の修正は、編集長を務めた加藤凜沙子がおこなった。また、この報告書に収めきれなかったデータや資料等については、ゼミ長の久木元勝太が DVD としてまとめている。執筆者や編集委員の熱心な取り組みの結果、内容的にもとてもレベルの高い報告書として完成したと思われる。一連のゼミ活動・調査作業および編集作業には、基盤研究(A)のリサーチアシスタント(RA)であり、ゼミの先輩でもある関学非常勤講師松川尚子が重要な役割を果たしてくれた。毎回のゼミでの彼女のコメントによって本報告書の内容が充実したといえる。

このようにこの報告書は、基本的に学部学生が共同してデータ作成・分析・執筆・編集して完成させたものである。内容的には稚拙で不備な点も多々あると思われるが、彼等がひたむきに研究に取り組んできたことは確かな事実である。彼らのこの調査研究への貢献は多大なものであった。今回の調査作業およびこの報告書にかけた情熱が、彼等の将来の人生の中で何らかの役に立つであろうことを期待してやまない。

この報告書をまとめるにあたっては、多くの方々にお世話になった。基盤研究の研究分担者の先生方、各市役所の職員の方々、「市民生活実態調査」に回答してくださった川崎・神戸・福岡市民の皆様、「関学版生活実態調査」に協力いただいた 1 回生の保護者の皆様に、この場を借りてお礼を申し述べたいと思う。

2021 年 2 月 28 日

関西学院大学社会学部 教授
大 谷 信 介

【目次】

はじめに

序章 社会調査の意義と今後の課題

第1章 国勢調査の問題点を踏まえた新たな質問文と分析方法の開発

- 1 社会調査からみる国民の移動実態
- 2 労働の実態把握—結果の分析と質問文の検証—
- 3 多様な夫婦の家事分担程度の実態
- 4 回答者本人を基点とした世帯分類の構築

第2章 生活時間から市民の暮らしを把握する

- 1 一日の生活時間を捉える新たな調査方法
- 2 年齢を詳細に分けての高齢者の実態把握
- 3 インターネットの質問文の作成の経緯とインターネットの利用の分析
- 4 休日の過ごし方からみる余暇の実態把握

第3章 家計状況を把握する質問の開発と結果の検証

第4章 通勤・生活圏の空間的把握

- 1 調査対象地域に適した通勤先を把握する質問文の検討
- 2 社会調査と空間的分析法

巻末資料

「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」「生活実態調査関学生親版」単純集計結果

「関学生親版生活実態調査」調査票

「関学生親版生活実態調査」聞き取り調査票

「関学生親版生活実態調査」コーディングマニュアル

夫婦職業組み合わせ変数を SPSS で作成する方法

Google Map を利用した空間的分析法のマニュアル

大谷ゼミ 21 期生メンバー紹介

編集後記

序 章

社会調査の意義と今後の課題

私たちが日々生活しているこの「社会」は、年齢や性別、国籍といった様々なバックグラウンドを持つ人々によって成り立っている。そのため、社会を円滑に機能させ発展につなげるには、そこで暮らす人々の現状を理解し、課題解決に向けて行動する必要がある。社会調査は、これを達成するうえで欠かせない要素であり、近代化の歴史の中でも重大な役割を担ってきた。

しかしながら昨今、国民の生活を把握するための最も重要な調査として位置づけられている政府統計（統計調査と世論調査）は深刻な問題に直面している。その象徴として挙げられるのが、2019年に発覚した「毎月勤労統計調査」（厚生労働省）における不正問題である。この調査は、労働者の賃金や労働時間を把握し、雇用者報酬の算出などに使われる極めて重要な統計調査であるにもかかわらず、一部のデータが捏造されていたことが明らかになったのである。またこれを皮切りに、国の最も重要な統計として位置づけられている基幹統計のうち、約半数にあたる 21 統計で新たに不正が発覚した。この一連の出来事は、それ以前からあったプライバシー意識の高まりも相まって、政府や自治体の統計調査などにおける回答拒否をさらに推し進める結果を招いてしまった。

また、これまでの政府統計は①多様なテーマを横断的に分析（クロス分析）できず、得られたデータを政策形成に活かしきれない、②調査対象者への回答負担が大きい（社会生活基本調査では 2 日分の生活時間を 15 分刻みの時間軸に沿って記入・家計調査では詳細な家計簿をつける必要がある）といった問題を抱えてきた。これも、調査対象者が回答協力を拒む原因の一つである。

そこで本研究室では、文部科学省から研究費の助成を受け「2016-2020 年度科学研究費基盤研究(A)「政策形成に貢献し調査困難状況に対応可能な社会調査方法の研究」」の一環として、2017 年に「愛媛・長崎県民生活実態調査」、2019 年に「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」を実施した。これらの調査の中には、大谷ゼミの学生が「調査対象者への負担が少なく、かつ有益な情報を沢山得られる質問文とはどのようなものか」を一生懸命考え、何度も会議を重ねて開発したアイデアが数多く盛り込まれている。本報告書では、私たち 21 期生と一つ先輩の 20 期生が主体となって作り上げた「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」に焦点を当て、この調査で得られたデータの分析を通じてその成果や課題について考察している。将来的には、ここでの研究成果を活かしながらより良い調査を設計し、全国の市町村や海外でも広く実施できる社会調査を開発していくことが目標である。

第 1 章では、「移動」「働き方」「世帯構成」について、より実用的な質問文の考案及び分析方法の開発についてまとめている。各分野において、まず国勢調査の問題点に言及した上で、これまで研究室で行ってきた調査の分析を行い、新たに開発した質問文の有効性を検証する。

第 2 章では、市民生活実態調査で初めて導入した生活時間質問文に焦点を当て、その開発経緯と結果の検証について述べる。その際、既存の代表的な 2 つの生活時間調査である「社会生活基本調査(総務省 2016)」と「国民生活時間調査(NHK 2015)」の功績や課題を整理し、結果の比較においても参考資料として用いる。また、ここではインターネット利用や余暇時間を尋ねた質問文の検証や、高齢者の生活時間についての分析も紹介する。

第 3 章では「家計構造」や「世帯年収」を問う質問文についてまとめている。近年、世帯形態や所得の多様化が進んでいる。こうした現代社会において、家計構造の把握を可能とする質問文に関する結果の検証を行うとともに、共働き夫婦世帯の家計構造や年金受給者の実態に関する分析について述べていく。

第 4 章では、市民生活実態調査における生活圏に関する質問文についてまとめている。「1 調査対象地域に適した通勤先を把握する質問文の検討」では通勤先を詳細に把握するため現在までに実施した 3 つの質問文の分析・実態をまとめ、今後の問い方について検討している。「2 社会調査と空間的分析法」からはこれまでの買い物・通院行動調査の変遷や、空間的把握によって分かった都市の生活圏の特徴についてまとめている。

巻末には、21 期生が研究の過程で実施した「生活実態調査 関学生親版」に関する資料と、市民生活実態調査・関学生親版調査から得られたデータの単純集計表を掲載している。関学生親版生活実態調査は、市民生活実態調査の追加調査として、2020 年 12 月に社会調査入門 B1 を受講していた学生の保護者を対象として実施した。具体的な内容は資料に記載している。さらに、第 1 章のコラムと第 3 章の家計構造の分析で用いている「夫婦職業組み合わせ変数」の作り方と、Google Map を利用して空間的分析を行う方法についても、マニュアルにして掲載している。

本研究を進めるにあたって作成した表やデータファイルは、本報告書に掲載できなかったものも含めて、全て DVD に収録している。

本報告書の執筆者一覧

序章	<u>加藤凜沙子</u>
第 1 章	1 <u>越智和歌音</u> ・2 <u>藤原佳詠</u> ・3 早瀬翔吾・ 4 <u>酒井美羽</u> ・ <u>西田有梨沙</u>
第 2 章	1 <u>加藤凜沙子</u> ・2 吉田圭吾・3 田中亮多・ 4 鈴木美玖・倉益萌々子
第 3 章	<u>久木元勝太</u>
第 4 章	1 <u>中川明日菜</u> ・2 <u>桑山航太郎</u>
単純集計表	酒井美羽・西田有梨沙・藤原佳詠・越智和歌音
関学生親版 生活実態調査資料	越智和歌音・中川明日菜
夫婦職業組み合わせ 変数マニュアル	加藤凜沙子
空間的分析法 マニュアル	桑山航太郎
編集後記	久木元勝太

下線は編集委員

第 1 章

国勢調査の問題点を踏まえた新たな質問文と分析方法の開発

1 社会調査からみる国民の移動実態

1-1 国勢調査による移動実態

1-1-1 質問文の変遷と結果

【表 1 移動に関する質問項目の変遷】

		1920	1925	1930	1935	1940	1947	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
移動	一時現住者							●														
	常住地				●																	
	本籍地						●															
	出生地	●		●		●		●														
	1年前の常住地									●												
	現住所への入居時期											●		●								
	従前の常住地											●		●								
	5年前の常住地															●		●		●	●	●

(注)従前の常住地...これまで（以前）に住んでいた場所

表 1 は、全 21 回の調査での移動に関する質問項目について整理したものである。国勢調査では移動に関する質問項目が固定化していなかった。主に聞かれた項目は「出生地」「従前の常住地」「5 年前の常住地」の 3 つである。「出生地」は 1920 年～1950 年で 4 回聞かれたが、両親の故郷にある病院で産まれる場合が多くあるなどの問題があった。「従前の常住地」は 1970 年と 1980 年、「5 年前の常住地」では 1990 年～2020 年にかけて 5 回聞かれており、この項目が定着してきたと考えられる。ただ全 21 回の調査を通しては、質問項目にはブレがあることから、移動に関する質問項目は国の調査でも確定的なものは存在しておらず、調査を重ねるごとに試行錯誤を繰り返し、質問項目を決定してきたと考える。

【表 2 5 年前の常住地別人口構成の推移 全国】

	1990 年	2000 年	2010 年	2015 年
常住者(5 年前の常住地)	116,773,116 100.0	120,792,172 100.0	119,669,728 100.0	115,892,839 100.0
現住所	87,266,001 74.7	86,819,021 71.9	92,439,140 77.2	90,569,650 78.1
自市区町村内	11,073,095	15,136,823	11,952,673	11,425,427
自市内他区	1,845,502	1,966,110	1,746,207	1,612,589
県内他市区町村	7,307,004	7,857,604	6,088,330	5,554,781
転入(他県から)	8,889,160	8,389,386	6,862,317	6,213,230
転入(国外から)	392,354	623,228	581,061	517,162

表 2 は全国の 5 年前の常住地別人口構成の推移を示したものである。2015 年を例にとると、現住所と 5 年前の常住地が同じだった人は 90,569,650 人で総人口の 78.1%を占めている。転入(他県から)は 1990 年から 2015 年にかけて 2,675,930 人減少している。このことから、多くの人々は常住しており、移動人口は減少傾向にあるといえる。

1-1-2 「5年前の常住地」で捉えられる移動人口

「5年前の常住地」を聞く質問項目は、5年前に常住していた場所について、現住所ではない他の市区町村の場合は都道府県・市郡・区町村を記入してもらう形式である。しかし、移動といっても5年前の常住地を聞いているため5年前から現在までの5年間の移動の実態は分からないという問題点がある。例えば、2016年4月に松山市から進学のため西宮市に移り、2020年に就職で松山市の実家に戻った人の場合、2020年10月時点松山市で国勢調査を受けた際、5年前の常住地は現住所となり、5年間移動していないことになってしまう。この問題点について、2020年の国勢調査においてもこれまでと同様の質問項目が使われていたことから未だ解決はしていない。この問題点が解決できない限り、人々の移動についての実態把握は難しいと考える。

また「5年前の常住地」から何を把握したいのかが明確になっていない問題点もある。「5年前の常住地」が「現在と同じ」であった人は5年間移動していないと判断することできないことは上記の事例からも分かる。そして5年間住んでいたということだけで土着層だと判断することもできない。研究室では土着層について、出身都道府県以外に移動歴がない人を指すとした。土着層や移動の実態把握のために、「5年前の常住地」の質問項目から何かを導き出すことは難しいと考える。

この2つの問題点が解決できない限り、人々の移動についての実態把握は難しいと考える。

1-2 「生活実態調査」における移動に関する質問文

研究室では2017年に「県民生活実態調査」、2019年に「市民生活実態調査」、2020年に「関学生親版調査」を行った。調査では主に5つの質問項目を用いてきた。居住年数、居住歴、前住居、転居経験回数、出身地と最終学歴所在地である。これらの質問項目について、移動を捉える上でどういう意味を持つのか考えていきたい。

【表3 生活実態調査での移動に関する質問】

	現住所	市区町村居住年数	住居居住年数	居住歴	前住居	転居理由	転居経験回数	出身地	最終学歴所在地
県民生活実態調査(2017)	●	●		●				●	
市民生活実態調査(2019)	●	●			●			●	
関学生親版調査(2020)	●	●	●	●	●	●	●	●	●

1-2-1 居住年数に関する質問文

まず、居住年数の質問文から考えていく。この質問文は研究室で行った3つの調査全てに使用してきた。

【図1 県民生活実態調査 Q14】

14 あなたが現在お住まいの市町に住み始めて、何年ですか。

該当する番号に○をつけ、年数をお答えください

1. 生まれてからずっと住んでいる () 年 ⇒ **15**

2. 他の市区町村に住んだことがあり、
この市町に住み始めて・戻って () 年、通算で () 年 住んでいる

【表 4 Q14 の回答状況】

	愛媛県(NA=34)	長崎県(NA=48)
1.生まれてからずっと住んでいる	26.8	28.2
2.他の市区町村に住んだことがあり、この市町に住み始めて・戻って()年、通算で()年住んでいる	73.2	71.8
合計	100.0(1175)	100.0(1170)

図 1 の「県民生活実態調査」の質問文では、居住年数を尋ねることで土着層の把握をすることを目的とした。分析したところ、選択肢 1 の「生まれてからずっと」とは現在まで出身地である市町村以外に居住したことがないということであり、該当者は完全に土着層であると考えられることが分かった。しかし、選択肢 1 に該当する人だけが土着層と考えることはできないことも分かった。例えば、松山市出身で愛媛大学を卒業後、愛媛県庁に入庁した人がその後宇和島市局に異動になり、調査当時は再び松山市に住んでいた場合、選択肢 1 に該当しない。進学率の上昇やライフステージの関係で転居・転勤が多くなった現在では、この「生まれてからずっと」に該当する人は少ないと考える。都市部では交通の発達で隣県への通勤通学をしている人はいるが、地方では転居する人が多い。だが、事例のように愛媛県内のみで転居や転勤をしてきた人は土着層に含まれると考える。土着層の正確な把握において、「生まれてからずっと」と回答した人だけが土着層だと考えることは意味を持たないことが分かった。

また選択肢 2 の「住み始めて・戻って () 年」と「通算で () 年住んでいる」の質問の NA が愛媛県、長崎県どちらも 100 を超えていた。割合にしてみると、選択肢 2 と回答した人のうち「住み始めて・戻って () 年」「通算で () 年住んでいる」のどちらの質問にも答えなかった人は 10%を超えていた。この結果からこの質問文が分かりにくく、答えなかったことが分かった。

Q① あなたは、現在お住まいのところに住み始めて、何年ですか。

1. 生まれてからずっと住んでいる

2. (年) 1 年未満のかた (ヶ月)

【図 2 市民生活実態調査 Q1】

【表 5 Q1 の回答状況】

	川崎市(NA=3)	神戸市(NA=16)	福岡市(NA=7)
1.生まれてからずっと住んでいる	7.9	7.1	8.0
2. (年) 1 年未満のかた (ヶ月)	92.1	92.9	92.0
合計	100.0(941)	100.0(1006)	100.0(904)

図 2 の「市民生活実態調査」の質問文では、「県民生活実態調査」からの改善として「住み始めて・戻って () 年」「通算で () 年住んでいる」のワーディングを変更した。その結果、表 4 では NA の数は大きく減り改善が見られた。しかし、選択肢 1 の「生まれてからずっと住んでいる」と回答した人は居住年数=本人の年齢になるため、居住年数の平均を出すには選択肢 1 を回答した人のサンプルに本人の年齢を足した新しい変数を作り直す必要があるという新たな問題点が発生した。土着層の把握においても「生まれてからずっと」は問題があったため、この選択肢は不要だと考えた。

図 3 の「関学生親版調査」では、市区町村と住居、それぞれの居住年数を尋ねる形式に大きく変更した。市区町村の居住年数は、記入してもらうことで年齢との比較を行い「生まれてからずっと住んでいる」、つまり土着層の把握ができるようにした。加えて住居居住年数との差を計算することで市内間移動を把握することができると考えた。また、()に数字を記入してもらうことで分析の負担が減らした。回答率は 2 つの質問文ともに約 97%

であり、回答しやすいものであった。

居住年数に関しては、図3を用いることで、当初の目的であった土着層の把握だけでなく、市内間移動についての実態も把握することができると考える。

Q2(3)．現在お住まいの市区町村に住み始めて何年ですか。
 ()年

Q3(1)．現在お住まいの住居に住み始めて何年ですか。
 ()年

【図3 関学生親版調査 Q2(3), Q3(1)】

1-2-2 居住歴に関する質問文

【図4 県民生活実態調査 Q14(1)】

14(1) 現在お住まいの市町以外で、あなたがこれまでににお住まいになったことがある場所はどちらですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。【すべてに○】

愛媛県内	1. 松山市	京阪神大都市圏	11. 大阪府
他市町	2. 松山市以外の中予地域		12. 京都府
	3. 東予地域		13. 兵庫県
	4. 南予地域	東京大都市圏	14. 東京都
愛媛県以外	5. 徳島県		15. 神奈川県
の四国	6. 香川県		16. 千葉県
	7. 高知県		17. 埼玉県
中国地方	8. 岡山県	その他	18. 外国
	9. 広島県		19. 上記以外の土地
	10. その他の中国地方		

図4の「県民生活実態調査」の質問文では、他市町村居住経験ありの人がどこに移動したのかを把握することを目的とした。なお愛媛県と長崎県での調査であったが、選択肢の項目についてはそれぞれの地域に即したものに変えて調査を行った。この形式では、当てはまる選択肢すべてに○をつけてもらうことでどこに居住したことがあるかについて把握することができた。しかし、分析をする上でいくつかの問題点があった。次の通りである。

- ①いつ、どこからどこへ、どのくらいの期間といった移動歴がわからない
- ②1つの都道府県で複数の市区町村に居住していた場合に把握できない
- ③「19. その他の土地」に含まれる都道府県が多い

また、一度県外に移動したが戻ってきた人の特徴については、県外に移動したまま戻っていない人を比較対象として分析することが必要であるため、この調査では特徴を分析することはできないことが分かった。

図5では「県民生活実態調査」での問題点を改善した。まず、これまでに居住経験のある場所について、「県民生活実態調査」では調査対象県の近隣県と東京大都市圏と阪神大都市圏に限定し選択肢を作っていた。しかし、「その他の場所」に含まれる都道府県が多いことや、1つの都道府県の中で複数の市区町村に居住していた場合は把握できないことを踏まえ、今回の質問文では海外を含め48カ所すべてを選択肢として、()に居住した市区町村の数を具体的に記入してもらう形式に変更した。この質問文から、市区町村レベルで居住経験のある場所を把握することができると考えた。

分析をしたところ、居住経験のある範囲を特定できることが分かった。しかし、分析をする際に時間がかかり、回答者が大多数の調査では効率的な分析方法を生み出すことが必要だと考える。また、この質問文を単独で分析するのではなく、出身地や転居経験回数とクロス分析することで、移動の実態をより把握できると考える。

【図5 関学生親版調査 Q2(1)】

Q2(1)．現在お住まいの市区町村を含めて、あなたがこれまでお住まいになったことがある場所はどちらですか。あてはまる番号すべてに○をつけ、()に居住経験のある市区町村の数を記入してください。同じ都道府県で市区町村が変わった場合も数に含みます。【すべてに○】

例) ・生まれてからずっと芦屋市に住んでいる →28 兵庫県に○、(1)と記入
 ・西宮市から神戸市に移動した。 →28 兵庫県に○、(2)と記入
 ・大阪市北区から大阪市淀川区、その後大阪府高槻市に移動した。
 →27 大阪府に○、(3)と記入
 ・宝塚市の実家から福岡市西区に大学進学し、その後宝塚市にリターン就職し、1人暮らしをした。 →28 兵庫県に○、(1)、40 福岡県に○、(1)と記入

1 北海道 ()	17 石川県 ()	33 岡山県 ()
2 青森県 ()	18 福井県 ()	34 広島県 ()
3 宮城県 ()	19 山梨県 ()	35 山口県 ()
4 岩手県 ()	20 長野県 ()	36 徳島県 ()
5 秋田県 ()	21 岐阜県 ()	37 香川県 ()
6 山形県 ()	22 静岡県 ()	38 愛媛県 ()
7 福島県 ()	23 愛知県 ()	39 高知県 ()
8 茨城県 ()	24 三重県 ()	40 福岡県 ()
9 栃木県 ()	25 滋賀県 ()	41 佐賀県 ()
10 群馬県 ()	26 京都府 ()	42 長崎県 ()
11 埼玉県 ()	27 大阪府 ()	43 熊本県 ()
12 千葉県 ()	28 兵庫県 ()	44 大分県 ()
13 東京都 ()	29 奈良県 ()	45 宮崎県 ()
14 神奈川県 ()	30 和歌山県 ()	46 鹿児島県 ()
15 新潟県 ()	31 鳥取県 ()	47 沖縄県 ()
16 富山県 ()	32 島根県 ()	48 海外 ()

1-2-3 前住居に関する質問文

2019年に実施した「市民生活実態調査」では前住居に重点を置き質問文を変更した。これは「県民生活実態調査」の質問文では、人々がどこから移動してきたのかについてわからなかったためである。移動に関する質問項目を「前住居」に絞って尋ねることで、各市にはどこから転入してくる人が多いのかを明確に把握することができると考えた。

分析から、都道府県・市区町村については、ともに回答率が約 90%程度あり高い回答率であった。この質問文により、都道府県だけではなく、市区町村別でも、どこから人が移動してきたのかということが分かった。市区町村まで尋ねることで市内間移動も捉えることができた。

最寄り駅と鉄道会社については、各市の NA の数に違いが見られた。川崎市、神戸市、福岡市の順に増えており、主な交通手段を電車とする川崎市の方が高い回答率になることが分かった。また具体的に会社名を記入してもらうことで、主に利用されている鉄道会社が分かった。

最寄りのバス会社とバス停においては、川崎市と神戸市では半数以上が NA であった。福岡市ではバス利用が多いため回答率が高かったが、質問文の有効性については都市部で違いが見られたため、低いと考える。

【図 6 市民生活実態調査 Q5(1)】

Q5(1) 現在お住まいのところに引っ越してくる前は、どちらにお住まいでしたか。①都道府県名と市区町村名をお書きください。おわかりになるかたは、②鉄道の最寄り駅、③最寄りのバス停もお書きください。

※現在お住まいのところに、生まれてからずっと住んでいるかたは、⇒Q6へお進みください。

①都道府県・市区町村	【	都道府県	【	市区町村	】
②鉄道の最寄り駅	【	鉄道会社	】	駅	】
③最寄りのバス停	【	バス会社	】	バス停名	】

【表 6 前住居市の集計】

川崎市(NA=37)		神戸市(NA=44)		福岡市(NA=34)	
川崎市	48.7	神戸市	66.2	福岡市	63.5
横浜市	10.3	明石市	3.9	北九州市	2.5
大田区	4.1	西宮市	3.0	春日市	1.8
世田谷区	3.4	大阪市	1.8	糟屋郡	1.6
杉並区	1.5	尼崎市	1.7	鹿児島市	1.3
その他	32.0	その他	23.4	その他	29.3
合計	100.0(813)	合計	100.0(900)	合計	100.0(792)

表 6 は、具体的に記入された市区町村名を集計したものである。川崎市では約 5 割、神戸市・福岡市では 6 割以上の人が、前住居が現在と同じ市内であるということが分かった。都市部においては、どの市でも市内間での移動が最も多いということが分かった。

【図 7 関学生親版調査 Q3(3), Q3(4)】

Q3(3) あなたが現在お住まいの住居に引っ越してくる前は、どちらにお住まいでしたか。住所をお書きください。

【

Q3(4) 現在お住まいの住居に引っ越してきた最も大きな理由は次のうちどちらですか。最もあてはまるものを 1 つだけ選んでお答えください。【1 つだけ○】

1. 進学のため	5. 子育てのため
2. 就職のため	6. 親と子の同居・近居のため
3. 転勤のため	7. 親の介護のため
4. 結婚のため	8. その他（

）

図 7 は、「市民生活実態調査」での流れを引き継ぎ、前住居質問を採用した。しかし、「市民生活実態調査」では駅名と鉄道会社名、バス停名とバス会社名を尋ねたが、NA が多く各都市の交通利用の状況に左右された結果となったため、今回は具体的に住所を記入してもらう形式に変更した。現住所も同様の形式をとっているため、分析がしやすくなった。

ただし、この形式は NA が約 20% となっており、前回の移動が数年前などで記憶が曖昧であったり、わざわざ調べて回答することが面倒だったことが回答率の低下に影響していると考えられる。また「関学生親版調査」は講義の一環として学生への課題として行った背景があるため、詳細に記入してもらう形式を採用することができたが、

対象者が一般の市民や県民を対象とした調査では、プライバシーの観点もあり、この形式を採用するのか考える必要がある。また、Q3(4)で移動の理由も尋ねることでライフステージと移動の関係も分析できると考えた。

【表 7 前住居からの移動の範囲と転居理由】

(非該当=13、NA=25)

	進学	就職	転勤	結婚	子育て	親や子と同居・近居	親の介護	その他	合計
同じ市区町村内	0	0	3.0	6.0	35.8	19.4	1.5	34.3	100.0 (67)
県内他の市区町村	2.7	2.7	2.7	21.6	29.7	24.3	0	16.2	100.0 (37)
県外	3.2	6.5	29.0	16.1	9.7	6.5	9.7	19.4	100.0 (31)
国外	0	0	50.0	0	50.0	0	0	0	100.0 (4)
合計	1.4	2.2	10.1	12.2	28.8	17.3	2.9	25.2	100.0 (139)

表 7 から、「関学生親版調査」でも「市民生活実態調査」の結果と同様に約半数の人が同じ市区町村内で移動していることが分かった。今回の調査では、地方在住者も含まれていることから、県内他の市区町村や県外の移動も一定の割合存在することが特徴的であった。しかし、大阪府と兵庫県が回答者の約半数を占めることから「市民生活実態調査」と似た結果になったことは都市部の在住者の移動が同じ市区町村内で多いことを反映していると考えられる。

移動の理由については、最も多かったのは「子育て」であった。これは回答者が学生の保護者であるという背景が大きく影響していると考えられる。また、「その他」を分析したところ、「家を新築した」「家(マンション)を購入した」という意見が多くあり、今後の調査では選択肢の中に取り入れることが必要だと分かった。同じ市区町村内、県内他の市区町村では「子育て」が最も多く、県外は「転勤」が最も多い結果であることから、移動の範囲とライフステージには関係があると考えられる。

1-2-4 転居経験回数に関する質問文

【図 8 関学生親版調査 Q3(2)】

Q3(2). あなたはこれまでに何回転居された経験がありますか。()に回数をお書きください。生まれてからずっと同じ住居にお住まいの方は(0)とお書きください。同じ都道府県や市区町村での移動も含まれます。

()回 ※(0)と回答した方は、Q4へ

図 8 は「関学生親版調査」で新たに作成したものである。図 5 では居住経験のある市区町村の数を把握することを目的としたが、同じ市区町村内で複数移動している場合を把握できない。そこでこの質問文と関連させて分析することで移動の実態をより把握することができると考えた。また、移動は個人によって差が出ることから移動回数の差から特徴を分析することができるのではないかと考えた。

表 8 は結果をまとめたものである。最も多かったのは 3 回であった。考えられる移動の背景としては、就職、結婚、子育てによる転居である。また、2 回や 4 回と回答した人も多く、進学や転勤のために移動することも考えられる。そして、転居経験回数が 0 回と回答した人は 6.9% だった。これは、生まれてからずっと同じ住居に

住んでいることであり、完全な土着層と見ることができると考える。この質問文で「生まれてからずっと住んでいる」というワーディングを使うことなく土着層を把握することができると考える。また、10回以上と回答した人も合わせると7.9%であり、個人によって回数に幅があることが分かった。

学歴とクロス分析したところ、大卒者とそれ以外で回数に違いがみられた。高卒者は1, 2回が約半数を占めており10回以上はいなかった。高専・短大・専門学校卒者は4回が最も多く、1～5回に集中している。大学・大学院卒者は10回以上と回答した人が13.5%だったことが特徴的である。また理由としては進学での移動、職業で転勤が多いなどの背景が考えられる。最も多いのは4回であるが全体に値が分散している。以上から、学歴と転居経験回数は関連があると考えられる。

【表8 転居経験回数と学歴】

	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
高校	0	24.1	24.1	17.2	10.3	10.3	6.9	3.4
高専・短大・専門学校	6.3	14.6	10.4	18.8	22.9	14.6	2.1	6.3
大学・大学院	9.3	4.1	12.4	19.6	12.4	8.2	11.3	7.2
合計	6.9	10.3	13.8	19.0	14.9	10.3	8.0	6.3
	8回	10回	11回	12回	13回	14回	合計	
高校	3.4	0	0	0	0	0	100.0(29)	
高専・短大・専門学校	2.1	0	0	2.1	0	0	100.0(49)	
大学・大学院	2.1	3.1	4.1	2.1	2.1	2.1	100.0(99)	
合計	2.3	1.7	2.3	1.7	1.1	1.1	100.0(177)	

表9は性別と転居経験回数をクロス分析したものである。まず、男女ともに3回が多かった。10回以上は男性の割合が高くなっているが、人数で見ると男女に大きな違いはない。また、0回と回答し土着層と把握できる12人については、男性が多い結果となった。

【表9 性別と転居経験回数】

	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
男性	9.9	11.3	9.9	18.3	12.7	12.7	9.9	2.8
女性 (NA=3)	6.3	9.7	16.5	19.4	16.5	8.7	6.8	8.7
合計	6.9	10.3	13.8	19.0	14.9	10.3	8.0	6.3
	8回	10回	11回	12回	13回	14回	合計	
男性	1.4	2.8	2.8	2.8	2.8	0	100.0(71)	
女性 (NA=3)	2.9	1.0	1.9	1.0	0	1.9	100.0(103)	
合計	2.3	1.7	2.3	1.7	1.1	1.1	100.0(177)	

・きょうだい構成について

表10は性別と本人のきょうだい構成をクロス分析してまとめたものである。この質問は回答率98.3%と高かったが、男女ともに本人の性別と整合性の取れない回答があった。具体的には、男性で「姉妹のみ長女」「長子長女」「長子以外長女」と回答した人が合わせて20.0%であり、女性で「長子長男」「長子以外長男」と回答した人は24.0%であった。

これらの原因としては、質問文の選択肢の文字が多く、言葉の意味が理解しづらかったことがある。その結果、()に書かれていた具体例を頼りに回答したために影響を受けた、と考える。回答率が高かったが、実際とは異なる回答が多かったことから、ワーディングに問題があり、この質問文に有効性はないと考える。選択肢をもっと

分かりやすいものに変更することで、改善できるのではないか。転居経験回数とのクロス分析は、この質問文が有効性を持たなかったため、分析できなかった。

【表 10 性別と本人きょうだい構成】

(NA=3)

	一人っ子	長子長男	長子以外 長男	姉妹のみ 長女	長子長女	長子以外 長女	その他	合計
男性	8.6	37.1	25.7	2.9	1.4	15.7	8.6	100.0(70)
女性	9.6	6.7	17.3	21.2	13.5	18.3	13.5	100.0(104)
合計	9.2	19.0	20.7	13.8	8.6	17.2	11.5	100.0(174)

1-2-5 出身地と最終学歴所在地に関する質問文

国の調査の中で出身地を聞いているものはない。人口移動調査では出生地を問う質問文があり、出生地と現住地を比較すると各時点での地域分布の違いが把握できるが、曖昧さが残る。一方で研究室で行ってきた「生活実態調査」では出身地を尋ねている。ここでの出身地とは、「15歳までに主に過ごした場所」を指す。出身地を把握する質問文から15歳までに主に住んでいた場所が特定できることから土着層の把握において有効な質問文ではないかと考える。

【図 9 関学生親版調査 Q9(2)】

Q9(2). あなた（および配偶者）の最後に行かれた（中退および在学中を含む）学校の所在地はどちらになりますか。都道府県名と市区町村名をお書きください。政令指定都市・東京23区の方は区までお書きください。			
あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
【 都道 】【 市区 】【 府県 】【 町村 】【	【 都道 】【 市区 】【 府県 】【 町村 】【	【 都道 】【 市区 】【 府県 】【 町村 】【	【 都道 】【 市区 】【 府県 】【 町村 】【

図9では最終学歴所在地について質問文を新たに作成した。これまでは進学による移動が分からず、土着層の把握に影響があったが、今回の調査では出身地や現住所と比較することで土着層の把握やUターン就職、Iターン就職なども分析できると考えた。

【表 11 出身地と最終学歴所在地】

(NA=10)

同じ市区町村内	県内他の市区町村	県外	合計
24.0	32.3	43.7	100.0(167)

【表 12 出身地と最終学歴所在地と本人学歴】

	高校	高専・短大・専門学校 (NA=4)	大学・大学院 (NA=5)
同じ市区町村内	72.4	13.3	13.8
県内他の市区町村	24.1	55.6	24.5
県外	3.5	31.1	61.7
合計	100.0(29)	100.0(45)	100.0(94)

表11と12は出身地と最終学歴所在地についてまとめた。全体では、県外へ進学した人が多かった。しかし、学歴が関係していると考えたことから表26で学歴別に分析したところ、差が見られた。高卒者は同じ市区町村へ進学しており、県外の高校へ進学した人は少なかったが、大卒者になると、県外への進学が増えた。ただし、県外へ進学したから移動したとは言えず、回答者が大阪府、兵庫県出身者が多いことから、転居することなく進学した人が多いと考える。都市部の調査では交通の便の発達で県外へ通学するパターンが多いが、地方での調査の場合、学校数も限られることからこの質問文は使えるのではないかと考える。

1-3 土着層パターンの算出

「関学生親版調査」の移動に関する質問文を組み合わせることで土着パターンを算出することができるのではないかと考えた。

まず、土着層を4つのパターンに分けて考える。「県民生活実態調査」での土着層の把握についての問題点を踏まえ、以下に示す4つのパターンに分けることができると考えた。

そして利用する質問文は、A「Q1. 現住所」、B「Q10. 出身地」、C「Q2(1). 居住経験のある場所」の3つである。分析方法は次の通りである。最初にAとBの比較することで④が判明する。そしてCを分析することで①～③に分けることができる。

【表 13 土着層パターンの分類】

(NA=12)

①出身市区町村のみ	②出身都道府県のみ	③出身都道府県に Uターン	④他の都道府県出身	合計
21.2	18.2	23.0	37.6	100.0(165)

表13は「関学生親版調査」の回答者を4つの土着層パターンに分けたものである。結果としては、④他の都道府県出身者が多かった。これは回答者の多くが関西地域の在住者であったため、交通機関の発達などから他県への移動が容易であることが関係していると考ええる。次いで①と③が同程度であった。これは出身市区町村で居住し続けるか、県外に行くか、の2パターンに分けられることを示していると考えた。これも同様に、関西地域の在住者が多かったために、ライフステージとの関係を踏まえても広範囲の移動をすることは少ないことが影響していると考ええる。

「関学生親版調査」では回答者の出身地や年代に偏りがあったため、このような結果であったが、全世代を対象とした調査や地方での調査では、この4つのパターンがより明確に分析できると考える。

1-4 移動を把握する質問項目の提案

【表 14 移動を把握する質問項目】

	現住所	居住歴	市区町村居住 年数	住居居住 年数	前住居 住所	転居経 験回数	転居 理由	最終学 歴所在 地	出身地
どこから来たのか	●				●				
いつ来たのか			●	●					
移動の理由							●		
土着率はどれくらいか								●	●
どれくらいの範囲 移動しているのか		●				●			
市内間移動はどれ くらいか	●				●				
			●	●					

国勢調査の質問文の分析をはじめ、研究室で行ってきた調査でも移動に関する質問文を定着させることはできていない。しかし、国勢調査の「5年前の常住地」質問文では移動について分析できることはなかったが、「県

民生活実態調査」をはじめとする研究室の調査で用いた質問文では分析から実態を把握することもできた。

具体的には、居住年数質問では、土着層や市内間移動を把握することができる。居住歴質問では、居住経験のある範囲を特定し、他の質問項目とクロス分析することで、さらに移動について分析が進むことができると考えた。前住居質問では、市内間移動や移動の理由からライフステージと移動の関係を分析することができた。転居経験回数質問は、土着層の把握や個人差のある移動の傾向を分析できると分かった。出身地と最終学歴所在地質問では学歴と移動の関係について分析でき、また調査する場所でも結果が左右されることが予想されると分かった。

これらを踏まえて、表 14 ではこれまで「生活実態調査」で用いてきた質問項目を把握したい内容ごとに分類した。複雑な背景を持つ移動の実態を把握するためには、複数の質問項目を組み合わせることで分析が可能になると現時点では考える。

図 10 はこれまで研究室で行ってきた質問文を踏まえ、また土着層の把握のパターン分けから新たな質問文を作成したものである。Q1 から Q4 まではこれまでの調査で使用してきたものだが、Q5 は土着層のパターン分けとその分析結果より、土着層を把握する質問文を考えたものである。これまでの質問文では「生まれてからずっと」のワーディングの問題があったり、出身市区町村を越えての移動をしている場合に土着の把握が正確にできないことが課題であった。しかし、この質問文を使用することで容易に分析が可能になると考える。ここに含まれていない転居理由や転居経験回数などの質問文は目的に応じて適宜取り入れていくことで、移動についての実態をより分析することが可能になると考える。

【図 10
移動を把握する質問文の提案】

Q 1. 現住所を記入してください。 【 】	
Q 2. 現在お住まいの市区町村、および住居に住み始めて何年ですか。 市区町村()年 住居()年	
Q 3. あなたが現在お住まいの住居に引っ越してくる前は、どちらにお住まいでしたか。合併後の自治体名でお答えください。政令指定都市・東京 23 区の方は区までお書きください。 1 【 】 2 外国【国名 】 3 生まれてからずっと同じ住居に住んでいる	
Q 4. あなた（および配偶者）の出身地はどちらですか。出身地とは、15 歳までに主に過ごされたところとお考えください。合併後の自治体名でお答えください。政令指定都市・東京 23 区の方は区までお書きください。	
あなた	配偶者（あなたの夫や妻）
1. 【 】 2. 外国【国名 】	1. 【 】 2. 外国【国名 】
Q 5. あなたの出身地は、現在お住まいの場所および居住経験とどのような関係がありますか。以下の当てはまるものに○をしてください。合併後の自治体名でお答えください。 1 出身市区町村にのみ居住経験がある 2 出身都道府県にのみ居住経験がある 3 県外に居住経験があるが、現在は出身都道府県に戻って居住している 4 他の都道府県出身である、または外国出身である	

2 労働の実態把握—結果の分析と質問文の検証—

2-1 はじめに

国勢調査や毎月勤労統計調査など、労働に関する公的調査はさまざまな機関で行われている。しかしこれらの調査で正確な労働の実態を測ることができるといえるのだろうか。時代とともに変化・多様化する働き方の実態を正確に把握するため、本研究室は、「川崎・神戸・福岡市 民生活実態調査」において、働き方の実態をより正確かつ簡単に把握できる質問票の開発を行った。それらの質問文が今後も活用できるものであるか、調査結果の分析をもとに検証を行う。

2-2 職業を把握する質問文

2-2-1 国勢調査

以下は、2020 年国勢調査で用いられた職業調査票の質問文、選択肢である。

【図 1 国勢調査 質問票（労働に関する部分を抜粋）】

9月24日から30日 までの1週間に仕事を しましたか 仕事とは収入を伴う仕事をいい 自家営業（農業や店の仕事など） の手伝いや内職・パートタイム・ アルバイトも含めます 通学には 予備校・専門学校など に通っている場合も含めます 幼稚園又は保育園などに通っ ている場合は その他に記入してく ださい	主に仕事 家事などのほか仕事 通学のかたわら仕事 少しも仕事をしなかった人 仕事を休んでいた 仕事を探していた 家事 通学 その他	主に仕事 家事などのほか仕事 通学のかたわら仕事 少しも仕事をしなかった人 仕事を休んでいた 仕事を探していた 家事 通学 その他	主に仕事 家事などのほか仕事 通学のかたわら仕事 少しも仕事をしなかった人 仕事を休んでいた 仕事を探していた 家事 通学 その他	主に仕事 家事などのほか仕事 通学のかたわら仕事 少しも仕事をしなかった人 仕事を休んでいた 仕事を探していた 家事 通学 その他
--	--	--	--	--

14 勤め先・営業などの別 労働者派遣事業所の派遣社員 とは 労働者派遣法に基づいて 派遣されている人をいいます パート・アルバイト・その他には 契約社員 嘱託なども含めます 自家業主とは 個人で事業を経営 している人（農家などを除く）や 自由業の人をいいます	就業者について（11欄で通学に記入した人は14～16欄には記入の必要はありません） 雇われている人 正規の職員・従業員 パート・アルバイトなどの 労働者派遣事業所 の派遣社員 その他 役員 自家業主 家族 内職 家族 内職 家族 内職	雇われている人 正規の職員・従業員 パート・アルバイトなどの 労働者派遣事業所 の派遣社員 その他 役員 自家業主 家族 内職 家族 内職 家族 内職	雇われている人 正規の職員・従業員 パート・アルバイトなどの 労働者派遣事業所 の派遣社員 その他 役員 自家業主 家族 内職 家族 内職 家族 内職	雇われている人 正規の職員・従業員 パート・アルバイトなどの 労働者派遣事業所 の派遣社員 その他 役員 自家業主 家族 内職 家族 内職 家族 内職
15 勤め先・業主などの 名称及び事業の内容 仕事をしている事業所 （本社 支店 営業所 工場 商店などの）名称 を書いてください （官公庁は課名まで） ・その事業所で主に営まれて いる事業の内容をくわしく 書いてください ・労働者派遣事業所の派遣 社員は 派遣先（実際に仕 事をしている事業所）に ついて書いてください	15欄と16欄は「調査票の記入のしかた」の10～15ページの書き方の例を参考にしてください			
16 本人の仕事の内容 ・本人が実際にしている主な仕事 の内容をくわしく書いてください				

・労働力状態（選択肢 8 項目）＝調査年の 9 月 24 日から 30 日までの 1 週間に仕事をしたかどうかによって分類している。

【1. 主に仕事 2. 家事などのほか仕事 3. 通学のかたわら仕事 4. 仕事を休んでいた 5. 仕事を探していた 6. 家事 7. 通学 8. その他】
 （注）・1～4 を「就業者」、5 を「完全失業者」としている。

・就業者と完全失業者を合わせて「労働力人口」、6～8 を「非労働力人口」としている。

・従業上の地位（選択肢 8 項目）＝調査期間中にその人が仕事をしてきた事業所における地位によって分類している。

【1. 正規の職員・従業員 2. 労働者派遣事業所の派遣社員 3. パート・アルバイト・その他 4. 会社などの役員 5. 自家業主：雇人あり 6. 自家業主：雇人なし 7. 家族従業者 8. 家庭内の賃仕事（内職）】

（注）1～3 を「雇用者」としている。

〈国勢調査の問題点〉

①記述式による負担

問 15「勤め先・業種などの名称及び事業の内容」は回答者本人の記述によって回答を得ている。記述回答は調査票回収後、人力で再分類がなされる。国勢調査は全数調査でデータ量が膨大であるにも関わらず、その作業は調査者にとって大きな負担である。また回答者にとっても負担が大きく、さらに国民のプライバシー意識が高まっていることから、回答率の低下が懸念される。実際 2020 年国勢調査では、期限までに十分な回答を得ることができず、回答期限が延長されている。

②世帯に重きを置いている

単身赴任などの労働の現状があるにもかかわらず、世帯ごとに調査をしているため夫婦が同一世帯に居住していない場合は夫婦の就業状態をとらえることができない。

③学生を就業者として集計している

学業のかたわらアルバイト等をしている学生も就業者として集計されるため、就業人口を正確に捉えられない。

以上のように、調査者側のコストや回答者の負担が大きい点や、現代の多様性に対応できていない点を踏まえると、国勢調査の質問文は有用性が低いといえるだろう。

2-2-2 市民生活実態調査

以下は、2019 年に大谷ゼミが行った「市民生活実態調査」で用いた職業に関する質問票である。

【図 2 市民生活実態調査 本人職業質問文】

Q 21 現在のあなた（および配偶者）の主な職業は次のどれですか。【1つだけ〇】

あなた	配偶者（あなたの夫や妻）
1. 農・林・漁業従事者（家族従事者を含む）	1. 農・林・漁業従事者（家族従事者を含む）
2. 1.以外の自営業者（家族従事者を含む）	2. 1.以外の自営業者（家族従事者を含む）
3. 会社員（経営者を含む）	3. 会社員（経営者を含む）
4. 教員（公立学校を含む）	4. 教員（公立学校を含む）
5. 公務員（教員は除く）	5. 公務員（教員は除く）
6. パート・アルバイト・派遣等 （控除や扶養の範囲を超える）	6. パート・アルバイト・派遣等 （控除や扶養の範囲を超える）
7. パート・アルバイト・派遣等 （控除や扶養の範囲内）	7. パート・アルバイト・派遣等 （控除や扶養の範囲内）
8. その他（具体的に ）	8. その他（具体的に ）
9. 無職	9. 無職
10. 専業主婦・専業主夫	10. 専業主婦・専業主夫
11. 学生	11. 学生

※ 9.～11. に〇をつけたかたは、⇒ Q 22 にお進みください

〈市民生活実態調査の特徴〉

①勤めを分けて聞いている

国勢調査では「正規の職員・従業員」となっているが、我々の調査では「会社員」「教員」「公務員」にわけて聞いたことで、職業ごとの労働の実態を詳しく把握することができる。

②「パート・アルバイト・派遣等」を扶養範囲超/範囲内に分けて聞いている

扶養範囲超/内に分けて聞くことで、働き方や収入の違い等を詳しく把握することができる。

③同居別居に関わらず、夫婦の働き方を測定できる

世帯ではなく個人を調査対象としているため、同居・別居に関わらず夫婦の働き方を測定することができる。夫婦の就業組み合わせを作成して様々な質問項目とクロス集計をすることも可能である。

③一問で簡潔に職業を聞いている

国勢調査のように事業所の名称等の詳細な情報を得ることはできないが、1つの質問に回答してもらうだけで業種・働き方、配偶者の職業までとらえることができる。さらに記述式ではなく選択式の回答であるため、国勢調査のように人力による再分類の必要もない。

以下の表は、市民生活実態調査・県民生活実態調査で得られた本人職業の単純集計表である。

【表 1 市民調査・県民調査 本人職業単純集計(単位：%)】

	市民調査			県民調査		
	男性(NA=33)	女性(NA=61)	総数(NA=99)	男性(NA=17)	女性(NA=24)	総数(NA=41)
農林漁業	0.4	0.3	0.3	7.1	3.2	5.0
自営業	8.5	3.5	5.7	12.2	5.6	8.6
会社員	51.1	24.2	35.8	38.2	18.9	27.6
教員	2.3	1.8	2.1	2.4	1.7	2.0
公務員	3.4	1.4	2.3	4.0	2.9	3.4
パート範囲超	4.0	11.1	8.1	3.2	7.5	5.6
パート範囲内	3.8	16.4	10.9	3.2	13.5	8.9
その他	4.2	3.5	3.8	3.0	2.9	3.0
無職	19.0	11.7	14.9	22.9	17.9	20.2
専業主婦・主夫	0.1	22.9	13.1	0.8	23.1	13.1
学生	3.1	3.2	3.2	2.9	2.6	2.8
合計	100.0(1192)	100.0(1579)	100.0(2778)	100.0(1055)	100.0(1293)	100.0(2348)

〈特徴〉

・愛媛・長崎は農林漁業従事者の割合が高い。

・市民調査・県民調査の間で最もポイント差が大きいのは会社員であった。

・NAの数を比較すると、市民調査は県民調査の約2倍である。この数年でプライバシー意識が上昇したことや、地方と都市での意識の違いなどが理由として考えられるのではないかと。

【表 2 市民生活実態調査 本人職業単純集計表 (3市別) (単位：%)】

	川崎市			神戸市			福岡市		
	男性 NA=(16)	女性 NA=(11)	総数 NA=(27)	男性 NA=(13)	女性 NA=(22)	総数 NA=(35)	男性 NA=(7)	女性 NA=(19)	総数 NA=(26)
農林漁業	0.0	0.0	0.0	0.5	0.7	0.6	0.8	0.0	0.3
自営業	7.8	3.7	5.5	8.8	3.0	5.4	8.9	4.0	6.1
会社員	58.3	31.0	43.0	46.6	19.3	30.7	48.3	23.0	34.0
教員	1.8	1.4	1.5	2.4	2.5	2.4	2.9	1.6	2.2
公務員	2.8	0.8	1.7	4.4	1.1	2.4	3.1	2.4	2.7
パート範囲超	4.0	12.4	8.7	3.7	10.0	7.3	4.5	11.2	8.3
パート範囲内	2.5	15.0	9.5	5.1	17.7	12.4	3.7	16.4	10.9
その他	3.8	3.7	3.7	4.1	3.9	4.0	4.7	2.8	3.6
無職	15.3	8.5	11.5	21.7	14.2	17.3	20.2	11.8	15.5
専業主婦・主夫	0.0	21.3	11.9	0.0	24.2	14.1	0.3	22.6	13.0
学生	4.0	2.2	3.0	2.7	3.5	3.2	2.6	4.0	3.4
合計	100.0(400)	100.0(507)	100.0(907)	100.0(410)	100.0(570)	100.0(980)	100.0(381)	100.0(499)	100.0(880)

〈特徴〉

・三市の間で最もポイント差が大きいのは「会社員」であった。川崎市は東京も通勤圏であることが理由として考えられる。

・「無職」の割合は川崎市が最も低く、次いで福岡市、神戸市の順に高くなっている。これは回答者の平均年齢と関連していると考えられる。(平均年齢：川崎市 49.8 歳 神戸市 53.8 歳 福岡市 51.4 歳)

2-2-3 職業の割合比較

2015 年国勢調査と市民生活実態調査の職業結果を比較していく。国勢調査の「労働力状態 (5~8)」と「従業上の地位 (1~8)」の選択肢をもとに、それぞれに値する市民生活実態調査の選択肢をピックアップし、調査結果の割合を比較する。なお、国勢調査の「労働力状態」で「1. 主に仕事」「2. 家事などのほか仕事」「3. 通学のかたわら仕事」「4. 仕事を休んでいた」を選択した者は、「従業上の地位」を回答することになっているため、比較では「従業上の地位」の中に含まれている。次ページの表 3~5 はその結果である。

(注)・ローマ数字は労働力状態の選択肢

- ・国勢調査の「Ⅷ. その他」には定年退職をした者も含まれているため、市民生活実態調査「9. 無職」と比較している
- ・年齢の条件を同じにするため、市民調査・国勢調査ともに 20~79 歳に限定して比較している

【表 3 市民生活実態調査・国勢調査 職業の割合比較（川崎市）】

川崎市	市民調査	総数	男	女	国勢調査	総数	男	女	ポイント差		
									総数	男	女
自営業	1. 農林漁業 2. 自営業者	5.5	7.8	3.7	5.6 自営業主 7. 家族従業者	4.1	5.1	3.1	1.4	2.7	0.6
正規雇用	3. 会社員 4. 教員 5. 公務員	47.0	63.9	33.4	1. 正規の職員・従業員 4. 会社などの役員	37.2	50.5	23.1	9.8	13.4	10.3
非正規雇用	6. 7. パート・アルバイト・派遣等	18.2	6.2	27.8	2. 労働者派遣事業所の派遣社員 3. パート・アルバイト・その他	15.4	8.3	22.9	2.8	2.1	4.9
無職	9. 無職	11.1	14.8	8.1	V. 仕事を探していた Ⅷ. その他	10.9	12.6	9.0	0.2	2.2	0.9
家事	10. 専業主婦・主夫	12.1	0.0	21.8	Ⅵ. 家事	13.1	1.8	25.1	1.0	1.8	3.3
学生	11. 学生	2.4	3.6	1.5	Ⅶ. 通学	2.0	2.1	1.8	0.4	1.5	0.3

（川崎市ホームページ 平成 27 年国勢調査結果より）

【表 4 市民生活実態調査・国勢調査 職業の割合比較（神戸市）】

神戸市	市民調査	総数	男	女	国勢調査	総数	男	女	ポイント差		
									総数	男	女
自営業	1. 農林漁業 2. 自営業者	6.1	9.5	3.6	5.6 自営業主 7. 家族従業者	5.3	7.0	3.7	0.8	2.5	0.1
正規雇用	3. 会社員 4. 教員 5. 公務員	35.8	53.5	23.0	1. 正規の職員・従業員 4. 会社などの役員	32.2	46.2	19.5	3.6	7.3	3.5
非正規雇用	6. 7. パート・アルバイト・派遣等	19.2	8.3	27.0	2. 労働者派遣事業所の派遣社員 3. パート・アルバイト・その他	17.1	9.9	23.6	2.1	1.6	3.4
無職	9. 無職	17.4	21.8	14.2	V. 仕事を探していた Ⅷ. その他	16.7	20.0	13.7	0.7	1.8	0.5
家事	10. 専業主婦・主夫	14.6	0.0	25.2	Ⅵ. 家事	16.3	2.6	28.6	1.7	2.6	3.4
学生	11. 学生	3.2	2.8	3.5	Ⅶ. 通学	2.2	2.4	1.9	1.0	0.4	1.6

（神戸市ホームページ 平成 27 年国勢調査より）

【表 5 市民生活実態調査・国勢調査 職業の割合比較（福岡市）】

福岡市	市民調査	総数	男	女	国勢調査	総数	男	女	ポイント差		
									総数	男	女
自営業	1. 農林漁業 2. 自営業者	6.4	9.8	3.7	5.6 自営業主 7. 家族従業者	5.4	7.2	3.8	1.0	2.6	0.1
正規雇用	3. 会社員 4. 教員 5. 公務員	38.5	54.7	26.4	1. 正規の職員・従業員 4. 会社などの役員	32.0	44.2	21.1	6.5	10.5	5.3
非正規雇用	6. 7. パート・アルバイト・派遣等	19.8	8.2	28.6	2. 労働者派遣事業所の派遣社員 3. パート・アルバイト・その他	16.2	9.0	22.6	3.6	0.8	6.0
無職	9. 無職	15.0	19.7	11.4	V. 仕事を探していた Ⅷ. その他	13.4	15.5	11.4	1.6	4.2	0.0
家事	10. 専業主婦・主夫	13.2	0.3	23.0	Ⅵ. 家事	13.0	1.8	23.1	0.2	1.5	0.1
学生	11. 学生	3.3	2.5	3.9	Ⅶ. 通学	2.4	2.9	2.0	0.9	0.4	1.9

(福岡市ホームページ 平成 27 年国勢調査より)

各市において、すべての項目に割合の大きな差はみられなかったことから、市民生活実態調査の職業を聞く質問文は有効だったのではないかと見える。

しかし学生に関して、国勢調査では「通学のかたわら仕事」「通学」の二つに分けられる。国勢調査において、アルバイトをしている学生などが「通学のかたわら仕事」と回答した場合は労働力人口と換算される。一方の市民生活実態調査の場合はアルバイトの有無にかかわらず「学生」はひとくくりで換算される。そのため、市民生活実態調査で学生と回答した人と、国勢調査でⅦ通学と回答した人の実態は少し異なっている。

国勢調査において職業に関する国民の実態をより正確に把握するためには、学生を就業者として集計することが正しいのか、検討する必要があるだろう。

2-3 働き方を把握する質問文

市民生活実態調査では新たに、1 週間当たりの労働日数・労働時間を問う質問文を設けた。教員の長時間労働や非正規雇用の労働実態など、社会問題の解決に向けて働き方の実態を詳細に把握するために必要不可欠な質問項目であると考えている。以下は実際に使用した質問票である。

【図 3 市民生活実態調査 老働日数・労働時間を問う質問文】

Q23 あなた（および配偶者）の、この 1 週間の生活についてお聞きます。この 1 週間とは、調査票が届いた日を 7 日目として、その前 7 日間とお考えください。（家事・育児・介護などは含めずお答えください）

	あなた	配偶者（あなたの夫や妻）
① 1 週間のうち、働いた日は何日ありましたか	1. (日) 2. 働かなかった	1. (日) 2. 働かなかった
② 1 週間で、合計何時間くらい働きましたか	1. (時間) 2. 働かなかった	1. (時間) 2. 働かなかった

以下の表は、問 23 の単純集計表である。

【表 6 市民調査 問 23 本人労働日数有無（三市合計）】

単位：％	男性	女性	総数
労働日数有	80.0	64.0	70.9
労働日数無	20.0	36.0	29.1
合計	100.0(1177)	100.0(1561)	100.0(2744)

(NA=132/平均 3.40 日)

【表 7 市民調査 問 23 本人労働時間有無（三市合計）】

単位：％	男性	女性	総数
労働時間有	79.6	63.8	70.6
労働時間無	20.4	36.2	29.4
合計	100.0(1157)	100.0(1542)	100.0(2705)

(NA=171/平均 26.65 時間)

問 23 は今回の調査で新たに設けた質問文であったが、高い回答率を得ることができた。この質問文を用いて、さらに詳しく分析していく。

以下の表 8、次ページの表 9 は、職業ごとの労働日数・労働時間の分布をあらわしたものである。

【表 8 市民生活実態調査 労働日数の分布表（単位：％）】

	0 日	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	合計
農林漁業	12.5	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	25.0	37.5	100.0(8)
自営業	3.2	1.3	3.8	5.8	5.8	24.4	39.7	16.0	100.0(156)
会社員	2.1	0.4	0.7	2.3	4.9	71.3	16.9	1.3	100.0(979)
教員	3.5	0.0	0.0	0.0	1.8	56.1	24.6	14.0	100.0(57)
公務員	1.6	0.0	1.6	6.6	3.3	73.8	13.1	0.0	100.0(61)
パート範囲超	2.3	0.5	1.8	6.8	19.1	54.5	13.2	1.8	100.0(220)
パート範囲内	4.1	2.7	10.2	28.1	23.7	21.7	7.8	1.7	100.0(295)
その他	6.9	2.9	5.9	8.8	11.8	37.3	21.6	4.9	100.0(102)

【表 9 市民生活実態調査 労働時間の分布表 (単位：%)】

(時間)	0	1~10	11~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	81~90	91~	合計
農林漁業	12.5	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(8)
自営業	3.5	6.9	9.0	7.6	23.6	18.8	21.5	4.2	2.1	2.1	0.7	100.0(144)
会社員	2.3	1.0	1.4	4.1	35.9	37.3	12.0	3.5	1.9	0.4	0.3	100.0(926)
教員	3.7	1.9	3.7	0.0	25.9	37.0	18.5	5.6	1.9	1.9	0.0	100.0(54)
公務員	1.7	0.0	1.7	6.9	32.8	36.2	10.3	5.2	5.2	0.0	0.0	100.0(58)
パート範囲超	2.4	4.3	8.2	23.7	40.1	17.4	3.4	0.0	0.0	0.0	0.5	100.0(207)
パート範囲内	4.3	13.5	46.1	27.0	5.3	1.8	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	100.0(282)
その他	7.4	11.7	9.6	10.6	33.0	16.0	6.4	3.2	2.1	0.0	0.0	100.0(94)

〈特徴〉・教員は 5 日と回答した人が最も多かったが、次いで 6 日、7 日と回答している人の割合も高い。これは、学校が休みの日も部活等のために出勤する人が多いのではないかと考える。

- ・パート範囲超とパート範囲内で分布に大きな差があった。パート範囲超は週 5 日働いたと回答した人が最も多く、会社員などの正規雇用労働者と似た分布となっている。一方のパート範囲内は、週 3 日働いたという回答が最も多かった。

次に、職業ごとの平均的な働き方を表にしたものが以下の表 10 である。なお本人勤労所得を聞く質問文は設けていないため、世帯年収と本人勤労所得割合を用いて算出している。

〈本人勤労所得の求め方〉世帯年収×本人勤労所得の割合(家計構造)×0.1

【表 10 市民生活実態調査における平均的な働き方 (3 市合計)】

	性別	年齢 単位：歳	労働日数(週) 単位：日	労働時間(週) 単位：時間	労働時間(日) 単位：時間	本人勤労所得 単位：万
農林漁業	男性	60.4	5.2	26.0	4.5	103.75
	女性	53.0	4.7	33.3	7.1	15.00
自営業	男性	57.5	5.5	44.7	8.0	388.49
	女性	53.8	4.7	34.3	6.9	258.79
会社員	男性	47.2	5.1	47.0	9.3	588.45
	女性	40.4	4.8	39.6	8.3	373.57
教員	男性	48.3	5.7	47.1	8.4	606.63
	女性	41.9	5.0	45.3	9.2	482.22
公務員	男性	47.4	4.9	47.2	10.0	659.15
	女性	39.6	4.8	42.4	8.9	462.50
パートアルバイト派遣 (範囲超)	男性	55.2	4.8	38.5	8.0	180.05
	女性	48.1	4.6	31.8	6.9	196.18
パートアルバイト派遣 (範囲内)	男性	62.8	3.9	27.7	6.7	89.94
	女性	52.1	3.7	18.3	5.1	103.65
その他	男性	57.9	4.6	34.7	7.6	281.65
	女性	50.5	4.2	30.7	7.1	314.11

〈特徴〉

- ・一週間あたりの労働日数が最も多いのは教員の男性であった。教員の労働日数が多いことは度々ニュースなどでも取り上げられるが、本調査でも教員の労働問題が浮き彫りとなった。
- ・一日あたりの労働時間が最も長いのは公務員の男性であった。労働時間がきちんと定められているというイメージに反し、長時間労働の実態がうかがえる。

この表より、職業ごとの働き方の特徴が一目でわかる。また、「パート・アルバイト・派遣等」を扶養範囲超/内に分けたことによって、労働時間や本人勤労所得の違いが明らかになった。扶養範囲超/内に分けることは、働き方の実態をより正確に把握できるという点で有効であるといえるだろう。

3 多様な夫婦の家事分担程度の実態

ここでは夫婦世帯の家事分担の程度について分析していく。

Q28. あなたの世帯の家事（炊事、掃除、洗濯、買い物、ゴミ捨てなど）について、日ごろあなたはどの程度していますか。

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. あなたがすべてしている | 4. あなたはあまりしていない |
| 2. あなたがほとんどしている | 5. あなたはまったくしていない |
| 3. あなたが半分くらいしている | |

今回の調査で新しく導入された質問項目である。この質問項目は調査対象者がどの程度家事を担っているかわかる。実際に夫婦就業組み合わせと家事分担程度のクロス分析をしてみた。なお、川崎・神戸・福岡市民生活実態調査では「専業主婦」がいなかったため、夫は無職のみとなっている。

【表1 男女別夫婦就業組み合わせと家事分担程度のクロス分析表】（単位：％）

		すべて	ほとんど	半分	あまり	まったく	合計
男性	夫勤め・自営×妻勤め・自営	1.6	5.9	46.0	40.6	5.3	100.0(187)
	夫勤め・自営×妻パート範囲超	3.4	8.0	28.7	47.1	11.5	100.0(87)
	夫勤め・自営×妻パート範囲内	3.9	1.6	14.0	71.3	9.3	100.0(129)
	夫勤め・自営×妻無職・専業主婦	1.1	4.3	15.5	60.4	17.6	100.0(187)
	夫無職×妻無職・専業主婦	5.4	10.1	29.5	41.9	10.9	100.0(129)
	合計	2.8	5.7	27.3	52.3	12.4	100.0(719)
女性	夫勤め・自営×妻勤め・自営	34.6	45.0	17.3	2.6	0.4	100.0(231)
	夫勤め・自営×妻パート超	49.3	38.0	7.0	2.8	1.4	100.0(71)
	夫勤め・自営×妻パート内	57.5	39.8	2.8	0.0	0.0	100.0(181)
	夫勤め・自営×妻無職・専業主婦	68.1	28.3	2.7	0.0	0.0	100.0(226)
	夫無職×妻無職・専業主婦	46.7	38.2	11.8	1.3	0.7	100.0(152)
	合計	51.6	37.7	8.6	1.2	0.3	100.0(861)

既婚男性 全サンプル=719 NA=7

既婚女性 全サンプル=861 NA=5

男性の場合、どの世帯を見ても、「半分」と「あまり」に集中している。専業主婦世帯では「まったく」の割合が少し多い。「半分」と「あまり」のみに観点を置いた場合、共働き世帯を見ると、差は小さいが半分の割合が多いのがわかる。パート世帯・専業主婦世帯になると、「あまり」の割合が圧倒的に多いということが明らかになった。女性の場合、どの世帯を見ても、「全て」と「ほとんど」に集中している。共働き世帯では「半分」の割合が少し多い。結果、どの世帯の男性もあまり家事をしていないことが明らかになった。「全て」と「ほとんど」のみに観点を置いた場合、共働き世帯とどちらもパート世帯、その他世帯は「ほとんど」の方が割合が高く、それ以外では「全て」の方が割合が高い。共働き世帯は、新しい世帯であるため家事も徐々に分担するようになってきている。

4 回答者本人を基点とした世帯分類の構築

4-1 研究の目的

本節では様々な統計の基礎となっている「世帯構成」に焦点を当てた。わが国では、世帯を把握するための最も基本的な調査として、国勢調査を実施している。国勢調査はすべての世帯を対象に、5年ごとに行われる。世帯構成を把握することは、様々な施策の立案・推進に利用されるだけでなく、国民の実態を解明する様々な分野の統計において土台の役割を果たしている。よって世帯構成を正確に把握することは、統計調査において非常に重要性が高いのである。

しかし、国勢調査にはさまざまな問題があるのが現状だ。本章ではその問題について言及し、問題を見直した世帯構成の把握方法の考案を目的とする。

4-2 世帯主を基点とする国勢調査

4-2-1 生活実態調査と国勢調査の違い

【表1 国勢調査と生活実態調査の相違点】

	国勢調査	生活実態調査																															
調査方法	全数調査	標本調査																															
調査対象	世帯	回答者本人（個人）																															
選択肢	世帯主との続き柄 <table><tr><td>世帯主 又は 代表者</td><td>世帯主 の 配偶者</td><td>子 の 配偶者</td><td>世帯主 の父母</td><td>世帯主の 配偶者の 父母</td></tr><tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>孫</td><td>祖父母</td><td>兄弟 姉妹</td><td>他の 親族</td><td>住み込み の雇人</td><td>その他</td></tr><tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table>	世帯主 又は 代表者	世帯主 の 配偶者	子 の 配偶者	世帯主 の父母	世帯主の 配偶者の 父母	○	○	○	○	○	孫	祖父母	兄弟 姉妹	他の 親族	住み込み の雇人	その他	○	○	○	○	○	○	回答者本人との続き柄 <table><tr><td>1. 配偶者</td></tr><tr><td>2. 子ども</td></tr><tr><td>3. 子どもの配偶者</td></tr><tr><td>4. あなた（または配偶者）の父親</td></tr><tr><td>5. あなた（または配偶者）の母親</td></tr><tr><td>6. 孫</td></tr><tr><td>7. あなた（または配偶者）のきょうだい</td></tr><tr><td>8. あなた（または配偶者）の祖父・祖母</td></tr><tr><td>9. その他の親族（ </td></tr></table>	1. 配偶者	2. 子ども	3. 子どもの配偶者	4. あなた（または配偶者）の父親	5. あなた（または配偶者）の母親	6. 孫	7. あなた（または配偶者）のきょうだい	8. あなた（または配偶者）の祖父・祖母	9. その他の親族（
	世帯主 又は 代表者	世帯主 の 配偶者	子 の 配偶者	世帯主 の父母	世帯主の 配偶者の 父母																												
○	○	○	○	○																													
孫	祖父母	兄弟 姉妹	他の 親族	住み込み の雇人	その他																												
○	○	○	○	○	○																												
1. 配偶者																																	
2. 子ども																																	
3. 子どもの配偶者																																	
4. あなた（または配偶者）の父親																																	
5. あなた（または配偶者）の母親																																	
6. 孫																																	
7. あなた（または配偶者）のきょうだい																																	
8. あなた（または配偶者）の祖父・祖母																																	
9. その他の親族（ 																																	

我々が実施した生活実態調査と国勢調査の相違点については、「調査対象」と「世帯について回答する選択肢」の2つがあげられる。

国勢調査では住居や生計を軸にひとつひとつの「世帯」とその世帯員を対象とする調査であるため、世帯員について問う質問では世帯主との続き柄を回答する形式である。その一方、生活実態調査では「回答者本人」である一個人を対象とする社会調査であるため、回答者本人との続き柄を回答する形式である。

4-2-2 国勢調査の家族類型における問題点—実用性の低い世帯分類—

【表 2 国勢調査と生活実態調査の分類対照表】

国勢調査		生活実態調査
親族のみの世帯	(1) 夫婦のみの世帯	1.夫婦のみ世帯
	(2) 夫婦と子供から成る世帯	2.夫婦と子どものみ世帯
	(3) 男親と子供から成る世帯	3.ひとり親と子どものみ世帯
	(4) 女親と子供から成る世帯	
	(5) 夫婦と両親から成る世帯	4.複数世代世帯
	1 夫婦と夫の親から成る世帯	
	2 夫婦と妻の親から成る世帯	
	(6) 夫婦とひとり親から成る世帯	
	1 夫婦と夫の親から成る世帯	
	2 夫婦と妻の親から成る世帯	
	(7) 夫婦、子供と両親から成る世帯	
	1 夫婦、子供と夫の親から成る世帯	
	2 夫婦、子供の妻の親から成る世帯	
	(8) 夫婦、子供とひとり親から成る世帯	
	1 夫婦、子供と夫の親から成る世帯	
	2 夫婦、子供の妻の親から成る世帯	
	(9) 夫婦と他の親族（親、子供を含まない）から成る世帯	5.その他の世帯
	(10) 夫婦、子供と他の親族（親を含まない）から成る世帯	
	(11) 夫婦、親と他の親族（子供を含まない）から成る世帯	
	1 夫婦、夫の親と他の親族から成る世帯	
	2 夫婦、妻の親と他の親族から成る世帯	
	(12) 夫婦、子供、親と他の親族から成る世帯	
	1 夫婦、子供、夫の親と他の親族から成る世帯	
	2 夫婦、子供、妻の親と他の親族から成る世帯	
	(13) 兄弟姉妹のみから成る世帯	
	(14) 他に分類されない世帯	
(15)非親族を含む世帯		6.単身世帯
(16)単独世帯		

表 2 は、国勢調査の家族類型と生活実態調査の大分類を照らし合わせた表である。

左表からわかるように、現在の国勢調査では 16 の家族類型が用意されており、非常に細かい分類となっている。細かく分類することで各世帯の実態を詳細に分析することができるが、実際の統計調査において上記の分類がそのまま利用されているケースは少ない。そのため、この 16 の家族類型は実用性が低いものであると言える。

そこで私たちは、回答者本人を基点とした社会調査で利用できる、実用的な世帯構成分類の考案を試みた。右表のとおり結果として我々は、6つの世帯分類を考案した。

4-3 世帯分類の構築

4-3-1 世帯構成の把握方法

本調査では、回答結果を SPSS というソフトウェアを用いて生活実態について分析した。そして SPSS 上で同居人の選択肢にそれぞれ変数を割り当てる（コード化する）ことにより、回答者の世帯構成の把握と世帯分類が簡単にできるようになる。

世帯構成を把握する具体的な手順は、以下の通りである。

1. 各選択肢に割り当てる変数を決める。

【表 3 同居人選択肢割り当て Code】

選択肢	Code
(本人)	1
1.配偶者	10
2.子ども	100
3.子どもの配偶者	1000
4.あなた(または配偶者)の父親	10000
5.あなた(または配偶者)の母親	100000
6.孫	1000000
7.あなた(または配偶者)のきょうだい	10000000
8.あなた(または配偶者)の祖父・祖母	100000000
9.その他の親族	1000000000
10.その他	10000000000

2. SPSS[変換]→[他の変数への値の再割り当て]から、各選択肢の値の再割り当てを行う。
3. SPSS[変換]→[変数の計算]から、再割り当てした変数をすべて足し合わせる。
例) 「1.配偶者」と「2.子ども」を選択: $1(\text{本人})+10(\text{配偶者})+100(\text{子ども})=111$
4. 出てきた変数合計(Code)パターンを書き出す。

表 4 は、この手順に沿ってできた市民生活実態調査の世帯構成成分をまとめた表である。結果として同調査では、61 醜類の Code が出たため、61 パターンの世帯員の組み合わせが存在したことがわかる。

私たちはこの 61 の世帯構成を、6 つの大分類に振り分けた。国勢調査の(5)~(8)を複数世代世帯に、(9)~(15)をその他の世帯に振り当てたことで、分類数を大幅に少なくすることができた。

【表 4 世帯構成分類表（市民生活実態調査）】

大分類	Code	選択肢	分類過程	中分類
1.夫婦のみ世帯	11	本人+配偶者	夫婦	—
2.夫婦と子どものみ世帯	111	本人+配偶者+子ども	夫婦+子ども	—
	110001	本人+父親+母親	子ども+両親	
	10110001	本人+父親+母親+きょうだい	子ども+両親	
3.ひとり親と子どものみ世帯	101	本人+子ども	ひとり親+子ども	—
	10001	本人+父親	子ども+父親	
	100001	本人+母親	子ども+母親	
	10010001	本人+父親+きょうだい	子ども+父親	
	10100001	本人+母親+きょうだい	子ども+母親	
4.複数世代世帯	1011	本人+配偶者+子どもの配偶者	夫婦+子どもの配偶者	二世帯世帯
	1101	本人+子ども+子どもの配偶者	ひとり親+子夫婦	
	1111	本人+配偶者+子ども+子どもの配偶者	夫婦+子夫婦	
	10011	本人+配偶者+父親	夫婦+父親	
	100011	本人+配偶者+母親	夫婦+母親	
	110011	本人+配偶者+父親+母親	夫婦+両親	
	10000111	本人+配偶者+子ども+きょうだい	夫婦+子ども+きょうだい	
	10110011	本人+配偶者+父親+母親+きょうだい	夫婦+両親+きょうだい	
	10111	本人+配偶者+子ども+父親	夫婦+子ども+父親	三世帯世帯
	100101	本人+子ども+母親	ひとり親+子ども+母親	
	100111	本人+配偶者+子ども+母親	夫婦+子ども+母親	
	101111	本人+配偶者+子ども+子どもの配偶者+母親	夫婦+子夫婦+母親	
	110101	本人+子ども+父親+母親	ひとり親+子ども+両親	
	110111	本人+配偶者+子ども+父親+母親	夫婦+子ども+両親	
	1000001	本人+孫	祖父母(分折)+孫	
	1000011	本人+配偶者+孫	夫婦+孫	
	1000101	本人+子ども+孫	ひとり親+子ども+孫	
	1000111	本人+配偶者+子ども+孫	夫婦+子ども+孫	
	1001101	本人+子ども+子どもの配偶者+孫	ひとり親+子夫婦+孫	
	1001111	本人+配偶者+子ども+子どもの配偶者+孫	夫婦+子夫婦+孫	
	10010101	本人+子ども+父親+きょうだい	ひとり親+子ども+父親+きょうだい	
	10100101	本人+子ども+母親+きょうだい	ひとり親+子ども+母親+きょうだい	
	10100111	本人+配偶者+子ども+母親+きょうだい	夫婦+子ども+母親+きょうだい	
	10110101	本人+子ども+父親+母親+きょうだい	ひとり親+子ども+両親+きょうだい	
	10110111	本人+配偶者+子ども+父親+母親+きょうだい	夫婦+子ども+両親+きょうだい	
	11000111	本人+配偶者+子ども+孫+きょうだい	夫婦+子ども+孫+きょうだい	
	100100001	本人+母親+祖父母	子ども+母親+祖父母	
	100110001	本人+父親+母親+祖父母	子ども+両親+祖父母	
	110100001	本人+母親+きょうだい+祖父母	子ども+母親+祖父母	
	110110001	本人+父親+母親+きょうだい+祖父母	子ども+両親+祖父母	
	11100111	本人+配偶者+子ども+母親+孫+きょうだい	夫婦+子ども+母親+孫+きょうだい	四世代世帯
	100000111	本人+配偶者+子ども+祖父母	夫婦+子ども+祖父母	
	100110111	本人+配偶者+子ども+父親+母親+祖父母	夫婦+子ども+両親+祖父母	
	110110101	本人+子ども+父親+母親+祖父母+きょうだい	ひとり親+子ども+両親+祖父母+きょうだい	
	110110111	本人+配偶者+子ども+父親+母親+祖父母+きょうだい	夫婦+子ども+両親+祖父母+きょうだい	
5.その他の世帯	10000001	本人+きょうだい	きょうだいのみ	きょうだい、 その他の親 族、子どもの 配偶者を含む 世帯
	10000011	本人+配偶者+きょうだい	夫婦+きょうだい	
	1000000011	本人+配偶者+その他の親族	夫婦+その他の親族	
	1000100001	本人+母親+その他の親族	子ども+母親+その他の親族	
	1000100011	本人+配偶者+母親+その他の親族	夫婦+母親+その他の親族	
	1000100001	本人+父親+母親+その他の親族	子ども+両親+その他の親族	
	1000110101	本人+子ども+父親+母親+その他の親族	ひとり親+子ども+両親+その他の親族	
	1001000101	本人+子ども+孫+その他の親族	ひとり親+子ども+孫+その他の親族	
	1010000001	本人+きょうだい+その他の親族	きょうだいのみ+その他の親族	
	1010100001	本人+母親+きょうだい+その他の親族	子ども+母親+その他の親族	
	1010110001	本人+父親+母親+きょうだい+その他の親族	子ども+両親+きょうだい+その他の親族	
	1110110001	本人+父親+母親+きょうだい+祖父母+その他の親族	子ども+両親+祖父母+その他の親族	
	1110110111	本人+配偶者+子ども+父親+母親+きょうだい+祖父母+その他の親族	夫婦+子ども+両親+きょうだい+祖父母+その他の親族	
	1000000001	本人+その他の親族	他に分類されない世帯	非親族
	10000000001	本人+その他	非親族を含む世帯	
	10000100001	本人+母親+その他	非親族を含む世帯	
6.単身世帯	1	本人	単身者	—

4-3-2 6つの世帯分類の定義

本調査では、大きく6つの家族類型を作成した。①夫婦のみ世帯、②夫婦と子どものみ世帯、③ひとり親と子どものみ世帯、④複数世代世帯、⑤その他の世帯、⑥単身世帯の6つである。表3の世帯構成をこの世帯分類に振り分けた（以下大分類という）。各分類の振り分け手順を以下に説明する。

この世帯分類における「夫婦」とは、原則回答者本人とその配偶者の組み合わせを指す。しかし、回答者本人が配偶者と同居していない（未婚も含む）場合、父親と母親の組み合わせを「夫婦」とする。

①夫婦のみ世帯

夫婦のみ世帯とは、本人とその配偶者の2人のみで構成された世帯である。配偶者に加えてきょうだいも同居の場合、世帯人員が3人以上となり夫婦のみとは言えず、純粋な“夫婦”の実態を把握することが困難となるため、「本人+配偶者+きょうだい」という世帯構成は「⑤その他の世帯」へ分類する。

②夫婦と子どものみ世帯

夫婦と子どものみ世帯とは、夫婦と子どものみで構成された世帯である。ここでの「夫婦」とは上記で述べたように、本人とその配偶者、または父親と母親の2つの組み合わせが考えられる。また、父親と母親を「夫婦」と区分する場合、本人ときょうだいは同じ「夫婦」の「子ども」であるため、「本人+父親+母親+きょうだい」という世帯構成もこの分類に属する。それに対して、本人とその配偶者を「夫婦」と区分する場合、子どもときょうだいは同じ「夫婦」の「子ども」とはならないため、「本人+配偶者+子ども+きょうだい」という世帯構成はこの分類には属さない。

③ひとり親と子どものみ世帯

ひとり親と子どものみ世帯とは、ひとり親と子どものみで構成された世帯である。ここでの「ひとり親」とは、回答者本人が同居していない場合と、回答者の親が配偶者と同居していない場合がある。また、きょうだいについては大分類②と同様である。

④複数世代世帯

複数世代世帯とは、「夫婦と子どものみ」「ひとり親と子どものみ」の世帯を除く二世帯以上の世帯員で構成された世帯である。ここでは世代数の多さを優先させるために、きょうだい同居か否かに関わらず、この分類に属する。

また三世帯以上の世帯において、中間の世代がいる場合もない場合も同じ世代数と捉える。たとえば、「本人+子ども+孫」と子ども（中間の世代）が抜けた「本人+孫」の世帯構成は、どちらも三世帯世帯と考えるため、この分類に属する。

⑤その他の世帯

その他の世帯構成には、大分類①②③④⑥以外のすべての世帯が分類される。夫婦のみ世帯（一世帯世帯）ときょうだい同居の場合、きょうだいのみの場合、「子ども」は同居しておらず「子どもの配偶者」は同居している場合、世帯構成に「その他の親族」「その他」が含まれる場合もこの分類に属する。

⑥単身世帯

単身世帯とは、世帯人員が回答者本人1人の世帯である。

4-3-3 世帯分類作成のメリット

新たに6つの世帯分類を作成したことでの利点を以下に4つ記す。

① 世帯分類の簡素化

表2は、国勢調査の家族類型と生活実態調査の大分類を照らし合わせたものである。項目の定義は双方の調査で異なるため多少のずれは生じるが、各項目名に沿って出来る限り比例させた。

このように国勢調査では16個あった分類が、本研究では6つにまでまとめることができた。世帯分類の簡素化に成功したと言えるだろう。

② 1つの質問で分類できる

本研究では1つの質問で世帯構成を把握するために、世帯人員の組み合わせをコード化することを試みた。その結果、効率的に世帯構成を把握できるだけでなく、世帯分類の把握、さらに本人位置の特定も可能となった。

③ 分類過程の明示による本人役割の把握

国勢調査では各家族類型の内訳が不明であったが、本研究ではすべての世帯構成に対して大分類に至るまでの過程を詳細に示すことができた。表 12 はその分類過程を示したものである。「夫婦」とならない場合の「父親＋母親」を『両親』、「子ども＋子どもの配偶者」を『子夫婦』と記すことで、「親世代夫婦」と「子世代夫婦」の混在が避けられた。よって、2.2.2.国勢調査の家族類型における問題点で述べた「原則として若い世代の夫婦を『夫婦』として区分」することで、「夫婦」の判別が困難となるという問題を解決することができた。

また表 12 の分類過程において、先頭に世帯構成における本人の役割を示した。こうすることで、本人位置（親や子どもなど）が一目で把握できるようになった。

④ 国勢調査「夫婦基点」問題の解決

国勢調査では「両親」「ひとり親」を「夫の」「妻の」といった夫婦基点で分類していたものを、本研究では夫婦の親に限定することをやめた。これにより、国勢調査では「他に分類されない世帯」へと割り当てられていたであろう“ひとり親と子どもとひとり親”の世帯構成を複数世代世帯として捉えることが可能となった。よって、国勢調査の家族類型における「すべて夫婦を基点として分類している」という問題を解決することができた。

4-3-4 世帯員の選択肢について

【表 5 同居人についての選択肢】

県民調査	市民調査	改善案
0.あなた	—	—
1.配偶者	1.配偶者	1.配偶者
2.子ども	2.子ども	2.子ども
3.子どもの配偶者	3.子どもの配偶者	3.子どもの配偶者
4.あなた(または配偶者)の親	4.あなた(または配偶者)の母親	4.あなたの母親
	5.あなた(または配偶者)の父親	5.配偶者の母親
		6.あなたの父親
5.孫	6.孫	7.配偶者の父親
6.あなた(または配偶者)のきょうだい	7.あなた(または配偶者)のきょうだい	8.孫
7.あなた(または配偶者)の祖父・祖母	8.あなた(または配偶者)の祖父・祖母	9.あなたのきょうだい
8.その他の親族	9.その他の親族()	10.あなたの祖父・祖母
9.その他	10.その他()	11.その他の親族()
		12.その他()

表 5 は、県民生活実態調査と市民生活実態調査の同居人について問う質問の選択肢の違いを比べた表である。市民調査では、「あなた」の選択肢を削除したことに加え、親について「父親」「母親」を分けて実施した。家族構成をより正確に把握するために、配偶者の父親と母親については別個に選択肢を設けることを改善案として提示する。また、配偶者のきょうだい・配偶者の祖父母については、「その他親族」に含むように変更していいだろう。

4-3-5 県民・市民生活実態調査の結果と比較

【表 6 大分類の度数分布比較表】

	県民調査	市民調査
1.夫婦のみ世帯	28.5	24.8
2.夫婦と子のみ世帯	39.6	40.9
3.ひとり親と子のみ世帯		8.7
4.複数世代世帯	17.0	7.7
5.その他の世帯	2.7	2.4
6.単身世帯	12.1	15.5
合計	100.0(2383)	100.0(2819)

前頁の表 6 は、県民生活実態調査(愛媛県・長崎県)と市民生活実態調査(川崎市・神戸市・福岡市)の分類ごとの分布を比較した表である。県民調査では、母親と父親の選択肢は「親」とまとめられているため、「親と子のみの

世帯」の割合の記載している。

両調査を比較すると「親と好みの世帯」「複数世代世帯」の割合の違いが目立つ。調査年など一致しないため一概には言えないが、少なからず地方と都市の世帯構成の傾向の違いが表れているのではないだろうか。

4-4 世帯分類の利用

4-4-1 人付き合いを把握する質問について

私たちは、同居人を問う 1 つの質問文から世帯構成を把握することに成功した。そして本項では、世帯構成と人付き合いの関連に注目した。

市民生活実態調査では、回答者の人付き合いを把握するために Q35~37 の質問文を用意した。

ネットワーク規模を計る質問(市民 Q35)

まずネットワーク規模を計る Q35 の質問文をについて言及する。下表は、各所属で親しくおつきあいしている人数を問うた結果の度数分布表である。(表 7)

【表 7 市民 Q35 親しくおつきあいしている人数 度数分布表】(単位:%)

	0 人	1~4 人	5 人以上	合計	NA
親戚	38.8	52.2	9.1	100.0(2565)	306
職場	39.4	44.8	15.8	100.0(2475)	396
近所	53.5	34.2	12.3	100.0(2536)	335
上記以外	37.0	41.7	21.3	100.0(2387)	484

【論点 1】選択肢

Q35 の質問では、「0 人」「1~4 人」「5 人以上」の 3 つの選択肢を設け範囲を指定したことについて、特に「1~4 人」と「5 人以上」の違いをネットワーク規模の違いに反映させることが困難であった。そのため、この質問文は「いる」「いない」の事実のみを問う選択肢にするか、人数を記入してもらう形式にするべきである。

【論点 2】欠損値

いずれの所属においても一定の欠損値が出たが、特に②職場と④上記以外の欠損値が多く出た。②職場で欠損値が多く出た原因として考えられるのは、専業主婦や無職の場合あえて「0 人」を選ばず無記入にした場合などである。また④上記以外では、「上記以外」というアバウトなワーディングに加え、Q35 の調査票では④のみ具体例の記載がなかったことなどが多くの欠損値に繋がったと考えられる。そのため、②では「職業に就いていない方は「0 人」と回答して下さい」等の注意書きを加える、④では上記以外の具体例を書く等の改善をすべきである。

この 2 つの論点を踏まえ、以下を改善案として提示する。(表 8)

【表 8 ネットワーク規模を計る質問の改善案】

市民 Q35	改善案 1	改善案 2
①親戚(同居家族以外)	1.いない 2.いる	()人
②職場の人(仕事を通じて知り合った人など) ※職業に就いていない方は「0 人」と回答して下さい	1.いない 2.いる	()人
③近所の人(近隣・地域活動・子どもの学校関連など)	1.いない 2.いる	()人
④上記以外の人(学生時代の友人・習い事やサークルの仲間)	1.いない 2.いる	()人

最も親しい人/頼りにしている人を問う質問(県民 Q12.13・市民 Q36)

県民生活実態調査では「家族・親族」と「家族・親族以外」に分けて問うていたが、市民生活実態調査では同居家族以外のみを問う形に変更して調査した。

【表 9 市民調査 Q36 度数分布表】

	Q36①最も親しい人	Q36②最も頼りにしている人
1.親戚(同居家族以外)	35.2	49.9
2.職場の人	14.5	9.1
3.近所の人	10.2	7.1
4.上記以外の人	28.4	16.8
5.いない	11.6	17.1
合計	100.0(2776)	100.0(2505)
NA	95	366

【論点 1】「親戚」の選択肢への偏り

市民生活実態調査では、最も親/頼いずれも「同居家族以外」について問う質問文であった。そのため表 15 から見てわかるように、「1.親戚(同居家族以外)」の回答への偏りが生じてしまった。そのため県民調査のように、親族と親族以外で分けて問うべきである。

【論点 2】ワーディング

表 15 の①と②の NA を見てみると、②の NA が激増していることがわかる。「親しい人」と「頼りにしている人」の意味の違いを明示していないため、双方の違いを読み取ることが難しかったと考えられる。結果の違いを言及するためには、これらが指す意味の説明を書き添える必要があるだろう。

この 2 つの論点を踏まえ、以下を改善案として提示する。(表 10)

【表 10 最も親しい人・頼りにしている人を問う質問の改善案】

頼りにしている人(同居家族・親戚)	最も親しくしている人(家族・親族以外)	最も頼りにしている人(家族・親族以外)
1.いる	1.近所の人 2.職場の人 3.子どもの養育過程で知り合った人 4.学生時代に知り合った人	1.近所の人 2.職場の人 3.子どもの養育過程で知り合った人 4.学生時代に知り合った人
2.いない	5.趣味やサークルなどで知り合った人 6.民生委員やケアマネジャーの人 7.上記以外の人	5.趣味やサークルなどで知り合った人 6.民生委員やケアマネジャーの人 7.上記以外の人

4-4-2 世帯分類の利用

本項では、世帯分類を用いた分析を 2 つ行なった。

【近所づきあいについて】

まず 1 つ目に、近所づきあいについてである。表 7 から、私たちは特に③近所のみ「0 人」の割合が突出して高いことに注目した。本項では人付き合いの中でも特に近所づきあいに焦点を当て、世帯構成と近所づきあいの関連について調べた。

(「0 人」を「いない」、「1~4 人」「5 人以上」を「いる」に値の再割り当てをして、分析を行なった。)

【表 11 市民「新大分類×Q35 近所づきあい」と「新大分類×Q37 おすそわけ」のクロス表比較】

	Q35 親しい人 ③近所			Q37③隣人・おすそわけ		
	いない	いる	合計	ない	ある	合計
単身世帯	68.2	31.8	100.0(349)	67.1	32.9	100.0(410)
夫婦のみ世帯	53.9	46.1	100.0(620)	46.6	53.4	100.0(667)
夫婦と子のみ世帯	49.1	50.9	100.0(1076)	43.6	56.4	100.0(1126)
ひとり親と子のみ世帯	53.1	46.9	100.0(213)	52.8	47.2	100.0(229)
複数世代世帯	48.2	51.8	100.0(195)	37.3	62.7	100.0(212)
その他の世帯	67.3	32.7	100.0(52)	50.8	49.2	100.0(61)
合計	53.6	46.4	100.0(2505)	48.4	51.6	100.0(2705)

表 11 は、世帯構成ごとの近所づきあいに加え、隣人おすそわけとの関連を照らし合わせたものである。

【論点 1】世帯構成との関連性

特に単身世帯では「いない」の割合が非常に高くっており、近所に親しくお付き合いしている人がいる・いないによって世帯構成ごとの特徴を見ることができた。

【論点 2】おすそわけの相関

近所に親しい人が「いる」「いない」と、隣人におすそわけをもらったことが「ある」「ない」の分布を比較してみると、ある程度相関関係がみられた。おすそわけについての質問も、近所づきあいについての傾向を把握するものとして有用であるといえるだろう。

【表 12 市民「Q34 子ども有無×Q35③近所づきあい」のクロス表】

		Q35③近所 親しい人		
		いない	いる	合計
Q34 子ども有無	子どもなし	76.3	23.7	100.0(831)
	子どもあり	42.1	57.9	100.0(1666)
	合計	53.5	46.5	100.0(2497)

【表 13 市民 本人役割夫婦「子どもの有無×近所づきあい」のクロス表】

本人役割「夫婦」内訳		Q35③近所 親しい人		
		いない	いる	合計
夫婦のみ世帯	子どもなし	77.0	23.0	100.0(244)
	子どもあり	38.9	61.1	100.0(375)
	合計	54.0	46.0	100.0(619)
夫婦と子どものみ世帯	子どもあり	43.9	56.1	100.0(872)
	合計	43.9	56.1	100.0(872)

表 12 は全体について子どもの有無による近所づきあいを比較したもの、表 13 はその中でも本人役割「夫婦」に絞って 2 つの世帯構成を比較した表である。

【論点 3】子どもの有無との関連性

子どものいる夫婦のみ世帯と子どものいない夫婦のみ世帯の近所づきあいを比較し、それらを夫婦と子どものみ世帯と比べることで、子どもの有無によって近所づきあいの傾向が変化するかを検証した。夫婦のみ世帯の中でも子どもがいない世帯は 77% もの人が「いない」を選択しており、子どもが夫婦のみ世帯と夫婦と子どものみ世帯と比べても大きな違いが見られた。この件所により、子どもの有無によって近所づきあいに影響が出るということが明らかになった。

【表 14 市民「Q18年代×Q35③近所づきあい」のクロス表】

Q27 世帯構成大分類		Q35③近所 親しい人		合計
		いない	いる	
単身世帯	20 代以下	92.3	7.7	100.0(39)
	30 代	91.8	8.2	100.0(49)
	40 代	96.0	4.0	100.0(50)
	50 代	71.7	28.3	100.0(60)
	60 代	54.7	45.3	100.0(53)
	70 代以上	22.2	77.8	100.0(54)
	合計	69.8	30.2	100.0(305)
夫婦のみ世帯	20 代以下	88.6	11.4	100.0(35)
	30 代	93.8	6.3	100.0(64)
	40 代	86.9	13.1	100.0(61)
	50 代	61.3	38.7	100.0(106)
	60 代	42.3	57.7	100.0(175)
	70 代以上	28.7	71.3	100.0(178)
	合計	54.0	46.0	100.0(619)
夫婦と子のみ世帯	20 代以下	69.0	31.0	100.0(129)
	30 代	48.3	51.7	100.0(205)
	40 代	44.4	55.6	100.0(306)
	50 代	50.2	49.8	100.0(231)
	60 代	46.2	53.8	100.0(119)
	70 代以上	24.6	75.4	100.0(57)
	合計	48.6	51.4	100.0(1047)
ひとり親と子のみ世帯	20 代以下	84.6	15.4	100.0(26)
	30 代	50.0	50.0	100.0(20)
	40 代	47.7	52.3	100.0(44)
	50 代	52.9	47.1	100.0(51)
	60 代	52.6	47.1	100.0(19)
	70 代以上	33.3	66.7	100.0(21)
	合計	53.6	46.4	100.0(181)
複数世代世帯	20 代以下	66.7	33.3	100.0(18)
	30 代	64.7	35.3	100.0(17)
	40 代	41.2	58.8	100.0(34)
	50 代	61.5	38.5	100.0(39)
	60 代	44.7	55.3	100.0(47)
	70 代以上	26.5	73.5	100.0(34)
	合計	48.1	51.9	100.0(189)

【論点 4】年齢との関連性

表 14 は、年代ごとの近所づきあいを比較したものである。年齢を重ねるごとに、近所に親しい人が「いる」と回答する人の割合が高くなる傾向が見られた。これは居住年数、子どもの有無や年齢も関わっていると考えられる。

【住居形態について】

そして 2 つめに、世帯構成と住居形態の関連に注目した。世帯構成が住居形態の選択に影響するのか、新しく作成した大分類ごとの傾向を調べた。

【表 15 市民 Q5(2)住居形態と新大分類のクロス表(全体)】

	持ち家一戸建	賃貸の一戸建	持ち家マンション	賃貸住宅	公営住宅	給与住宅	賃貸マンション	その他	合計
単身世帯	21.8	6.1	8.7	2.9	5.3	10.7	42.1	2.4	100.0(413)
夫婦のみ世帯	20.5	6.1	11.2	5.1	3.9	10.3	41.2	1.5	100.0(667)
夫婦と子のみ世帯	15.9	4.7	9.8	2.2	3.9	13.1	48.6	1.8	100.0(1024)
ひとり親と子のみ世帯	21.7	6.3	10.1	3.9	8.7	9.2	37.7	2.4	100.0(207)
複数世代世帯	28.5	9.5	16.2	3.4	6.1	3.4	31.8	1.1	100.0(179)
その他の世帯	15.0	5.0	16.7	0.0	10.0	1.7	46.7	5.0	100.0(60)
合計	19.4	5.8	10.6	3.3	4.8	10.7	43.5	1.9	100.0(2550)

表 15 は、分類ごとの住居形態を比較した表である。すべての世帯構成において賃貸マンションの割合が最も高いことがわかる。複数世代世帯では、持ち家一戸建ての割合が高くなっており、割合の差によって世帯構成による傾向を把握することができると言える。

4-4-3 関学生親調査について

関学生親調査では人付き合いについて調査。(Q16～Q21SQ)

親との「物理的距離」(Q19(2)①～④)

【表 16 各調査の親に関する質問内容と物理的距離の計測手段】

質問内容	親との同居・別居	親の所在地	交通手段	車所要時間	「物理的距離」計測手段
県民	Q10	Q10 都道府県・市区町村記入	Q10(1)	Q10(2)	回答者住所との照合 車所要時間
市民	Q33② 建物・敷地内の選択 肢は別	Q33②(1) 都道府県・市区町村記入 鉄道会社・最寄駅記入 バス会社・最寄バス停記入	—	—	回答者住所との照合 回答者最寄駅・バス停 との照合
関学生親 (2020)	Q19(2)① 建物・敷地内の選択 肢は統合	Q19(2)②・③ 同市区町村・都道府県内か 選択	—	Q19(2)④	同市区町村・都道府県 内か否か 車所要時間

[論点 1]親の所在地の回答方法「記入式」か「選択式」か

[検証 1]「記入式」に回答負担はあるのか、回答率を比較して検証する。

【表 17 県民 Q10・市民 Q33②(1)都道府県・市区町村の回答率】 ※父・母どちらでも健在、且つ、両親と別居

	どちらも記入無	どちらか記入有	どちらも記入有	合計
県民	3.1	0.0	96.9	100.0(969)
市民	8.8	2.7	88.5	100.0(1391)

【表 18 市民 Q33②(1)鉄道会社・最寄駅、バス会社・最寄バス停の回答率】

すべてに記入無	いずれか 1 つ記入有	すべてに記入有	合計
30.7	54.5	14.8	100.0(1391)

【表 19 関学生親 Q19(2)②③の回答率】(NA=1)

	内	外	合計
同市区町村	22.1	77.9	100.0(131)
同都道府県	45.1	54.9	100.0(102)

[検証結果 1]

「記入式」は回答負担があることや、データの文字入力・回答者と親の住所の照合により距離を測定するという分析の負担が大きいことから、親の所在地の回答方法は「選択式」の方が適している。

[論点 2]親との「物理的距離」の最適な計測手段

[検証 2]「同市区町村・同都道府県か否か」(親の所在地)から親との「物理的距離」が測定可能か、車所要時間を比較し検証する。

【表 20 関学生親 Q19(2)②③と④のクロス集計表】

	5分以内	10分以内	15分以内	30分以内	60分以内	90分以内	120分以内	他	合計	平均(分)
同市区町村内	46.2	23.1	11.5	11.5	7.7	0.0	0.0	0.0	100.0(26)	13.31
同都道府県内	2.2	0.0	6.7	35.6	35.6	11.1	6.7	2.2	100.0(45)	49.33
県外	2.3	2.3	0.0	4.7	20.9	4.7	14.0	51.2	100.0(43)	183.81

[検証結果 2]

「同市区町村・同都道府県か否か」から親との「物理的距離」を測定することは可能であるが、居住する市区町村の面積や、居住地が行政区域の境目付近であるといった要因により、親の所在地と車所要時間が比例しない場合があるため、より正確に測定可能な手段は「車所要時間」であると言える。

親との「接触頻度」(Q19(2)⑤⑥)

【表 21 各調査の親との接触頻度に関する質問内容】

質問内容	「1年間」親に会う頻度	「1年間」親に連絡する頻度
市民	Q33③	—
関学生親(2020)	Q19(2)⑤ (1)新型コロナウイルス感染拡大前(2019) (2)新型コロナウイルス感染拡大後(2020)	Q19(2)⑥ (1)新型コロナウイルス感染拡大前(2019) (2)新型コロナウイルス感染拡大後(2020)

[論点]「会う頻度」のみで親との接触頻度を測定可能か

[検証]会った回数と連絡した回数のクロス集計から検証する。

【表 22 関学生親 Q19(2)⑤(1)と(2)のクロス集計表】

		2019 連絡回数				合計
		週に1回以上	3ヶ月に1回以上	年1~2回程度	全く連絡しなかった	
2019 会った回数	週に1回以上	94.3	2.9	0.0	2.9	100.0(35)
	3ヶ月に1回以上	35.2	64.8	0.0	0.0	100.0(54)
	年1~2回程度	16.7	66.7	16.7	0.0	100.0(30)
	全く会わなかった	0.0	33.3	33.3	33.3	100.0(3)
合計		46.7	46.7	4.9	1.6	100.0(122)

[検証結果]

会う頻度よりも連絡する頻度の方が高いため、「会う頻度」のみで親との接触頻度を測定することは難しい。「連

絡する頻度」も使い、親との接触頻度をどのように測定するかは今後の課題である。

親しくお付き合いしている人数(Q20)

[論点]選択肢の妥当性

[検証]具体的人数を聞き取り、人数幅を調査。

【表 23 関学生親 Q20 聞き取り調査人数集計表】

人数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	15	20	30	合計
①親戚	36.8	23.0	16.4	6.6	7.9	5.6	0.7	0.7	0.0	0.7	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	100.0 (152)
②職場	44.8	5.5	6.2	13.8	13.1	9.0	1.4	0.7	2.1	0.0	1.4	0.0	0.0	0.7	1.4	0.0	100.0 (145)
③近所	47.6	9.0	9.7	8.3	8.3	7.6	2.1	0.7	0.7	0.7	2.8	0.7	1.4	0.7	0.0	0.0	100.0 (145)
④他	33.6	8.2	10.4	9.7	8.2	11.2	4.5	4.5	1.5	0.0	4.5	0.0	0.0	1.5	1.5	0.7	100.0 (134)

[検証結果]

人数の差が何を示すのか明確にはわからない。①～④の各項目で 0 人の割合が高いことから、人数ではなく、「いる・いない」の事実を問う方が実用的である。

最も親しい・頼りにしている人(Q21・Q21SQ)

[論点]「同居家族以外の親戚」の影響

[検証]Q21 と Q21SQ を比較し、選択肢の「同居家族以外の親戚」の有無による変化をみる。

【表 24 関学生親 Q21・Q21SQ 度数分布比較表】

	①最も親しい人		②最も頼りにしている人	
	Q21	Q21SQ	Q21	Q21SQ
親戚(同居家族以外)	34.7		52.4	
職場	19.9	23.9	15.3	26.6
近所	9.1	20.0	7.6	18.2
上記以外	29.5	40.6	10.0	30.5
いない	6.8	15.5	14.7	24.7
合計	100.0(176)	100.0(155)	100.0(170)	100.0(154)

[検証結果]

選択肢から「親戚」を取り除くことで偏りが軽減することが分かる。「最も親しい人/頼りにしている人を問う質問(県民 Q12.13・市民 Q36)」の[論点 2]でも述べたよう、親族と親族以外は質問を分けて問うことが妥当だろう。

4-4-4 おわりに

本研究では国勢調査での問題をひとつひとつ收拾し、研究の目的であった世帯構成を把握する新たな分析・分類方法を構築した。しかし、本研究の方法が世帯構成を正確に把握できるのかについて立証することは非常に困難であった。そのため、今後課題が発見される可能性は大いにあるだろう。世帯のあり方は時代と共に変化するものであるため、調査と分析を積み重ね、課題発見とその修正を繰り返していく必要があるテーマだと言える。

参考文献

- ◆ 総務省統計局, 2020, 「国勢調査 2020 総合サイト 国勢調査の概要」(<https://www.kokusei2020.go.jp/about/outline.html>, 2021 年 1 月 4 日アクセス).
- ◆ e-Stat, 2015, 「平成 27 年国勢調査 就業状態等基本集計」(<https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003177060>, 2021 年 1 月 4 日アクセス).
- ◆ 関西学院大学社会学部 大谷研究室, 2019, 『国民生活の実態を明らかにする社会調査の可能性 —「愛媛・長崎県民生活実態調査」報告書—』
- ◆ 関西学院大学社会学部 大谷研究室, 2020, 『政府統計調査の限界と生活実態調査の可能性—「川崎・神戸・福岡市民生活実態」報告書—』
- ◆ 川崎市, 2019, 「平成 27 年国勢調査結果」(<https://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/51-4-14-6-0-0-0-0-0.html> 2021 年 2 月 24 日にアクセス)
- ◆ 神戸市, 「平成 27 年国勢調査」(<https://www.city.kobe.lg.jp/a89138/shise/toke/toukei/kokutyuu/2015/index.html> 2021 年 2 月 24 日にアクセス)
- ◆ 福岡市, 2018, 「平成 27 年国勢調査」(https://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/tokeichosa/shisei/toukei/kokusei/H27_kokuchou/Census2015_index.html 2021 年 2 月 24 日にアクセス)
- ◆ 国勢調査 2020 総合サイト, 2020, 「調査票の記入のしかた」(<https://www.kokusei2020.go.jp/household/entry.html>, 2021 年 1 月 8 日にアクセス)
- ◆ 総務省統計局, 2021, 「国勢調査の基本に関する Q&A (回答)」(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/qa-5.html>, 2021 年 1 月 8 日にアクセス)
- ◆ 総務省統計局, 2021, 「世帯・家族の属性に関する用語」(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/users-g/word2.html>, 2021 年 1 月 8 日にアクセス)
- ◆ 総務省統計局, 2021, 「分野別一覧」(<https://www.stat.go.jp/data/guide/1.html>, 2021 年 1 月 8 日にアクセス)

第2章 生活時間から市民の暮らしを把握する

1 一日の生活時間を捉える新たな調査方法

1-1 はじめに

本節では、川崎・神戸・福岡市民生活実態調査で初めて導入した1日の生活時間を捉える新たな質問文（以下、24時間質問）に焦点を当てる。2項では、現在国内で行われている生活時間調査の中で最も代表的な「社会生活基本調査」（総務省）と「国民生活時間調査」（NHK）を取り上げ、その概要や調査方法の変遷、功績と課題を明らかにする。3項では、2項を踏まえた上でどのように24時間質問を開発したのかについて述べる。その後4項では、24時間質問の回答状況を明らかにした上で、得られた結果について社会生活基本調査（総務省 2016）と国民生活時間調査（NHK 2015）の結果と比較しながら考察を行う。5項では、24時間質問から得られた数値にどれほど信ぴょう性があったのかについて、回答者の属性と質問文の特性という2つの観点から詳しく検証を行う。その際、関西学院大学社会学部開講科目「社会調査入門 B1」を受講中の学生に向けて行った親御さんへの聞き取り調査課題の結果を参考資料として用いる。6項では、24時間質問の強みである「クロス集計ができる」という特徴を活かし、人々のライフスタイルを多角的に捉える。最後に、この質問文の有用性と今後の展望について述べる。

1-2 過去の調査の見直し

2017年に行った「愛媛・長崎県民生活実態調査」では、通勤時間、出勤・帰宅時間、テレビの視聴時間を問うた。これらの質問からは、部分的な生活時間を計ることができたものの、1日の時間の使い方を網羅的に把握することは困難であった。そこで、「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」では、人々の生活時間の全体像を簡潔に捉え、他の項目とクロス分析することができる質問の開発を目指した。

その際、生活時間に特化して調査を行っている「社会生活基本調査」（総務省 2016）と「国民生活時間調査」（NHK 2015）の見直しを行い、これらの調査が持つ問題点を改善するような形で、本研究室独自の生活時間質問文である「24時間質問」を作成した。本項では、2つの調査の概要や調査方法の変遷、調査票の内容とその功績・問題点について述べた上で、24時間質問の開発手順や概要を説明する。

1-2-1 社会生活基本調査と国民生活時間調査—概要—

【表1 社会生活基本調査と国民生活時間調査の概要】

	社会生活基本調査(2016年)	国民生活時間調査(2015年)
調査機関	総務省統計局	NHK放送文化研究所（世論調査部）
調査開始年	1976年	1960年
頻度	5年ごと（過去9回実施）	5年ごと（過去12回実施）
目的	①統計法に基づく基幹統計『社会生活基本統計』を作成する ②生活時間の配分や余暇時間における主な活動の状況など、国民の社会生活の実態を明らかにするための基礎資料を得る	①人びとの1日の生活を時間の面から捉え、生活実態にそった放送を行うのに役立てる ②時間の面から日本人の生活実態を明らかにする基本データとして、広く各方面での利用に供する
調査対象	指定する調査区（全国で約7300）内にある世帯のうちから無作為に選定した、約8万8000世帯における10歳以上の世帯員約20万人	住民基本台帳から無作為に選定した、全国10歳以上の国民1万2600人
調査時期	10月15日(土)から23日(日)までの9日間のうちから、指定された連続する2日間	10月13日(火)から26日(月)までの14日間のうちから、指定された連続する2日間

社会生活基本調査（総務省 2016）と国民生活時間調査（NHK 2015）は、それぞれ 1976 年と 1960 年に開始されている。社会生活基本調査（総務省 2016）は、国が実施する統計調査の中でも、特に重要と位置づけられている「基

幹統計調査」として過去9回行われており、人々の生活時間を様々な角度から捉えている。国が実施していることから、調査対象者も20万人と国内の生活時間調査では最大規模である。2016年は、10月15日(土)から23日(日)までの9日間で調査が行われた。調査対象者は、この期間内の指定された2日間の行動について答えている。

国民生活時間調査(NHK 2015)は、生活時間に関するデータを各場面で活用すると同時に、これを放送に役立てることを目的としている。これは、放送局ならではの視点といえるだろう。調査対象者は、住民基本台帳から無作為に選定した1万2600人である。2015年は、10月13日(火)から26日(月)までの14日間で調査が行われた。社会生活基本調査と同様、調査対象者はこの期間内の指定された2日間の行動について答えている。

1-2-2 社会生活基本調査と国民生活時間調査—調査方法の変遷—

社会生活基本調査(総務省 2016)は調査票 A と調査票 B、2種類の調査票を用いて実施されている。調査票 A は、あらかじめ20の行動の選択肢を設け、これに沿って回答してもらう〈プリコード方式〉であるため、データの集計がしやすく、大規模な調査が可能である。一方、調査票 B は、調査対象者に自由に回答を記入してもらい、集計の段階で定められた分類基準に従って分類コードを与える〈アフターコード方式〉を採用している。この方式は、プリコード方式に比べてより詳細な行動分類が可能となるため、国際比較に向いているといわれる。1996年の調査までは、プリコード方式(調査票 A)のみであったが、2001年からアフターコード方式(調査票 B)が追加され、現在は2つの方式を用いて行われている。また調査は、2016年時点でどちらも配布回収法(調査員が調査対象者を訪問し調査票を配布した後、後日再訪問して調査票を回収する方法)にて実施されているが、回答はインターネットを通じて可能である。

国民生活時間調査(NHK 2015)は、1995年にアフターコード方式からプリコード方式に変わっている。途中で調査方式が変わったため、1995年以前に行われた8回分のデータとそれ以降のデータでは、数値を直接比較することができない。また、調査開始年の1960年と1965年は、面接法(調査員が調査対象者を訪問し、生活行動を聞き取って記入する方法)を用いて行われたが、それ以降の調査では配布回収法に変更されている。

1-2-3 社会生活基本調査と国民生活時間調査—各調査の功績と課題—

本項では、社会生活基本調査(総務省 2016)の調査票 A・B と、国民生活時間調査(NHK 2015)の調査票を示しながら、それぞれの功績と課題について述べる。なお、ここでは生活時間に関する質問のみ載せており、回答者の属性(性別・年代・職業など)や趣味、1年間の行動などを尋ねた付帯質問については掲載していない。

◎ 社会生活基本調査(総務省 2016) 調査票 A

社会生活基本調査(総務省 2016)調査票 A は以下のように構成され、①～④について回答する必要がある。

- ① 指定された2日間の状況(旅行・出張・在宅勤務・休みなど)
- ② 指定された2日間の天気
- ③ 指定された2日間の行動(20種類の行動の中から選び、15分刻みの時間軸に合わせて定規で線を引く)
- ④ 行動をする際一緒にいた人(4つの選択肢から選び、15分刻みの時間軸に合わせて定規で線を引く)

【図1 2016年社会生活基本調査 調査票 A】

出典：総務省統計局, 2016, 「平成28年社会生活基本調査 調査票 A」

【表 2 社会生活基本調査 調査票 A の強み・弱み】

強み	A) 経年変化が把握できる
	B) 時間帯別行為者率が把握できる
	C) 曜日別行為者率が把握できる
	D) 一緒にいた人について把握できる
弱み	A) 20 種類の行動分類を用い、2 日間分の行動を 15 分単位で答えなければならない
	B) 直近の 2 日間でないとも正確に答えられない
	C) その日の状況・天気について別途答える必要がある
	D) 定規を使用する必要があり、ペン 1 本で簡単に答えられない
	E) クロス分析ができない

社会生活基本調査と国民生活時間調査ともに言えることであるが、調査の歴史が長いこと、数十年前のデータまで遡って経年変化を比較することができる。これは大きな利点であると言えるだろう。さらに、両者とも 15 分刻みの時間軸を用い、平日と土曜祝日を含んだ特定の 2 日間について尋ねているため、時間帯別行為者率と曜日別行為者率が把握できる。また、社会生活基本調査(総務省 2016)は、調査票 A・B ともに一緒にいた人について聞いており、高齢者の孤独といった現状を理解することが可能である。

しかしながら、上述したような利点が欠点にもなる。社会生活基本調査と国民生活時間調査は、行動分類や時間軸、日付の設定、付帯質問、回答方法など、細部にまでこだわって作り上げられたことが伺える。これが、一方では「詳細かつ正確な生活時間の把握」、他方では「調査対象者への回答負担」につながっているのである。調査対象者にとって、20 種類の行動分類と 15 分刻みの時間軸を用い、丸 2 日間の情報について詳細に答えることは容易ではない。実際、回答の仕方を説明する『調査票を記入する前に』という冊子には、生活時間に関する箇所だけでも、調査票 A と B ともに 8 ページに渡ってその方法が説明されている。このことから、多くの回答者、特にお年寄りや子どもにとって回答しづらいということがわかるだろう。

また、指定した 2 日間が前日などではなかった場合、数日前の自分の行動を 15 分単位で正確に答えることは難しい。さらに、この調査では定規を使用して回答することが定められており、ペン 1 本で簡単に答えることができない。こういった回答者への負担を減らすことは、調査回答率を上げ、社会調査の重要性を多くの人に理解してもらうためにも不可欠である。

最後に、クロス分析ができないという重大な課題がある。これも社会生活基本調査(総務省 2016)と国民生活時間調査(NHK 2015)に共通していることだが、調査が生活時間に特化しているために付帯質問として聞いている限られた項目としかクロス分析ができないのである。

◎ 社会生活基本調査(総務省 2016) 調査票 B

社会生活基本調査(総務省 2016)調査票 B は以下のように構成され、①～⑥について回答する必要がある。

- ① 指定された 2 日間の状況 (旅行・出張・在宅勤務・休みなど)
- ② 指定された 2 日間の天気
- ③ 指定された 2 日間の行動 (15 分刻みの時間軸に合わせて回答者が手書きで記入)
 - ・おもに何をしていたか (その時間に最も長く行っていた行動を記入し、次の行動を行うまで矢印を引く)
 - ・同時に何かほかのことをしていたか (おもな行動と同時進行で別の行動をしていた場合に記入)
- ④ スマートフォン・パソコンなどの使用状況 (使用していた時間に○を記入)
- ⑤ 場所 (行動をした場所を 4 つの選択肢から選び○で囲む)
- ⑥ 行動をする際一緒にいた人 (7 つの選択肢から選び○で囲む)

【図 2 2016 年社会生活基本調査 調査票 B】

出典：総務省統計局, 2016, 「平成 28 年社会生活基本調査 調査票 B」

全員が記入してください

16 生活時間について
※指定された第 1 日と第 2 日の行動について 15 分単位で記入してください

(1) この日は、次のいずれの日でしたか (当てはまるものをすべてに記入してください)

(2) この日の天気はどうでしたか

04

【第 1 日】

時刻	おもに何をしていたか ※15分ごとに おもなものの一つだけ 記入してください	同時に何か 他のこと をしていましたか ※複数ある場合は 一つだけ記入してください	場所				一緒にいた人 (当てはまるものをすべてを○で囲んでください)							時刻 コード
			1 自宅	2 学校	3 移動 ・勤務 場所	4 その他	1 一人 で	2 家族 成員	3 友人 ・知人	4 恋人 ・配偶者	5 その他 の 人	6 その他 の 人	7 その他 の 人	
0:00														01
0:30														02
1:00														03
1:30														04
2:00														05
2:30														06
3:00														07
3:30														08
4:00														09
4:30														10
5:00														11
5:30														12
6:00														13
6:30														14
7:00														15

【表 3 社会生活基本調査 調査票 B の強み・弱み】

強み	A) 経年変化が把握できる
	B) 時間帯別行為者率が把握できる
	C) 曜日別行為者率が把握できる
	D) 一緒にいた人について把握できる
	E) HETUS と同様の質問を尋ねており、ヨーロッパとの国際比較が可能
	F) 同時に行っていた行動（ながら）について分析できる
	G) 副業について把握できる
	H) ICT 利用状況を行動の種類別に把握できる
	I) 詳細な分析が可能
弱み	A) 2 日間分の行動を手書きで記入しなければならず、回答への負担が大きい
	B) データ化が難しく、自治体などが大規模で実施するのは困難
	C) 直近の 2 日間でないとも正確に答えられない
	D) その日の状況・天気について別途答える必要がある
	E) 場所についてあまり分析がされていない
	F) クロス分析ができない

社会生活基本調査(総務省 2016)調査票 B 特有の強みとして、E～I が挙げられる。E の HETUS とは、Harmonised European Time Use Survey の略語で、Eurostat が行っている EU 統一生活時間調査を指す。HETUS の 2018 年ガイドライン(Eurostat 2019: 59)を見ると、調査票 B と同じ事項について尋ねていることが分かる。ヨーロッパのデータと直接比較が行えるのは、特筆すべき利点であるだろう。さらに、「ながら」について尋ねているのはこの調査票だけであり、それによって副業についても把握できるのは大きなメリットである。また、調査票 B の一番の特徴は〈アフターコード方式〉を採用していることである。これにより、プリコード方式よりも詳細な分析ができるようになった。

一方で、2 日間の行動について手書きで記入しなければならず、調査票 A に比べさらに手間がかかるという課題もある。また、集計の段階で定められた分類基準に従ってコードをつけなければならないため、自治体などが実施する社会調査で広く活用することは難しいだろう。加えて、場所について 4 項目を用いて尋ねているものの、報告書「平成 28 年社会生活基本調査—詳細行動分類による生活時間に関する結果— 結果の概要」(総務省統計局, 2017)を見てもあまり言及されていないことから、この項目にはあまり有用性がないように思われる。

国民生活時間調査(NHK 2015) は以下のように構成され、①～③について回答する必要がある。

- 【図3 2015年国民生活時間調査 調査票】

10月13日（火曜日） 21

午前の生活

「自宅にいた時間」の欄も忘れずに記入してください

● 13日（火曜日）のお天気は？ ● 13日（火曜日）のあなたの行動は？

番号に○をつけてください 起きた時刻・寝た時刻を記入し、以下の行動をしたかどうか○をつけてください

- 雨はふらなかった
- 一時、雨がふった
- ほとんど1日中、雨がふった

起きた時刻からではなく午前0時から記入してください

01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

自宅にいた時間	01																																																	02
すいみんをとる（90分以上）	02																																																	01
洗面・入浴・着替えなどの身のまわりの用事	03																																																	02
食事をする	04																																																	03
通学（往復）	05																																																	04
仕事をする	06																																																	05
仕事上のつきあい	07																																																	06
通学（往復）	08																																																	07
授業・学校の行事・部活動・クラブ活動	09																																																	08
宿題・予習・復習・塾の勉強	10																																																	09
炊事・掃除・洗濯をする	11																																																	10
買い物をする	12																																																	11
子どもの世話をする	13																																																	12
その他の家事をする（お付け物・果実・食人の世話など）	14																																																	13
社会参加（近所の人や地域活動・市民講座・ボランティアなど）	15																																																	14
つきあいの交際、おしゃべり	16																																																	15
スポーツをする	17																																																	16
作業地へ行く・散歩をする・ぶらぶら歩く	18																																																	17
趣味・娯楽・けいこごとをする・あそび	19																																																	18
趣味・娯楽・けいこごと・あそびでインターネットを使う	20																																																	19
テレビを見る	21																																																	20
ラジオを聞く	22																																																	21
新聞を読む	23																																																	22
雑誌・マンガ・本を読む	24																																																	23
CD・デジタルオーディオプレイヤー・テープを聞く	25																																																	24
ビデオ・HDD・DVDを見る	26																																																	25
休息をとる	27																																																	26
療養する・診療を受ける	28																																																	27
その他	29																																																	28
																																																		29

（分刻でない行動は、すべてここに具体的に書いてください） →

午前0前時	30	1	30	2	30	午後3前時	30	4	30	5	30	午後6前時	30	7	30	8	30	午後9前時	30	10	30	11	30	12	時
-------	----	---	----	---	----	-------	----	---	----	---	----	-------	----	---	----	---	----	-------	----	----	----	----	----	----	---

01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

【表4 国民生活時間調査の強み・弱み】

強み	A) 経年変化が把握できる
	B) 時間帯別行為者率が把握できる
	C) 曜日別行為者率が把握できる
	D) マスメディア関連の項目について詳細に分析できる
	E) マスメディアに関しては、ながら利用を分析している
	F) 在宅時間について把握できる
弱み	A) 28 種類の行動分類を用い、2 日間分の行動を 15 分単位で答えなければならない
	B) 有用性のある結果が得られない項目がある（「その他の家事をする」など）
	C) 直近の 2 日間でないと正確に答えられない
	D) その日の行動・天気について別途答える必要がある
	E) クロス分析ができない

39

しかし、マスメディアの項目を細分化することにより、行動分類が 28 種類と多すぎる印象を受ける。これらの項目に沿って 2 日分の行動を 15 分単位で答えることは決して容易ではないだろう。また、項目が増えれば増えるほど、優れた分析ができるとも限らない。例として、《CD・テープ》における全体の平日の行為者率は 7%、平均時間は 7 分と規模が小さいため、あまり有効な分析ができていない。また、《その他の家事をする》といったデータ化しても上手く分析に生かせない項目が存在してしまっている。ほかにも、《すいみんをとる》で就寝・起床時刻を答えるにも関わらず、「あなたの行動」のところでも「起きた時刻」と「寝た時刻」を答えなければならないのは手間がかかるだろう。

したがって、ここまで 3 つの調査票を見直して見えてきた「調査対象者への負担が大きい」「クロス分析ができない」という 2 つの大きな課題を解決すべく、以下のように新たな質問文を作る必要があると考えた。

- 行動分類の項目数を減らす
- 「指定した 2 日間」「15 分の時間軸」を用いた聞き方を変える
- 線を引いて答える形式を改める
- 付属質問（その日の行動・天気など）を聞かなくても成り立つように作る
- クロス分析ができるよう、1 問で様々な調査に組み込めるようにする

1-3 新たな生活時間質問文の作成

1-3-1 行動分類表の検討

新たな生活時間質問を作るにあたって、はじめに行動分類の再編を行った。我々の目標は、調査対象者にとって回答しやすい調査票を作り、生活時間の全体像をおおまかに把握することであったため、生活行動の傾向を読み取る上で重要な項目を選び、そこに他の項目を集約させる形で新たに作成した。

社会生活基本調査(総務省)では 20 種類、国民生活時間調査(NHK)では 28 種類あった行動分類は、我々の作成したものでは 8 項目に集約された。詳細さでは 2 調査に比べて劣るものの、分析に生かせない項目を減らし、一目で生活実態が分かるような行動分類を作成したことは大きな成果であるといえる。

以下では、社会生活基本調査(総務省 2016)と国民生活時間調査(NHK 2015)の行動分類表を示しながら、それぞれの特徴や、これまでどのように再編されてきたかについて述べる。その後、新たに作り上げた独自の行動分類表について工夫したことや特徴を述べる。

【表 5 社会生活基本調査(総務省) 行動分類表】

区分	行動の種類	内容例示
1 次活動	1 睡眠	夜間の睡眠,昼寝,仮眠,ベッドで眠りに落ちるのを待つ
	2 身の回りの用事	洗顔,入浴,トイレ,身じたく,着替え,化粧,整髪,ひげそり,理容室でのパーマ・カット,エステ, 巡回入浴サービスを利用した入浴(介護サービスなどを利用して行う場合も含む)
	3 食事	家庭での食事・飲食,外食店などでの食事・飲食,学校給食,仕事場での食事・飲食
2 次活動	4 通勤・通学	自宅と仕事場の行き帰り,自宅と学校(各種学校・専修学校を含む)との行き帰り
	5 仕事	通常の仕事,仕事の準備・後片付け,残業,自宅に持ち帰ってする仕事,アルバイト,内職,自家営業の手伝い,仕事中の移動
	6 学業	学校(小学・中学・高校・高専・短大・大学・大学院・予備校など)の授業や予習・復習・宿題,校内清掃,ホームルーム,家庭教師に習う,学習塾での勉強,学園祭の準備
	7 家事	炊事,食事の後片付け,掃除,ゴミ捨て,洗濯,アイロンかけ,つくろいもの,ふとん干し,衣類の整理片付け,家族の身の回りの世話,家計簿の記入,株価のチェック・株式の売買,庭の草とり,銀行・市役所などの用事,車の手入れ,家具の修繕
	8 介護・看護	家族・他の世帯にいる親族に対する日常生活における入浴・トイレ・移動・食事などの手助け,看病
	9 育児	乳幼児の世話,子供のつきそい,子供の勉強の相手,子供の遊びの相手,乳幼児の送迎,保護者会に出席
	10 買い物	食料品・日用品・電化製品・レジャー用品など各種の買い物,DVD のレンタル
3 次活動	11 移動 (通勤・通学を除く)	電車やバスに乗っている時間・待ち時間・乗り換え時間,自動車に乗っている時間,歩いている時間
	12 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	テレビ・ラジオの視聴,新聞・雑誌の購読,テレビから録画した番組を見る,インターネットでニュースを読む
	13 休養・くつろぎ	家族との団らん,仕事場または学校の休憩時間,おやつ・お茶の時間,食休み,うたたね,家族の見舞い
	14 学習・自己啓発・研究(学業以外)	学級・講座・教室,社会通信教育,テレビ・ラジオによる学習,クラブ活動・部活動で行うパソコン学習など,自動車教習
	15 趣味・娯楽	映画・美術・スポーツなどの観覧・鑑賞,観光地の見物,ドライブ,ペットの世話,ゲーム機で遊ぶ,趣味としての読書(漫画を含む),クラブ活動・部活動で行う楽器の演奏
	16 スポーツ	各種競技会,全身運動を伴う遊び,家庭での美容体操,クラブ活動・部活動で行う野球など(学生が授業などで行うスポーツを除く),つり
	17 ボランティア活動・社会参加活動	(ボランティア活動) 道路や公園の清掃,施設の慰問,点訳,手話,災害地などへの援護物資の調達,献血,高齢者の日常生活の手助け,民生委員,子供会の世話,美術館ガイド,リサイクル運動,交通安全運動,スポーツ大会の運営 (社会参加活動)労働運動,政治活動,布教活動,選挙の投票
	18 交際・付き合い	知人と飲食,冠婚葬祭,同窓会への出席・準備 あいさつ回り,友人の見舞い,友達との電話・会話,手紙を書く
	19 受診・療養	病院での受診・治療,自宅での療養
	20 その他	求職活動,墓参り,仏壇を拝む,調査票を記入する

【表 6 国民生活時間調査(NHK) 行動分類表】

大分類	中分類	小分類	具体例
必需行動	睡眠	1 睡眠	30 分以上連続した睡眠,仮眠,昼寝
	食事	2 食事	朝食,昼食,夕食,夜食,給食
	身のまわりの用事	3 身のまわりの用事	洗顔,トイレ,入浴,着替え,化粧,散髪
	療養・静養	4 療養・静養	医者に行く,治療を受ける,入院,療養中
拘束行動	仕事関連	5 仕事	何らかの収入を得る行動,準備・片付け・移動なども含む
		6 仕事のつきあい	上司・同僚・部下との仕事上のつきあい,送別会
	学業	7 授業・学内の活動	授業,朝礼,掃除,学校行事,部活動,クラブ活動
		8 学校外の学習	自宅や学習塾での学習,宿題
	家事	9 炊事・掃除・洗濯	食事の支度・後片付け,掃除,洗濯・アイロンがけ
		10 買い物	食料品・衣料品・生活用品などの買い物
		11 子どもの世話	子どもの相手,勉強をみる,送り迎え
		12 家庭雑事	整理・片付け,銀行・役所に行く,子ども以外の家族の世話・介護・看病
	通勤	13 通勤	自宅と職場(田畑などを含む)の往復
	通学	14 通学	自宅と学校の往復
	社会参加	15 社会参加	PTA,地域の行事・会合への参加,冠婚葬祭,ボランティア活動
自由行動	会話・交際	16 会話・交際	家族・友人・知人・親戚とのつきあい,おしゃべり,電話,電子メール,家族・友人・知人とのインターネットでのやりとり
	レジャー活動	17 スポーツ	体操,運動,各種スポーツ,ボール遊び
		18 行楽・散策	行楽地・繁華街へ行く,街をぶらぶら歩く,散歩,釣り
		19 趣味・娯楽・教養	趣味・けいこごと・習いごと,観賞,観戦,遊び,ゲーム
		20 趣味・娯楽・教養のインターネット	趣味・娯楽・あそびとしてインターネットを使う
	マスメディア接触	21 テレビ	BS,CS,CATV,ワンセグの視聴も含む
		22 ラジオ	らじる★らじる,radiko(ラジコ)からの聴取も含む
		23 新聞	朝刊・夕刊・業界紙・広報誌を読む(チラシ・電子版も含む)
		24 雑誌・マンガ・本	週刊誌・月刊誌・マンガ・本を読む(カタログ・電子版も含む)
		25 CD・テープ	CD・デジタルオーディオプレイヤー・テープ・パソコンなどラジオ以外で音楽を聞く
		26 ビデオ・HDD・DVD	ビデオ・HDD・DVD を見る(録画したテレビ番組の再生視聴・ネットで配信されたテレビ番組の視聴も含む)
	休息	27 休息	休憩,おやつ,お茶,特に何もしていない状態
その他	その他・不明	28 その他	上記のどれにも当てはまらない行動
		不明	無記入

〈社会生活基本調査(総務省 2016)行動分類表の特徴〉

本調査の行動分類は大きく以下の3つにまとめられている。

- 1次活動 (睡眠, 食事など生理的に必要な活動)
- 2次活動 (仕事, 家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動)
- 3次活動 (1次活動, 2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動)

表7を見ると、1次活動は調査が開始された1976年から2016年まで変わっていないことがわかる。2次活動は、第3回目に《家事・育児》が《家事》《育児》に分かれ、第4回目ではさらに《家事》が《家事》《介護・看護》となり現在に至る。回を重ねるにつれ、家事関連の生活時間を詳細に捉える重要性が増してきたと言えるだろう。最新の報告書でも、家事関連時間や夫と妻の生活時間が大きく取り上げられている。

3次活動はそこまで大きな変化はないものの、1981年に第1回目では2次活動に含まれていた学業以外の勉強が《学習活動》として加わり、その後《学習・自己啓発・訓練(学業を除く)》と名称が変更されている。また、第1回ではマスメディア関連の項目が《ラジオ・テレビ・新聞・雑誌》であるが、第2回からはラジオとテレビの順番が変わっている。これは、高度経済成長期を経た日本で多くの家庭がテレビを持つようになったことと関係があるのだろう。ほかにも、《奉仕的な活動》や《社会奉仕》が1991年から《ボランティア活動・社会参加活動》に変わっている。

【表7 社会生活基本調査における行動の種類の変遷】

出典：総務省統計局, 2016, 「社会生活基本調査の変遷」より筆者作成

1976年(1回)	1981年(2回)	1986年(3回)	1991年～2016年(4回～9回)
1次活動 ◆ 睡眠 ◆ 身の回りの用事 ◆ 食事	1次活動 ◆ 睡眠 ◆ 身の回りの用事 ◆ 食事	1次活動 ◆ 睡眠 ◆ 身の回りの用事 ◆ 食事	1次活動 ◆ 睡眠 ◆ 身の回りの用事 ◆ 食事
2次活動 ◆ 通勤・通学 ◆ 仕事 ◆ 勉強・研究 ◆ 家事・育児	2次活動 ◆ 通勤・通学 ◆ 仕事 ◆ 学業 ◆ 家事・育児	2次活動 ◆ 通勤・通学 ◆ 仕事 ◆ 学業 ◆ 家事 ◆ 育児	2次活動 ◆ 通勤・通学 ◆ 仕事 ◆ 学業 ◆ 家事 ◆ 介護・看護 ◆ 育児
3次活動 ◆ その他の移動 ◆ ラジオ・テレビ・新聞・雑誌 ◆ 休養・くつろぎ ◆ 趣味・娯楽 ◆ スポーツ ◆ 奉仕的な活動 ◆ 交際 ◆ 受診・療養 ◆ その他	3次活動 ◆ 移動 ◆ テレビ・ラジオ・新聞・雑誌 ◆ 休養・くつろぎ ◆ 学習活動 ◆ 趣味・娯楽 ◆ スポーツ ◆ 奉仕的な活動 ◆ 交際 ◆ 受診・療養 ◆ その他	3次活動 ◆ 移動 ◆ テレビ・ラジオ・新聞・雑誌 ◆ 休養・くつろぎ ◆ 学習・研究 ◆ 趣味・娯楽 ◆ スポーツ ◆ 社会奉仕 ◆ 交際・付き合い ◆ 受診・療養 ◆ その他	3次活動 ◆ 移動(通勤・通学を除く) ◆ テレビ・ラジオ・新聞・雑誌 ◆ 休養・くつろぎ ◆ 学習・自己啓発・訓練(学業を除く) ◆ 趣味・娯楽 ◆ スポーツ ◆ ボランティア活動・社会参加活動 ◆ 交際・付き合い ◆ 受診・療養 ◆ その他

社会生活基本調査(総務省 2016)では、1976年から9回にわたって見直しされていることもあり、生活時間を網羅的に捉えそれを分析に生かせるような分類が確立されつつある。一方で、定義が定まっていない項目もある。「見舞い」に注目すると、家族の見舞いは《休養・くつろぎ》に入っているが、友人の見舞いは《交際・付き合い

い》に入っている。家族か否かによって、同じ「見舞い」という行動であってもまったく意味合いが変わってきてしまうのは問題かもしれない。

〈国民生活時間調査(NHK 2015)行動分類表の特徴〉

本調査の行動分類は大きく以下の3つにまとめられている。これを見ると、必需行動は社会生活基本調査(総務省 2016)における1次活動、拘束行動は2次活動、自由行動は3次活動に対応していることがわかる。

- 必需行動（個体を維持向上させるために行う必要不可欠性の高い行動）
- 拘束行動（家庭や社会を維持向上させるために行う義務性・拘束性の高い行動）
- 自由行動（人間性を維持向上させるために行う自由裁量性の高い行動）

また、本調査では、途中でアフターコード方式からプリコード方式へ変わったことに伴って、過去何度か大幅な行動分類の見直しが行われている。NHK 放送文化研究所世論調査部研究主幹である三矢恵子も行動分類について「調査の目的に応じて変わるもので、絶対的・固定的なものではない」（三矢 2015）と述べている。

初回の1960年は、13の基本的な行動で構成されていたが、1970年に家事や自由時間の項目が増え、これが1985年まで使われた。当時の家事時間には《縫い物・編み物》、自由時間には《電話》《手紙》《勝負ごと》などが見受けられ、介護についても《病人や老人の世話》という項目で尋ねていた。1990年にはビデオやCDの普及を受け、「見物・鑑賞」として扱われていた《マンガ》《レコード・CD》《ビデオ》《映画》が独立した。

しかし、1995年にプリコード方式へ変わったことにより、調査対象者が答えやすいよう行動分類の数が削減され、現在使われているものの原型ができた。21世紀に入り次第にインターネット利用が増えたため、2005年には《趣味・娯楽・教養》の他に《趣味・娯楽・教養のインターネット》が設けられた。同年、それまで分かれていた《雑誌・マンガ》と《本》を合わせて《雑誌・マンガ・本》とし、現在の行動分類表が完成した。

メディアの普及を敏感に察知して反映させた点や、テレビの脅威ともなるインターネットに関して項目を設けた点においてNHKらしさが感じられる行動分類表となっている。しかし、自治体の調査へ応用するとなった場合、項目数が多かったりマスメディア関連が詳細すぎたりと改善すべき点もある。また、1995年の項目数削減により、介護に該当する項目が無くなったことも、その実態が把握できないという点で問題と言えるだろう。そこで、これまで見てきた2調査のものを参考にしながら、独自の行動分類表（表8）を作成した。

〈本研究室が作成した行動分類表の特徴〉

- 国民生活時間調査(NHK 2015)の大分類を引用し3つの区分に分けた。
- 《睡眠》は、全ての睡眠を含むこととした。社会生活基本調査(総務省 2016)では、《うたたね》が《休養・くつろぎ》に分類されているが、昼寝との判別が曖昧であるため、この項目に含めた。
- 《診察》《治療を受ける》は、社会生活基本調査(総務省 2016)では3次活動の《受診・療養》、国民生活実態調査(NHK 2015)では必需行動の《療養・静養》に分類されていたが、我々は生命維持のために不可欠な必需行動であると考え、《食事・身の周りの用事》に分類した。
- 《職業関連（学業を含む）》には、《休憩》《通勤》《通学》《給食》など、職業や学業に関する全ての時間を含むこととした。まとめて問うことで、1日の時間の使い方を把握しやすくなると考えたためである。
- 《食料品・(衣料品・)生活用品などの買い物》は《家事》に分類した。(衣料品)としたのは、おしゃれ着などを買いに出かける娯楽としてのショッピング(《(自宅外で過ごす)自由時間》の《ウィンドウショッピング》)と区別するためである。
- 《育児》と《介護》は、社会生活基本調査(総務省 2016)を参考に、家事には含めず独立させた。
- 自由時間を、《(自宅や敷地内で過ごす)自由時間》と《(自宅外で過ごす)自由時間》に分けることで、インドア派やアウトドア派といった個人のタイプ分けを行おうとした。従来の生活時間調査では、多くの項目を用いて自由時間の把握を試みているものの、有効な分析やクロス集計があまりなされてこなかったためである。
- 全ての項目において《自宅と病院の行き来》《通勤》など、行動の際に発生する移動時間も含むこととした。
- 食事のうち、勤務時間中の昼食は《職業関連》に、友人との外食など交流を目的とした食事は《(自宅外で過ごす)自由時間》に含むこととした。

【表 8 川崎市・神戸市・福岡市民生活実態調査 行動分類表】

区分	項目	事例
必需行動	1 睡眠	夜間の睡眠、昼寝、仮眠(眠りにつくまでの時間・うたた寝等も含む)
	2 食事・身の周りの用事	家庭での食事・飲食(外食店での食事も含む)、入浴(趣味・娯楽としての入浴は除く)、洗顔、化粧、トイレ、着替え、散髪、髭剃り、ペットの世話、診察、治療を受ける、自宅と病院の行き来
拘束行動	3 職業関連(学業を含む)	労働時間、残業、仕事の準備・後片付け、休憩、自宅での仕事、アルバイト、内職、自家営業の手伝い、通勤時間、授業、予習、復習、部活動、給食、宿題、通学時間、学習塾・家庭教師※有償ボランティアは自由時間を含む
	4 家事	炊事、食事の支度・後片付け、掃除、洗濯、アイロンがけ、布団干し、衣類の整理片付け、家計簿の記入、庭の掃除、銀行・市役所などの用事、食料品・(衣料品・)生活用品などの買い物、ゴミ捨て
	5 育児	子供の世話、付き添い、送り迎え、勉強相手、遊び相手(範囲は自宅内や近くの公園など)保護者会に出席 ※ここでの「子供」は回答者の子どもに限る
	6 介護	家族や配偶者の親族に対する日常生活における 入浴・トイレ・移動・食事などの手助け、看病、付き添い、送り迎え
自由行動	7 (自宅や敷地内で過ごす)自由時間	テレビ・ラジオの視聴、ビデオ・DVD の視聴、インターネット利用、新聞・雑誌・マンガを読む、日記、TV ゲーム、将棋、自宅内で行うストレッチ、ラジオ講座、庭いじり、休養・くつろぎ
	8 (自宅外で過ごす)自由時間	映画・美術・スポーツなどの観覧・鑑賞(自宅でのスポーツ観戦はテレビ視聴を含む)、カラオケ、ドライブ、旅行、飲み会、会社の打ち上げ、スポーツ、スポーツジム、体操、散歩、習いごと、社交ダンス、サークル活動、ウィンドウショッピング、交流、ボランティア活動

1-3-2 24 時間質問文の工夫

社会生活基本調査(総務省)と国民生活時間調査(NHK)の課題を踏まえた上で新たに生活行動分類表を作り、完成させた生活時間質問文は以下の通りである。その際、調査対象者が回答しやすいよう次の 5 点を行った。

Q39 あなたの平均的な平日の過ごし方についてお聞きします。1日24時間を次の項目にふりわけると、それぞれのくらいになりますか。すべて足し合わせると24になるようにご記入ください。

記入例

女性 (40代・パート)の例 睡眠 7.5 職業関連 6 食事・身の周り 2 家事 4.5 育児 1 介護 0 自由時間(家) 2 自由時間(外) 1	女性 (60代・専業主婦)の例 睡眠 7 職業関連 0 食事・身の周り 3 家事 7 育児 0 介護 2 自由時間(家) 4 自由時間(外) 1	男性 (30代・会社員)の例 睡眠 6.5 職業関連 1.3 食事・身の周り 1.5 家事 1 育児 0.5 介護 0 自由時間(家) 1.5 自由時間(外) 0	※すべての項目について、その項目を行う際に発生する移動時間も含めてお答えください。買い物の場合、店への往復時間も含めてください。 ※食事のうち、勤務時間中の昼食は職業関連に、友人との外食など交流を目的とした食事は自由時間に含めてください。
---	--	---	--

項目	例	あなた
睡眠	昼寝も含む	(時間)
職業関連 (学業を含む)	労働時間、残業、仕事の準備、休憩、アルバイト、内職、自営業の手伝い、通勤時間なども含む(授業、部活、給食、宿題、通学時間も含む)	(時間)
食事・身の周りの用事	朝食、昼食、夕食、入浴、洗顔、化粧、着替え、ひげ剃り、通院 など	(時間)
家事	炊事、掃除、洗濯、買い物、ゴミ捨て など	(時間)
育児	世話、付き添い、送り迎え、遊び相手 など	(時間)
介護	世話、看病、付き添い、送り迎え など	(時間)
(自宅や敷地内で過ごす) 自由時間	テレビ、インターネット、新聞を読む、読書、日記、ラジオ講座、庭いじり など	(時間)
(自宅外で過ごす) 自由時間	映画、スポーツジム、習いごと、サークル活動、ウィンドウショッピング、交流(友人と外食)、ボランティア など	(時間)

1. 20 項目以上ある生活行動分類を 8 項目に減らし、項目の簡素化を図った。

2. 15 分刻みの時間軸に合わせて線を引く回答形式から、合計時間が 24 時間になるように数字を用いて記入する方法に変更した。

3. 2 日間に亘る情報を詳細に答えるのではなく、「平均的な平日の過ごし方」というワーディングを用いて、おおよその生活時間を捉える方法に変更した。

4. その行動に費やす時間が比較的是っきりしている項目から並べ、上から順番に答えられるようにした。

5. 回答方法が一目で分かるよう、3 パターンの記入例を加えた。

1-4 24 時間質問の回答結果と考察

1-4-1 回答状況

川崎・神戸・福岡市民生活実態調査にて回答が得られた 2871 サンプル中、24 時間質問への記入のあった調査票は 2746 サンプル(95.6%)であった。この 2746 サンプル中、24 時間で正確に回答していたのは 2311 サンプルであったが、睡眠時間を 0 と記入しているものが 1 サンプル、職業関連時間を 24、その他の項目を 0 と記入しているものが 1 サンプルあったため、この 2 サンプルを外れ値とし、2309 サンプルを有効なデータとして扱った。全 2871 サンプル中、有効サンプルが 2309(80.4%)あったことに加え、川崎市と福岡市では 8 割以上、神戸市では 78.4%の人が正確に回答していたことから、多くの人に人にとって答えやすい質問文であったと評価できる。

【表 9 24 時間質問の回答状況】

	回答あり		NA	合計
	有効	無効		
川崎市	82.5	12.2	5.3	100.0(943)
神戸市	78.4	18.5	3.0	100.0(1019)
福岡市	80.5	14.6	4.8	100.0(909)
合計	80.4	15.2	4.4	100.0(2871)
	95.6			

1-4-2 社会生活基本調査・国民生活時間調査との平均時間比較

ここからは、質問作成時に参考とした社会生活基本調査(総務省 2016)と国民生活時間調査(NHK 2015)の 2 つと結果を比較し、24 時間質問がどの程度正確ものであったかについて検証する。それぞれの調査の実施年や対象地域、対象者年齢、ケース数、男女比は以下のとおりである。

【表 10 比較する 3 調査の内容】

	市民生活実態調査	社会生活基本調査	国民生活時間調査
調査実施年	2019 年	2016 年	2015 年
調査対象地域	川崎市・神戸市・福岡市	全国	全国
調査対象者年齢	18～80 歳	10 歳以上	10 歳以上

扱ったケース数	2309 人	13 万 2592 人	1 万 1056 人
扱ったケースの男女比	男 42.7 : 女 57.1 (NA0.1)	男 47.4 : 女 52.6	男 47.8 : 女 52.2

市民生活実態調査は 2019 年に実施されており、川崎市、神戸市、福岡市の 3 都市に住む 18 歳から 80 歳を対象としている。合計が 24 時間になるよう正確に回答していた 2309 名のデータを採用しており、その男女比は男性が 42.7%、女性が 57.1%と他の 2 調査に比べて女性が多い傾向にある。

社会生活基本調査(総務省 2016)は 2016 年に行なわれており、対象は全国の 10 歳以上の国民である。扱ったケース数は 13 万 2592 人と非常に規模が大きい。なお、今回の比較において用いたデータは、市民生活実態調査や国民生活時間調査(NHK 2015)と同じプリコード方式を採用している調査票 A に基づくものであるため、扱ったケースも調査票 A の有効回答者である。男女比は、男性が 47.4%、女性が 52.6%である。

国民生活時間調査(NHK 2015)は 2015 年に行われており、社会生活基本調査(総務省 2016)と同じく全国の 10 歳以上を対象としている。扱ったケース数は 1 万 1056 人である。男女比は、男性が 47.8%、女性が 52.2%と社会生活基本調査(総務省 2016)と近い比率である。

なお、社会生活基本調査(総務省 2016)と国民生活時間調査(NHK 2015)は、平日に加え、土曜日と日曜日にも実施されているが、24 時間質問と比較するため平日のデータのみを採用した。

さらに、異なる行動分類を用いて算出された 3 調査の平均時間を比較できるようにするため、表 11 のように、社会生活基本調査(総務省 2016)と国民生活時間調査(NHK 2015)の項目を本研究室の行動分類表で示した 8 項目に割り当てた。市民生活実態調査の 1 項目につき複数の項目が該当する箇所については(例:《食事・身の周りの用事》につき《食事》《身の回りの用事》《受診・療養》の 3 項目)、それぞれの平均時間を足し合わせた。また、国民生活時間調査(NHK 2015)については小分類の平均時間を計算し割り当てている。その際、介護時間は「家庭雑事」に含まれているものの、介護時間そのものを把握することができなかったため、空欄としている。「その他」については、24 時間質問では設けていないため、他の 2 調査についてのみ記載している。

【表 11 平均時間を求める際の各項目の割り当て方】

市民生活実態調査	社会生活基本調査	国民生活時間調査
睡眠	睡眠	睡眠
食事・身の周りの用事	食事	食事
	身の回りの用事	身のまわりの用事
	受診・療養	療養・静養
職業関連 (学業を含む)	仕事	仕事
	通勤・通学	仕事のつきあい
	学業	通勤
		通学
		授業・学内の活動
		学校外の学習
家事	家事	炊事・掃除・洗濯
	買い物	買い物
		家庭雑事
育児	育児	子どもの世話
介護	介護・看護	
自由時間 (内)	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	テレビ
	学習・自己啓発・研究	ラジオ
	休養・くつろぎ	新聞
		雑誌・マンガ・本
		CD・テープ
		ビデオ・HDD・DVD
		趣味・娯楽・教養の

自由時間（外）		インターネット
		休息
	移動	行楽・散策
	趣味・娯楽	趣味・娯楽・教養
	スポーツ	スポーツ
	ボランティア活動・社会参加活動	社会参加
	交際・付き合い	会話・交際
	その他	その他・不明

また、市民生活実態調査では合計が 24 になるように数字を用いて回答するため、3 時間 30 分であれば、3.5 時間と記入する。したがって、平均値は〇時間〇分ときれいに数字が出ないため、以下の方法で算出し直す必要がある。計算の過程で四捨五入が行われるため、合計時間が 24 より多少少なくなることがある。

市民生活実態調査において、数値を時間に（例 6.78323 を 6:46 に）変換する方法：

①SPSS で算出した数値(6.78323)を Excel にコピー&ペースト【6.78323】

②A1 に数値が入っている場合、B1 に=TIME(INT(A1), (A1-INT(A1))*60, 0)を入力(TIME 関数を使う)【6.46AM】

③B1 を右クリックし、セルの書式設定で表示形式をユーザー定義の h:mm に設定【6:46】

以上の手順を踏まえたうえで算出した平均時間は表 12 の通りである。

【表 12 平日の平均的な生活時間—3 調査比較—】（単位 時間:分）

	市民生活実態調査	社会生活基本調査	国民生活時間調査
睡眠	6:46	7:29	7:15
食事・身の周りの用事	2:26	3:08	2:59
職業関連	7:05	5:48	6:12
家事	2:06	1:43	2:07
育児	0:30	0:15	0:24
介護	0:11	0:04	
自由時間(内)	3:42	3:47	5:28
自由時間(外)	1:11	1:30	1:09
その他		0:16	0:35
合計	23:57	24:00	26:09

平均時間を比較すると、我々の実施した市民生活実態調査の《睡眠》や《食事・身の周りの用事》が、他の 2 調査に比べて 30 分から 45 分ほど短いこと、《職業関連》が 1 時間ほど長いことが分かる。

国民生活時間調査(NHK 2015)に注目すると、合計時間が 26 時間 9 分と 24 時間になっていなかったり、自宅内自由時間が非常に長く算出されていることが分かる。このことに関しては、「NHK 調査では、同時に複数の行動をする、いわゆる“ながら”行動もすべて記入してもらい、集計に組み入れている。国際基準では『主たる行動と、そのほかに同時に行っている行動があればその中から主なものを 1 つ』記入させることが多いが、複数の行動との“ながら”で行われることの多いテレビ・ラジオ視聴の実態を把握して編成に役立てることが主たる目的の調査だからである。このため、小分類（または中分類）の各行動の時間量の合計が 24 時間を超えることや、ある時刻の行為者率の合計が 100%を超えることがある」（三矢 2015）と説明されている。

一方、社会生活基本調査(総務省 2015)は、調査票 B では“ながら”行動について尋ねているものの、平均時間比較の際に用いた調査票 A ではおもな行動についてのみ問うているため、合計時間が 24 時間ちょうどに算出されている。合計が 24 時間になるように答えてもらうことを前提としている我々の調査との比較においては、社会生活基本調査(総務省 2016)のほうが適しているのかもしれない。

次の節では、それぞれの調査における回答者の属性や質問の特性を明らかにした上で、24 時間質問で得られた結果が妥当性を持っていたのかについて検証していく。

1-5 精度の検証

5 項では、川崎・神戸・福岡市民生活実態調査で実施した 24 時間質問文が、どれほど正確に生活時間を捉えることができていたのかについて検証する。平均時間を比較した際にも述べたように、我々の調査では《睡眠》と《食事・身の周りの用事》が他の調査に比べて 30 分から 45 分程度短く、《職業関連》が 1 時間ほど長く算出された。《食事・身の周りの用事》に関しては、24 時間質問でのみこの項目に「勤務時間中の昼食」が含まれているためだと考えられるが、他の 2 項目については要因が不明である。そのため、回答者の属性と質問の特性という 2 つの観点から、得られた結果がどの程度正確であったのかについて検証していく。

1-5-1 回答者の属性

ここでは、回答者の性別や年齢といった個人属性と、彼らの住む川崎市・神戸市・福岡市という場所に着目し、それらが「睡眠時間の短さ」に影響を与えていたのかについて明らかにする。なぜ睡眠時間かというと、この項目は唯一、3 調査全てが 1 つの独立した項目として問うていて、かつ、1 日の中でほぼ全員がする行動だからである。それにもかかわらず、社会生活基本調査(総務省 2016)と国民生活時間調査(NHK 2015)の結果との間に 30 分から 45 分の差が出てしまったのには、何かしらの理由があると考えられるからである。

そこで、表 13 を見ると、市民生活実態調査は他の 2 調査に比べ、男女ともに平均睡眠時間が長い 10 代と 80 代以上の層が少ないことが分かる。これは、調査対象者の年齢が 18 歳から 80 歳であったためであるが、この若年層と高齢者層の少なさが結果に影響を与えたことが考えられる。さらに、市民生活実態調査は、平均睡眠時間が短い働き盛りの 40 代や 50 代が多く回答しており、これも全体の平均睡眠時間が他の調査に比べて短く算出された要因であると考えられる。

しかしながら、回答者の個人属性だけでは、社会生活基本調査における「睡眠時間の短さ」を説明することができない。なぜなら、個別の数値を見比べてみても、全体的に市民生活実態調査の結果が短いためである。例えば、老後に差し掛かり、時間に余裕が出始める 70 代男性の睡眠時間を見ると、社会生活基本調査(総務省 2016)では 8 時間 10 分であるのに対し、市民生活実態調査では 7 時間 50 分と 20 分の差がある。また、社会人になり睡眠時間が短くなる人が多い 20 代女性も平均 6 時間 57 分と、国民生活時間調査(NHK 2015)の 7 時間 18 分とは 21 分、社会生活基本調査(総務省 2016)の 7 時間 39 分とは 42 分もの差がある。

【表 13 調査対象者の男女年層別ケース比率とそれぞれの平均睡眠時間】

	市民生活実態調査		社会生活基本調査		国民生活時間調査	
	ケース比率	平均睡眠時間	ケース比率	平均睡眠時間	ケース比率	平均睡眠時間
男性	42.7	6:47	47.4	7:33	47.8	
10 代	0.3	7:12	5.3	7:48	5.6	7:47
20 代	3.4	6:29	3.7	7:35	3.8	7:27
30 代	5.7	6:35	5.3	7:20	5.9	6:59
40 代	8.3	6:29	7.3	7:04	8.2	6:50
50 代	8.0	6:22	6.7	7:01	6.5	6:51
60 代	8.7	6:53	9.3	7:34	8.8	7:20
70 代	6.1	7:50	6.5	8:10	8.9	8:11
80 代以上	0.3	8:08	3.4	9:12		
年齢 NA	2.0					
女性	57.1	6:46	52.6	7:25	52.2	
10 代	0.6	6:41	5.0	7:44	5.6	7:33
20 代	6.0	6:57	3.8	7:39	4.0	7:18
30 代	8.6	6:46	5.6	7:19	6.1	7:05
40 代	10.8	6:37	7.9	6:50	8.4	6:41
50 代	11.6	6:28	7.6	6:41	7.3	6:31
60 代	8.2	6:47	10.1	7:11	10.2	7:05

70代	7.8	7:11	7.4	7:47	10.6	7:50
80代以上	0.5	7:34	5.3	8:53		
年齢 NA	3.1					
性別 NA	0.1					
合計	100.0(2309)	6:46	100.0(132592)	7:29	100.0(11056)	7:15

したがって、回答者の個人属性が結果に影響を与えている側面は少なからずあるものの、それ以外に睡眠時間が短くなってしまった要因があると考えられる。そのため次は、川崎市・神戸市・福岡市という回答者の住む地域に注目してみる。

社会生活基本調査(総務省 2016)と国民生活時間調査(NHK 2015)が調査対象地域を全国としているのに対し、我々は川崎市・神戸市・福岡市という3都市で調査を実施した。この3都市は、政令指定都市にも数えられており、2020年3月時点の人口もそれぞれ約153万人・152万人・159万人と、全国的にみるとかなり都市部であると言える。そこで、「都市部で暮らす人は睡眠時間が短い」という仮説を立て、これを検証してみた。

表14は、社会生活基本調査(総務省 2016)調査票Aにおける生活時間に関する結果主要統計表16-1「都道府県、主な行動の種類別行為者率・平均時刻—平日、男女総数(15歳以上)」に基づくものである。総務省統計局のホームページには、平日の都道府県別平均睡眠時間のデータがなかったため、上記の表16-1にあった都道府県別起床平均時刻と就寝平均時刻の差を平均睡眠時間として筆者が計算し、長い順にランキングを作成した。

これを見ると、比較的「田舎」といわれる地域では睡眠時間が長く、都市部である関東や近畿地方では短いことが分かる。特に、川崎市のある神奈川県は最も睡眠時間が短く、一番長い秋田県とでは42分、全国平均と比べても13分の差がある。神戸市のある兵庫県と福岡市のある福岡県も同様に全国平均を下回っており、都市部では睡眠時間が短くなる傾向にあることがわかる。

【表14 都道府県別睡眠時間ランキング—社会生活基本調査(総務省 2016)より—】

順位	都道府県	平均時間	(単位 時間:分)					
1	秋田県	7:46	17	富山県	7:24	32	石川県	7:17
2	青森県	7:38	17	岡山県	7:24	32	香川県	7:17
2	山形県	7:38	17	鹿児島県	7:24	32	全国	7:17
4	宮崎県	7:36	17	長野県	7:24	36	福岡県	7:16
5	島根県	7:33	21	三重県	7:23	36	滋賀県	7:16
6	高知県	7:32	21	佐賀県	7:23	36	京都府	7:16
6	新潟県	7:32	23	愛媛県	7:22	36	沖縄県	7:16
6	岩手県	7:32	24	山梨県	7:21	40	静岡県	7:14
9	福島県	7:31	24	山口県	7:21	40	兵庫県	7:14
10	徳島県	7:30	24	栃木県	7:21	42	東京都	7:13
11	北海道	7:28	27	熊本県	7:20	43	愛知県	7:12
11	和歌山県	7:28	27	岐阜県	7:20	44	大阪府	7:10
13	鳥取県	7:27	29	長崎県	7:19	44	奈良県	7:10
14	宮城県	7:26	29	大分県	7:19	46	千葉県	7:08
15	福井県	7:25	31	広島県	7:18	47	埼玉県	7:05
15	群馬県	7:25	32	茨城県	7:17	48	神奈川県	7:04

【表15 都市規模別睡眠時間—国民生活時間調査(NHK 2015)より—】

都市規模	平均時間	(単位 時:分)
東京圏	7:08	
大阪圏	7:10	
30万以上の市	7:16	
10万以上の市	7:18	

5 万以上の市町村	7:18
5 万未満の市町村	7:22

表 15 は、NHK 放送文化研究所がホームページにて掲載している都市規模別平均睡眠時間(平日・男女 10 歳以上)を参考に、筆者が作成したものである。ここからも、大都市の睡眠時間が短く、都市の規模が小さくなるにつれ睡眠時間が長くなることが分かる。特に、川崎市が含まれる「東京圏」は 7 時間 8 分と、人口 5 万未満の市町村と比べると 14 分短いことが分かる。

表 14 と 15 から、都市部の方が睡眠時間が短く、特に我々が調査を実施した川崎市・神戸市・福岡市の含まれる地域は全国平均を下回っていることが分かる。このことから、調査対象者の住む地域が 3 調査平均時間比較における「睡眠時間の短さ」という結果をもたらしたとも考えられる。

しかしながら、これも決定的な要因であると断定することはできない。たしかに、神奈川県・兵庫県・福岡県の平均睡眠時間は全国的にみると短かったが、それでも我々の調査結果よりは長く算出されている。それぞれの県には、川崎市・神戸市・福岡市以外にも多くの市区町村が含まれているため直接比較することは難しいが、市民生活実態調査と社会生活基本調査(総務省 2016)の結果との間には、川崎市から順にそれぞれ 25 分、21 分、28 分の差があった。

以上のことから、回答者の個人属性と調査対象地域の違いが「睡眠の短さ」に多少影響を与えたことが考えられるものの、それだけが要因ではないことが分かる。したがって、次の項では、我々が開発し市民生活実態調査で用いた「24 時間質問文」の特性に焦点を当て、調査対象者がどのように回答していたのか、それによって他の調査との結果にどのような違いが生じたのかを明らかにする。

1-5-2 質問の特性—関学生親版生活実態調査の結果より—

我々が行った「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」は 24 時間質問文をはじめ、新たに開発した質問文がいくつか盛り込まれており、そこから得られたデータを分析するにあたって、調査対象者がどのように回答していたのかという「回答経緯」を把握する必要性が出てきた。なぜなら、先述した通り他の調査との比較において回答者の属性だけでは説明できない箇所が生じたためである。そこで我々は 2020 年 12 月、社会学部開講科目である「社会調査入門 B1」を受講していた学生へ向けて、親御さんへの聞き取り調査課題を実施した。

まず、受講生の親御さんに「生活実態調査 関学生親版」へ回答してもらい、学生が回答を終えた親御さんに向け「聞き取り調査票」の質問に沿ってインタビュー調査を行う。その後、インタビュー結果を word に、親御さんの回答結果を所定の Excel に入力して提出する。この時、我々が作った「コーディングマニュアル」に従って作業を行ってもらった。

生活時間に関しては、川崎・神戸・福岡市民生活実態調査の 24 時間質問をそのまま用い、課題 D（「聞き取り調査票」参照）を出した。

※「生活実態調査 関学生親版」「聞き取り調査票」「コーディングマニュアル」は本報告書に巻末資料として掲載している。

関学生親版生活実態調査では、聞き取り調査の内容と親御さんの回答結果の 2 つを提出する必要がある。しかし、前者については 209 名からの回答が得られたものの、後者については 190 名からしか有効な回答を得られなかった。これを踏まえた上で、市民生活実態調査・社会生活基本調査(総務省 2016)・国民生活時間調査(NHK 2015)と結果を比較する。

回答が得られた 190 名のうち 178 名は親御さん、12 名は何らかの事情で親御さんへ聞くことができなかった学生本人が答えている。この中で、NA は親御さん 1 名、合計が 24 時間になるよう正確に回答していたのは 148 名の親御さんと 10 名の学生であった。今回の調査では、親御さんのデータのみを抽出する必要があるため、この 148 名のデータを有効データとして扱った。彼らの平均年齢は 50.8 歳、性別ごとに見ると、男性が 64 名(43.2%)、女性が 84 名(56.8%)である。以下は、表 12 に関学生親版生活実態調査の結果を加え、4 調査の平均時間を示した表である。

【表 16 平日の平均的な生活時間—4 調査比較—】

	関学生親版 生活実態調査	市民生活 実態調査	社会生活 基本調査	国民生活 時間調査
--	-----------------	--------------	--------------	--------------

睡眠	6:48	6:46	7:29	7:15
食事・身の周りの用事	2:23	2:26	3:08	2:59
職業関連	7:47	7:05	5:48	6:12
家事	2:27	2:06	1:43	2:07
育児	0:13	0:30	0:15	0:24
介護	0:06	0:11	0:04	
自由時間(内)	3:20	3:42	3:47	5:28
自由時間(外)	0:52	1:11	1:30	1:09
その他			0:16	0:35
合計	24:00	23:57	24:00	26:09

これを見ると、回答者の個人属性や居住地に違いがあるにも関わらず、関学生親版生活実態調査と市民生活実態調査の平均時間が近似していることが分かる。特に、睡眠時間は両調査ともに6時間台で、社会生活基本調査(総務省 2016)や国民生活時間調査(NHK 2015)との間には30分程度の差がある。このことから、平均時間比較における市民生活実態調査の「睡眠時間の短さ」は、質問の特性と関連があることがわかる。さらに、「食事・身の回りの用事」が30分から45分程度短いことや、「職業関連」が1時間以上長いことも共通している。では、調査対象者は実際にどういった経緯でこの質問文に回答していたのだろうか。

聞き取り調査課題を作成するにあたり、24時間質問文が他の2調査の質問文と決定的に異なる点に注目し、それが回答結果に与える影響について以下のように仮説を立てた。

1. 3つの記入例が回答に影響を与えた
2. ○時間○分と答えられないため、詳細に回答しづらい(例:家事を1時間40分するが、【40分=0.7時間】と計算するのは手間がかかるので、2時間と回答する)
3. 合計時間を24時間にするために、一度決まった答えを書き換えた項目や、実際の時間配分とは多少異なる回答をした項目(これを調節弁と呼ぶ)が存在した
4. 「平均的な平日の過ごし方」というワーディングを用いるため、回答が調査対象者の感覚に委ねられやすい

まずは、記入例の影響について見ていく。聞き取り調査では209名から回答を得られたが、そのうち「記入例を参考にした」と答えたのは49名であった。ただ、この49名のうち9名は「記入例では0.5刻みで書かれていたので、最初は一時間刻みでしたが細かい方が正確になるために書き直しました」というように、書き方や形式を参考にしたということであった。また、他の11名は「回答の記入例は一応見たが、あまり参考にはしなかったようだ」や「父は先に自分の回答を考えた後、記入例を見たらしい。参考にはなったが、見たからといって回答が変化することはなかった」など、記入例を参考にしたものの回答に影響はなかったという。

一方で、残る29名は記入例によって回答に変化が生じたと述べている。「育児のところは、僕が大学生、妹は高校生で一瞬考えていましたが、60代専業主婦の例を参考に0と記入していました」のように、一部のみ参考にしている人もいれば、「母は全ての平日に勤務するパート主婦です。そのため40代パートの例を参考にしていました」という人もおり、この人は自宅内自由時間を除いた全ての項目で記入例と最大1時間しか差がなかった。

しかしながら、全体でみると、記入例によって回答が変わったのは209名中29名(13.9%)のみで、このうち回答が記入例と全く同じものはなかった。また、川崎・神戸・福岡市民生活実態調査においても、回答と記入例が同一のものはなく、記入例に挙げた〈40代・パート女性〉〈60代・専業主婦女性〉〈30代・会社員男性〉に絞って平均時間を算出しても、記入例による影響は見られなかった。このことから、記入例に書かれた時間が直接回答に影響することは少ないが、0.5刻みで答えるといった書き方への影響はあったと結論付けられるだろう。

それを踏まえて2について考えてみる。24時間質問は他の調査とは違い「数字を用いて記入する」必要がある。そのため、15分刻みの時間軸に沿って線を引いて答える形式よりも、詳細に回答しづらいかもしれない。実際に親御さんの結果(158名が正確に回答)を見ると、整数のみで答えている人が85名(53.8%)、記入例にもあった「0.5刻み」で答えている人が71名(44.9%)であり、「13.2時間」「0.3時間」などより詳細に答えている人は2名(1.3%)しかいなかった。市民生活実態調査でも、整数のみで答えている人は1496名(64.8%)、0.5刻みを用い

ている人は 798 名(34.6%)で、さらに細かく答えているのは 15 名(0.6%)だけであった。このことから、24 時間質問では、「実際の睡眠時間は 7 時間 15 分なのに 7 時間と回答する」「仕事を 8 時間 40 分しているが 9 時間と回答する」といった数分の誤差が生じてしまう可能性があるといえる。

次に調節弁についてみていく。本調査は、「平均的な平日の過ごし方」を 8 項目の合計がちょうど 24 時間になるよう答えなければならないため、毎日の生活ルーティンがバラバラであったり、“ながら行動”をしている場合には、調査対象者が時間を調節する必要がある。このステップが「睡眠時間の短さ」や「職業関連時間の長さ」といった結果をもたらしたのではないかと考えた。そこで、どの項目を調節弁にしたのか学生に聞き取ってもらったところ、以下のような意見が聞かれた。

【表 17 調節弁にした項目とその理由】

項目	理由
睡眠	◆ 毎日決まっているわけではないため答えにくかったようで大体な数字でもいいかなあと言いながら七時間という答えを出していた。 ◆ 他の項目を合計して 24 時間に足りない分を睡眠の時間として最後に記入していた。 ◆ 8 時間と書いてましたが、調節するために 7.5 時間としました。 ◆ 調節弁が一番回答の優先度が低かった睡眠であった。毎日時間がバラバラであるのも理由の一つである。
食事	◆ 上から順番に回答したのですが最後の自由時間が多くなり過ぎたので食事・身の回り家事の時間の長さを伸ばしていました。 ◆ 家事と食事にはあまりにも日に差があるため悩んでいました。 ◆ 流れ作業であまり時間感覚のない食事や身の回りを調節弁にした。
職業関連	◆ 日によって多少変動がある職業関連の項目を、14 時間から 12 時間に書き換えることで帳尻合わせをしていた。2 時間の誤差を他の複数の項目を修正して考えるのが手間であるため、職業関連から 2 時間まるまる削りやすかったという理由もある。 ◆ 在宅勤務の母は自分のペースで仕事をしているので就業時間が定まりにくいそう。 ◆ 自営業ということもあって、父はいつも朝早くから夜遅くまで働いている。基本的な時間が決まっていなかったため、自分がしないことから「0」と空欄を埋めて、そこから生活に最低限必要な時間を記入、それ以外の時間はほとんど仕事をしているという感じで 16 時間と回答していた。しかし、家で携帯を触ったり、テレビでニュースを見たりする時間もあるので、仕事の時間を 1 時間減らし、15 時間としていた。
家事	◆ 専業主婦のため家事に費やす時間が長い、曜日によって買い物にかかる時間や炊事にかかる時間が異なるため家事時間に差が生じる。そのため最初は 6 時間と書いていた家事時間を 7.5 時間と長くかかる時間を記入し直した。 ◆ ながら家事が多いためまとまった時間していることではないということと、細かい家のこと全てが家事と言えるので自分で家事時間であると認識していない時間もある。

育児	◆ 妹の公文の送り迎えが週に2回ほどあるため、どういう数値で示すべきか迷った。 ◆ 育児や自由時間は日によって時間が変わるため、仕事と睡眠の時間を決めた後、残りの時間を割り当てた。
介護	◆ パートと祖父母の介護を同じ日にするということが少ないので介護の時間を食事や自由時間の時間を少し変えて24時間に合わせています。
自由時間 (内)	◆ 特に決まっておらず、やることが全て終わって寝るまでの間や休憩時間を自由時間としているようでした。 ◆ 最初は4時間にしていたけれど、母は専業主婦であり決まった時間や仕事がないので24時間に合わないで4.5時間に書き直していた。 ◆ 睡眠、職業関連、家事、育児、食事・身の回りの用事、自宅内自由時間の順で答えた。食事まではある程度正確に答えて、余りの時間を自宅内自由時間にした。
自由時間 (外)	◆ 毎日外出するわけではないので、そこは適当に埋めたと言っていた。 ◆ 自由時間は自分で意識して時間を取っていないため、よく分からなかったのだと思います。 ◆ 後になった自由時間が調節弁として扱われています。最後の方にくるものがそうなりやすいと感じます。 ◆ 時間外・時間内の自由時間に関しては、日によっても異なるため24時間から自由時間以外のものを引いた時間を記入していた。

また、それぞれの項目について「調節弁にした」と答えた人の割合は以下の通りである。

【表 18 項目別 「調節弁にした」と答えた人の割合】

	調節弁にした	調節弁にしていない	NA	合計
睡眠	10.0	65.0	24.9	100.0(209)
食事	13.4	61.7		
職業関連	6.7	68.4		
家事	13.9	61.2		
育児	2.9	72.2		
介護	1.4	73.7		
自由時間 (内)	50.7	24.4		
自由時間 (外)	38.2	36.8		

表 17 と 18 を見ると、今回の調査において育児や介護時間を調節弁としている人は少ないことがわかる。これは、回答者が大学生を持つ親の層であり、すでに育児を終えていたりまだ介護をしていない年代であるため、0 と回答した人が多かったからであろう。また、職業関連は 6.7% の人しか調節弁にしておらず、調節弁にしても、費やす時間が長いだけに削られやすいことがわかる。そのため、なぜ 24 時間質問において他の調査より「職業関連時間が長い」という結果が出たのかを明らかにすることはできなかった。

また、他の調査と顕著に違いが出た睡眠時間も、調節弁として扱っていた人は 10.0% にとどまっている。たしかに、調節弁にした人からは 8 時間から 7.5 時間に変えたなど、費やす時間が長いだけに削りやすいといった意見も聞かれたが、これも睡眠時間が短く算出された決定的な理由とは言い切れない。

食事・身の回りの用事と家事時間は、意外にも 13% 程の人が調節弁にしたと答えており、その理由としては「「ながら」ですることが多くあまり意識していないから」「日によってかける時間がバラバラだから」といったことが多く聞かれた。ただ、24 時間質問では職場での昼食が《食事・身の回りの用事》に含まれていないことを考慮すると、この 2 項目は他の調査との比較においてあまり差が出ていない。したがって、調節弁にはされているものの、正しく測定できていたといえるのかもしれない。

最も調節弁にされていた項目は自由時間である。質問文の最後にある項目であるため、上から順番に答えて余った時間をそのまま書くという人が多かった。また、日によって費やす時間が異なるため、適当に回答している

と考えられる。ただ、社会生活基本調査(総務省 2016)と比較するとある程度似通った数値が出ており、案外正しく測れている可能性がある。どのような調査方法においても、自由時間は調節弁のような役割を担うことが多いのかもしれない。

最後に、「平均的な平日の過ごし方」というワーディングについて考える。このワーディングは、日々の暮らしがルーティン化されている人にとっては、そのまま時間を書けばいいだけなのでわかりやすいかもしれない。しかし、週3日だけ働く人や、仕事の忙しさによって睡眠時間や自由時間、家事時間が変わる人は、どのように平均を算出すればいいか迷うだろう。そこで、社会生活基本調査(総務省 2016)や国民生活時間調査(NHK 2015)のように日にちを指定する聞き方とどちらがいいか調査を行ったところ、以下のような結果となった。

【表 19 平均的な過ごし方と指定した日の過ごし方 どちらがいいか】

「平均的な平日の過ごし方」がいい	54.1
「指定した日の過ごし方」がいい	32.5
どちらでもいい	3.8
NA	9.6
合計	100.0(209)

意外にも「平均的な平日の過ごし方」を選んだ人は54.1%もあり、「どちらでもいい」も含めると63.7%の人が好意的に捉えていたことがわかった。24時間質問で初めて導入したワーディングであるにもかかわらず、これだけの人が抵抗なく回答できたというのは大きな成果であるといえる。一方で「指定した日の過ごし方」がいいと答えた人からは、「日によってばらつきがあるのでその平均化が難しい」「日によって出かけたりずっと家にいたりするなど、全く生活リズムが違うため回答するのが難しい」といった意見が多く聞かれた。また、人によって平均の解釈が異なるため、どうしても回答が調査対象者の主観にゆだねられてしまうという側面はあるだろう。これを考慮すると、今回の親調査だけではどちらがいいとは決めることはできなかった。

ただし、「平均的な平日の過ごし方」を問うことで、社会生活基本調査(総務省 2016)や国民生活時間調査(NHK 2015)で尋ねていたその日の状況や天気について別途質問を設ける必要がなくなるため、回答者への負担は減るだろう。

ここまで、質問の特性という観点から調査対象者がどのように回答を決めていったのか考察したが、他の調査との比較において睡眠時間が短く、職業関連時間が長く算出されてしまった理由については明らかにすることができなかった。ただ、記入例や、数字を用いて回答することによる影響については、関学生親調査によって発見できたことが多くあった。これは大きな成果と言えるだろう。なぜ、社会生活基本調査(総務省 2016)や国民生活時間調査(NHK 2015)の結果との間に差が生じてしまったのかについては、改めて別の角度からアプローチする必要がある。

1-6 24時間質問から人々のライフスタイルを捉える

本項では、24時間質問の「クロス分析ができる」という大きな特徴を活かし、市民生活実態調査で尋ねた他の項目と数値を掛け合わせながら分析を行ってみたい。はじめに、自由時間を《(自宅や敷地内で過ごす)自由時間》と《(自宅外で過ごす)自由時間》に分けることで、インドア派やアウトドア派といったタイプ分けを行おうと試みていたが、どの程度それに成功したのかを検証する。

まず、自宅内自由時間と自宅外自由時間を単純に割り出すだけではインドア派・アウトドア派を把握することができない(自由時間の合計が10時間の人の自宅外自由時間3時間と、合計が4時間の人のそれでは意味が異なる)ため、全ての自由時間の内何割を自宅外で過ごしているか図る指数(これを活発さ指数と定義)を作った。

$$\text{活発さ指数} = \text{自宅外で過ごす自由時間} \div (\text{自宅内で過ごす自由時間} + \text{自宅外で過ごす自由時間})$$

「自宅内で過ごす自由時間+自宅外で過ごす自由時間」(以下、内+外)は、全ての自由時間の合計、つまり

時間のゆとりを表している。自宅外自由時間をこれで割ることにより、全体の自由時間に占める自宅外自由時間の割合が把握でき、数値が大きくなるほどアウトドア派、小さくなるほどインドア派と定義できるのである。この活発さ指数を市立の地域施設・図書館・スポーツ施設利用とクロス分析した結果が以下の通りである。

【表 20 活発さ指数と施設利用のクロス分析】

地域施設利用 (NA8)	度数	活発さ	自宅内自由時間	自宅外自由時間	内+外	年齢
利用したことがある	848	29.0	3:34	1:27	5:02	52.7
利用したことがない	1360	21.3	3:49	1:01	4:51	50.9
知らなかった	93	21.0	3:08	0:49	3:58	37.6
図書館利用 (NA7)						
利用したことがある	669	29.3	3:23	1:24	4:48	50.8
利用したことがない	1609	22.2	3:50	1:05	4:56	51.4
知らなかった	24	21.1	3:21	0:53	4:15	34.3
スポーツ施設利用 (NA6)						
利用したことがある	536	26.8	3:17	1:12	4:30	48.2
利用したことがない	1737	23.5	3:50	1:10	5:01	52.1
知らなかった	30	22.8	3:25	1:01	4:27	37.6
全体平均	2309	24.2	3:42	1:11	4:53	51.0

表 20 を見ると、これらの市立施設を「利用したことがない」と答えた人は、時間にゆとりはあるものの、あまり自宅外では過ごさないインドア派であることがわかる。そのため、活発さ指数も「利用したことがある」人に比べて低く出ている。ただ、この中で活発さ指数が一番低いのは、全ての施設利用において「知らなかった」と答えた人たちである。彼らは、時間のゆとりがない若い世代であるが、自宅内自由時間は「利用したことがある」と答えた人とあまり差がない。つまり、忙しい分自由時間は自宅内でゆったり過ごしたい人たちと言えるのかもしれない。

「利用したことがある」と答えた人たちは、施設によって違いが出ている。地域施設を利用したことがある人は時間にゆとりがあり、中でも自宅外で過ごす人が多いアウトドア派であることがわかる。一方図書館は、時間にゆとりがあるわけではないが、自宅外で過ごす時間が長い人が利用していることがわかる。彼らの活発指数は、全ての層の中で一番大きく、非常にアウトドア派であるといえるだろう。また、スポーツ施設を利用している人は、時間にゆとりがない中、自宅外自由時間を平均程度とっていることが見て取れる。地域施設や図書館を利用している人に比べると年齢が若く、アウトドア傾向は低いことがわかる。

次は、この「活発さ指数」と他の生活時間を並べ、性別や年代ごとにどのような傾向があるのかを見てみよう。

【表 21 男女年層別 活発さ指数と生活時間 クロス分析】

性別	年齢	度数	活発さ	内+外	睡眠	職業	食事	家事	育児	介護
男性	19 歳以下	7	11.2	5:04	7:12	9:21	2:08	0:12	0:00	0:00
	20~24 歳	40	20.7	4:59	6:18	10:36	1:45	0:18	0:01	0:00
	25~29 歳	39	11.0	3:56	6:40	10:46	1:49	0:38	0:09	0:00
	30~34 歳	63	21.5	4:02	6:40	10:08	1:37	0:39	0:48	0:03
	35~39 歳	68	15.8	3:10	6:31	11:33	1:42	0:37	0:23	0:00
	40~44 歳	104	13.3	2:53	6:28	11:34	1:49	0:43	0:30	0:00
	45~49 歳	88	16.0	3:08	6:30	11:32	1:52	0:35	0:19	0:01
	50~54 歳	88	22.1	4:13	6:25	10:18	1:55	0:46	0:11	0:08
	55~59 歳	97	18.8	4:05	6:18	10:47	1:54	0:40	0:05	0:07
	60~64 歳	93	24.5	5:23	6:43	8:46	2:12	0:47	0:00	0:05
	65~69 歳	107	20.4	7:30	7:01	5:53	2:18	1:02	0:03	0:09

	70~74 歳	82	26.2	9:37	7:39	2:22	2:47	1:27	0:01	0:04
	75~79 歳	58	27.3	9:27	8:07	2:15	2:51	1:10	0:04	0:02
	80 歳以上	7	23.5	9:21	8:08	1:42	4:00	0:47	0:00	0:00
	合計	941	21.4	5:13	6:47	8:48	2:04	0:48	0:13	0:04
女性	19 歳以下	13	33.6	5:27	6:41	8:50	2:32	0:27	0:00	0:00
	20~24 歳	66	23.6	4:10	7:02	9:10	2:34	0:49	0:11	0:00
	25~29 歳	72	18.9	3:48	6:53	8:36	2:30	1:25	0:45	0:00
	30~34 歳	91	21.0	3:06	6:46	7:31	2:17	2:28	1:49	0:00
	35~39 歳	107	19.9	2:51	6:46	6:41	2:20	2:46	2:32	0:00
	40~44 歳	133	19.4	3:00	6:38	7:04	2:39	3:02	1:29	0:05
	45~49 歳	117	21.0	3:39	6:35	6:59	2:26	3:14	0:48	0:15
	50~54 歳	136	23.7	3:52	6:23	7:12	2:28	3:17	0:20	0:25
	55~59 歳	132	25.3	4:25	6:33	6:22	2:40	3:25	0:06	0:25
	60~64 歳	91	29.9	5:51	6:40	3:49	2:44	4:01	0:10	0:41
	65~69 歳	98	32.2	6:06	6:55	2:53	3:04	3:53	0:13	0:52
	70~74 歳	102	31.7	7:18	7:08	1:44	3:14	4:11	0:09	0:12
	75~79 歳	77	30.2	8:00	7:15	0:30	3:31	4:22	0:10	0:07
	80 歳以上	12	18.1	8:57	7:34	0:49	3:17	2:45	0:10	0:25
	合計	1247	26.1	4:36	6:46	5:45	2:41	3:08	0:44	0:16
全体	合計	2188	24.0	4:52	6:46	7:04	2:25	2:08	0:31	0:11

表 21 は、数値を色付けし、比較しやすいように工夫している。活発さ指数では、灰色が平均よりアウトドア傾向、白色がインドア傾向であることを表している。生活時間については、全体平均時間より長いのは灰色、平均以下は白色で色付けしている。

活発さ指数に注目すると、男性は白色が多いのに対し女性は所々灰色が目立つ。ここから、女性のほうが男性よりアウトドア派であり、特に職業関連時間が減り始める 55 歳からその傾向が顕著に表れていることがわかる。また、時間のゆとりを表す「内+外」を見ると、男性は 35 歳～49 歳、女性は 25 歳～54 歳の世代で時間的余裕が特に無くなっていることがわかる。その要因は男女によって異なり、男性は職業関連時間の大幅な増加、女性は仕事と家庭の両立が考えられる。35 歳～49 歳の男性の職業関連時間は全て 11 時間半を上回っているが、家事や育児時間は 1 時間を切っている。一方、25 歳～54 歳の女性の職業関連時間は全体平均と大差がないものの、それに加えて家事や育児の負担が大きくなっていることがわかる。

自由時間を内と外に分けたことで、活発さ指数という変数を作り、インドア派やアウトドア派といった傾向を把握することができた。さらに、この指数を職業関連時間や家事時間などほかの生活時間と並行してみることで、アウトドア傾向と職業関連時間の因果関係や、性別によって異なる時間の使い方を分析することができた。他の調査のように自由時間を細かく分類せずとも、クロス分析を通じてここまで人々の暮らしを捉えることができるのは、24 時間質問の大きなメリットといえるだろう。

1-7 おわりに

我々は、たった 1 問で生活時間の全体像を把握でき、他の項目とのクロス分析を通じて政策形成に有効なデータを得られるような質問文の開発を目指してきた。今回、川崎・神戸・福岡市民生活実態調査にて導入した 24 時間質問文は、この過程において大きな成果を上げたと言えるだろう。この質問文を開発するにあたり、国内で実施されている 2 つの代表的な生活時間調査である「社会生活基本調査(総務省 2016)」と「国民生活時間調査(NHK 2015)」に注目し、その概要から調査方法の変遷、功績や課題まで、丹念に下調べを行った。その上で、行動分類表を独自に再編し、簡潔に生活時間を捉えられる質問文を作り上げた。

合計が 24 時間になるよう数字を記入して回答する点や、「平均的な平日の過ごし方」というワーディングを用いて生活時間をおおまかに捉えようとした点において、今までにない質問文であったといえる。それにもかかわらず、川崎・神戸・福岡市民生活実態調査にて調査に回答いただいた 2871 名中 2309 名(80.4%)が正確に回答

していたというのは高く評価できるだろう。

しかしながら、社会生活基本調査(総務省 2016)や国民生活時間調査(NHK 2015)との平均時間比較において、「睡眠時間が短い」「職業関連時間が長い」などの差が出てしまった理由については、現時点で明確にすることはできなかった。調査実施年や調査対象者の規模、年齢、居住地などに違いがあることに加え、調査形式も全く異なるため、様々な要因が関連しているといえるだろう。ここについては、今後さらに研究を進める必要がある。

したがって、一つ一つの詳細な数値について、現段階では「信ぴょう性がある」と断定することはできない。しかし、たった1問で、今回の川崎・神戸・福岡市民生活実態調査のように生活時間に特化していない調査にも組み込むことができ、他の項目と簡単にクロス分析ができるのは、24時間質問の大きな強みであるといえる。その特徴を活かしながら、将来的に自治体などの調査で実用化できるようさらに質問に磨きをかける必要がある。

2 年齢を詳細に分けての高齢者の実態把握

2-1 はじめに

現在高齢者の定義は曖昧なものとなっている。一般的に高齢者は、60歳以上、または65歳以上の者と定義されていて、結局のところ60歳以上、または65歳以上の者は1つのものとして認識されている。しかし、60歳以上、または65歳以上の者が1つのものとして認識されているのとは裏腹に、高齢者の内部の層は我々が想像するよりも複雑なものとなっている。詳細に言えば、高齢者の中には、「元気な高齢者」と「元気ではない高齢者」が存在していて、高齢者は60歳以上、または65歳以上の者と「一括り」にできないというのが現状である。このことから、実際に高齢者の内部の層がどのようなになっているのかを明らかにすることをこの章での目標とする。また定年退職についても明らかにすることを目標とする。

2-2 年齢を詳細に分けての分析

60歳以上、または65歳以上の者が一括りにされている状況とは裏腹に、高齢者の内部の層が複雑なことは前述した。実際に高齢者の内部の層がどのようなになっているのか、また定年退職を明らかにするために、年齢を詳細に分けて生活時間について見ていく。分析対象は、主に「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」における生活時間に関する質問で、生活時間質問は1日の行動を合計24時間で問う質問、テレビ視聴時間、インターネット利用時間、通勤時間、出勤・帰宅時間、1週間の働き方を問う質問の6項目である。前半は主に生活時間質問の中の働き方に関する質問を調べ、労働について見ていき、後半は主に生活時間質問の中の娯楽に関する質問を調べ、娯楽について見ていく。

2-2-1 労働

ここでは「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」における生活時間に関する質問で生活時間質問である1週間の働き方を問う質問(労働日数・労働時間)に加えて、労働の有無、職業(非正規雇用・無職)、年金の有無を調べ、労働について見ていく。なお、労働時間、本人収入、年金の有無の算出方法は、注に記載している。

以下の表は年齢5階層別の働き方を示している。

【表1 労働(年齢5階層別)】

	労働の有無	労働日数	労働時間	本人収入	職業		年金有無
	働いた	平均日数(日)	平均労働時間(時間)	平均本人収入(万円)	非正規雇用	無職	年金あり
18~24 歳	77.6	3.4	26	93	5.4	3.4	0.9
25~29 歳	86.4	4.3	37	271	11.4	8.3	1.0
30~34 歳	86.2	4.2	36	352	18.7	9.3	0.6
35~39 歳	83.0	4.0	33	350	19.4	11.9	0.0
40~44 歳	84.7	4.3	35	387	19.0	14.3	0.0
45~49 歳	88.0	4.4	35	402	24.0	12.0	0.4
50~54 歳	85.5	4.2	33	420	28.2	14.5	1.7
55~59 歳	83.7	4.1	32	383	25.7	16.4	0.8
60~64 歳	70.3	3.2	24	295	21.0	31.9	28.6
65~69 歳	54.0	2.4	16	254	24.4	46.9	79.7
70~74 歳	32.9	1.4	8	232	13.0	69.2	83.8
75~80 歳	19.0	0.9	5	196	4.6	82.7	83.3
全体	70.9(1945)	3.4(2742)	27(2632)	310(2115)	19.0(529)	27.9(776)	22.6(537)

NA 労働の有無 132、労働日数 132、労働時間 171、本人収入 94、職業 98、年金の有無 94

(注 1) 本人収入の算出方法：世帯年収×Q48.あなたの勤労所得×0.1+ 世帯年収×Q48.あなたの年金所得×0.1

(注 2) ここでの「非正規雇用」とはパート範囲内とパート範囲外を足したもの

(注 3)ここでの「無職」とは無職と専業主婦・専業主夫を足したもの

(注 4)本人年金の有無の算出方法:本人年金(※世帯年収×Q48.あなたの年金所得×0.1)を SPSS 上の「ほかの変数への値の再割り当て」で 0.1 以上を「年金あり」、0.1 未満を「年金なし」に分類

※世帯年収の算出方法：Q49.の世帯収入を問う質問の各分類の中央値を計算(例：「収入はなかった」範囲は 0。中央値は 0。「100 万円未満」範囲は 0~99。中央値は 50。)、算出された値を SPSS 上の「ほかの変数への値の再割り当て」で質問の各分類にそれぞれ当てはめる。

- ・働いた、平均労働日数、平均労働時間、無職は 60~64 歳から 75~80 歳、非正規雇用は 65~69 歳から 75~80 歳、年金ありは 60~64 歳から 70~74 歳までに階層別でそれぞれ大きな差がある。
- ・働いた、平均労働日数、平均労働時間、平均本人収入、無職、年金ありで 55~59 歳と 60~64 歳で大きな差がある。これは 60~64 歳で主に定年退職が行われていると考える。
- ・平均本人収入は 50~54 歳が最も多い。これは企業による役職定年の影響だと考える。

以下の表は、50 歳から 75 歳に焦点を当てて年齢をさらに年齢 1 階層別に分けて作成した。

【表 2 労働(年齢 1 階層別)】

	労働の有無	労働日数	労働時間	本人収入	職業		年金の有無
	働いた	平均日数(日)	平均労働時間(時間)	平均本人収入(万円)	非正規雇用	無職	年金あり
50 歳	80.3	4.0	30	357	27.3	18.2	3.7
51 歳	90.0	4.5	38	394	35.9	10.3	2.8
52 歳	95.1	4.7	36	426	47.6	4.8	0.0
53 歳	79.7	3.8	31	431	16.9	22.0	1.9
54 歳	87.5	4.4	34	482	21.4	12.5	0.0
55 歳	80.7	4.2	31	420	20.7	20.7	0.0
56 歳	85.2	4.0	31	337	33.9	14.3	0.0
57 歳	83.7	4.2	34	384	18.0	16.0	2.1
58 歳	88.0	4.4	33	351	35.3	11.8	0.0

59歳	81.1	4.0	31	416	20.8	18.9	2.1
60歳	63.2	2.9	20	267	12.5	40.0	5.3
61歳	73.0	3.2	26	304	24.3	24.3	9.4
62歳	74.5	3.3	27	294	13.0	33.3	26.8
63歳	69.1	3.2	24	273	20.4	33.3	52.2
64歳	70.6	3.4	21	339	34.0	28.3	40.5
65歳	67.9	3.2	22	270	25.5	36.4	72.1
66歳	62.5	2.8	19	311	32.5	32.5	68.8
67歳	52.9	2.3	15	287	30.0	44.0	82.1
68歳	47.1	2.0	12	221	20.4	55.6	84.1
69歳	42.1	1.9	12	204	16.9	61.0	88.6
70歳	38.4	1.6	10	270	18.7	62.7	78.9
71歳	32.7	1.3	7	220	12.7	70.9	89.1
72歳	30.4	1.4	8	231	13.7	66.7	79.4
73歳	19.4	0.7	4	174	6.1	84.8	86.7
74歳	36.8	1.5	10	238	7.7	69.2	87.5

・働いた、平均労働日数、平均労働時間、平均本人収入、無職は59歳と60歳で大きな差がある。これは主に60歳で定年退職が行われていると考える。一方で、年金ありは62歳から急増し、働いた、平均労働日数、平均労働時間、平均本人収入、無職と少しずれる結果となった。

2-2-2 娯楽

ここでは「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」における生活時間に関する質問で生活時間質問である娯楽について問う質問(テレビ視聴・インターネット利用)に加えて旅行を調べ娯楽について見ていく。ただし本調査は2019年に行われ、新型コロナウイルスの流行以前に行われたものとなっているため、特に旅行に関しては現在(2020年2月)と異なる結果の可能性がある。

【表3 娯楽(年齢5階層別)】

	テレビ視聴		インターネット利用		旅行			
	テレビ 視聴 有無	テレビ 視聴 時間	インター ネット 利用有無	インター ネット 利用時間	国内 旅行 有無	国内旅行 回数	海外旅行 有無	海外旅行 回数
	みて いる	平均 視聴 時間 (分)	利用 して いる	平均 利用 時間 (分)	行った	平均 旅行回数 (回)	行った	平均 旅行回数 (回)
18~24歳	76.4	81	99.3	182	82.6	2.2	27.5	1.7
25~29歳	86.4	95	99.2	152	76.5	2.3	38.9	1.6
30~34歳	80.4	97	98.3	125	72.4	1.7	22.0	1.8
35~39歳	88.5	96	99.0	103	75.1	1.8	14.4	1.9
40~44歳	90.3	105	97.1	89	70.4	1.7	12.6	1.9
45~49歳	92.7	118	95.5	83	63.6	1.5	16.0	1.8
50~54歳	93.8	138	95.0	83	60.3	1.3	14.7	1.9
55~59歳	96.2	143	91.6	73	58.9	1.4	14.3	1.9
60~64歳	99.1	198	77.4	63	60.2	1.5	14.8	1.9
65~69歳	97.5	225	65.7	53	54.9	1.3	14.2	1.9
70~74歳	98.8	250	51.0	41	54.2	1.4	9.2	1.9

75～80 歳	97.3	260	39.0	39	51.8	1.3	7.1	1.9
全体	92.4 (2405)	155 (2772)	83.6 (2176)	85 (2772)	63.8 (1683)	1.5 (2781)	15.9 (419)	1.8 (2829)

NA テレビ視聴時間有無 95、テレビ視聴時間 91、インターネット利用有無 99、インターネット利用時間 102、国内旅行有無 53、国内旅行回数 95、海外旅行有無 47、海外旅行回数 48

(注 1)テレビ視聴時間の算出方法：テレビ視聴時間(時)×60+テレビ視聴時間(分)=テレビ視聴時間の分換算

(注 2)インターネット利用時間の算出方法：インターネット利用時間(時)×60+インターネット利用時間(分)=インターネット利用時間の分換算

・テレビの平均視聴時間、インターネットを利用している、インターネットの平均利用時間は60～64歳から75～80歳、海外旅行に行った人は65～69歳から75～80歳までに階層別でそれぞれ差がある。

2-3 結論

この章では高齢者の内部の層がどのようになっているのかを明らかにすること、また定年退職について明らかにするために、主に「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」における生活時間に関する質問を見てきた。定年退職を明らかにするにあたっては、定年退職の可否を問うている質問があった訳ではないため、はっきりと定年退職を示すことは難しいだろう。年齢を詳細に分析することで明らかになった高齢者の労働、娯楽については、さらに検討は必要なものの、今後の調査に活かすことができるのではないだろうか。

3 インターネットの質問文の作成の経緯とインターネットの利用の分析

3-1 インターネットの利用に関する質問文の作成の経緯

【表 1 自由時間のインターネットの利用の質問文 1】

	頻繁に利用する	たまに利用する	あまり利用しない	全く利用しない
ソーシャルメディア (Instagram, Twitter, Facebook, Mixi など)	4	3	2	1
無料通話アプリ (LINE, カカオトーク, WeChat, Whatsapp, Skype など)	4	3	2	1
エンターテインメントと自己啓発 (Youtube, アマゾンプライムビデオ, Netflix といった動画サイト /Yahoo news といったニュースサイトなど)	4	3	2	1
ネットショッピング (日用品, 食品, 衣類, サービス, チケットの購入など)	4	3	2	1

自由時間のインターネットの利用を問うことで「仕事でもプライベートでも息抜きをする人」「ネットを使って家族とコミュニケーションを取る老後世代」といった人の特徴を把握できると仮説を建てた。

質問文作成に至り、ニュースは年齢を重ねるにつれて利用する結果になると考え、エンターテインメントと自己啓発の項目からニュースサイトを外し、社会人や年齢が高い層もオンラインゲームをしている人が多いと考え

オンラインゲームの利用を加える改善案を作成した。

表1の質問文の作成の次にインターネットの利用目的を考慮した質問文の作成を行った。総務省はインターネットの定義を動画系、テキスト系、コミュニケーション系の3つの分類をした。この分類でインターネットの利用目的を正確に把握できていないと考え、インターネットの利用目的をコミュニケーション、情報収集・学習、発信・自己表現、娯楽、売買の5つの項目に分けインターネットの利用に関する質問文の作成を試みた。

【表2 SNSの利用と動画視聴の質問文】

	頻繁に利用する	たまに利用する	あまり利用しない	全く利用しない
SNS(Instagram, twitter, Facebook など)での発信・自己表現	4	3	2	1
定額動画配信サービス(Hulu, Netflix など)の閲覧	4	3	2	1

インターネットの利用を発信・自己表現、娯楽と2つの観点から質問文の作成を行った。SNSの利用を発信・自己表現、定額動画配信サービスの閲覧を娯楽と考え質問文の作成を試みたが、回答者への負担や情報機器の急速に変化することを考慮しSNSの利用頻度を問う質問項目に至った。

【図1 市民生活実態調査 Q42】

- Q42 あなたは普段、インターネットのSNS(Instagram, Twitter, Facebookなど)をどのように利用していますか。最もあてはまるものを1つだけ選んでお答えください。【1つだけ〇】
1. 頻繁に発信したり投稿を見たりしている 3. たまに投稿を見ている程度
2. たまに発信するが投稿を見ることが多い 4. これらのSNSを利用したことがない

3-2 インターネットの利用に関する質問文の検証

【表3 インターネットの利用と年齢】

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
利用あり	99.3	98.7	96.4	93.3	71.4	45.5	83.4
利用無し	0.7	1.3	3.6	6.7	28.6	54.5	16.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

インターネットの利用は20代～50代までが90(単位:%)以上と回答率が高く。70代以上は45.5(単位:%)と年齢が高くなるにつれて回答率が低くなること傾向が見られる。

【表4 SNSの利用と年齢】

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
利用あり	93.9	83.8	71.2	57.5	41.8	18.7	59.1
利用無し	6.1	16.2	28.8	42.5	58.2	81.3	40.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

【表5 SNSの利用と男性、女性】

	SNS を利用している	SNS を利用していない	合計
男性	56.8	43.2	100.0
女性	60.0	40.0	100.0
合計	58.6	41.4	100.0

SNSの利用は年齢が高くなるにつれてSNSの利用する回答率が減少していく傾向が見られる。SNSの利用は20代の利用が93.9(単位:%)と最も高い回答率で、30代～50代が50(単位:%)以上と中年層がSNSを利用していることが把握できる。

【表6 ネットショッピングと男性】

食料品	健康食品	衣料品	家電	化粧品
35.7	23.7	34.7	47.7	13.1
書籍	保険	旅行	チケット	その他
40.8	14.0	37.2	30.7	11.0

【表 7 ネットショッピングと女性】

食料品	健康食品	衣料品	家電	化粧品
42.0	34.6	53.0	44.1	47.7
書籍	保険	旅行	チケット	その他
44.3	10.4	37.2	42.9	9.8

ネットショッピングは女性は化粧品が 47.7(単位:%)と高い回答率が把握できる。男女共に家電、衣料品、書籍、チケット、食料品は共通して高い割合であることが把握できる。

3-3 最後に

インターネットの利用や SNS の利用は年齢が若い層が利用している傾向が高く、SNS の利用は性別では大きな違いは見られなかったが、ネットショッピングの利用は女性は化粧品が高く利用の違いが見られた。

インターネットの利用の質問文について検証を行った。質問文作成に至り、インターネットの利用目的や情報機器やインターネットサービスは急速に変化していくなど様々な観点を考慮し質問文を作成した。

質問文から陽気な人や内気な人などの属性分けができるか分析を行っていたが、正確な属性分けを行うことは現状では困難だった。インターネットの利用に関する質問文はインターネットの利用は変化が速いため時代に合う質問文と質問文の回答から人の属性分けを行うことができるなど、今後も改良の余地がある項目だと考えられる。

4 休日の過ごし方からみる余暇の実態把握

川崎・神戸・福岡市民生活実態調査では、Q38.の質問文で「最も好きな休日の過ごし方」を問うている。この質問文は、市民を体育会系や文化系等、タイプ別に分類することが可能なのかを目的・趣旨として設けた。本章では、市民の余暇時間の実態把握を試み、質問文から得られた結果と関学生親調査の結果を検証しながら、質問文と選択肢のワーディングの適性と可能性について論じる。

4-1 最も好きな休日の過ごし方に関する質問文

Q 38 次の休日の過ごし方のうち、あなたが最も好きな休日の過ごし方はどれですか。あてはまるものを **1つだけ** 選んでお答えください。【**1つだけ〇**】

1. スポーツ、スポーツ観戦、アウトドアなど	6. 自宅でゆっくりしたい (庭いじり、日曜大工、料理・掃除なども含む)
2. 音楽活動、ライブ・コンサート鑑賞など	7. その他 (具体的に記入)
3. 美術館・博物館訪問、観劇、映画鑑賞など	
4. 外食、ショッピングなど	
5. パチンコ、競馬、競輪、競艇など	

【問題点】

- ・「最も好きな」の定義づけが曖昧なことにより回答者の混乱を招く可能性がある。
- ・自宅内での過ごし方が選択肢 6「自宅でゆっくりしたい」にまとめられている。
- ・外食とショッピングが 1つの選択肢として設けられている。
- ・選択肢 1 のアウトドアの定義づけが曖昧である。

【単純集計から分かること】

- ・選択肢 6「自宅でゆっくりしたい」が約 4 割を占めている。
- ・外出 55.1%、在宅 39.2%のため、全体的に外出している割合が高い。

- ・男女での差異が見られるのは、選択肢1「スポーツ・スポーツ観戦・アウトドア」と選択肢4「外食・ショッピング」である。

4-1-2 選択肢から見る市民の属性的特徴

【表1】属性的特徴

選択肢1の属性的特徴	選択肢2の属性的特徴
・福岡市に住む40代男性が多い。 ・スポーツ施設を利用している人が多い。 ・サークル活動に参加している活動的な人が多い。	・川崎市に住む40代女性が多い。 ・インターネットの利用率が高い。
選択肢3の属性的特徴	選択肢4の属性的特徴
・神戸市に住む50代女性が多い。 ・大きな特徴は見られなかった。	・福岡市に住む40代女性が多い。 ・農林漁業と公務員、専業主婦の金銭的・時間的余裕のある方が多い。 ・単身世帯よりも夫婦世帯、夫婦と子供からなる世帯の方が多。
選択肢5の属性的特徴	選択肢6の属性的特徴
・神戸市に住む60代男性が多い。 ・他の選択肢と比較すると、働いていると回答した人の割合が高く、労働日数・労働時間が長い傾向にある。	・神戸市に住む60代女性が多い。 ・生活課題や問題を抱えている人が多い。

4-1-3 その他の内訳から見る選択肢の改善点

【表2】選択肢7「その他」の内訳

散歩	バイト	カラオケ	孫と遊ぶ	家で過ごす	バイクツーリング	居酒屋通い
撮影	ドライブ	ゴルフ	犬の散歩	ゲーム・DVD	日帰り温泉	家族と過ごす
銭湯	プール	毎日休日	日帰り温泉	別の仕事	サークル活動	子供と遊ぶ
囲碁	小旅行	孫と外出	温泉、旅行	鉄道旅行	会社の慰安旅行	フントラクト
旅行	ツーリング	図書館	友人と食事	神輿	ゲーム、パソコン	ブリッジ
瞑想	犬と過ごす	魚釣り	子供と遊ぶ	プログラミング	資格を取るための学校	サスペンスド
温泉	友人と合う	日曜大工	将棋	ビデオ	サービス残業	ラマを見る
趣味	麻雀	猫カフェ	読書	ウォーキング	公園や温泉	祖父母、母、
テレビを見て過ごす			PCでの作業	主人とカラオケ	ホームパーティー	妹と銭湯に行く
スカイパークに行く			教会活動	休養・音楽鑑賞	少年野球のコーチ	息子、娘の所へ遊びに行く
散歩・ハイキングなど			ドライブ・カラオケ		ドライブがてらの温泉	
家事をせず寝たい			子供と公園に行く		テーマパークへ行く	
ドライブ、山、釣り			ゲーム、ライブ配信		お酒、携帯ゲーム寝る	ご朱印周り
スーパー銭湯、サウナ			パソコンでネットサーフィン		ボランティアでの農業	
ボランティア活動に行く			子供のスポーツ観戦と応援		日曜日教会の礼拝行事出席	子どもたちの世話、平日できない家事
近場で3泊未満の旅行にでる			友人と子供連れ同士で遊ぶ		散歩、買い物、マッサージ	
カラオケ、民謡、家庭菜園			日帰りで温泉で過ごす		子どもたちの世話、平日できない家事	子供と子供の友人家族と遊びに行く
散歩がてらのショッピング			旅行、DVD（BD）の洋画鑑賞		子供と子供の友人家族と遊びに行く	
本屋・外食・車で遠出			車で犬とドライブ、公園で散歩		小旅行や温泉巡り等のリラクゼーション	家事をしているので遊んでいない
家でゴロゴロ			時々友人とあつて話す		家事をしているので遊んでいない	
子どもと公園に行ったり、子どもの好きなところへ出かける						手芸や押し花、作品作り、材料集め
子どもや孫全員が集まり、私の手料理と一緒に食事をする						趣味で習っている油絵、デッサンをする

趣味（俳句、二胡演奏（洋裁））の時間に使いたい	高齢者なので自宅でじっとしていたい
買い物、子どもの好きなところへ行く（公園、動物園）	家事はこなしつつ、テレビや好きなゲームをしてゆっくりしたい
毎朝参加者 50～60 名の NHK のラジオ体操に参加し、体力の維持と体操の仲間とコーヒータイトムや飲食を楽しんでいる	

【特徴・考察】

- ・旅行、ドライブ、子供・孫と遊ぶ、散歩、囲碁、将棋、麻雀、ペットに関する回答が複数あった。
- ・回答の中には、その他以外の選択肢に含まれるものが存在し、選択肢のワーディングおよび回答者各人により基準が曖昧であることが関係していると考えられる。

【選択肢 1「スポーツ・スポーツ観戦・アウトドア」に該当するもの】

散歩、旅行、ウォーキング、釣り、山登り、バイクツーリング、日帰り温泉、銭湯、ゴルフ、ハイキング

【選択肢 6「自宅でゆっくりしたい」に該当するもの】

ゲーム、家でごろごろ、家でじっとしているのが良い、テレビ、洋画鑑賞、日曜大工、家事はこなしつつテレビを見て過ごす、家庭菜園、家事をせず寝ていたい

4-1-4 結論

以上のことから、それぞれの選択肢の属性的特徴を明らかにすることは可能だが、当初の目的であった市民のタイプ分けは困難であった。その要因として、自宅内での過ごし方が 1 つのみであること、外食とショッピングが同じ選択肢として設けられていることなどが挙げられる。その他の内訳で多数の回答がみられたものは新たに選択肢として加え、質問文のワーディングと共に、再度検討し直す必要がある。

4-2 好きな休日の過ごし方と実際の休日の過ごし方の一致とズレ

関学生親の聞き取り調査では、「最も好きな休日の過ごし方」と「実際に最もよく行っている休日の過ごし方」の 2 つの質問文を設け、回答結果にどの程度の差異があるのかを明らかにした【表 3】。「最も好きな休日の過ごし方」と「実際に行っている休日の過ごし方」の質問に対する回答が一致している場合は割合の前に●、「最も好きな休日の過ごし方」と「実際に行っている休日の過ごし方」に対する回答が違えば割合の前に★をつけて、一致とズレを示している。

*表の見方

「最も好きな休日の過ごし方」と「実際に行っている休日の過ごし方」の両方の回答が選択肢 1 の場合は、●の 75.0%いる。「最も好きな休日の過ごし方」は選択肢 1 だが「実際に行っている休日の過ごし方」が選択肢 3 の人は★の 2.5%いる。

【表 3】一致とズレ

実際 好き	スポーツ・ スポーツ 観戦・アウト ドア	音楽活動・ ライブ・コ ンサート 鑑賞	美術館・ 博物館訪 問・観劇・ 映画鑑賞	外食・ ショッ ピング	パチンコ・ 競馬・ 競輪・競艇	自宅で ゆっくり	その他	合計
スポーツ・スポーツ 観戦・アウトドア	●75.0	0.0	★2.5	★15.0	0.0	★7.5	0.0	100.0 (40)
音楽活動・ライブ・ コンサート鑑賞	★11.1	●22.2	0.0	★22.2	0.0	★33.3	★11.1	100.0 (9)
美術館・博物館訪問 ・観劇・映画鑑賞	★9.1	0.0	●45.5	★27.3	0.0	★9.1	★9.1	100.0 (11)
外食・ショッピング	★1.9	0.0	★1.9	●40.7	★1.9	★50.0	★3.7	100.0 (54)
パチンコ・競馬・ 競輪・競艇	0.0	0.0	0.0	0.0	●100.0	0.0	0.0	100.0 (1)

自宅でゆっくり	★1.5	0.0	0.0	★13.6	0.0	●77.3	★7.6	100.0 (66)
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	★57.1	●42.9	100.0 (7)
合計	18.1	1.1	3.7	22.3	1.1	47.3	6.4	100.0 (188)

【特徴】

- ・回答が一致している選択肢 1「スポーツ・スポーツ観戦・アウトドア」と選択肢 5「パチンコ・競馬・競輪・競艇」、選択肢 6「自宅でゆっくりしたい」の 3つは半数以上を占めている。
- ・ズレが大きい項目は、選択肢 4「外食・ショッピング」と選択肢 6「自宅でゆっくりしたい」であった。
- ・「最も好きな休日の過ごし方」に反して、「実際に行っている休日の過ごし方」は、選択肢 4「外食・ショッピング」と選択肢 6「自宅でゆっくり」に流れていく傾向がある。
- ・「最も好きな休日の過ごし方」と「実際に行っている休日の過ごし方」共に、選択肢「パチンコ・競馬・競輪・競艇」を選択した人は少ない。

4-2-1 聞き取り調査結果

聞き取り調査では、①その選択肢を選択した経緯と回答に悩んだ理由②最も好きな休日の過ごし方と実際の過ごし方が異なる可能性についてどう思うのか③質問文および選択肢に対する率直な感想と、良い質問文するための改善点についての 3つの聞き取りを行った。

① 経緯と回答に悩んだ理由	・普段平日はとても忙しくあまりゆっくりする時間が確保できないため、好きな休日の過ごし方は自宅でゆっくりしたいであった。 ・好きな休日の過ごし方はスポーツをすることだが、外食やショッピングも好きなため回答に悩んだ。 ・家族と出かけることがアウトドアに該当するのか、外食・ショッピングに該当するのか分からない。 ・外食・ショッピングが最も好きなので回答には悩まなかった。 ・学生の頃からミュージカルや舞台が好きなので 2 を選択した。 ・好きな休日の過ごし方が実現されるものではなかった為、そのまま答えて良いのか分からなかった。 ・その日の気分や体調、天候によってすることが違い、多趣味なので回答に困った。 ・ゆっくりしたいとただらしたいを同じものとして捉えて良いのか分からない。 ・家事のことが気になってショッピングに行けないこともあるが、リフレッシュするには外に出ることが必要なので少し回答に悩んだ。 ・平日は朝早くから家事や仕事を行っているため、休日は家でゆっくりしたい。
② 異なる可能性について	・休日でもやることは多くあまり時間が取れないため実際の過ごし方と好きな過ごし方にはギャップがあると感じた。 ・普段仕事が忙しいので家でゆっくりする時間が好きであるため。 ・あくまで、好きな過ごし方であるので、実際とは異なるのではと思った。 ・二つの質問では回答内容が変わってしまうと感じました。 ・実際「好きな」過ごし方を送れている時間はあまりなく、平日忙しくて手が回らない家の掃除や買い物をする人が多いので、大きなギャップがある。 ・好きな過ごし方と実際に可能かどうかにはかなりギャップがあると感じた。 ・「好きな」休日と「実際の」休日では、理想と現実という意味でも違いが出てしまうと思う。 ・「好きな」となってしまうと普段の過ごし方との違いの差が大きいと思った。 ・好きと実際に行っているとでは自分は同じだったので問題ないと思う。 ・ライブやミュージカルはチケットを取るのが困難だったり、金銭的な問題もあり、好きだからといっていつでも見に行けるわけではありません。その点で、「好きな休日の過ごし方」と「実際の過ごし方」にギャップがあります。

③感想と改善点	・好きなと問われているため、理想と現実とのギャップがあった。 ・一つに絞るのが難しいから単一回答より複数回答にした方が良い。 ・休日には外食することが前提になっていて、家での過ごし方の選択肢が少ない。 ・質問に週末休みと長期休みを分けて聞いてくれれば答えやすいと感じた。 ・好きなと実際に行っている休日の過ごし方は時期によって変わってくると思う。 ・好きな休日の過ごし方と実際の過ごし方と2つに分けた事で回答しやすい。 ・休日の充実度を知るために頻度について聞くのはどうか。 ・平日にできないことをするなどの項目を盛り込むと良いと思う。 ・質問文に関しては、理想と現実とのギャップを問うていることが明確に分かる質問文だった。 ・体育会系、文化系に分けられている感じがしない。 ・「自宅でゆっくりしたい」に含まれる範囲の行動が大きすぎるので少々困った。 ・掃除とか料理を含むのは「ゆっくりする」ことではないので、「自宅でゆっくりする」の欄と分けたほうが良いと思う。
---------	--

4-2-2 結論

関学生親調査の結果から、最も好きな休日の過ごし方のみを問うてしまうと、実際に行っている休日の過ごし方と差異が生じることが明らかになった。また、質問文のワーディングや選択肢の定義付けが曖昧なことにより、回答者の混乱を招いた可能性がある。聞き取り調査結果の回答も踏まえ、開発段階であるこの質問文は、質問文のワーディング・選択肢共に、再度検討し直す必要がある。

参考文献

- Eurostat, 2019, 「Harmonised European Time Use Surveys (HETUS) 2018 Guidelines」 (<https://ec.europa.eu/eurostat/documents/3859598/9710775/KS-GQ-19-003-EN-N.pdf/ee48c0bd-7287-411a-86b6-fb0f6d5068cc?t=1554468617000>, 2020 年 12 月 29 日アクセス)。
- U.S.BUREAU OF LABOR STATISTICS, 2020, 「American Time Use Survey Questionnaire 2011-19」 (<https://www.bls.gov/tus/tuquestionnaire.pdf>, 2020 年 12 月 29 日アクセス)。
- NHK 放送文化研究所, 2006, 「2005 年国民生活時間調査報告書」 (<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/yoron/lifetime/pdf/060202.pdf>, 2020 年 12 月 30 日アクセス)。
- NHK 放送文化研究所 (世論調査部), 2011, 「2010 年国民生活時間調査報告書」 (<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/yoron/lifetime/pdf/110223.pdf>, 2020 年 12 月 30 日アクセス)。
- NHK 放送文化研究所 (世論調査部) 2016, 「2015 年国民生活時間調査報告書」 (https://www.nhk.or.jp/bunken/research/yoron/pdf/20160217_1.pdf, 2020 年 12 月 17 日アクセス)。
- NHK 放送文化研究所 (世論調査部), 2020, 「国民生活時間調査」 (<https://www.nhk.or.jp/bunken/yoron-ijikan/>, 2020 年 12 月 17 日アクセス)。
- 川崎市, 2020, 「川崎市の世帯数・人口、区別人口動態、区別市外移動人口 (令和 2 年 3 月 1 日現在)」 (<https://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000115739.html>, 2021 年 1 月 4 日アクセス)。
- 神戸市, 2020, 「神戸市の推計人口 (令和 2 年 3 月 1 日現在)」 (<https://www.city.kobe.lg.jp/a89138/shise/toke/toukei/press/489991713433.html>, 2021 年 1 月 4 日アクセス)。
- 総務省統計局, 2020, 「平成 28 年社会生活基本調査」 (<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/index.html>, 2020 年 12 月 22 日アクセス)。
- 総務省統計局 2016, 「平成 28 年社会生活基本調査 調査票 A」 (<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/qua.pdf>, 2020 年 12 月 21 日アクセス)。
- 総務省統計局 2016, 「平成 28 年社会生活基本調査 調査票 B」 (<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/qub.pdf>, 2020 年 12 月 21 日アクセス)。
- 総務省統計局 2016, 「平成 28 年社会生活基本調査 調査票を記入する前に (調査票 A 用)」 (<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/kinyua.pdf>, 2020 年 12 月 22 日アクセス)。
- 総務省統計局 2016, 「平成 28 年社会生活基本調査 調査票を記入する前に (調査票 B 用)」 (<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/kinyub.pdf>, 2020 年 12 月 22 日アクセス)。
- 総務省統計局, 2017, 「平成 28 年社会生活基本調査—生活行動に関する結果— 結果の概要」 (<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/gaiyou.pdf>, 2020 年 12 月 22 日アクセス)。
- 総務省統計局, 2017, 「平成 28 年社会生活基本調査—生活時間に関する結果— 結果の概要」 (<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/gaiyou2.pdf>, 2020 年 12 月 22 日アクセス)。

- ◆ 総務省統計局, 2017, 「平成 28 年社会生活基本調査—詳細行動分類による生活時間に関する結果— 結果の概要」 (<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/gaiyou2.pdf>, 2020 年 12 月 22 日アクセス) .
- ◆ 総務省統計局, 2020, 「社会生活基本調査に関する Q&A (回答)」 (<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/qa-1.html>, 2020 年 12 月 22 日アクセス) .
- ◆ 総務省統計局 2016, 「社会生活基本調査の変遷」 (<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/hensen.pdf>, 2020 年 12 月 23 日にアクセス) .
- ◆ 福岡市, 2020, 「福岡市推計人口 (令和 2 年 3 月 1 日現在)」 (<https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/13385/1/20200301suikei.pdf?20201208113256>, 2021 年 1 月 4 日アクセス) .
- ◆ 三矢恵子・吉田理恵, 1997, 「生活時間の時系列変化—1970 年～1995 年の国民生活時間調査の時系列分析—」『NHK 放送文化研究所年報』第 42 集: 155-188.
- ◆ 三矢恵子・中野佐知子, 2001, 「2000 年国民生活時間調査の結果より～テレビ視聴時間は過去最高、就職者の仕事時間は増加～」『NHK 文研世論調査ファイル』: 1-2.
- ◆ 三矢恵子 2015, 「NHK 国民生活時間調査について—社会の変化と時系列調査の維持—」『社会と調査』14:70-77.
- ◆ 総務省, 平成 29 年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書 (https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01icp01_02000073.html).

第 3 章 家計状況を把握する質問の開発と結果の検証

1 家計構造を問う質問文の意義と作成の経緯

現在、政府は家計構造の把握のために家計調査を実施している。しかし、この家計調査にはいくつかの問題点があることが明らかになっている。調査における回答者の負担が大きい点やクロス集計ができない点である。家計調査の集計データは、政府の統計窓口である「e-Stat」で公開されているが、データは質問項目別の集計データであり、質問項目を組み合わせることは難しい。これは政府統計の大きな問題点であり、政府統計の使いにくさの一因となっている。

そこで大谷ゼミは、これらの問題点を解消するために家計構造を問う質問文をゼミオリジナルで作成し、2017 年に実施した県民生活実態調査で使用した。図 1 は実際に使用した質問文である。その後、いくつかの修正を行い、2019 年に実施した市民生活実態調査では図 2 の質問文を使用した。

【図 1 県民生活実態調査 家計構造 質問文】

- 図 現在のあなたの世帯の家計（収入）はどのように構成されていますか。家計全体を 10 とし、それぞれの割合を整数でお答えください。すべて足し合わせて 10 になるようにご記入ください。
- (例) あなたの勤労所得 6 割、配偶者の年金所得 2 割、子どもからの援助 2 割の場合

	(例)	あなたの世帯
1. あなたの勤労所得	6	()
2. 配偶者の勤労所得	0	()
3. その他家族の勤労所得	0	()
4. あなたの年金所得	0	()
5. 配偶者の年金所得	2	()
6. あなた及び配偶者の両親からの援助	0	()
7. 子どもからの援助	2	()
8. 財産所得（不動産収入や投資など）、保険など	0	()
9. 行政からの支援（生活保護など）	0	()
10. その他	0	()

11. 答えたくない

【図 2 市民生活実態調査 家計構造 質問文】

- Q48 現在のあなたの世帯の家計（生計）の収入はどのように構成されていますか。家計を共にしているかたの合計でお考えください。収入全体を 10 とし、すべて足し合わせて 10 になるようにご記入ください。

(例) あなたの勤労所得 6 割、配偶者の年金所得 2 割、子どもの勤労所得 2 割の場合

	(例)	あなたの世帯
1. あなたの勤労所得	6	()
2. 配偶者の勤労所得	0	()
3. その他家族（親、子ども、その他）の勤労所得	2	()
4. あなたの年金所得	0	()
5. 配偶者の年金所得	2	()
6. その他家族（親、子ども、その他）の年金所得	0	()
7. 財産所得（不動産収入や投資など）、保険など	0	()
8. 行政からの支援（生活保護など）	0	()
9. その他（子や親からの援助など）	0	()
10. 答えたくない		

家計構造を問う質問文は、世帯の家計全体を 10 割として、収入別に割合を整数で記入するものである。県民生活実態調査で実験的に実施したこの質問文は、家計構造を分かりやすく把握できる点や回答者の負担が少ない点、クロス集計が可能な点などで有用性が示される結果となった。さらに分析を行う際のメリットとしては、主に 3 点が挙げられる。1 点目は共働き夫婦世帯の家計構造を細かく分析できる点、2 点目は収入が勤労所得だけでなく多様であることが把握できる点、3 点目は年金生活者の実態がより明確に把握できる点である。

しかし同時に問題点も見つかった。それを解消するための修正点は 2 点である。1 点目は「その他家族の年金所得」を加えた点である。これによって、より幅広い年金受給パターンを見出すことができた。2 点目は「両親からの援助」と「子からの援助」を 1 つにまとめ、「その他(子、親からの援助)」という項目に修正した点である。

2 県民生活実態調査及び市民生活実態調査における回答状況の分析

県民生活実態調査では計 2436 人、市民生活実態調査では計 2871 人から調査票の返却があった。その中で 1～9 の項目に回答している人を「回答あり」、いずれの項目にも回答がなかった人を「NA」として分類した。その結果が表 1 である。

【表 1 家計構造を問う質問への回答率を示した表(単位:%)】

回答率	回答あり	NA	計
市民調査	84.8	15.2	100.0(2871)
県民調査	81.6	18.4	100.0(2436)

表 1 より Q48 世帯の家計構造を問う質問に対して、市民生活実態調査では全 2871 人のうち 2434 人(84.8%)、県民生活実態調査では全 2436 人のうち 1987 人(81.6%)が回答している結果となった。一方で、この質問に回答していない人は市民生活実態調査では 437 人(15.2%)、県民生活実態調査では 449 人(18.4%)であった。あまり公にしたいくないという心理が働くことが予想される家計構造を問う質問で、回答率が 8 割を超えたことは大きな収穫であった。

2-1 県民生活実態調査及び市民生活実態調査における正答率の分析

1～9 の項目に回答している人の中で、回答した収入別の割合の合計が 10 になる人を「合計して 10 になるように正確に答えている」、回答した収入別の割合の合計が 10 にならない人を「答えてはいるが合計して 10 以外

になる」として分類した。その結果が表 2 である。

【表 2 Q48 家計構造を問う質問の質問文を理解し性格に回答している人の割合を示した表(単位:%)】

分析可能な サンプル	合計して 10 になるよう 正確に答えている	答えてはいるが 合計して 10 以外になる	計
市民調査	98.2	1.8	100.0(2434)
県民調査	96.5	3.5	100.0(1987)

表 2 より家計構造を問う質問に対して、家計構造の割合を合計して 10 になるように正確に回答している人は、市民生活実態調査では 2390 人(98.2%)、県民生活実態調査では 1918 人(96.5%)であった。両調査ともに 95%以上の人が質問文を理解し正確に回答していることから、質問文の分かりやすさの面でも評価に値する結果となったと言えるだろう。

3 質問文の妥当性に関する検証

ここでは、市民生活実態調査で使用した Q48 家計構造を問う質問文及び Q47 生計を共にする人を問う質問文が妥当であったかについての検証を行う。この検証は 2020 年に実施した「社会生活実態調査 関学生親版」の調査結果を基に進めていく。この調査では大谷ゼミが 2019 年に実施した市民生活実態調査で使用した家計構造を問う質問文に加えて、図 3 の生計を共にする人を問う質問文を用いて、関学生の親の生活実態の把握を目的として実施した。尚、分析対象者は 190 人である。

【図 3 市民生活実態調査 Q47 生計を共にする人を問う質問文】

Q47 現在、あなたと家計（生計）を共にしているかたはどなたですか。【すべてに○】

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 配偶者 | 6. 孫 |
| 2. 子ども | 7. あなた（または配偶者）のきょうだい |
| 3. 子どもの配偶者 | 8. あなた（または配偶者）の祖父・祖母 |
| 4. あなた（または配偶者）の父親 | 9. その他の親族（ |
| 5. あなた（または配偶者）の母親 | 10. その他（ |

加えて、ゼミ生が新たに作成した記述回答式の質問文(図 4、図 5)を用いて、調査対象者がどのように回答しているのかを調査した。

【図 4 生活実態調査 関学生親版 生計を共にする人を問う質問文】

①生計を共にしている人を問う質問文

Q32 の生計を共にしている人について、親御さんがこの質問文にどのような経緯で回答したのか、家計構造を問う質問文と比べてイメージする世帯人員に違いはあったかなどを詳細に聞き取って、書いてください。

例) 私の父は、生計を共にしている人を問う質問文に関して、世帯の支出をベースに回答していました。私の家族は父母私兄の 4 人暮らしです。そのため、1.配偶者 2.こども、と回答したそうです。家計構造を問う質問文では、こどもである私のアルバイト代は家計に入れていないけれど、生計を共にする人と聞かれた場合は私のことも入れていることから、収入ベースで考えるか支出ベースで考えるかという所に違いがありました。

【図 5 生活実態調査 関学生親版 家計構造を問う質問文】

②家計構造を問う質問文

Q33 の家計構造を問う質問文について、親御さんが①何を基に回答したのか、②回答項目にない収入としてどんなものがあつたかについて詳細に聞き取って書いてください。

例) 私の父は、源泉徴収票を基に家計構造を問う質問文に回答していました。また兄が家にいくらか入れているけれど、正確な金額は分からないということで直接聞き取って記入していました。選択肢にない項目として、株取引で得た収入と家賃収入があつたそうですが、今回はすべて財産収入として記入していました。また、転売によって得ている利益は本人の勤労所得として回答したそうです。

3-1 生計を共にする人を問う質問文

この調査では回答者が生計を共にする人を問う質問文に回答する際にイメージする世帯人員を聞き出そうという狙いがあった。表 3 は特に多かった記述を挙げたものである。

【表 3 生計を共にする人を問う質問文でイメージする世帯人員】

Q. 生計を共にする人を問う質問文で想起する世帯人員
私の母は、生計をともにしている人を問う質問に対して、支出ベースに回答をしていました。
私の父は生計を共にしている人を問う質問文に関して、1. 配偶者 2. こども、と回答したそうです。子どもである私は現在下宿中で両親とは同居していませんが、私自身はまだ経済的に自立した存在ではないため、生計を共にしている人だと判断したそうです。
生計という聞き方だと、子供の学費や仕送りなども考えながら生計を立てているため、配偶者としか住んでいなくても、配偶者と子供と回答した
配偶者の両親と一緒に住んでいるので、食費、日常雑貨など、2 世帯分の支出をベースに回答した。

表 3 で挙げているような記述が大半を占めていることから、多くの回答者は支出を共にしている人を生計を共にしている人と考えたと判断することができる。この考え方では単身赴任で同居していない父親や大学進学のために 1 人暮らしをしている子ども等も、生計を共にしている人に当てはまることになる。一方で、単身赴任の父親や家を出た子ども等を含めずに回答した人が全くいないわけではなかった。つまり回答者によって生計を共にする人を問われたときに想起する世帯人員には違いがあるということである。今後信頼できるデータを集めるためには、生計を共にする人の定義についてしっかりと明記したうえで回答してもらう必要があるだろう。

3-2 家計構造を問う質問文

この調査では回答者が家計構造を問う質問文に回答する際に①何を基に回答したのか②回答項目にない収入としてどんなものがあつたのか③親の年金を家計に含めているのかを記述式で回答してもらっている。表 4 はその中から特に多かった意見を抜粋して纏めたものである。また表 5 は主な根拠として挙げられている項目である。

【表 4 何を基に回答したのか 調査対象者の声】

Q.何を基に回答したのか
源泉徴収票を基に回答しました。回答項目にない収入特になかったようです
源泉徴収票を基に回答。会社の収入のみなので、選択肢以外にはない
私の母は父と母の給与明細を見て、シンプルに計算して記入していた。
回答項目にない収入というものがほとんどなかったらしい
母は通帳や給料明細を基に答えた。項目にない収入は思いつかないと答えた

【表 5 主な根拠】

源泉徴収票	31
給与明細	7
家計簿	4

表 4 表 5 で纏めた通り、源泉徴収票、給与明細や家計簿など信頼できる資料を基に回答している人は 42 人であった。データへの信頼度を高めるためには、今後の調査においてこういった資料を基に回答することを奨励すべきである。

3-3 回答項目にない収入

ここでは、回答者が回答項目にない収入として挙げているものについて分析していく。表6は回答者が記述したもののから、主要な意見を抜粋してまとめたものである。

【表6 選択肢にない項目】

Q.選択肢にない項目
私の親は、株や転売など副業での収入が多くあります。しかしその副業での収入をどこにカテゴライズすればよいのか非常に悩んですべて勤労所得ということにしたようです。
選択肢にない項目として「ガレージ収入」あったようで、財産所得に含めるか迷ったそうですが、結局「その他」の項目に記入していました。
有価証券の配当、銀行の利子、財産の生前贈与、資産の売却など細かい収入はどの項目に入るのかよく分からなかった。
特例給付金、子供手当は項目にない収入だった。
現在、世帯は養育費で成り立っているので「その他」に入るのか悩んだそうですが「その他」の横に（子や親からの援助など）とあったので回答しなかったそうです。

表7は調査票で設けている回答項目に該当するにもかかわらず記述されていたものの一覧である。

【表7 すでにある項目に該当するもの】

財産所得		行政からの支援		〇〇の勤労所得	
株	5	こども手当	1	転売	8
家賃収入	4	特例給付金	1		
資産の売却	1				
銀行の利子	1				
財産の生前贈与	1				
遺産相続	1				

これらの項目は調査票作成者が意図していた分類が回答者に伝わっていないことが原因で発生したものと考えます。
今後の調査ではここで挙げられている項目を回答の例として示すことで、調査対象者が困惑しないようにするべきである。

【表8 すでにある項目に該当しないもの】

その他	
養育費	4

これらの項目は調査票作成段階で想定していなかった回答項目である。回答項目は網羅的である必要があるため、今後の調査では選択肢を改めた調査票を使用することが求められる。今後は養育費をその他(子や親からの援助)に加えれば良い。

3-4 親の年金を家計に含めているか

市民生活実態調査では、図7のような世帯収入を問う質問文を使用している。世帯収入を問う質問文と家計構造を問う質問文でイメージしている世帯人員が一致している場合、それら2つの質問文から、具体的な本人・配偶者の勤労所得金額や年金受給額を算出することができる。そのため、家計構造を問う質問文において調査対象者が同居している親の年金を家計構造に含めているかを分析していく。表9は親の年金を家計構造に含めているかどうかに関しての記述で特に多かった意見をまとめたものである。

【図7 市民生活実態調査 世帯収入を問う質問文】

Q④9 あなたの世帯の昨年1年間の収入（ボーナス・税込み）は、どれくらいですか。家計を共にしているかたの収入のほか、年金所得や財産所得などもすべて足し合わせてください。

- | | | |
|--------------|----------------|-------------------|
| 1. 収入はなかった | 5. 200万円～399万円 | 9. 1000万円～1199万円 |
| 2. 100万円未満 | 6. 400万円～599万円 | 10. 1200万円～1399万円 |
| 3. 100～129万円 | 7. 600万円～799万円 | 11. 1400万円～1599万円 |
| 4. 130～199万円 | 8. 800万円～999万円 | 12. 1600万円以上 |
| | | 13. 答えたくない |

【表9 親の年金を家計構造に含めているかどうか】

Q. 親の年金を家計構造に含めているかどうか
①生計を共にしている人は父、母、祖母、私たち兄弟であるが、収入減として考えると父がほぼ大半の割合を占め、そこに母がパート労働で得た所得と祖母が受け取っている年金所得を考慮した構造となっている。
②父は母と祖母の年収をそれぞれ聞き取って答えていました。それに加えて、私の祖母(父からすると母)の年金がありますが、少ないと言って「0.5」と書いていました。
③母の所得は源泉徴収票をもとに考え、父や祖父母の収入、年金は予想で記入したそうです。
④父と母の勤労所得と、配偶者の両親の年金所得をベースに回答した。

表10は上記で挙げた家計構造に親の年金を含めていると記述した人の実際の回答を纏めた表である。尚、今回は家計構造を問う質問に回答があった3つを掲載している。

【表10 表9の意見を記述した人の実際の回答】

	本人勤労	配偶者勤労	その他勤労	本人年金	配偶者年金	その他年金	財産	行政	その他
②	6.0	2.7	1.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0
③	5.0	4.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
④	2.0	5.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0

表9表10より調査対象者は家計構造を問う質問文に回答する際、親の年金を含めて回答していることが分かる。そのため、今後は世帯収入を問う質問文と家計構造を問う質問文を使用して、各項目に関する具体的な金額を算出して分析を行うことができる。

4 世帯収入を問う質問文の妥当性に関する検証

ここでは大谷ゼミがこれまでに使用してきた世帯収入を問う質問文が有効な質問文であったかを検証していく。図8は県民生活実態調査及び市民生活実態調査で使用した質問文である。

【図8 世帯収入を問う質問文】

Q④9 あなたの世帯の昨年1年間の収入（ボーナス・税込み）は、どれくらいですか。家計を共にしているかたの収入のほか、年金所得や財産所得などもすべて足し合わせてください。

- | | | |
|--------------|----------------|-------------------|
| 1. 収入はなかった | 5. 200万円～399万円 | 9. 1000万円～1199万円 |
| 2. 100万円未満 | 6. 400万円～599万円 | 10. 1200万円～1399万円 |
| 3. 100～129万円 | 7. 600万円～799万円 | 11. 1400万円～1599万円 |
| 4. 130～199万円 | 8. 800万円～999万円 | 12. 1600万円以上 |
| | | 13. 答えたくない |

4-1 県民生活実態調査・市民生活実態調査の回答状況の検証

県民生活実態調査では計2436人、市民生活実態調査では計2871人から調査票の返却があった。その中で1～12の項目に回答している人を「回答あり」、13に回答している人を「答えたくない」、いずれの項目にも記入がない人を「NA」として分類した。その結果が表11である。

【表11 県民調査・市民調査 世帯収入を問う質問文への回答率(単位:%)】

回答率	回答あり	答えたくない	NA	合計
県民調査	75.9	19.0	5.1	100.0(2436)
市民調査	74.8	22.0	3.2	100.0(2871)

表 11 より、世帯収入を問う質問文に対して、県民調査では 2436 人のうち 1850 人(75.9%)、市民調査では 2871 人のうち 2148 人(74.8%)が回答しているという結果になった。世帯収入を問う質問文はプライベートな質問であるため、調査対象者に答えてもらえないという懸念があったが、回答率は両調査ともに 70%を超えており、高い回収率であったと言えるだろう。

4-2 平均年収における家計調査との比較

ここでは世帯収入を問う質問文に回答があったサンプルに絞って平均年収を算出し、総務省統計局が実施している家計調査と比較分析を行い、本質問の有効性を検証していく。県民調査では 1850 人、市民調査では 2148 人が本質問に回答している。尚、1 世帯当たりの年間世帯収入を算出するにあたって以下の作業を行った。表 12 は家計調査とゼミの調査で算出された 5 都市の平均年収を纏めたものである。

(クロス手順)	
1 世帯当たりの年間世帯収入を導くために、年間世帯収入について問う Q49 の選択肢を「他の変数への値の再割り当て」機能を使って、値を再割り当てする。以下の通りである。	
Q49 年間世帯収入の選択肢	
1. 収入はなかった→0 2. 100 万円未満→50 3. 100 万円～129 万円→115	
4. 130 万円～199 万円→165 5. 200 万円～399 万円→300 6. 400 万円～599 万円→500 7. 600 万円～799 万円→700 8. 800 万円～999 万円→900	
9. 1000 万円～1199 万円→1100 10. 1200 万円～1399 万円→1300	
11. 1400 万円～1599 万円→1500 12. 1600 万円以上→1600	
13. 答えたくない→システム欠損値	

【表 12 家計調査とゼミ調査による 5 都市の平均年収】

世帯年収	川崎市	神戸市	福岡市	長崎県	愛媛県
家計調査	749 万円	605 万円	633 万円	561 万円	581 万円
ゼミ調査	729 万円	565 万円	571 万円	464 万円	483 万円

表 12 より、ゼミ調査は家計調査と比べて平均年収が低いという結果になった。家計調査との差が最も小さかったのは川崎市で 20 万円、最も大きかったのは愛媛県で 98 万円であった。しかし、家計調査と同様に①川崎市②福岡市③神戸市④愛媛県⑤長崎県の順に平均年収が高くなっているという傾向は捉えることができる。

世帯年収というセンシティブな質問であったことを考慮すると、ゼミで使用した世帯年収を問う質問文で、ある程度の傾向を把握することが可能であり、今後も使用していくべき質問であると考えられる。

5 夫婦世帯の家計構造を把握する

家計構造を問う質問を使用することで、夫婦世帯の所得割合を解明することができる。ここでは夫婦の勤労所得のみで生活している世帯を夫婦世帯と定義して分析していく。始めに分析対象である夫婦世帯にサンプルを絞る必要がある。表 13 は市民・県民調査における婚姻状況を表したものである。

【表 13 婚姻状況(単位:%)】

婚姻状況	県民調査	市民調査
既婚	70.2	65.1
離別	6.7	7.0
死別	5.4	4.9
未婚	16.9	22.7
NA	0.7	0.3
合計	100.0(2436)	100.0(2871)

全サンプルの中で既婚者の割合は県民調査で 70.2%、市民調査では 65.1%であった。

次に既婚者の中で家計構造を問う質問文に正しく回答できていたサンプルに絞っていく。尚、ここでは合計して 10 になるように答えているものを正答者、それ以外を誤答者として分類している。表 14 はこれらを纏めたものである。

【表 14 家計構造を問う質問文 正答率(単位:%)】

正答率	県民調査	市民調査
正答者	82.5	87.6
誤答者	2.5	1.9
NA	15.0	10.5
合計	100.0(1711)	100.0(1869)

既婚者の中で正答者は県民調査で 82.5%、市民調査では 87.6%であった。最後に生計を夫婦の勤労所得のみで立てているサンプルに絞っていく。表 15 はそれを纏めたものである。

【表 15 夫婦の勤労所得の内訳(単位:%)】

夫婦の家計構造	県民調査	市民調査
夫婦の勤労所得のみ世帯	50.8	58.3
その他の所得がある世帯	49.2	41.7
合計	100.0(1411)	100.0(1636)

正答者の中で夫婦の勤労所得のみで生計を立てている人は県民調査で 50.8%、市民調査では 58.3%であった。以降の分析では、県民調査 717、市民調査 953 の中で夫婦の職業組み合わせに回答があった県民調査 655 サンプル、市民調査 891 サンプルを分析対象とする。

夫婦間の勤労所得の割合と夫婦職業組み合わせの関係を把握するために表 16 を作成した。範囲は共働き世帯～専業主婦世帯に限定して分析を行った。

【表 16 夫婦職業組み合わせ 共働き世帯～専業主婦世帯(単位:%)】

県民調査		夫婦職業組み合わせ				合計
		共働き世帯	非正規主婦世帯① (範囲超)	非正規主婦世帯② (範囲内)	専業主婦世帯	
夫所得 比較	10:0	3.9	0	3.6	96.1	28.7
	9:1	7	7.7	34.1	1.7	12.5
	8:2	9.7	19.2	39.5	0.6	15.6
	7:3	17.1	40.4	12.6	0	13.0
	6:4	25.3	23.1	5.4	0	13.1
	5:5	30	7.7	1.2	1.1	13.0
	4:6	5.4	3.8	0	0	2.4
	3:7	0.8	0	0	0	0.3
	2:8	0.8	0	1.8	0	0.8
	1:9	0	0	1.8	0	0.5
	0:10	0	0	0	0.6	0.2
合計		100.0(257)	100.0(52)	100.0(167)	100.0(179)	100.0(655)

市民調査		夫婦職業組み合わせ				合計
		共働き世帯	非正規主婦世帯① (範囲超)	非正規主婦世帯② (範囲内)	専業主婦世帯	
夫所得 比較	10:0	3.2	5.2	7.7	94.6	29.4
	9:1	3.8	16.5	49.1	5.0	17.1

	8:2	8.7	28.9	26.6	0	13.4
	7:3	17.6	20.9	9.5	0	11.2
	6:4	29.8	15.7	1.8	0	12.9
	5:5	26.3	6.1	1.4	0	10.3
	4:6	5.4	0.9	0.5	0	2.1
	3:7	1.9	0.9	0	0	0.8
	2:8	1.2	3.5	2.3	0	1.5
	1:9	1.6	1.7	0.9	0	1.0
	0:10	0.3	0	0.5	0.4	0.3
合計		100.0(312)	100.0 (115)	100.0 (222)	100.0 (242)	100.0(891)

共働き世帯では県民・市民調査における夫婦の所得比が 7:3～5:5 に集中しており、半々から夫の所得がやや多いという世帯が多いという事が明らかになった。非正規主婦世帯①では共働き世帯に比べ妻の所得が低く 6:4～9:1 に集中していた。非正規主婦世帯②では、10:0～8:2 に集中しており、ほとんどが夫の所得で生活している。専業主婦世帯では両調査とも 90%以上の世帯夫の収入のみで生活していた。今後、共働き夫婦世帯の増加が見込まれることから、家計に占める夫婦の所得割合については引き続き分析を進める必要があるだろう。

次に夫婦世帯において夫の勤労所得金額について分析していく。県民・市民生活実態調査では家計構造を問う質問文と世帯年収を問う質問文を使用しているため、両質問を掛け合わせて具体的な所得金額を割り出すことが出来る。

【表 17 県民・市民調査 夫の所得金額】

平均所得金額	割合	県民調査	市民調査
夫の所得	10 : 0	600.0 万円	796.6 万円
	9 : 1	509.8 万円	797.7 万円
	8 : 2	449.1 万円	563.7 万円
	7 : 3	400.9 万円	582.0 万円
	6 : 4	378.3 万円	574.3 万円
	5 : 5	352.1 万円	415.4 万円
	4 : 6	236.4 万円	368.5 万円
	3 : 7	98.0 万円	95 万円
	2 : 8	69.1 万円	108.5 万円
	1 : 9	30.0 万円	49.0 万円
	0 : 10	0 万円	0 万円

表 17 より分かることは 3 点ある。

1 点目は夫の所得金額が高ければ高いほど家計に占める夫の所得の割合は高くなるということである。この点から夫の所得によって妻の働き方が変わるということが分かる。2 点目は妻の所得の平均金額は全て 100 万円以下であるということである。3 点目は地方よりも都市のほうが夫の所得金額が高いということである。

6 年金生活者の実態を把握する

ここでは市民生活実態調査における年金生活者について詳しい分析を行うものとする。

6-1 年金受給率

家計構造を問う質問の中で「4. あなたの年金所得」「5. 配偶者の年金所得」「6. その他家族の年金所得」の 3 つが年金に関する項目である。「4. あなたの年金所得」に 1 以上の回答があれば「回答者本人年金あり」、「5. 配偶者の年金所得」に 1 以上の回答があれば「配偶者年金あり」、「6. その他家族の年金所得」に 1 以上の回答があれば「その他家族年金あり」とする。また、「4. あなたの年金所得」「5. 配偶者の年金所得」「6. その他家族の年金所得」の 3 つのうち 1 つでも 1 以上の回答があれば「世帯年金あり」とする。その結果が表 18 である。

【表 18 都市部（川崎・神戸・福岡市民）の年金受給率を示した表(単位:%)】

	年金あり	年金なし	合計
--	------	------	----

回答者本人	25.1	74.9	100.0(2390)
配偶者	16.2	83.8	100.0(2390)
その他家族	6.4	93.6	100.0(2390)
世帯	33.8	66.2	100.0(2390)

表 19 より、分析対象の中で、年金を受給している世帯の割合は 33.8%で、2390 世帯中 809 世帯であった。つまり、**約 3 世帯に 1 世帯は、年金に関わっている世帯**といえる。

6-2 年金所得割合

「世帯年金あり」の 809 サンプルのうち、「4. あなたの年金所得」「5. 配偶者の年金所得」「6. その他家族の年金所得」の 3 つを合計すると 10 になるサンプルを「完全年金生活世帯」とした。また、3 つを合計して 10 未満のサンプルを、「年金所得の他に収入源がある世帯」とした。その結果が表 19 である。

【表 19 年金受給世帯の中で、完全年金生活世帯と年金所得の他に収入源を持つ世帯を示した表(単位:%)】

	完全年金生活世帯	年金所得の他に 収入源がある世帯	合計
年金所得割合	32.5	67.5	100.0(809)

表 20 より、年金に関わる世帯のうち、完全年金生活世帯の割合は 32.5%であった。一方、年金所得の他に収入源がある世帯は 67.5%である。つまり、**年金受給世帯のうち約 3 世帯に 1 世帯は完全年金生活世帯であり、約 3 世帯に 2 世帯は年金所得の他に収入源がある世帯**であるといえる。

6-3 完全年金生活世帯の分類

ここでは、完全年金生活世帯 263 サンプルを大きく 3 つに分類する。

分類 1：年金のみで暮らす単身者（単身者かつ、「4. あなたの年金所得」に 10 と回答）

分類 2：年金のみで暮らす夫婦世帯

（夫婦世帯かつ、「4. あなたの年金所得」「5. 配偶者の年金所得」を足して 10 と回答）

分類 3：その他 本人・配偶者以外でその他の家族の年金所得がある世帯

（「4. あなたの年金所得」「5. 配偶者の年金所得」「6. その他家族の年金所得」を足して 10 と回答）

【表 20 完全年金生活世帯の分類(単位:%)】

	年金のみで暮らす 単身者	年金のみで暮らす 夫婦世帯	その他	計
完全年金生活世帯	19.0	70.7	10.3	100.0(263)

表 20 より、完全年金生活世帯の中で、年金のみで暮らす単身者が 19.0%、年金のみで暮らす夫婦世帯が 70.7%という結果になった。このことから、**年金所得のみで生活しているサンプルに多く見られる代表的な家計構造として「年金のみで暮らす夫婦世帯」と「年金のみで暮らす単身者」が挙げられる**だろう。

6-4 年金所得の他に収入源がある世帯の分類

ここでは、年金所得の他に収入源がある世帯 535 サンプルを大きく 2 つに分類する。

分類 1：勤労所得がある世帯

（「1. あなたの勤労所得」「2. 配偶者の勤労所得」「3. その他の勤労所得」を足して 1 以上の回答）

分類 2：勤労所得がない世帯 つまり財産所得・行政からの支援などが他の収入源

(「1. あなたの勤労所得」「2. 配偶者の勤労所得」「3. その他の勤労所得」に回答なし)

【表 21 年金所得の他に収入源がある世帯の家計構造(単位:%)】

	勤労所得あり	勤労所得なし	計
年金所得の他に収入源がある世帯	85.0	15.0	100.0(535)

表 21 より、年金所得の他に収入源がある世帯の中で、勤労所得がある世帯は 85.0%であった。つまり、**年金所得の他に収入源がある世帯の大半は、勤労所得を主な収入源としていることが分かった**。年金受給者とはいえども、年金所得のみではなく、働きながら生活を支える世帯が多いことが読み取れる。このことから、年金所得の他に収入源がある世帯に多く見られる代表的な家計構造として、「**年金所得の他に勤労所得を持つ世帯**」が挙げられるだろう。

これまで Q 48 家計構造を問う質問の分析から、「年金のみで暮らす単身者」、「年金のみで暮らす夫婦世帯」、「年金所得の他に勤労所得をもつ世帯」の 3 つが、年金生活世帯のなかで多く見られる代表的な家計構造であることがわかった。ここからは SPSS のクロス集計を使用して、上記の 3 つの代表的な家計構造と Q 49 年間世帯収入・Q 50 世帯貯蓄の質問をクロスする。年間世帯収入や世帯貯蓄の質問をクロスすることで、平均値、最頻値、最大値、最小値を割り出し、年金受給世帯の中でも貧しい世帯と裕福な世帯を区別することができる。

(クロス手順)

①年金生活世帯の代表的な 3 つの家計構造を「ケースの選択」機能を使い、母数を絞る。
②1 世帯当たりの年間世帯収入・世帯貯蓄を導くために、年間世帯収入について問う Q49 の選択肢、世帯貯蓄について問う Q50 の選択肢を「他の変数への値の再割り当て」機能を使って、値を再割り当てする。以下のとおりである。

Q49 年間世帯収入の選択肢

1. 収入はなかった→0 2. 100 万円未満→50 3. 100 万円～129 万円→115 4. 130 万円～199 万円→165
5. 200 万円～399 万円→300 6. 400 万円～599 万円→500 7. 600 万円～799 万円→700
8. 800 万円～999 万円→900 9. 1000 万円～1199 万円→1100 10. 1200 万円～1399 万円→1300
11. 1400 万円～1599 万円→1500 12. 1600 万円以上→1600 13. 答えたくない→システム欠損値

Q50 世帯貯蓄の選択肢

1. 貯蓄はない→0 2. 100 万円未満→50 3. 100 万円～500 万円未満→300 4. 500 万円～1000 万円未満→750 5. 1000 万円～2000 万円未満→1500 6. 2000 万円以上→2000 7. 答えたくない→システム欠損値

③記述統計の中の「クロス集計」で先ほど作成した変数を使用し、分析を行う。

【表 22 年金受給世帯に多く見られる 3 つの代表的な世帯の年間世帯収入】

年間世帯収入	度数	平均額	最頻額	最大額	最小額
年金のみで暮らす単身者	有効 47 答えたくない 3 計 50	217 万円	300 万円	1100 万円	0 万円

年金のみで暮らす夫婦世帯	有効 152 答えたくない 34 計 186	337 万円	300 万円	1600 万円	0 万円
年金所得の他に 勤労所得をもつ世帯	有効 457 答えたくない 78 計 535	526 万円	300 万円	1600 万円	0 万円

表 22 より、年間世帯収入の平均額を比較すると、年金所得の他に勤労所得をもつ世帯が 526 万円と世帯収入が多い。続いて年金のみで暮らす夫婦世帯が 337 万円、年金のみで暮らす単身者が 217 万円という結果になった。

【表 23 年金受給世帯に多く見られる 3 つの代表的な世帯の世帯貯蓄】

世帯貯蓄	度数	平均額	最頻額	最大額	最小額
年金のみで暮らす単身者	有効 37 答えたくない 13 計 50	711 万円	750 万円	2000 万円	0 万円
年金のみで暮らす夫婦世帯	有効 135 答えたくない 51 計 186	1039 万円	2000 万円	2000 万円	0 万円
年金所得の他に 勤労所得をもつ世帯	有効 387 答えたくない 148 計 535	926 万円	2000 万円	2000 万円	0 万円

表 23 より世帯貯蓄の平均額を比べてみると、年金のみで暮らす夫婦世帯が 1039 万円と貯蓄が多い。続いて、年金所得の他に勤労所得をもつ世帯が 926 万円、年金のみで暮らす単身者が 711 万円という結果になった

6-5 年金受給に関する分析結果

ここでは分析結果を分かりやすく説明するために、日本の世帯数を「1000 世帯」と設定して年金受給世帯の実態を纏める。もしあなたが全 1000 世帯しかない日本に生まれたと仮定すると、あなたはどの世帯に分類され、今を生活しているのでしょうか。

算出例						
2390	:	809	=	1000	:	X
分析対象		年金受給世帯		仮想日本世帯数		仮想年金受給世帯
2390×X=809×1000						
X=809000÷2390						
X=338.493724... 少数点第一位を四捨五入して						
X=338 世帯						

市民生活実態調査 Q 48 世帯の家計構造を問う質問の分析結果を用いて、上記の算出方法で、仮想日本の年金受給世帯の実態を割り出した算出結果が、次頁の図 9 である。

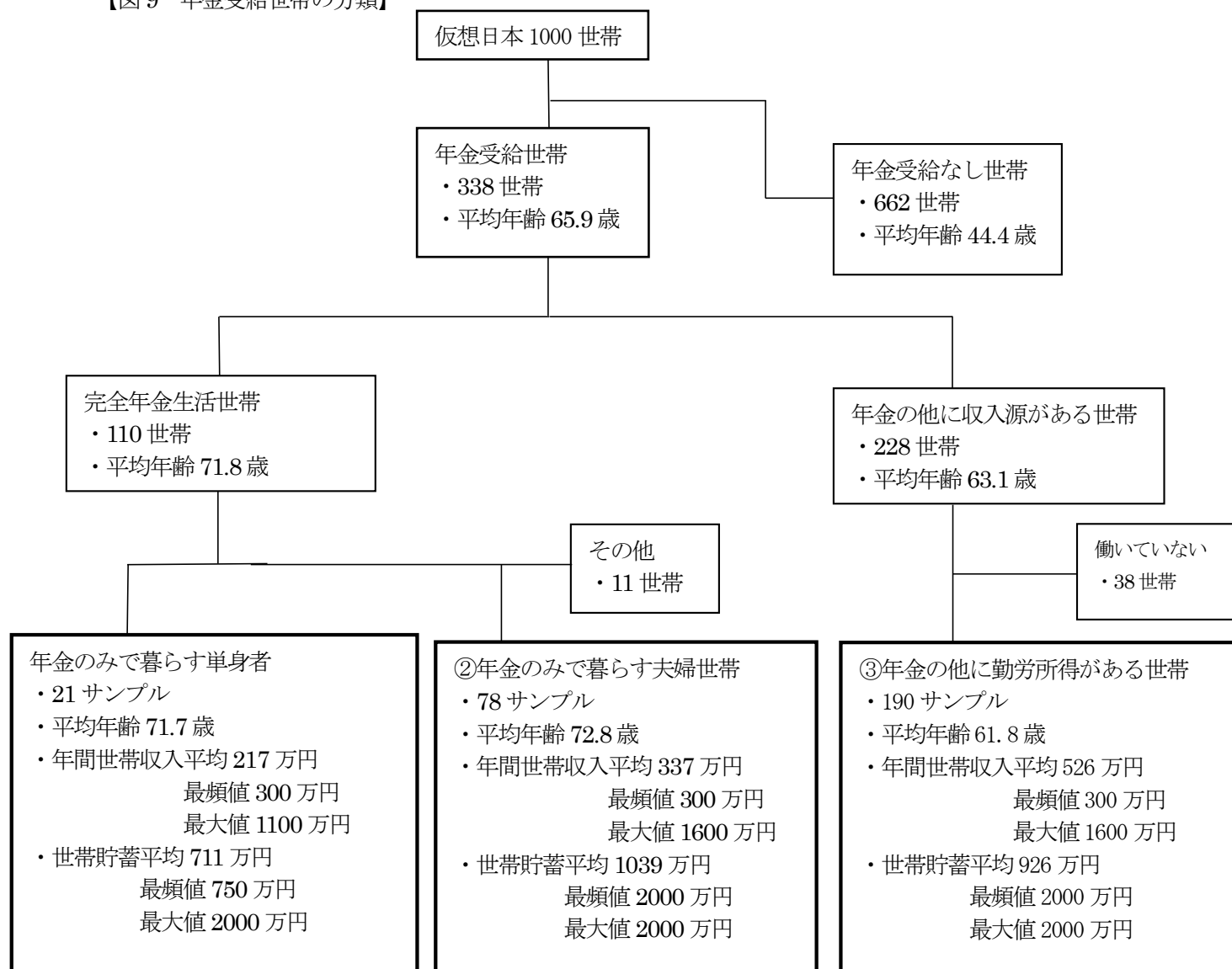
6-6 年金受給に関する結論

「年金受給者を一括りにしてはいけない」これが私たちの結論である。私たちは Q 48 家計構造を問う質問文から年金受給率の把握や年金受給世帯の分類を行った。また年金受給者の実態を捉えるために、Q 49 年間世帯収入、Q 50 世帯貯蓄の質問から、年金受給世帯に多く見られる 3 つの代表的な世帯の特徴、貧富の差を割り出した。同じ年金受給世帯でも、年金のみで生活をする世帯と年金所得の他に収入源がある世帯では、平均年齢や

年間世帯収入、世帯貯蓄などの生活実態は様々であることが分かった。このことから、今回の市民生活実態調査における家計構造を問う質問文の有用性を示すことができたのではないかと考える。

年金受給世帯のカチは様々ではなく、各世帯によって貧富の差が生まれている。今後も日本は少子高齢化が進む中で、年金受給世帯も多様化されることが予想される。そのため、年金受給世帯を分類し、パターンごとの特徴に合わせた取り組みを進める必要があると今回の分析で痛感した。

【図9 年金受給世帯の分類】



第4章 通勤・生活圏の空間的把握

1 調査対象地域に適した通勤先を把握する質問文の検討

1-1 はじめに

通勤に関する質問文の中でも、通勤先を把握する質問文と通勤手段を問う質問文に焦点を当てて質問文の検討・分析し論じていく。まず国勢調査の通勤に関する質問文の実態を、次に研究室で行った調査の変遷、市民生活実態調査の通勤先・通勤手段質問から分かった実態や分析を、そして関学生親調査に関してまとめていく。

1-1-1 国勢調査の通勤質問

5年に1度行われている国勢調査では、通勤に関しては「従業地又は通学地」として、通勤先の市区町村について調査が行われている。また10年に1度の大規模調査では「従業地又は通学地」（以下通勤先所在地）に加え、「従業地又は通学地までの利用交通手段」（以下通勤手段）として利用している通勤手段すべてを回答する形式で質問されている。大規模調査の年である2019年国勢調査の通勤に関する調査票は以下の図のとおりである。

2 従業地又は通学地 仕事も通学もしている人は仕事を している場所について記入して ください 同じ市内の他の区に通勤・通学 している場合は 他の区・市町村 に記入してください 他の区・市町村 の場合は 都道府県・市区町村名も 書いてください (東京都区部と政令指定都市) の場合は 区名 まで									
12 従業地又は通学地 (住み込みを含む) 14 欄へ 13 欄へ (通勤・通学の場所を記入) (左づめで記入) 都道府県 市郡 区町村	13 従業地又は通学地 (住み込みを含む) 14 欄へ 13 欄へ (通勤・通学の場所を記入) (左づめで記入) 都道府県 市郡 区町村	14 従業地又は通学地 (住み込みを含む) 14 欄へ 13 欄へ (通勤・通学の場所を記入) (左づめで記入) 都道府県 市郡 区町村	15 従業地又は通学地 (住み込みを含む) 14 欄へ 13 欄へ (通勤・通学の場所を記入) (左づめで記入) 都道府県 市郡 区町村						

【表1 国勢調査 通勤質問 分かること】

	分かること
通勤先所在地	通勤・通学で居住市区町村を出ているか、出していないか
	通勤・通学先市区町村名
	学生アルバイト・通学者も含めた通勤実態
通勤手段	(学生アルバイトの通学実態は把握されない)
	通勤先までの利用手段の詳細(利用する交通手段すべて)

国勢調査では通勤先について市区町村を尋ねることで場所を把握しようとしている。通勤手段については利用しているすべての交通手段を問うことで実態を把握しようとしている。どちらの質問も学生アルバイトや通学者を含めた結果であり、正確な通勤実態は把握できていないだろう。

表 2 は国勢調査の問題点を整理したものである。通勤先所在地を問う質問で市区町村を聞いているが、東京や大阪等一部の地域を除く自治体では、居住地と通勤先の市区町村が同じになると想定される。同じ市の異なる場所へ通勤していてもそれが結果として現れないことになるだろう。国では都市交通計画に通勤先所在地や通勤手段の結果が、都市部など一部地域では防災計画に通勤先所在地から分かる昼間人口が活用されている。防災計画では帰宅困難者などの推定にも活用される。しかし、都市部で同じ市区町村に複数のオフィス街があることも想定され、調査では市町村より具体的に把握しなければよりよい計画に結びついていかないのではないかと考える。

また通勤手段の 10 年ごとの調査では実態の変化が想定され、実態が反映された政策にはならないと考えられる。さらに通勤先をすべて聞いているが通勤手段ごとに集計される場合もあり、使いづらい調査であるだろう。

そのためより詳細に職場所在地を把握すること、通勤手段はほかの調査項目と同じように5年に1度の調査が必要ではないだろうか。

【表2 国勢調査 通勤質問 問題点】

	問題点
通勤先所在地	自宅と職場が同じ市区町村の場合、詳細な勤め先が分からない(ex 松山市在住・松山市通勤) →より詳細な場所の把握をすべき
	学生アルバイトの人はアルバイト(通勤)の結果である →学業が優先されていない、通学のほうが頻度は多いのではないかな
	通勤先・通学先どちらもあることで実態がどう分かるのか →通勤先の実態は把握できていないのではないかな
通勤手段	利用している通勤手段をすべて聞いている →すべて聞いてもあまり活用されていない
	学生アルバイトの通勤手段も含めた実態になっている →正確な通勤実態にならないのではないかな
	10年に1度の調査である →実態の変化がつかめない

【表3 川崎市・神戸市・福岡市の各統計書での国勢調査 通勤先質問の活用】

	内容
川崎市	・常住地による従業・通学市区町村別15歳以上就業者数及び15歳以上通学者数(15歳未満通学者を含む通学者一特掲) ・従業地・通学地による常住市区町村別15歳以上就業者数及び15歳以上通学者数(15歳未満通学者を含む通学者一特掲) ・常住地又は従業地・通学地による年齢(5歳階級)、男女別人口及び就業者数 ・区別昼夜間・流出・流入人口 ・区、男女、年齢別昼間人口
神戸市	
福岡市	・福岡市と他市町村との流入、流出口(15歳以上通勤者・通学者) ・常住地又は従業地・通学地による男女別人口、就業者数及び通学者数

(注)川崎市「統計書 2019年版 人口」(<https://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000116009.html>)、

神戸市「第96回神戸市統計書2019年度版」(<https://www.city.kobe.lg.jp/a89138/shise/tokei/toukei/toukeisho/2019toukeisho.html#3>)、

福岡市「福岡市統計 2019年度版」(<https://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/tokeichosa/shisei/toukei/toukeisyo/2019/toukeisyo2019-3.html>)

表3は、川崎市・神戸市・福岡市の2019年度の統計書で、国勢調査の通勤先所在地を問う質問がどのように活用されているのかをまとめたものである。神戸市は通勤先所在地の質問を活用したものはなかった。川崎市・神戸市は上記の通りである。福岡市は表4のように通勤先所在地を活用し流入・流出口を通勤者・通学者別にまとめられており、質問にある市区町村を生かしまとめられているようだった。そのほか国での通勤先所在地の利用としては、昼間人口の集計や地域の都市交通計画や交通ビジョンなどに活用されている。

通勤手段は最新の結果である2010年度の国勢調査結果報告書で、全国の通勤手段の割合や東京都・大阪府の

自家用車の割合、県ごとの手段の割合等がまとめられていた。また「東京都及び大阪府とその周辺府県では、自家用車の利用者が少なく、鉄道・電車の利用が多い」（総務省統計局）と述べられており、都市部の都道府県ほど交通手段が発達している傾向があるのではないかということは見受けられるが、複数回答にした結果はあまり活用されていないようであった。

【表 4 福岡市統計書(2019 年版)福岡市と他市町村との流入,流出人口(15 歳以上通勤者・通学者)(一部抜粋)】

市 町 村	流 入			流 出			流 入 超 過
	総 数	通 勤 者	通 学 者	総 数	通 勤 者	通 学 者	
総 数 (1)	246 483	206 638	39 845	84 703	74 888	9 815	161 780
県 内	221 423	187 958	33 465	69 235	61 393	7 842	152 188
福 岡 都 市 圏	172 289	150 642	21 647	54 748	48 981	5 767	117 541
筑 紫 地 域	81 097	72 308	8 789	21 558	18 401	3 157	59 539
筑 紫 野 市	14 806	13 038	1 768	3 431	2 732	699	11 375
春 日 市	24 893	21 931	2 962	5 234	4 795	439	19 459
大 野 城 市	19 792	17 935	1 857	5 916	5 514	402	13 876
太 宰 府 市	10 794	9 892	1 102	3 743	2 347	1 396	7 051
那 珂 川 町	11 012	9 712	1 300	3 234	3 013	221	7 778
糟 屋 地 域	53 708	46 785	6 923	25 066	23 552	1 514	28 642
土 智 市	9 897	7 994	1 903	4 497	3 094	1 403	4 140

(注) 福岡市「福岡市統計 (2019 年版)」(<https://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/tokeichosa/shisei/toukei/toukeisyo/2019/toukeisyo2019-3.html>)

研究室では、通勤先を問う質問文をより詳細に把握するために試行錯誤しており、変遷と実態について以下の章でまとめる。また通勤手段は 1 種類を問う質問文を採用している。この質問で分かることや通勤先を問う質問との関係の分析においても以下の章で扱っていく。

1-2 大谷研究室での通勤質問文の変遷

1-2-1 関西ニュータウン調査

Q 9. あなた (または配偶者) は通勤に電車を利用していますか。

1. 利用している 2. 利用していない 3. どちらも通勤していない

S Q 1. 「2. 利用していない」とお答えの方にお聞きます。

通勤の際に主に利用している交通手段は何ですか。

1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク・原付 4. バス

5. 自動車 (自分で運転) 6. 自動車 (送迎してもらう) 7. その他 ()

Q11. 通勤の際に実際に使っている降車駅はどちらですか。通勤に電車を利用されていない方は、勤務先の最寄駅をお答えください。あなた・配偶者とも通勤されていない方は、Q13 にお進みください。

鉄道会社名 () () 駅

「関西ニュータウン調査」(以下 NT 調査)では、研究室で初めて「最寄り駅」を問う質問を採用した。対象となるニュータウンは多くが鉄道路線を中心に開発されていることから、通勤には鉄道が多く利用されていると考えたためである。通勤降車駅や勤務先の最寄り駅という形で職場の位置について Q11 の質問を行った。NT 調査を分析した結果、千里の住民なら梅田を、須磨の住民であれば三宮が職場最寄り駅であるなどのパターンがみられた。これは従来、国勢調査で用いられていた市区町村で測定する方法よりも詳細な分析となった。以下に NT 調査の詳細な分析結果を表 5 に掲載する。

【表 5 NT 別・入居当時の職場の位置】

NT	鉄道沿線	職場最寄り駅	都道府県市区町村
----	------	--------	----------

千里	大阪メトロ御堂筋線(21.5%) 阪急電鉄千里線(16.4%) 阪急電鉄京都線(14.1%)	梅田(大阪メトロ・阪急・JR 大阪)(11.4%) 大阪メトロ本町(7.3%) 阪急北千里(6.2%)	吹田市(19.4%) 大阪市北区、大阪市 中央区(各 17.8%)
泉北	大阪メトロ御堂筋線(17.8%) 泉北高速鉄道(16.2%)	泉北高速泉が丘(9.5%) 大阪メトロ本町(6.6%)	堺市(37.9%) 大阪市中央区(22.0%)
トリヴェール	南海電鉄本線(21.9%) 大阪メトロ御堂筋線(17.5%) JR 阪和線(9.6%)	南海電鉄なんば(6.1%) 大阪メトロ淀屋橋(6.1%) 大阪メトロ本町、泉北高速和泉中央(各 5.3%)	大阪市中央区(25.0%) 堺市(16.4%) 和泉市(7.8%)
須磨	JR 東海道本線(27.2%) 神戸市営地下鉄西神・山手線(24.2%)	三宮(JR・神戸市営地下鉄・阪急)(22.1%)、 JR 灘(8.1%) 神戸市営地下鉄名谷(6.6%)	神戸市中央区(32.1%) 神戸市兵庫区(12.9%)
西神	神戸市営地下鉄西神・山手線(32.6%) JR 東海道本線(16.3%)	三宮(JR・神戸市営地下鉄・阪神)(17.8%) 神戸市営地下鉄西神中央(8.1%) 梅田(阪神・JR 大阪)(6.6%)	神戸市中央区(28.2%) 神戸市西区(10.6%) 大阪市北区(7.7%)
三田	JR 宝塚線(42.5%) JR 東海道本線(22.2%) 大阪メトロ御堂筋線(6.5%)	JR 大阪(15.0%) JR 新三田(5.9%) JR 猪名寺(4.6%)	大阪市北区(17.2%) 尼崎市(12.1%) 三田市(11.6%)
平城	近鉄奈良線(16.4%) 大阪メトロ御堂筋線(15.6%)	近鉄奈良(7.8%) 近鉄高の原、京都(各 5.5%)	奈良市(19.5%) 大阪市中央区(18.8%)
洛西	阪急京都線(60.4%) JR 東海道本線(17.6%)	阪急桂(20.9%) 阪急西院(8.8%) 阪急烏丸(6.6%)	京都市西京区(21.9%) 京都市下京区(13.5%)

(岩泉, 2005「ニュータウン調査」より作成)

【表 6 関西ニュータウン居住者の通勤手段】

(%)

NT	徒歩	自転車	バイク	自動車	路線バス	鉄道	その他	合計
須磨	1.2	1.2	3.6	27.7	1.2	<u>62.7</u>	2.4	100.0 (88)
西神	2.0	3.9	2.0	24.5	1.0	<u>65.7</u>	1.0	100.0(102)
泉北	1.3	1.3	4.0	43.0	0.7	<u>48.3</u>	1.3	100.0(149)
千里	2.0	5.0	3.0	23.0	1.0	<u>65.0</u>	1.0	100.0(100)
トリヴェール	0.0	1.1	2.3	38.6	2.3	<u>54.5</u>	1.1	100.0(88)
平城	3.5	1.2	0.0	32.9	0.0	<u>61.2</u>	1.2	100.0(85)
北摂三田	5.3	0.9	0.9	27.2	2.6	<u>61.4</u>	1.8	100.0 (114)
洛西	3.0	1.5	16.7	<u>40.9</u>	4.5	33.3	0.0	100.0 (66)

(注)各 NT 名の横の()内は合計の度数である。

通勤手段は Q9 のように質問し鉄道利用有無を聞いたうえで、サブクエスチョンとして SQ1 のように、鉄道を利用していない場合、詳細な通勤手段を問うという形式となっており、鉄道中心に作られた質問文となっていた。表 6 は通勤手段についての結果をまとめたものである。

洛西のみ自動車の割合が一番多く、その他鉄道やバイク等が多いという結果であった。これは洛西 NT が駅から離れているという立地的なことも関連していると考えられ、地域の特徴と通勤手段には関連があるだろう。

洛西を除く 7 つの NT では鉄道が一番多く、自動車・鉄道を合わせると 8 割を超えるという結果であった。NT の鉄道を中心に発展した成り立ちからも鉄道が多いという結果になったのだろう。

1-2-2 西宮マンション調査

Q14. ①あなたの勤務先（もしくは通学先）の最寄り駅はどちらですか。（配偶者がおられる場合は、配偶者の勤務先についてもお答えください。）

あなた 鉄道会社名（ ）（ ）線（ ）駅

配偶者 鉄道会社名（ ）（ ）線（ ）駅

「西宮マンション調査」（以下マンション調査）の調査対象地である西宮市は、大阪市と神戸市の間に位置し、JR、阪急電鉄、阪神電車が並行して走っていることから駅名質問で多くの回答が得られると考え、「最寄り駅」を問う質問を再び採用した。回答者本人の最寄り駅名回答率は、83.9%と高い回答率であった。

【表 7 西宮市民 通勤先 西宮市との位置関係】 (%)

	西宮市以西(神戸市等)	西宮市	西宮市以东(大阪市等)
西宮市(464)	13.8	28.0	58.2

(注)西宮以东は京都府・大阪府・尼崎市・伊丹市・川西市・宝塚市・猪名川町について述べている。西宮以西は西宮市・西宮以东に含まれない兵庫県を指す。また、回答者が仕事をしている人で通勤先駅名を記入している人を 100.0% とする

【表 8 マンション調査 通勤先最寄り駅の所在地分析】

	鉄道会社	職場最寄り駅	都道府県市区町村
西宮市	阪神電車(25.9%) JR(25.4%) 阪急電鉄(22.4%) 大阪メトロ(21.1%) ポートライナー(1.3%)	梅田[阪神・阪急・JR](6.7%) 淀屋橋[大阪メトロ]、西宮[阪神](各 2.6%) 甲子園[阪神](2.1%) 本町[大阪メトロ](2.0%) 西宮北口[阪急](1.5%) 甲子園口[JR](1.4%)	兵庫県西宮市(28.0%) 大阪市中央区(14.7%) 大阪市北区(9.7%) 兵庫県尼崎市(8.6%) 神戸市中央区(5.8%) 神戸市東灘区(3.2%) 大阪市淀川区(2.4%)

調査の結果、西宮市民は神戸や大阪どちらにも通勤していたが、表 7 のように半数以上が大阪方面へ通勤していた。表 8 は回答された最寄り駅から通勤先上位の市区町村と駅名をまとめている。駅名で問うことで、市区町村ごとにも駅単位で詳細な場所も把握することができる。具体的に見ると、西宮市・神戸市中央区・東灘区以外すべて大阪方面が上位を占めている。駅名を見ると利用者数上位はすべて大阪市・西宮市内の駅であった。

大阪は神戸より大都市であり、大都市周辺地域ではより大きな都市へ通勤している傾向があるのだろう。

1-2-3 愛媛・長崎県民生活実態調査

⑤(1) 職場はどちらにありますか。【1つだけ○】 1. を選択した方は、①都道府県名・市区町村名、②郵便番号をご記入ください。	
あなた	配偶者（あなたの夫や妻）
1. ①【 】 都道 府県 【 】 市区 町村 ②（〒 ）	1. ①【 】 都道 府県 【 】 市区 町村 ②（〒 ）
2. 職場は自宅である ⇒ ⑤(3)	2. 職場は自宅である ⇒ ⑤(3)

⑤(2) 主な通勤手段は次のどれですか。【1つだけ○】 また、日ごろ使う交通手段でかかる 通勤時間 （家から職場までにかかる総所要時間）はどれくらいですか。	
あなた	配偶者（あなたの夫や妻）
1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車 5. 路線バス・路面電車 6. 鉄道 7. フェリー・船 8. その他	1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車 5. 路線バス・路面電車 6. 鉄道 7. フェリー・船 8. その他
通勤時間 片道（ 時間 分）	通勤時間 片道（ 時間 分）

「愛媛・長崎県民生活実態調査」（以下県民生活実態調査）では、対象が愛媛・長崎の地方都市であり、通勤先を問う質問について、NT調査のような「最寄り駅」で職場位置をたずねる質問文は限界があることが予想された。地方部では鉄道駅が少ないことから「最寄り駅」質問文に代わり、「郵便番号」による職場の位置を訪ねる質問文を導入した。愛媛県で75.7%、長崎県で73.3%と高い回答率を叩き出した。郵便番号だと場所が特定される可能性もあるため、回答率が低くなると想定されていたが結果は逆だった。職場住所を市町村だけでなく郵便番号まで聞く、という試みは成功したと言えるだろう。山間部の地域で一部、同じ郵便番号の地域が広く正確な位置をつかむことが難しいケースもあったが、概ね大体の正確な位置をつかむことができた。これにより、自宅と職場の位置をつなげてGoogle Mapで分析する方法も可能となった。

Google Mapの機能の1つである「ルート検索」を用いて、自宅と職場の位置関係と経路、所要時間などを測定することが可能になる。その機能を使い分析を行った。

① 通勤時間の誤差を算出する

Google Mapのルート検索で算出される所要時間と、「県民生活実態調査」で回答されている通勤時間にはどれくらいの差があるのかを計算した。

以下の表は、本人が回答した通勤所要時間の平均とGoogle Mapのルート検索で算出される所要時間の平均を通勤手段ごとに算出したもの、並びに、本人が回答した通勤所要時間とGoogle Mapのルート検索での所要時間を比較した際の誤差を通勤手段ごとに算出しまとめたものである。

【表 9 通勤手段別の通勤時間誤差（5段階）と誤差の平均、検索結果の所要時間と回答での所要時間の平均】
（NA・非=799）

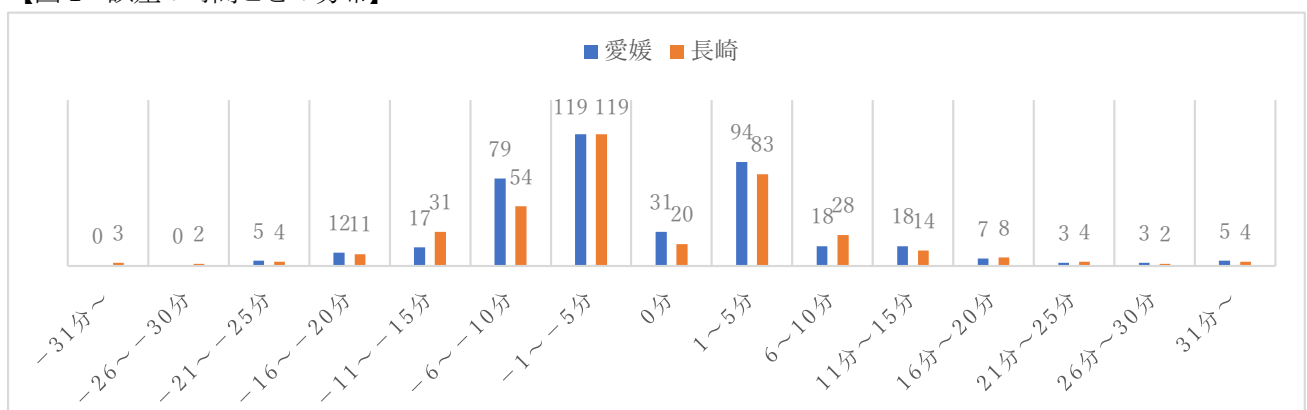
（愛媛）	0～2分	3～5分	6～10分	11～20分	21分～	計	誤差 （分）	検索（分）	回答（分）
徒歩	31.8	18.2	22.7	22.7	4.5	100.0(44)	7.36	12.6	7.2
自転車	13.6	27.3	45.4	6.8	6.8	100.0(44)	7.98	9.5	15.8
バイク	41.5	24.4	29.3	2.4	2.4	100.0(41)	4.85	16.6	16.0
自動車	36.9	26.6	19.8	12.9	3.8	100.0(263)	6.18	17.9	19.7
バス・路面	22.2	44.4	11.1	22.2	0.0	100.0(9)	6.22	31.0	37.7
鉄道	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0	100.0(10)	8.40	38.9	44.2
計	33.6	25.8	23.6	13.1	3.9	100.0(411)	6.42	16.9	18.7

（NA・非=839）

（長崎）	0～2分	3～5分	6～10分	11～20分	21分～	計	誤差 （分）	検索（分）	回答（分）
徒歩	32.6(15)	23.9(11)	21.7(10)	15.2(7)	6.5(3)	100.0(46)	7.35	13.3	10.3
自転車	50.0(3)	16.7(1)	16.7(1)	16.7(1)	0.0(0)	100.0(6)	4.50	7.0	14.6
バイク	46.2(12)	30.8(8)	11.5(3)	11.5(3)	0.0(0)	100.0(26)	4.58	14.9	16.5
自動車	30.3(86)	26.8(76)	21.5(61)	16.9(48)	4.6(13)	100.0(284)	6.79	18.7	23.4
バス・路面	18.2(4)	27.3(6)	18.2(4)	22.7(5)	13.6(3)	100.0(22)	9.41	43.5	36.2
鉄道	0.0(0)	0.0(0)	100.0(3)	0.0(0)	0.0(0)	100.0(3)	7.67	52.0	37.5
計	31.0(120)	26.4(102)	21.2(82)	16.5(64)	4.9(19)	100.0(387)	6.82	19.2	23.3

以下の図 1 は、本人が回答した通勤所要時間から Google Map のルート検索での所要時間を引いた際の誤差の分布をグラフ化したものである。つまり誤差が「-」（マイナス）をとる場合は本人が回答した所要時間よりも Google Map のルート検索の所要時間が短く、「+」（プラス）をとる場合は本人が回答した所要時間よりも Google Map のルート検索の所要時間が長いということになる。

【図 1 誤差の時間ごとの分布】



（表 9、図 1 の結果の概要と主な特徴）

- ・通勤時間の誤差の平均は愛媛 6.42 分、長崎 6.82 分、合計 6.62 分と 6 分台に収まる。
- ・中央値は両県ともに 4 分。最頻値は愛媛 2 分、長崎 1 分。最小値は両県ともに 0 分。最大値は愛媛 59 分、長崎 43 分。
- ・誤差の許容範囲を 10 分までと定めると、その範囲に収まるのは愛媛 83.0%、長崎 78.6%。
- ・誤差が「-」（マイナス）になるほうが多い。Google Map のほうが所要時間が短く出る傾向があるといえる。
- ・「バイク」、「自動車」の場合の誤差が比較的小さい。
- ・「路線バス・路面電車」の場合の誤差が比較的大きい。

② 通勤距離を算出する

職場所在地の郵便番号と現住所のデータをそれぞれ Google Map 上に入力することで、二点間の距離を算出することが可能になる。直線距離はもちろん、交通手段別の経路から実際の移動距離を算出することもできる。このデータを利用することで、通勤手段、通勤時間に加えて通勤距離を新たな分析の材料となる。

表 10 は自宅から職場までの通勤距離を 5 段階に区分し、それを通勤手段ごとにまとめたものである。

【表 10 通勤手段別の通勤距離（5 段階）と平均】

(NA・非=753)

(愛媛)	0～ 2.00km	2.01～ 5.00km	5.01～ 10.00km	10.01～ 20.00km	20.01～ km	計	平均 (km)
徒歩	96.0	2.0	2.0	0.0	0.0	100.0(50)	0.84
自転車	63.3	26.5	8.2	2.0	0.0	100.0(49)	2.29
バイク	33.3	42.2	22.2	0.0	2.2	100.0(45)	4.86
自動車	33.0	29.2	20.8	10.8	6.3	100.0(288)	6.30
バス・路面	18.2	54.5	27.3	0.0	0.0	100.0(11)	4.14
鉄道	0.0	40.0	40.0	10.0	10.0	100.0(10)	11.35
その他	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(4)	1.62
計	42.7	27.8	17.9	7.2	4.4	100.0(457)	5.05

(NA・非=771)

(長崎)	0～ 2.00km	2.01～ 5.00km	5.01～ 10.00km	10.01～ 20.00km	20.01～ km	計	平均 (km)
徒歩	94.2	1.9	0.0	1.9	1.9	100.0(52)	1.73
自転車	62.5	25.0	0.0	12.5	0.0	100.0(8)	3.62
バイク	35.5	45.2	6.5	6.5	6.5	100.0(31)	5.41
自動車	35.1	22.1	24.0	14.9	3.9	100.0(308)	6.06
バス・路面	34.0	34.0	16.0	14.0	2.0	100.0(50)	4.79
鉄道	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	100.0(4)	8.84
その他	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0(2)	1.23
計	42.2	22.6	18.7	13.0	3.5	100.0(455)	5.13

(表 10 の結果の概要と主な特徴)

- ・通勤距離の最小値は両県ともに 0.02km、最大値は愛媛 75.90km、長崎 78.75km。
- ・「徒歩」、「自転車」の通勤距離は短く、愛媛よりも長崎の方が距離は長い。
- ・「バイク」や「自動車」の通勤距離は両県に大きな差は見られない。
- ・両県とも 4 割を超える人が職場から 2km 以内に住んでいる。
- ・職場から 10km 以上のところに住んでいる人の割合は、愛媛よりも長崎のほうが多い。

以上のように、これまでの調査では分からなかったことを分析することができた。したがって、Google Map を用いた分析方法は、作業に少し時間がかかるのが難点ではあるが、郵便番号の回答率は高く、有効な分析が可能である。

通勤時間の測定に関しては、ある程度参考にはなるが、調査票から通勤時間の質問を省くことができるほどの高い精度はないと言える。通勤距離に関しては、今後実施していく他の地域の分析にも取り入れることで、都心部と地方部などの地域差がよりはっきりと数字に表れるであろう。

次に郵便番号の結果が、空間的把握に活用できるのかを松山市民のケースを用いて検討する。次ページの表から、松山市には事業所ごとの個別郵便番号も含めると 491 の番号がある。

【表 11 郵便番号 回答率 松山市 長崎市】 (%)

	回答あり	NA	合計
松山市	72.7	27.3	100.0(231)
長崎市	72.8	27.2	100.0(206)

【表 12 郵便番号数 松山市 長崎市】

	郵便番号	個別郵便番号	合計
松山市	364	127	491
長崎市	357	98	455

日本郵便「郵便番号検索」(<https://www.post.japanpost.jp/zipcode/>)

【図 2 松山市民通勤先 GoogleMap 全体】

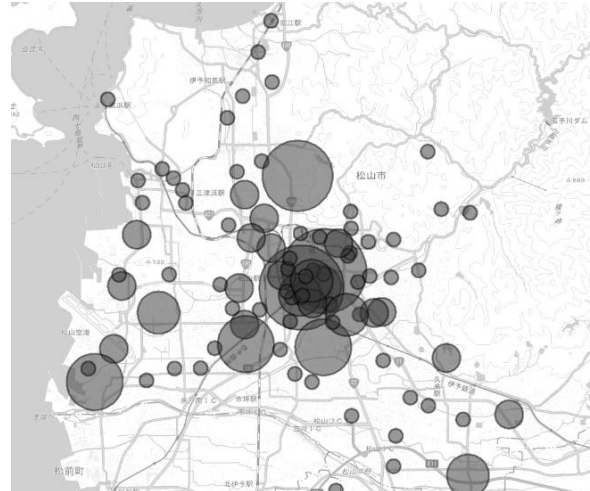


図 2 の松山市を拡大したものが図 3 である。郵便番号で問うことで、松山市内でもここまで詳細に場所が把握できるようになった。また、図 4 のように国土地理院白地図を用いることで、どこに多く通勤しているのかを把握することも可能である。白地図では郵便番号ごとに円を作成する必要があり時間を要したが、空間的に把握することが可能になっている。国勢調査の質問より詳細な位置が把握できたといえるのではないだろうか。

【図 3 松山市民通勤先 GoogleMap 松山中心部】



【図 4 松山市民通勤先 国土地理院白地図】



通勤手段については、主に利用している交通手段を1つ選択する質問とした。長崎県や愛媛県には路面電車やフェリーもあることを踏まえ、選択肢を作成している。結果は表 13 に示している。

【表 13 愛媛・長崎 交通手段】

(%)

	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス・路面	鉄道	フェリー・船	その他	合計
愛媛県	8.2	10.6	10.3	65.4	2.3	1.0	0.2	1.0	100.0(612)
長崎県	9.7	2.1	5.5	69.1	12.0	2.1	0.3	0.3	100.0(619)

(注)各県、回答者本人が勤労者かつ自宅外通勤者で通勤手段回答ありを 100.0%としている

表 13 から、両県とも自動車利用が 65%を超えておりバス・鉄道など交通機関を利用している人は少数であった。対象の 2 県だけでなく、同規模の地域やその他小規模の地域でも、「最寄り駅」や「最寄りバス停名」を問うことは難しいのではないかと考えられる。「郵便番号」の質問は回答率・交通手段・分析それぞれの観点からも、今後の調査にも生かしていけるのではないだろうか。

1-2-4 川崎・神戸・福岡市民生活実態調査

Q22(2) 主な通勤手段は次のどれですか。【1つだけ○】 また、日ごろ使う交通手段でかかる通勤時間（家から職場までにかかる総所要時間）はどれくらいですか。

あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
1. 徒歩	5. 路線バス	1. 徒歩	5. 路線バス
2. 自転車	6. 鉄道	2. 自転車	6. 鉄道
3. バイク	7. その他	3. バイク	7. その他
4. 自動車		4. 自動車	
通勤時間 片道（ 時間 分）		通勤時間 片道（ 時間 分）	

Q22(1) 職場はどちらにありますか。①都道府県・市区町村、②最寄り駅または最寄りのバス停をお答えください。

あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
1. 職場は自宅である⇒Q22(3)		1. 職場は自宅である⇒Q22(3)	
2. ①【 都道府県 】【 市区町村 】		2. ①【 都道府県 】【 市区町村 】	
②【鉄道会社 】【 駅 】		②【鉄道会社 】【 駅 】	
【バス会社 】【バス停名 】		【バス会社 】【バス停名 】	

「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」（以下市民生活実態調査）は、対象地が都市部であったため、NT 調査やマンション調査で利用した最寄り駅を利用した調査票を採用した。さらに、福岡市ではバスの利用が盛んであることが予想され、バス停で職場を問う質問文の実験も行った。

「バス停名」を問う質問は、川崎市や神戸市では十分な回答率を得ることができなかった。職場の最寄りのバス停を尋ねる質問文は3市調査においては福岡市のみにいて有効であると言えるだろう。詳細な分析については3章で行っていく。

1-2-5 関学生親版調査

Q12. 職場はどちらにありますか。①住所、②郵便番号、③最寄り駅、④最寄りのバス停をお答えください。①から④まですべてご記入ください。（④バス停がない場合には【(2)バス停はない】に○）

あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
1. 職場は自宅である⇒Q14へ		1. 職場は自宅である⇒Q14へ	
2. ①【 都道府県 】【 市区町村 】		2. ①【 都道府県 】【 市区町村 】	
【 】		【 】	
②（〒 — ）		②（〒 — ）	
③【鉄道会社 】【 駅 】		③【鉄道会社 】【 駅 】	
④ (1) 【バス会社 】【バス停名 】		④(1) 【バス会社 】【バス停名 】	
(2) バス停はない		(2) バス停はない	

Q 1 3 (1). 主な通勤手段は次のどれですか。【1つだけ○】 また、日ごろ使う交通手段でかかる通勤時間（家から職場までにかかる総所要時間）はどれくらいですか。

あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
1. 徒歩	5. 路線バス	1. 徒歩	5. 路線バス
2. 自転車	6. 鉄道	2. 自転車	6. 鉄道
3. バイク	7. その他	3. バイク	7. その他
4. 自動車		4. 自動車	
通勤時間 片道（ 時間 分）		通勤時間 片道（ 時間 分）	

Q 1 3 (2). 利用している通勤手段の組み合わせは次のどれですか。【1つだけ○】

あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
1. 徒歩のみ	6. 鉄道＋路線バス	1. 徒歩のみ	6. 鉄道＋路線バス
2. 自動車	7. 鉄道＋バイク	2. 自動車	7. 鉄道＋バイク
3. 鉄道	8. 鉄道＋自転車	3. 鉄道	8. 鉄道＋自転車
4. バイク	9. 路線バス	4. バイク	9. 路線バス
5. 自転車	10. その他（ ）	5. 自転車	10. その他（ ）

「関学生親版調査」での通勤先を問う質問文は、これまで大谷研究室で行ってきた質問文「郵便番号」「最寄り駅」「最寄りのバス停」についてすべてに回答してもらい、どの手段が回答しやすいのかについて聞き取り調査も行った。また、通勤先の住所も回答してもらうことで実際の場所とどの程度誤差があるのかなどを今後把握できるような質問文になっている。

通勤手段を問う質問文は、市民生活実態調査でも行った質問文Q13(1)に加えて、同じ質問文で選択肢を変更した質問文Q13(2)を聞いている。変更にあたっては、2010 年度国勢調査における通勤手段の結果から多かった組み合わせを選考に選択肢を作成している。この二つの質問からどのような結果の違いが出ているのかについて分析を行うことができる質問文としている。以下の表 14 は研究室での通勤先に関する質問項目について整理したものである。

【表 14 大谷研究室での調査と通勤先質問内容一覧】

	鉄道会社	鉄道駅	郵便番号	バス会社	バス停
NT 調査(2004)	○	○			
マンション調査(2008)	○	○			
県民生活実態調査(2017)			○		
市民生活実態調査(2019)	○	○		○	○
関学生親版調査(2020)	○	○	○	○	○

次ページの表 15 は NT 調査から関学生親調査までの通勤先を問う質問文の回答率をまとめたものである。「最寄り駅」を見ると福岡市を除くすべての地域で 6 割を超える回答が得られている。トリヴェールや西宮市、川崎市では 8 割を超える回答が得られており鉄道がより身近な地域で回答しやすい質問文であったと考えられる。「郵便番号」についても県民生活実態調査、関学製親番調査どちらも 7 割を超える回答が得られており、「最寄り駅」と変わらない回答率を保っている。「バス停名」について川崎市や神戸市では 15%前後の回答率にとどまった。しかし、バスが発達している福岡では 4 割を超える回答を得ることができており、バス停が盛んに利用されている地域では質問することが可能ではないかと考えられる。

【表 15 NT 調査・マンション調査・市民生活実態調査・県民生活実態調査 通勤先回答率】

		鉄道会社	最寄り駅	バス会社	バス停	郵便番号
NT 調査	須磨 (104)	—	66.3	—	—	—
	西神 (116)	—	72.4	—	—	—
	泉北 (184)	—	66.3	—	—	—
	千里 (125)	—	64.0	—	—	—
	トリヴェール(96)	—	81.3	—	—	—
	平城 (93)	—	77.4	—	—	—
	三田 (121)	—	77.7	—	—	—
	洛西 (80)	—	65.0	—	—	—
マンション調査	西宮市 (553)	—	83.9	—	—	—
県民生活実態調査	愛媛県 (625)	—	—	—	—	75.7
	長崎県 (636)	—	—	—	—	73.3
市民生活実態調査	川崎市 (623)	82.3	82.3	14.3	13.6	—
	神戸市 (586)	74.9	75.4	16.6	16.6	—
	福岡市 (543)	59.5	59.5	43.5	40.5	—
関学生親版調査	全国 (137)	73.7	73.7	30.7	29.9	72.3

(注)「NT 調査」「マンション調査」においては勤労者を 100.0 とし、「県民生活実態調査」「市民生活実態調査」「関学生親版調査」では、勤労者かつ職場が自宅外である人を 100.0 としている。各地名横の()は 100.0 の度数である。

1-3 市民生活実態調査での通勤

市民生活実態調査では、都市部の地域で比較できるよう、政令指定都市の中でも人口が同じ程度の川崎市・神戸市・福岡市の 3 市を対象に調査を実施し、通勤先を問う質問文として「最寄り駅」と「最寄りバス停名」を質問している。3-1 では通勤先について、3-2 では通勤手段について、3-3 では通勤先と通勤手段について地域ごとに分析していく。

1-3-1 市民生活実態調査での通勤先を把握する質問文

【表 16 市民生活実態調査 自宅と通勤先の関係】(%)

	市内	市外	合計
川崎市	26.9	73.1	100.0(510)
神戸市	69.9	30.1	100.0(442)
福岡市	87.3	12.7	100.0(323)

通勤先については、「最寄り駅」「最寄りバス停」の質問を行った。表 16 は居住市と周辺都市が通勤先に関係しているのかを、各市の自宅外通勤者で回答された通勤先最寄り駅から市内・市外かを集計したものである。

(注)通勤者かつ最寄り駅名が回答されたケースを 100.0 とする。

表 16 を見ると、福岡市においては 9 割近くの人が市内に通勤している一方、川崎市の市内通勤者は 3 割以下となり大きな違いがみられた。

川崎市は東京 23 区や横浜市など大都市と隣接しており両市への交通網も発達していること関係していると考えられる。また川崎市は沿岸部に工場があるが、いわゆる会社員等は東京や横浜市へと出て働いているのではないかと考えられ、通勤先について「市外型」といえるだろう。

福岡市は周辺に他の 2 市のような大都市がなく、市内で職住が完結している「市内型」といえるだろう。

神戸市は、大阪などへ大都市の交通手段があり通勤しやすいが、川崎市ほど市外へ通勤している人は多くないことがわかる。福岡市に比べると周辺地域の影響を受けているが、市内で完結できる「市内型」地域なのだろう。すべて人口 150 万都市と規模は変わらないが、周辺の地域との関係や交通機関も含めて違いがあるのだろう。

【表 17 市民生活実態調査 各市×通勤先最寄り駅】

	鉄道沿線	職場最寄り駅	都道府県市区町村
川崎市	JR(42.7%) 東急(16.2%) 東京メトロ(15.4%) 小田急(10.4%) 京急(4.2%) 京王(3.4%) 都営(2.2%)	川崎[川崎市幸区](6.2%) 新宿[東京都新宿区]、溝の口・武蔵溝ノ口[川崎市高津区](各 2.7%) 武蔵小杉[川崎市中原区](2.5%) 品川[東京都港区]、新橋[東京都港区](各 2.1%) 渋谷[東京都渋谷区]、横浜[横浜市西区](各 1.9%)	東京都港区(11.4%) 東京都千代田区(7.3%) 川崎市幸区(6.8%) 川崎市中原区(6.0%) 東京都中央区(5.2%) 東京都新宿区(4.4%) 川崎市高津区(4.1%)
神戸市	JR(43.5%) 神戸市営地下鉄(19.6%) 阪神電車(10.3%) 神戸電鉄(6.4%) 阪急電鉄(5.9%) 大阪メトロ(5.5%)	三宮・三ノ宮・神戸三宮[神戸市中央区](11.1%) 西神中央[神戸市西区](4.3%) 兵庫[神戸市兵庫区](3.6%) 元町・みなと元町[神戸市中央区](3.4%) 垂水[神戸市垂水区](3.0%) 大阪・梅田[大阪市北区]、神戸[神戸市中央区](各 2.7%) 本町[大阪市中央区]、灘[神戸市灘区](各 2.3%)	神戸市中央区(22.3%) 神戸市兵庫区(9.1%) 神戸市灘区(7.5%) 神戸市須磨区(6.6%) 神戸市東灘区・神戸市西区(6.4%) 大阪市北区(5.2%) 兵庫県明石市(4.3%) 神戸市垂水区(4.1%)
福岡市	地下鉄空港線(29.7%) JR 鹿児島本線(24.8%) 西鉄大牟田線(18.4%) 地下鉄七隈線(11.0%) 地下鉄貝塚線(4.2%) JR 筑肥線(3.2%)	JR 博多駅・地下鉄博多駅[博多区](15.6%) 西鉄福岡天神・地下鉄天神・地下鉄天神南[中央区](12.4%) 大橋[南区](3.5%) JR 姪浜駅・地下鉄姪浜[西区](3.2%)	福岡市博多区(29.7%) 福岡市中央区(24.5%) 福岡市早良区(9.0%) 福岡市東区(8.7%) 福岡市南区(6.5%) 福岡市西区(6.1%) 福岡市城南区(3.2%)

(注)職業あり、職場が自宅外、最寄り駅名記入ありを 100.0 とする

表 17 には回答された駅名から、各市の通勤先最寄り駅とその路線名、市区町村名をまとめている。最寄り駅名・市区町村は、福岡市＞神戸市＞川崎市の順に偏りがみられた。偏りが少なくなった川崎市や神戸市は駅名や鉄道路線が多く、駅名で聞くことで詳細な位置の把握につながっているのではないかと考えられる。

表 16・17 より、同規模の政令指定都市の中でも通勤先に異なる実態があることが分かる。1・3・3 で詳細な分析を行っていく。

1-3-2 市民生活実態調査での通勤手段を把握する質問文

表 15 の回答率を見ると、鉄道と自動車の割合にそれぞれ地域ごとの違いがみられることが分かる。鉄道利用割合は、川崎市＞神戸市＞福岡市という順になっていた。

川崎市は 66.7%が通勤手段に鉄道を利用しており、通勤手段は鉄道中心の地域であると言えるだろう。また神戸市は、鉄道利用が約 5 割で川崎市より少ない分自動車の割合が多くなっており、川崎市よりは通勤に鉄道が利

用されていないが、福岡市よりは利用率が多く中間的な地域である。一方、福岡市は鉄道利用が 18.8%と川崎市の 3 分の 1 以下となっており、その分自動車とバスの割合が多くなっているため、自動車中心の地域であると言える。

市ごとに利用通勤手段で見ると、川崎市は「鉄道型」、神戸市は「鉄道・自動車併用型」、福岡市は「自動車型」というように同じ政令指定都市でも異なった傾向がみられることが分かった。

【表 18 市民生活実態調査 各市の通勤手段】 (%)

	徒歩	自転車	バイク	自動車	路線バス	鉄道	その他	合計
川崎市	6.1	10.5	2.4	8.7	5.2	67.0	0.2	100.0(621)
神戸市	8.7	8.0	3.6	22.3	7.5	49.3	0.5	100.0(584)
福岡市	9.9	14.7	3.7	36.6	14.3	18.8	2.0	100.0(538)

(注)仕事をしており、職場が自宅外である人を 100.0 としている。

1-3-3 調査対象地ごとの通勤実態

この項では川崎市・神戸市・福岡市を、通勤先・通勤手段を踏まえながら特徴を探っていく。

1-3-3-1 川崎市民の通勤

この項では川崎市民の通勤先最寄り駅の場所と通勤手段をクロス分析することで特徴がみられるのかについて検証していく。

【表 19 川崎市 通勤先最寄り駅所在地別(川崎市・東京都・横浜市) 通勤手段】

		徒歩	自転車	バイク	自動車	路線バス	鉄道	その他	合計
通勤先駅	川崎市	16.2	25.4	2.3	3.1	6.9	46.2	0.0	100.0(130)
	東京都(NA=3)	0.4	1.5	0.0	3.3	1.1	93.8	0.0	100.0(274)
	横浜市	4.8	6.3	3.2	22.2	3.2	60.3	0.0	100.0 (63)

(注)職場が自宅外である人で、通勤先最寄り駅を記入している人を 100.0 とする。川崎市、横浜市への通勤者に通勤手段が NA のケースはなかった。

表 19 では、通勤先を川崎市、東京都、横浜市に分類し、通勤手段をクロス分析した表である。東京都への通勤者は 9 割以上が鉄道で通勤しており、自動車はほとんど利用されていなかった。横浜市への通勤者は、鉄道利用者が約 6 割で川崎市に比べ減少している一方で、自動車の利用が増加していた。川崎市内への通勤者は 46.2%が鉄道利用となり東京都や横浜市への通勤者より減少した分、徒歩と自転車の割合が増加しており公共交通機関を利用することなく通勤できる自宅付近が多いと考えられる。

このことから東京都心近郊の川崎市民は、市内通勤者は近場で徒歩や自転車等を利用し、東京都心への通勤者はほとんどの場合鉄道を利用し、東京から離れる横浜市への通勤者は鉄道と自動車の利用が多くなる等通勤先により傾向が異なると考えられる。

1-3-3-2 神戸市民の通勤

この項では神戸市民の通勤について「GoogleMap」「最寄り駅名」「通勤手段」の 3 つの視点から分析していく。

①GoogleMap での視覚的把握

図 5 は神戸市民の通勤先最寄り駅上位 10 駅を GoogleMap のマイマップ機能を利用しマッピングしたものである。地図で見ることで視覚的に位置を把握することができるようになった。通勤先は多くが神戸市で大阪市内は 2 駅のみであった。神戸市民は大阪に行っていると思われるがあまり通勤していないと言えるだろう。

利用されているすべての地域を把握するとさらにどこに集中しているかを把握することも可能になる。またマッピングは色分けを変更することも可能である。利用者が多い所の色の変更など工夫することで、どこに利用者が集中しているのかなど、さらなる把握も可能になる。

【図 5 神戸市 通勤先最寄り駅(上位 10 駅)】



②最寄り駅名を用いた通勤先の把握

表 20 はマンション調査と市民生活実態調査(神戸市)の、回答された最寄り駅名を用いて比較した表である。

【表 20 西宮市と神戸市の通勤駅】

	路線	通勤駅	市区町村
マンション (NA=84)	JR(25.4%) 阪神電車(25.2%) 阪急電鉄(22.4%) 大阪市営地下鉄(21.1%)	大阪・梅田[大阪市北区](5.4%) JR 西宮[西宮市]、淀屋橋[大阪市中央区](4.7%) 甲子園駅[西宮市](3.9%) 本町[大阪市中央区](3.7%)	兵庫県西宮市(27.9%) 大阪市中央区(14.6%) 大阪市北区(9.7%) 兵庫県尼崎市(8.6%) 神戸市中央区(5.8%)
神戸市 (NA=25)	JR(43.5%) 神戸市営地下鉄(19.6%) 阪神電車(10.3%) 神戸電鉄(6.4%) 阪急電鉄(5.9%)	三宮・三ノ宮・神戸三宮[神戸市中央区](11.1%) 西神中央[神戸市西区](4.3%) 兵庫[神戸市兵庫区](3.6%) 元町・みなと元町[神戸市中央区](3.4%) 垂水[神戸市垂水区](3.0%)	神戸市中央区(22.3%) 神戸市兵庫区(9.1%) 神戸市灘区(7.5%) 神戸市須磨区(6.6%) 神戸市東灘区、神戸市西区(6.4%)

2つの地域は、同じ大阪周辺の地域であるが、大阪市への通勤者の多いマンション調査(西宮市)と神戸市への通勤者の多い神戸市のデータで違いがあることが分かる。

③通勤手段比較 ～鉄道・車通勤～

ここでは車と鉄道の通勤手段でどのような違いがみられるかを分析している。表は、神戸市民で、労働している人かつ職場が自宅外の人を対象としている。

【表 21 神戸市 車通勤・鉄道通勤者の年齢】 (%)

	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	合計
車通勤 (NA=10)	5.6	10.4	28.0	29.6	17.6	8.8	100.0(125)
鉄道通勤 (NA=16)	12.6	17.6	25.5	24.5	16.2	3.6	100.0(278)

【表 22 神戸市 車・鉄道通勤者の居住区】

(%)

	東灘区	灘区	兵庫区	長田区	須磨区	垂水区	北区	中央区	西区	合計
車通勤	5.4	4.6	1.5	3.8	15.4	21.5	22.3	3.8	21.5	100.0(130)
鉄道通勤	19.1	11.8	4.5	4.9	12.8	15.6	11.1	8.0	12.2	100.0(288)

【表 23 神戸市 車・鉄道通勤の比較】

	市区町村	最寄り駅
鉄道通勤 (NA=25)	神戸市中央区(27.5%) 大阪市中央区(7.4%) 神戸市灘区(7.1%)	三ノ宮・三宮[神戸市中央区](13.3%) 梅田・大阪[大阪市北区](4.8%) 元町・みなと元町[神戸市中央区](4.5%)
車通勤 (NA=66)	神戸市西区(15.9%) 神戸市北区(14.5%) 神戸市中央区・兵庫県明石市(11.6%)	西神中央[神戸市西区](11.6%) 三ノ宮・三宮[神戸市中央区](7.2%) 岡場[神戸市北区](5.7%)

【図 6 神戸市 自動車通勤先最寄り駅】(国土地理院 白地図より作成)



表 21～表 23 で鉄道通勤は、20 代・30 代が車通勤に比べ多くなっている。また東灘区・灘区・垂水区・須磨区沿岸地域において車通勤に比べ割合が高くなる傾向がみられた。

自動車通勤では 40 代以上の割合が多く、垂水区や西区等西側のエリアと、北区の神戸市中心部から離れた地域が多かった。また、鉄道通勤と異なり北区や西区、その隣の明石市等への通勤が多かった。

図 6 は、自動車通勤の自動車通勤者の通勤先最寄り駅を集計し国土地理院の白地図にある作図機能を用いて、地図に落としたものである。円の大きさは人数に比例している。作図機能は一つずつ円を作成しサイズを指定する必要があるため少し手間がかかってしまったが、地図で見ることで視覚的な把握が可能になっている。

鉄道駅が沿岸部に多いため集中しているようにみえるが、内陸部には円の大きいところも見られた。今後、鉄道通勤でこの機能を用いることで集中している箇所を見ることが出来るのではないだろうか。

1-3-3-3 福岡市民の通勤

福岡市民の居住区と通勤手段を GoogleMap やクロス分析を用いて分析していく。

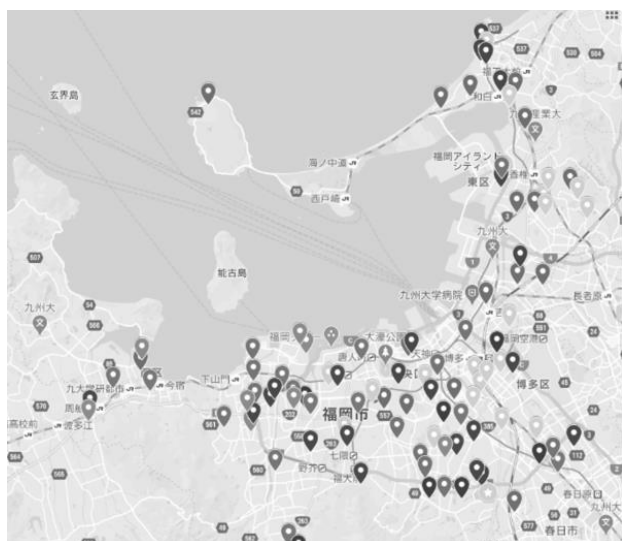
①GoogleMap での通勤手段ごとの居住地

福岡市の通勤手段ごとに、どの区に居住しているのか GoogleMap を活用して空間的な把握が可能であるか検証していく。

【図 7 福岡市 鉄道通勤者 居住地】



【図 9 福岡市 自動車通勤者 居住地】



【図 8 福岡市 バス通勤者 居住地】



図 7～図 9 はそれぞれ鉄道通勤者、バス通勤者、自動車通勤者の自宅所在地をマッピングしたものである。図 7 を見ると鉄道通勤者は円で示している南区が少ないことが分かる。南区には鉄道駅は 4 駅しかなく他の区に比べ少ないこと、区の北部に路線が集中していることから鉄道利用者が少ないことが地図に表れている。

また図 8 のバス通勤者の居住地は西区の中でも西側のエリアに少ないことが分かる。福岡市中心部には西鉄バスにより市内各地から中心部へ向けたバスが多く運行されているが、西区の西側エリアでは西鉄バスが運行しておらず、福岡市中心部に行くためには鉄道又は自動車を利用しなければならないことも影響してこのような結果

になったのではないかと考えられる。

GoogleMap のマイマップにはマッピング部分の色を変更する機能もあり、通勤先によって色を変えることでさらなる分析も可能であるだろう。

②クロス分析での居住区ごとの通勤手段

表 24 は居住区と通勤手段の関係を表にまとめたものである。各区で一番利用の多い通勤手段は、中央区の鉄道を除いたすべての区で自動車となり、3 割以上が自動車通勤という結果となった。東区は約半数が自動車通勤となっている。また福岡市の中心部でオフィス街などが多い博多区と中央区の居住者に徒歩や自転車が多く利用されている。職場近くに居住し公共交通機関を利用せずとも通勤できるのではないかと考えられる。

GoogleMap で通勤実態を見ることで福岡市の中でも地域によって違いがみられることが分かった。また多くの区で自動車通勤が 3 割を超えていることから政令指定都市でも分析や質問文を作成する際に自動車通勤を考慮する必要があるのではないかと考える。

【表 24 福岡市 本人通勤手段】

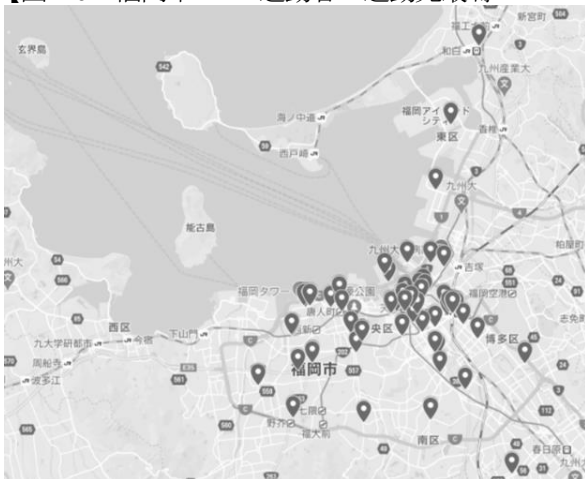
(%)

		本人通勤手段							合計
		徒歩	自転車	バイク	自動車	路線バス	鉄道	その他	
居住区	東区	3.1	9.3	3.1	47.4	14.4	22.7	0.0	100.0(97)
	博多区	22.5	14.6	4.5	34.8	11.2	10.1	2.2	100.0(89)
	中央区	16.4	19.4	1.5	16.4	14.9	25.4	6.0	100.0(67)
	南区	7.1	15.5	4.8	41.7	13.1	16.7	1.2	100.0(84)
	西区	8.6	16.0	6.2	37.0	8.6	23.5	0.0	100.0(81)
	城南区	6.8	6.8	4.5	38.6	22.7	15.9	4.5	100.0(44)
	早良区	3.9	19.7	1.3	35.5	19.7	17.1	2.6	100.0(76)

③バス停質問から見える福岡市の実態

図 10 は福岡市のバス通勤者の通勤先最寄りバス停、図 11 は自宅最寄りバス停を GoogleMap で表示したものである。自宅最寄りは西区、東区、南区と広い範囲に点在しているのに対し、通勤先は中央区、博多区の中心部に多く、西区、東区、南区等中心部周辺の区がほとんどいないということが分かる。福岡市内のバスは市内各地から中央区天神や博多区博多駅周辺へと向かうバスが多くなっている。通勤先・自宅それぞれの最寄りバス停にもその傾向がみられているのではないかと考える。

【図 10 福岡市 バス通勤者 通勤先最寄



【図 11 福岡市 バス通勤者 自宅最寄



1-4 関学生親版調査

関学生親版調査では、比較のため「最寄り駅」「最寄りバス停」「郵便番号」すべてについて回答してもらった。また聞き取り調査では、「職場所在地を問う質問についてどの質問が回答しやすいか」、「コロナウイルスによる通勤の変化」を聞いた。(質問文は巻末を参照) 本章では「回答のしやすさ」の聞き取り調査について分析を行う。

【表 25 回答しやすさ意見(抜粋)】

最寄り駅	答えやすい	普段電車で通勤しているので最寄り駅が最も回答しやすかった。
		最寄りの駅は1つしかないため回答しやすかった。
		自宅と職場の最寄り駅が一緒なので、最寄り駅についての質問が書きやすかった。
		最寄り駅はJRや阪急等たくさんの駅があるため普段利用している駅を書きました。
		路線のことが聞かれていないため、疑問に思うことなく最寄り駅を答えた。複数あっても同じ駅名なので、その駅名を答

	答えにくい	えた。(大阪メトロ内)
		職場へは、自転車で通勤しているため電車は使わないが、日常的に利用しているため最寄り駅は回答しやすかった
		最寄り駅と便利な駅は違う場合がある。
		職場の近くに駅がいくつかあるのでどれが最寄りかといわれると分からない。
		車通勤のため最寄り駅は回答しづらかった
		地方に住んでいるので公共交通機関がほとんどないので、バス停や駅名は回答しづらかった。
		最寄り駅と言っても車で往復 50 分はかかる。普段使わない自分はどう回答すべきか迷った
		田舎の場合、本当に職場から近いとは限らないし、通勤に利用しているとは限らない。
		最寄りが名古屋駅で、電車 (JR・名鉄・地下鉄・新幹線) バス (市営・JR・名鉄) など多くあるので回答しづらかった。
		健康のために勤務先の 2 つ手前の駅から歩いているので、「立地的に近い駅」を問われていても、普段利用していない
最寄りバス停	答えやすい	最寄り駅は近くにないが、最寄りのバス停は仕事場の目の前にあるためバス停は回答しやすかった。
		<u>近くに電車の駅、バス停があるので回答しやすかった。特に難しいと感じることもなかった。</u>
		電車の駅は少し距離があるがバス停は近くにある。バス停については人に職場の場所を説明するときによく使うので頭に入っておりすぐに回答しやすかった。
		最寄りのバス停はかなり遠くにあるので考えなく、一番回答しやすい。
	答えにくい	<u>バス停は利用していない。</u>
		距離的に一番近くにあるのはバス停だが、そのバス停名がわからなかったため、回答できなかった。
		バス停は近くにないし、あってもバス停の名前は覚えていない
		バスは利用していないので回答するために最寄りのバス停を調べる必要があった
		バスは周囲に二か所停留所がありどちらの名前を出すか迷ったという。停留所は行き先により変える人もいるので何が最適な答えになるのかが明白にはならないと私は考える。
郵便番号	答えやすい	<u>郵便番号は、仕事柄毎日書く必要があるため回答は苦ではなかった。</u>
		<u>居住地が田舎にあるため、最寄りのバス停や駅は記入しづらかった。郵便番号が 3 つの中では比較的簡単に答えることができた。</u>
		宅急便の利用機会が多く、その際に郵便番号を使うので郵便番号が回答しやすい。
		書類や郵便物を送る際によく確認するので郵便番号が答えやすかった。通勤はずっと車なので最寄り駅やバス停は馴染みがない。
		郵便番号が答えやすかった。名刺に書かれているので名刺を見ればすぐ書けた。田舎に住んでいるので車通勤であり、電車やバスは使わないので、最寄り駅を聞かれてもどこが最寄り駅が分からなかった。
	答えにくい	<u>郵便番号は調べないと分からないので回答しにくかった。</u>
		郵便番号名刺を見たらすぐにわかるがパツと思いつけなかった。
		最近転勤したから郵便番号を覚えてない。
		郵便番号は、行政区住所と郵便番号で区別されている住所が違っているためどちらを書くかで迷った。

表 25 では回答しやすさについて抜粋したものである。各項目多くみられたケースを下線で示している。田舎のため「最寄り駅」や「最寄りバス停」は回答しづらいという意見が多かった。

表 26 はそれぞれ回答しやすさについての意見をまとめたものである。回答者本人に対して聞き取り調査を行ったが、一部配偶者に関する回答がみられたのでまとめている。配偶者については分からない場合ネットで検索して回答しているケースが多かった。

【表 26 配偶者について回答しやすさ(抜粋)】

最寄り駅	答えやすい	会話の中で最寄り駅を知っていたから
		郵便番号や最寄りはネットで調べられるので答えるのが簡単だった。
		鉄道最寄り駅がすぐに回答できる。
	答えにくい	徒歩通勤のため最寄り駅やバス停は回答が困難。
最寄りバス停	答えにくい	<u>徒歩通勤のため最寄り駅やバス停は回答が困難。</u>
郵便番号	答えやすい	配偶者のことはインターネットで気軽に調べることができる、郵便番号が回答しやすかった。
		郵便番号や最寄りはネットで調べられるので答えるのが簡単だった。
		郵便番号がすぐに思い浮かばず回答できない。

【表 27 回答しやすさ項目】 本人自宅外通勤者=137(うち聞き取り調査回答数=127)

	全数 (NA=25)
最寄り駅	64.7
最寄りバス停	12.7
郵便番号	34.3
すべて回答しにくい	2.0

表 27 から、「最寄り駅」がもっと答えやすかった人が多いという結果になった。これは、関学生の親の居住地が大阪・兵庫など関西が多いということも影響していると考えられる。

(注)「すべて回答しやすい」「最寄り駅・郵便番号が回答しやすい」等複数回答している場合は、それぞれの項目でカウント

1-5 考察

【表 28 分析で分かった地域ごとの通勤と質問文の提案】

地域	地名	地域の特徴	通勤先	通勤手段	質問文
大都市周辺 (東京・大阪)	関西 NT	・鉄道の路線を中心に開発	市外型	鉄道中心 (一部 NT は自動車)	最寄り駅
	西宮市	・鉄道路線が発達 ・大阪・神戸の間	市外型 (中心都市)		最寄り駅
政令指定都市	川崎市	・東京・横浜の大都市に隣接 ・鉄道が発達	市外型	鉄道中心	最寄り駅
	神戸市	・市内の鉄道が発達(大阪等 周辺都市への鉄道もあり)	市内型	鉄道・自動車併用型	最寄り駅 (郵便番号)
	福岡市	・バスが発達 ・周辺に大都市がない	市内型	自動車・バス型	最寄り駅・バス 停 (郵便番号)
地方都市 (その他)	愛媛県 (松山市)	・交通機関はある程度ある	市内型	自動車型	郵便番号
	長崎県 (長崎市)	・坂道の多い地形	市内型	自動車型	郵便番号

今回分析を通して、地域によって通勤先や通勤手段には違いがみられ、地域の特徴も関連していることが分かった。また同じ人口規模の政令指定都市でも回答率や結果に違いがみられた。「最寄り駅」「最寄りバス停」「郵

便番号」の質問で得られた結果を、GoogleMap や国土地理院白地図を用いて空間的な把握をすること、クロス分析を行うことで特徴も見ることができた。国勢調査で得られる市区町村だけでは分からないことであつたと思う。

これらのことから、通勤先を詳細に把握する質問は、全国一律の同じ質問で問うことはできないといえるだろう。対象地域にあつた通勤先を尋ねる質問文を検討していく必要があるといえるだろう。

表 28 では今回分析等を行った「関西 NT 調査」「マンション調査」「県民生活実態調査」「市民生活実態調査」の対象地域「大都市」「政令指定都市」「地方都市」に分け、それぞれの地域の特徴と、通勤先・通勤手段の特徴、その地域で活用可能である質問文をまとめたものである。

以下の表 29 では、今後通勤先を把握するために、今後どの質問文を活用していくとよいかについて、今回の分析結果と国勢調査の通勤手段質問の結果を踏まえまとめたものである。

【表 29 質問文と地域】

質問文	地域
最寄り駅	<u>東京・大阪</u> <u>川崎・西宮</u> などの東京・大阪の周辺地域で通勤が可能な、鉄道利用が多い地域(ex 横浜)
最寄りバス停	<u>福岡</u> のようにバスが発達している地域 (ex 広島・長崎・沖縄)
郵便番号	上記以外の地域

(注) 総務省統計局(01-11_5.pdf (stat.go.jp))

e-stat 国勢調査の通勤手段結果(<https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003063783>)

国勢調査の通勤質問から、通勤・通学にバスを利用している人が福岡と同程度かそれ以上の割合であつたところは、広島県・長崎県・沖縄県であつた。その中でも利用が多いと考えられる中心部の市区町村では問うことのできる可能性があるだろう。今後は対象地域にあつた調査をしていくことが重要となってくるだろう。

2 社会調査と空間的分析法

2-1 買い物行動・生活圏測定調査の変遷

大谷研究室では生活圏の測定、また医療弱者、買い物弱者の把握を目的として県民生活実態調査で食料品の購入、および日頃利用する病院を訪ねる質問を取り入れた。自治体側が人々の買い物行動・通院行動を把握しようとする社会調査はほとんど行われていないのが現状である。愛媛県庁営業本部ではスーパー等の情報を集めるうえで全国スーパーマーケットマップを使用している。大谷研究室の買い物行動・通院行動調査では Google Map によるマッピング機能を駆使した新たな分析法によりこれまでの社会調査には存在しなかった統計の地図化が可能になった。統計の地図化によって人々の生活はより可視的となり、都市の土地的な傾向が社会調査と空間的分析法で明らかになることが証明された。本節ではこれまでの買い物行動・通院行動の質問がどのように変化してきたのかをまとめている。

2-1-1 店舗名を尋ねる調査票の作成

県民生活実態調査では、買い物行動について「この1年間に最もよく利用した店舗名と支店名」を問うかなり実験的な質問文を設け、Google Map によるルート検索が今後の調査において分析ツールとして有用なものとなり得るかどうかを検証した。以下が実際に調査で使った調査票である。

- 22 食料品（朝食や夕食の食べ物）を購入するにあたり、あなたの世帯で「この1年間」に、最もよく利用した店舗名と支店名をお書きください。
支店名が分からない場合は、町名など場所を示すことをお書きください。
例：「エレナ〇〇店」「イオン〇〇店」「ファミリーマート〇〇店」「道の駅〇〇」「〇〇駅前の〇〇商店」

1. 店舗名【 】

2. 店舗はまったく利用していない ⇒ p.9 23

- 23 あなたが風邪をひいたり、体調をこわした時に、診察を受ける病院（診療所を含む）の名前をお書きください。またその病院がある市町名もお書きください。
(例)「〇〇内科クリニック」(長崎市)「〇〇診療所」(佐々町)「大村市民病院」(大村市)

病院名【 】 市区町村【 】

この質問の回答に記載された店舗名を Google Map で調べ特定し、特定率を算出したところ、下の表のようになった。マッピングの手法や使用した Excel データは別に保管されている。

【表1 店舗名記入率および特定率】

愛媛	店舗名	病院名	長崎	店舗名	病院名
特定	85.2	96.4	特定	90.8	93.4
特定不可	14.8	3.6	特定不可	9.2	6.6
NA	5.4	12.1	NA	7.9	11.0
合計	100.0 (1210)	100.0 (1210)	合計	100.0 (1226)	100.0 (1226)

予想よりも店舗、病院共に回答率が高く、比較的答えやすい質問であることが分かった。また同じ市町村に複数の店舗を構えるチェーン店もあるため、支店名が正しく記入されていない場合は、特定が難しく店舗名は病院より特定率が低い結果となった。

1-2 市民生活実態調査質問文作成の経緯

市民生活実態調査では、川崎市の職員の方の意見を参考にして作成した。当初は店舗名を尋ね、新たに最も利用するコンビニについて店舗名を尋ねるつもりであったが、特定の店舗名が記載された情報は行政調査では利用しにくいとのことで、自由記述を無くし、選択式を採用した。全てのデータを SPSS に入れることを可能とし作業の効率化を図り、家電・美容室・衣料品の項目も増やした。以下が新しい調査票と回答率の表である。

Q④ あなたが最もよく利用する店舗・病院はどちらにありますか。それぞれについてあてはまるものを1つだけ選んでお答えください。【1つだけ〇】

	自宅から 800m圏内 (徒歩10分程度)	自宅から 2.4km圏内 (徒歩30分程度)	その他の 市内	市外	店舗等は 利用しない
食料（朝食や夕食の材料）の購入	1	2	3	4	5
外出着などの衣料品の購入	1	2	3	4	5
家電の購入	1	2	3	4	5
床屋・美容院	1	2	3	4	5
病院(風邪を引いたり体調を崩した時)	1	2	3	4	5

Q④(1) あなたが最もよく利用する店舗・病院に行く場合、普段利用する交通手段は次のどちらですか。主な交通手段を1つだけ選んでお答えください。【1つだけ〇】

食料(朝食や夕食の材料)の購入	1.徒歩 2.自転車 3.バイク 4.自動車 5.路線バス 6.鉄道 7.その他
外出着などの衣料品の購入	1.徒歩 2.自転車 3.バイク 4.自動車 5.路線バス 6.鉄道 7.その他
家電の購入	1.徒歩 2.自転車 3.バイク 4.自動車 5.路線バス 6.鉄道 7.その他
床屋・美容院	1.徒歩 2.自転車 3.バイク 4.自動車 5.路線バス 6.鉄道 7.その他
病院(風邪を引いたり体調を崩した時)	1.徒歩 2.自転車 3.バイク 4.自動車 5.路線バス 6.鉄道 7.その他

【表2 回答率：食料の購入】

	店舗利用あり	店舗等は利用しない	NA	合計
川崎	95.3	1.6	3.1	100.0 (944)
神戸	94.3	2.2	3.5	100.0 (1022)
福岡	95.5	1.2	3.3	100.0 (911)

【表3 回答率：病院】

	店舗利用あり	店舗等は利用しない	NA	合計
川崎	95.3	1.6	3.1	100.0 (944)
神戸	94.3	2.2	3.5	100.0 (1022)
福岡	95.5	1.2	3.3	100.0 (911)

表1と比べるとNA率が下がり、簡略化した質問文の方がデータの収集率が若干高くなる結果となった。

1-3 住所の特定率

Google Mapで住所が特定できなかったデータ数をもとに特定率を算出したものが以下の表である。

【表4 住所特定率】

	特定可能	特定不可	合計
川崎	95.9	4.1	100.0 (899)
神戸	96.6	3.4	100.0 (962)
福岡	95.1	4.9	100.0 (869)
松山	95.9	4.1	100.0 (339)
長崎	99.4	0.6	100.0 (327)

5都市とも高い特定率であり、住所をもとにした空間的分析法は十分に使用可能であることが証明できる。

2 空間的分析法を駆使した地方都市の生活圏分析

2つ調査の比較を可能にするため、Google Mapでのルート検索をもとに店舗への距離を0~800m、801~2400m、2401m~最大値で区切り、比較を可能にした。松山市、長崎市にデータを絞り、店舗住所と本人住所を一つ一つ確認することで市内、市外を判定したものが以下の表である。

【表4 食料の購入】

市	800m 以内	2.4km 以内	市内	市外	合計
川崎	67.1	26.4	4.6	2.0	100.0 (899)
神戸	54.0	36.1	9.1	0.8	100.0 (962)
福岡	61.2	31.2	6.6	1.0	100.0 (869)
松山	24.2	45.1	26.0	4.7	100.0 (339)
長崎	14.7	33.3	43.4	8.6	100.0 (327)

【表5 食料品店舗への交通手段】

市	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス・路面電車	鉄道	その他	合計
川崎	47.2	23.2	1.8	23.8	2.5	1.5	0.0	100.0 (881)
神戸	40.1	14.2	2.4	36.7	4.5	1.7	0.3	100.0 (969)
福岡	33.0	17.2	2.2	44.5	1.4	0.8	0.8	100.0 (860)
松山	11.6	17.0	7.3	63.1	0.7	0.0	0.2	100.0 (423)
長崎	28.1	3.0	3.3	54.2	9.3	0.0	2.2	100.0 (367)

川崎市：約70%の人が800m圏内で買い物をしている。徒歩、自転車が多く、交通機関を使う人は少ない。

神戸市：少数ではあるが、政令指定都市3市の中では一番路線バスが利用されている。

福岡市：政令指定都市3市の中で一番自動車が利用されている。

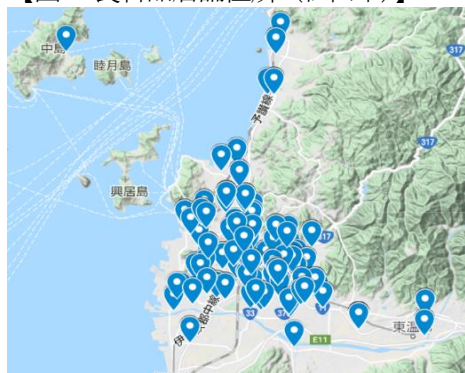
松山市：2.4km圏内で買い物をする人が多い。徒歩で食料品を買いに行く人は1割程度である。

長崎市：2.4km以上離れたところで買い物をする人が多く、市外で買い物をする人が最も多い。松山同様自動車の利用率が高いが、路面電車の利用率が5都市の中で突出して高いことが特徴的である。

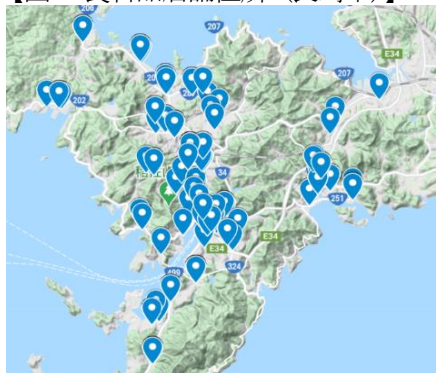
2-1 松山市、長崎市の生活圏

店舗名を直接聞いたことで利用している店舗住所のデータも存在する松山市と長崎市を分析していく。2つの都市で共通している点は政令指定都市である川崎市・神戸市・福岡市と比べると買い物行動圏が広く、自動車の利用率が高いことである。これらの特徴は典型的な日本の地方都市の実情であるだろう。

【図1 食料品店舗住所（松山市）】



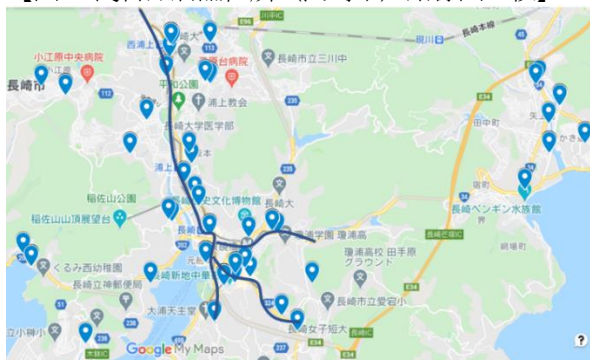
【図2 食料品店舗住所（長崎市）】



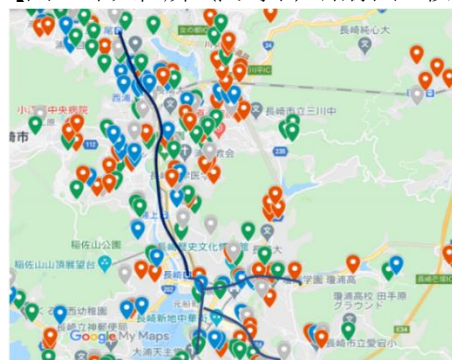
図から地形的な特徴が人々の生活圏に影響を与えているであろうことが分かる。松山市は開けた土地に食料品店舗が密集して分布しているが、長崎市は山に囲まれて生活空間が分断され、山間に食料品店舗が分布している。

松山市内はどこに住んでも通勤同様、食料品店舗への利便性が苦にならないことが考えられる。

【図3 食料品店舗住所（長崎市）路線図比較】



【図4 本人住所（長崎市）路線図比較】



長崎市を拡大すると、食料品店舗が路面電車の路線図上に沿って分布している。本人住所と比較すると、店舗が所在する場所と人々の住所にギャップがある。Google Map を使って実際のルートを確認しても山付近から路線図上の市街地のスーパーへ通っている事例が多くみられた。このことが長崎市の買い物行動圏域が広がっている大きな要因ではないだろうか。また、この傾向は病院においても同様であった。

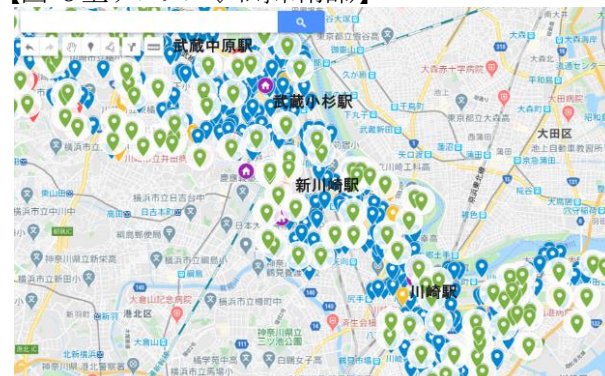
2-2 川崎市の生活圏分析

同様の方法で川崎市を分析する。利用している店舗の住所を特定できないため、本人住所のみの分析となる。

【図5 全サンプル(川崎市北部)】



【図6 全サンプル(川崎市南部)】



●⇒800m 圏内 ●⇒2.4km 圏内 ●⇒その他市内 ●⇒市外

800m 圏内では多くのマッピングがされているのに対し、800m~2.4km ではマッピングされていない地域は溝の口や武蔵小杉といった人口が多く、川崎市を構成する主要な鉄道駅付近であることが分かった。主要駅近くに住む人ほど食料品を自宅から近くで購入し、駅周辺にスーパーが分布しているのではないかと予想できる。この傾向は神戸市の東側や福岡市の市営地下鉄沿線にも見られた。通勤同様に政令指定都市では買い物においても「最寄り駅」が関連してくるということが言える。市単位のマッピングによって明らかになることはここまでの限界であるだろう。分析で利用した地図データは別で DVD に保存している。

3.店舗名を直接聞くことで可能な分析

簡略化した質問文でもある程度生活圏の把握が可能であることが分かったが、本章では質問を簡略化したことについて妥当であったのかを考察する。

3-1 新質問文の検証

新質問項目からどのような結果が得られたのかをそれぞれの集計表から検証する。

【表 6 衣料品の購入】

市	800m 以内	2.4km 以内	市内	市外	店舗利用なし	合計
川崎	13.5	35.1	22.8	23.0	5.6	100.0 (906)
神戸	9.1	34.0	47.9	5.1	3.8	100.0 (974)
福岡	7.8	35.9	48.4	3.0	4.9	100.0 (879)

【表 7 衣料品の交通手段】

市	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス	鉄道	その他	合計
川崎	14.4	12.2	1.5	28.4	10.1	33.1	0.2	100.0 (860)
神戸	11.2	5.7	1.8	42.3	8.1	30.1	0.8	100.0 (953)
福岡	6.9	8.0	1.8	54.2	13.2	14.5	1.4	100.0 (840)

【表 8 家電の購入】

市	800m 以内	2.4km 以内	市内	市外	店舗利用なし	合計
川崎	12.8	32.8	29.0	16.6	8.8	100.0 (906)
神戸	9.6	36.6	42.9	3.5	7.4	100.0 (970)
福岡	10.3	36.4	45.0	2.2	6.2	100.0 (874)

【表 9 家電の交通手段】

市	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス	鉄道	その他	合計
川崎	12.8	9.1	0.6	44.7	7.6	23.7	1.5	100.0 (826)
神戸	9.3	4.8	1.4	60.9	5.6	14.4	3.5	100.0 (911)
福岡	7.0	6.7	1.2	67.5	8.2	6.2	3.2	100.0 (825)

【表 10 床屋・美容院】

市	800m 以内	2.4km 以内	市内	市外	店舗利用なし	合計
川崎	33.9	32.3	11.7	17.1	5.1	100.0 (908)
神戸	31.1	31.7	26.3	5.8	5.0	100.0 (980)
福岡	32.2	35.9	23.8	2.8	5.2	100.0 (878)

【表 11 床屋・美容院の交通手段】

市	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス	鉄道	その他	合計
川崎	37.6	19.3	1.9	11.5	6.3	23.1	0.5	100.0 (862)
神戸	32.8	10.3	3.1	27.7	7.4	17.7	1.1	100.0 (945)
福岡	28.0	16.8	1.8	37.5	6.3	8.4	1.2	100.0 (838)

- ・衣料品と家電がほとんど同じような結果が出た。
- ・3市で共通していることは衣料品を徒歩圏で購入している人が少ないという点である。
- ・川崎市は市外へ生活圏が広がっていることが分かる。また、鉄道が多く使われている。
- ・神戸・福岡はほとんど生活圏が市内で収まり、福岡は自動車とバスが多く使われている。

3-2 店舗形態別の分析

店舗名を聞くことで可能な分析法の1つとして店舗を軸とした分析法がある。店舗の形態やどのような属性の人々が利用しているのかは簡略化した質問ではできない分析である。次ページの表は日本全国スーパーマーケット情報(AJSM) (注1) が示した店舗分類をまとめたものである。

【表 12 店舗分類表】

総合スーパー	日常生活に必要な物を総合的に扱う、大衆向けの大規模な小売業態である。	Ex)イオン、フジグランなど
食料品スーパー	基本に住宅街の近くに立地し、高頻度に消費される食料品や日用品、生鮮食品を主力として扱い、日常生活を支えることを目標に売り場にある商品で1週間生活できるような品揃えを行うものとされている。	Ex) フジ、セブンスターなど
小型食料品スーパーマーケット	日用品や食料品などをセルフサービスで買えるようにした小売業態で、当サイトでは「大規模小売店舗立地法」の届出が必要のないものを中心に概ね売り場面積が小さい店舗を収録。	Ex) サニーマート、S マートなど
食品ディスカウンター	特売期間を設けず、年間を通じて同じ低価格で販売する価格戦略を展開する店舗。常時低価格販売を行い徹底した売上原価の低減とローコストオペレーションが基本となる。	Ex) ダイレックス、ラ・ムーなど

(注1) 経済産業省から発表される「大規模小売店舗立地法(大店立地法)」届出内容・各企業様から発表されるニュースリリースやフィールドマンの現地情報などを基に内容を整理しているウェブサイト

分類表をもとに松山市と長崎市において利用者の多かった上位3店舗について特徴をまとめた。

【表 13 利用上位3店舗の特徴】

	松山市	長崎市
1位	フジグラン松山 (平均年齢：47.6歳) 総合スーパー JR松山駅から徒歩10分と立地が良い。便利な場所にありながら、近所の人はもちろん、遠方から来ている人もいる。近くに住む高齢者が自動車や自転車を通う、遠くに住む若い人が自動車を通うパターンが主流。	イオン長崎 (平均年齢：56.7歳) 総合スーパー 松山は大型スーパーの利用者ほど自動車の利用が多かったが、長崎は公共交通機関(特に路面電車)の利用率が高い。坂の多い長崎の中でもこの付近は平地であり、駐車場が不便であることも重なってかバイクの利用率が高い。全体的に60代の利用者が多い。利用者の範囲はそこまで広がらない。
2位	フジグラン重信 (平均年齢：53.9歳) 総合スーパー フジグラン松山ほど利用者の範囲は広くはないが、大型スーパーであるため、自動車で10分ほどかけて来ている人が多い。フジグラン松山に比べると平均年齢は上がるが、比較的若い層からも利用されている。フジグラン松山同様、高齢者になるほど近所に住んでいる。	ゆめタウン夢彩都 (平均年齢：58.2歳) 総合スーパー 自動車と公共交通機関の利用率はほぼ同じで、市内の中心部に住んでいる人は交通機関を使い、遠方から通う人は自動車を使う傾向にある。60代以上の高齢者の利用率が高い。利用者の範囲はそこまで広がらない。
3位	フジ安城寺 (平均年齢：66.2歳) 食料品スーパー 北側は交通の便が少し悪いので、自動車ですべての人の所要時間がフジグラン松山、重信と比べて長い。主に近所の人が利用している。利用者の過半数が60歳以上である。	生活協同組合 ララコープラ新戸町 (平均年齢：51.2歳) 食料品スーパー 自動車でないとは不便な場所にあるため、ほとんどの人が自動車を通っている。3店舗の中では一番平均年齢が低く、高齢者の割合が低い。中高年の人たちが自動車を通うパターンが主流だとわかる。

3-3 買い物難民の把握

農林水産省は買い物難民について以下のように定義している。「食料品アクセス困難人口は食料品アクセスマップより推計されます。食料品アクセスマップは、平成 27 年国勢調査（2015 年）及び平成 26 年商業統計の地域メッシュ統計から、店舗まで 500m 以上かつ自動車利用が困難な 65 歳以上の高齢者を「食料品アクセス困難人口」として推計したものです。食料品アクセス困難人口は、過去の研究事例等から徒歩で無理なく買い物に行ける距離として 500m を設定し、買い物での不便・苦勞を感じる人の多くが自動車を持たない 65 歳以上の高齢者であることから定義しました。」（農林水産政策研究所 2018 年）この集計の問題点として以下 3 点が挙げられる。①国勢調査と商業統計の期間にずれがあること。②実際に利用している店舗ではなく自宅から近い商業施設で判定している。③店舗への交通手段が分からない。このことを踏まえて、ゼミの調査から農林水産省が定義する食料品アクセス困難人口がどのくらいなのかを検証した。

【表 14 県民生活実態調査×食料品アクセス困難人口】

	県民生活実態調査	農林水産省推計
愛媛	4.1	30.9
長崎	17.2	34.6

※県内 65 歳以上の人口に対する割合

農林水産省とゼミの調査では差があり推計の正確性に問題がある。若年層が含まれないなど網羅的に買い物難民を把握できないと考え、ゼミ独自に買い物難民の定義をした。「自宅から店舗まで 30 分以上かけている人」を対象として考えた。所要時間は、本人の申告時間に基づく（但し申告時間が 30 分以上でも Google での検索時間が 19 分以下の人は対象外とする）。整理すると表 15 のような結果となった。現状の質問文では仕事帰りに買い物をしているかどうかは把握できないため、通勤先の近くを選んでいる回答者も含まれている可能性がある。

【表 15 買い物難民の特徴】

	人数	平均年齢	平均距離	該当市町村数
愛媛	27 人	51 歳	21363m	13
長崎	29 人	58 歳	20259m	13

平均年齢は 65 歳を下回る結果となった。また 2 都市ほぼすべての市町村で対象者が存在すること、県庁所在地である松山市や長崎市であっても存在することがわかった。市町村ごとの回答者の数に差があるため、長崎市などの回答者の多い市町村の難民が多い結果になったが、実際は回答者の少ない地域ほど難民が多いと考えられる。今後各地で高齢化とともにさらに深刻化していくと予想される。

4. 結論

社会調査に空間的分析を活用する手法は大谷ゼミ独自の手法であり、生活圏を把握する調査において有効であることが証明できた。これまで調査を行ってきた 5 都市だけでなく他の都市、すべての都道府県で活用できると考えられる。この手法をさらに発展、応用し、日本全国の生活圏マップが作成できるようになればさらに幅広い分析が可能になるであろう。また、実際に使っているルートによる分析ができ、店舗形態の特定や距離分析の柔軟性を考慮すると、店舗名を直接聞く質問の方が有効であったと考えられる。市単位だけでなくさらに細分化して地域ごとに空間的な分析ができればさらに分かることが増えるだろう。

県民生活実態調査、市民生活実態調査がコロナウィルスによるパンデミック以前であることは重要な視点である。感染症における緊急事態の際に自治体側が市民の通院圏を把握しているかどうかで行われる政策は大きく変わってくるのではないかと。買い物難民問題の解決やまちづくり政策だけでなく感染症における緊急事態への早急かつ確実な政策を行うために、人々の生活圏を把握する調査の必要性はよりいっそう高まっていくであろう。

参考文献

- 総務省統計局, 2020, 「国勢調査 2020 総合サイト 国勢調査の概要」(<https://www.kokusei2020.go.jp/about/outline.html>, 2021 年 1 月 4 日アクセス).
- e-Stat, 2015, 「平成 27 年国勢調査 就業状態等基本集計」(<https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003177060>, 2021 年 1 月 4 日アクセス) .
- 「日本全国スーパーマーケット情報 ASJM」(<https://ajsm.jp>) (2021.2.25 にアクセス)
- 農林水産政策研究所「食料品アクセスマップ 2018」(2018 年) (2021.2.25 にアクセス)

☆ 巻 末 資 料 ☆

「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」 「生活実態調査 関学生親版」 単純集計結果
【2021 年 2 月版】

	回収数	回収率(%)	無効票	有効数	有効回収率(%)
市民全体	2951	49.18	74	2,877	47.95
川崎	971	48.55	27	944	47.20
神戸	1,046	52.30	24	1,022	51.10
福岡	934	46.70	23	911	45.55
関学生親	190	(2020 年度 社会調査入門 B 受講生親)			

回答者	関学生親
父親	37.9 (72)
母親	55.8 (106)
その他	6.3 (12)
計	100.0 (190)

※以下、回答者「父親」・「母親」にケース選択。(178 人)

Q1. 現住所を記入してください。

	関学生親
記入あり	98.3 (175)
記入なし	1.7 (3)
計	100.0 (178)

Q2(1). 現在お住まいの市区町村を含めて、あなたがこれまでお住まいになったことがある場所はどちらですか。
あてはまる番号すべてに○をつけ、()に居住経験のある市区町村の数を記入してください。同じ都道府県で市区町村が変わった場合も数に含みます。【すべてに○】

	関学生親
記入あり	94.4 (168)
記入なし	5.6 (10)
計	100.0 (178)

Q2(2). 5 年前(2015 年)はどちらにお住まいでしたか。該当する番号に○をつけ、都道府県名と市区町村をお書きください。【1 つだけ○】 政令指定都市・東京 23 区の方は区までお書きください。

	関学生親 (NA=10)
1. 現住所と同じ	85.7 (144)
2. 同じ市区町村内の他の場所	6.0 (10)
3. 同じ県内の他の市区町村	2.4 (4)
4. 他の都道府県	6.0 (10)
5. 海外	0.0 (0)
計	100.0 (168)

Q2(3). 現在お住まいの市区町村に住み始めて何年ですか。

	関学生親	
記入あり	97.2	(173)
記入なし	2.8	(5)
計	100.0	(178)

Q3(1). 現在お住まいの住居に住み始めて何年ですか。

	関学生親	
記入あり	97.8	(174)
記入なし	2.2	(4)
計	100.0	(178)

Q3(2). あなたはこれまでに何回転居された経験がありますか。()に回数をお書きください。生まれてからずっと同じ住居にお住まいの方は(0)とお書きください。同じ都道府県や市区町村での移動も含まれます。

NA=3

回数	0	1	2	3	4	5	6	7
関学生親	6.9(12)	10.9(19)	13.7(24)	18.9(33)	14.9(18)	10.3(18)	8.0(14)	6.3(11)
回数	8	9	10	11	12	13	14	計
関学生親	2.3(4)	0	1.7(3)	2.3(4)	1.7(3)	1.1(2)	1.1(2)	100.0(175)

Q3(3). あなたが現在お住まいの住居に引っ越してくる前はどちらにお住まいでしたか。住所をお書きください。

	関学生親	
記入あり	85.5	(142)
記入なし	14.5	(24)
計	100.0	(166)

非該当=12

Q3(4). 現在お住まいの住居に引っ越してきた最も大きな理由は次のうちどちらですか。最もあてはまるものを1つだけ選んでお答えください。【1つだけ○】

	関学生親	
1. 進学のため	1.2	(2)
2. 就職のため	2.5	(4)
3. 転勤のため	8.7	(14)
4. 結婚のため	12.4	(20)
5. 子育てのため	31.1	(50)
6. 親と子の同居・近居のため	16.8	(27)
7. 親の介護のため	2.5	(4)
8. その他	24.8	(40)
計	100.0	(161)

NA=5、非該当=12

Q4. あなたがふだんよく使う鉄道の最寄り駅(JR・私鉄・地下鉄)は、どちらですか。

〈鉄道会社名〉		川崎	神戸	福岡	関学生親
記入あり		97.0 (915)	94.3 (961)	87.6 (796)	92.7 (165)
記入なし		3.0 (28)	5.7 (58)	12.4 (113)	7.3 (13)
計		100.0 (943)	100.0 (1019)	100.0 (911)	100.0 (178)

〈駅名〉		川崎	神戸	福岡	関学生親
記入あり		95.8 (903)	93.8 (956)	86.8 (789)	91.6 (163)
記入なし		4.2 (40)	6.2 (63)	13.2 (120)	8.4 (15)
計		100.0 (943)	100.0 (1019)	100.0 (909)	100.0 (178)

Q5. あなたがふだんよく使う最寄りのバス停はどちらですか。

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 【バス会社】 【バス停名】	61.9 (480)	66.2 (570)	83.2 (689)	57.9 (84)
2. わからない	38.1 (295)	33.8 (291)	16.8 (139)	42.1 (61)
計	100.0 (775)	100.0 (861)	100.0 (828)	100.0 (145)

NA=440(川崎 168、神戸 158、福岡 81、関学生親 33)

〈バス会社名〉		川崎	神戸	福岡	関学生親
記入あり		71.5 (463)	78.6 (570)	89.4 (688)	69.5 (82)
記入なし		28.5 (185)	21.4 (155)	10.6 (82)	30.5 (36)
計		100.0 (648)	100.0 (725)	100.0 (772)	100.0 (118)

非該当=788(川崎 295、神戸 294、福岡 139、関学生親 60)

〈バス停名〉		川崎	神戸	福岡	関学生親
記入あり		72.4 (469)	77.8 (564)	88.1 (678)	70.3 (83)
記入なし		27.6 (179)	22.2 (161)	11.9 (92)	29.7 (35)
計		100.0 (648)	100.0 (725)	100.0 (770)	100.0 (118)

非該当=788(川崎 295、神戸 294、福岡 139、関学生親 60)

Q6. あなたの性別は次のどちらですか。

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 男性	43.9 (413)	41.7 (424)	42.8 (388)	40.4 (72)
2. 女性	56.1 (527)	58.3 (593)	57.2 (518)	59.6 (106)
計	100.0 (940)	100.0 (1017)	100.0 (907)	100.0 (178)

NA=10(川崎 3、神戸 4、福岡 3、関学生親 0)

Q7. あなたは現在、結婚(内縁の関係・事実婚も含む)されていますか。

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 結婚している(再婚を含む)	66.9 (628)	66.1 (671)	62.6 (570)	88.8 (158)
2. 結婚していたが、配偶者と離別した	6.2 (58)	7.4 (75)	7.5 (67)	7.3 (13)
3. 結婚していたが、配偶者と死別した	3.4 (32)	6.0 (61)	5.2 (47)	3.4 (6)
4. 結婚したことはない	23.5 (221)	20.5 (208)	24.7 (223)	0.6 (1)
計	100.0 (939)	100.0 (1015)	100.0 (907)	100.0 (178)

NA=8(川崎 4、神戸 4、福岡 2、関学生親 0)

～「1. 結婚している」を選択したかたは、配偶者についてもお答えください～

Q8. あなた(および配偶者)の年齢はおいくつですか。 平均年齢(単位：歳)

〈あなた〉	川崎	神戸	福岡	関学生親
	49.8 (873)	53.8 (953)	51.4 (859)	50.8 (176)

NA=188(川崎 70、神戸 66、福岡 50、関学生親 2)

〈配偶者〉	川崎	神戸	福岡	関学生親
	52.3 (618)	57.0 (660)	54.1 (561)	51.2 (155)

NA=42(川崎 14、神戸 15、福岡 10、関学生親 3)

非該当=1013(川崎 311、神戸 344、福岡 338、関学生親 20)

Q9(1). あなた(および配偶者)の最後に行かれた(中退および在学中を含む)学校はどれですか。

〈あなた〉		川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 中学		4.8 (42)	4.9 (47)	4.7 (41)	0.0 (0)
2. 高校		24.5 (216)	32.9 (316)	29.1 (252)	16.3 (29)
3. 高専・短大・専門学校		23.4 (206)	19.7 (189)	23.7 (205)	27.5 (49)
4. 大学・大学院		47.3 (417)	42.6 (409)	42.5 (368)	56.2 (100)
計		100.0 (881)	100.0 (961)	100.0 (866)	100.0 (178)

NA=163(川崎 62、神戸 58、福岡 43、関学生親 0)

〈配偶者〉		川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 中学		4.6 (28)	5.3 (34)	4.1 (23)	2.5 (4)
2. 高校		22.9 (139)	31.5 (203)	28.1 (157)	12.0 (19)
3. 高専・短大・専門学校		21.7 (132)	19.6 (126)	24.0 (134)	25.9 (41)
4. 大学・大学院		50.8 (309)	43.6 (281)	43.7 (244)	59.5 (94)
計		100.0 (608)	100.0 (644)	100.0 (558)	100.0 (158)

NA=68(川崎 24、神戸 31、福岡 13、関学生親 0)

非該当=1013(川崎 311、神戸 344、福岡 338、関学生親 20)

Q9(2). あなた(および配偶者)の最後に行かれた(中退および在学中を含む)学校の所在地はどちらになりますか。
都道府県名と市区町村名をお書きください。 政令指定都市・東京 23 区の方は区までお書きください。

〈本人・都道府県〉

	関学生親	
記入あり	94.9	(169)
記入なし	5.1	(9)
計	100.0	(178)

〈配偶者・都道府県〉 非該当=20

	関学生親	
記入あり	81.5	(145)
記入なし	7.3	(13)
計	100.0	(158)

〈本人・市区町村〉

	関学生親	
記入あり	91.6	(163)
記入なし	8.4	(15)
計	100.0	(178)

〈配偶者・市区町村〉 非該当=20

	関学生親	
記入あり	88.0	(139)
記入なし	12.0	(19)
計	100.0	(158)

Q10. あなた(および配偶者)の出身地はどちらですか。出身地とは、15歳までに主に過ごされたところとお考えください。合併後の自治体名でお答えください。政令指定都市・東京23区の方は区までお書きください。

〈本人出身地〉

	関学生親	
記入あり	99.4	(177)
記入なし	0.6	(1)
計	100.0	(178)

〈配偶者出身地〉

非該当=21

	関学生親	
記入あり	98.1	(154)
記入なし	1.9	(3)
計	100.0	(157)

Q11. 現在のあなた(および配偶者)の主な職業は次のどれですか。【1つだけ○】

〈あなた〉

	川崎		神戸		福岡		関学生親	
1. 農・林・漁業従事者(家族従事者を含む)	0.0	(0)	0.6	(6)	0.3	(3)	0.0	(0)
2. 1.以外の自営業者(家族従事者を含む)	5.5	(50)	5.4	(53)	6.1	(54)	8	(14)
3. 会社員(経営者を含む)	43.0	(391)	30.7	(301)	34.1	(301)	37.5	(66)
4. 教員(公立学校を含む)	1.5	(14)	2.4	(24)	2.2	(19)	6.3	(11)
5. 公務員(教員は除く)	1.7	(15)	2.4	(24)	2.7	(24)	5.1	(9)
6. パート・アルバイト・派遣等 (控除や扶養の範囲を超える)	8.7	(79)	7.4	(73)	8.3	(73)	7.4	(13)
7. パート・アルバイト・派遣等 (控除や扶養の範囲内)	9.5	(86)	12.4	(122)	10.9	(96)	17.0	(30)
8. その他(具体的に)	3.7	(34)	4.0	(39)	3.6	(32)	2.8	(5)
9. 無職	11.4	(104)	17.4	(171)	15.5	(137)	1.1	(2)
10. 専業主婦・専業主夫	12.0	(109)	14.1	(138)	12.9	(114)	14.2	(25)
11. 学生	3.0	(27)	3.2	(31)	3.4	(30)	0.6	(1)
計	100.0	(909)	100.0	(982)	100.0	(883)	100.0	(176)

NA=99(川崎 34、神戸 37、福岡 26、関学生親 2)

※9~11. に○をつけた方は、⇒Q16にお進みください

Q12. 職場はどちらにありますか。①住所、②郵便番号、③最寄り駅、④最寄りのバス停をお答えください。

①から④まですべてご記入ください。(④バス停がない場合には【(2)バス停はない】に○)

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 職場は自宅である⇒Q14 へ	4.0 (26)	4.1 (25)	6.8 (40)	5.4 (8)
2. ① 【 】 【 】 ② 〒 ③ 【 】 【 駅】 【 】 【 】	96.0 (630)	95.9 (589)	93.2 (551)	94.6 (139)
計	100.0 (656)	100.0 (614)	100.0 (591)	100.0 (147)

NA=116(川崎 35、神戸 55、福岡 23、関学生親 3)

非該当=925(川崎 252、神戸 350、福岡 295、関学生親 28)

〈都道府県名〉		川崎	神戸	福岡	関学生親
	記入あり	92.6 (616)	90.4 (582)	93.9 (539)	4.2 (6)
	記入なし	7.4 (49)	9.6 (62)	6.1 (35)	95.8 (136)
	計	100.0 (665)	100.0 (644)	100.0 (574)	100.0 (142)

非該当=1024(川崎 278、神戸 375、福岡 335、関学生親 36)

〈市区町村名〉		川崎	神戸	福岡	関学生親
	記入あり	92.0 (612)	89.9 (579)	92.5 (531)	9.2 (13)
	記入なし	8.0 (53)	10.1 (65)	7.5 (43)	90.8 (129)
	計	100.0 (665)	100.0 (644)	100.0 (574)	100.0 (142)

非該当=1024(川崎 278、神戸 375、福岡 335、関学生親 36)

〈郵便番号〉		関学生親
	記入あり	69.7 (99)
	記入なし	30.3 (43)
	計	100.0 (142)

非該当=36

〈鉄道会社名〉		川崎	神戸	福岡	関学生親
	記入あり	78.2 (520)	68.6 (442)	56.8 (326)	71.8 (102)
	記入なし	21.8 (145)	31.4 (202)	43.2 (248)	28.2 (40)
	計	100.0 (665)	100.0 (644)	100.0 (574)	100.0 (142)

非該当=1024(川崎 278、神戸 375、福岡 335、関学生親 36)

〈駅名〉		川崎	神戸	福岡	関学生親
	記入あり	78.0 (519)	69.1 (445)	56.8 (326)	71.8 (102)
	記入なし	22.0 (146)	30.9 (199)	43.2 (248)	28.2 (40)
	計	100.0 (665)	100.0 (644)	100.0 (574)	100.0 (142)

非該当=1024(川崎 278、神戸 375、福岡 335、関学生親 36)

〈バス会社名〉		川崎	神戸	福岡	関学生親
	記入あり	13.7 (91)	15.3 (98)	41.6 (239)	30.3 (43)
	記入なし	86.3 (574)	84.7 (543)	58.4 (335)	69.7 (99)
	計	100.0 (665)	100.0 (641)	100.0 (574)	100.0 (142)

〈バス停名〉

非該当＝1027(川崎 278、神戸 378、福岡 335、関学生親 36)				
	川崎	神戸	福岡	関学生親
記入あり	13.1 (87)	15.3 (98)	38.7 (222)	29.6 (42)
記入なし	86.9 (578)	84.7 (543)	61.3 (352)	70.4 (100)
計	100.0 (665)	100.0 (641)	100.0 (574)	100.0 (142)

非該当＝1027(川崎 278、神戸 378、福岡 335、関学生親 36)

Q13(1). 主な通勤手段は次のどれですか。【1つだけ○】 また、日ごろ使う交通手段でかかる通勤時間(家から職場までにかかる総所要時間)はどれくらいですか。

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 徒歩	6.3 (40)	9.0 (54)	9.7 (53)	10.2 (14)
2. 自転車	10.3 (65)	8.3 (50)	14.4 (79)	12.4 (17)
3. バイク	2.5 (16)	3.5 (21)	3.7 (20)	3.6 (5)
4. 自動車	8.6 (54)	22.4 (135)	36.6 (200)	43.8 (60)
5. 路線バス	5.2 (33)	7.3 (44)	14.4 (79)	1.5 (2)
6. 鉄道	66.9 (422)	48.9 (295)	19.2 (105)	28.5 (39)
7. その他	0.2 (1)	0.7 (4)	2.0 (11)	0 (0)
計	100.0 (631)	100.0 (603)	100.0 (547)	100.0 (137)

NA＝109(川崎 35、神戸 42、福岡 27、関学生親 5)

非該当＝1022(川崎 277、神戸 374、福岡 335、関学生親 36)

Q13(2). 利用している通勤手段の組み合わせは次のどれですか。【1つだけ○】

	関学生親
1. 徒歩のみ	11.7 (15)
2. 自動車	43.8 (56)
3. 鉄道	18.8 (24)
4. バイク	3.1 (4)
5. 自転車	10.9 (14)
6. 鉄道＋路線バス	5.4 (7)
7. 鉄道＋バイク	0.8 (1)
8. 鉄道＋自転車	3.9 (5)
9. 路線バス	0.8 (1)
10. その他	0.8 (1)
計	100.0 (128)

NA＝14

非該当＝36

Q15. あなた(および配偶者)の、この1週間の生活についてお聞きます。この1週間とは、調査票が届いた日を7日目としてその前7日間とお考えください。

①1週間のうち、働いた日は何日ありましたか

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. (日)	73.6 (668)	69.5 (658)	69.7 (618)	83.5 (142)
2. 働かなかった	26.4 (239)	30.5 (289)	30.3 (268)	16.5 (28)
計	100.0 (907)	100.0 (947)	100.0 (886)	100.0 (170)

NA=139(川崎 36、神戸 72、福岡 23、関学生親 8)

平均 3.40 (2742) 川崎 3.49 (907) 神戸 3.29 (950) 福岡 3.42 (885) 関学生親 3.76 (182) (単位：日)

②1週間で、合計何時間くらい働きましたか

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. (時間)	73.5 (666)	68.7 (626)	69.6 (616)	83.1 (138)
2. 働かなかった	26.5 (240)	31.3 (285)	30.4 (268)	16.9 (28)
計	100.0 (906)	100.0 (911)	100.0 (884)	100.0 (166)

NA=182(川崎 37、神戸 108、福岡 25、関学生親 12)

平均 26.67 (2629) 川崎 28.02 (868) 神戸 24.89 (911) 福岡 27.21 (850) 関学生親 31.91 (166) (単位：時間)

Q16. 現在お住まいの住居と一緒に住んでいるかたは何人ですか

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. あなたお一人 ⇒Q18	12.9 (121)	14.3 (14)	18.7 (170)	2.8 (5)
2. あなたを含めて(人)	87.1 (820)	85.7 (872)	81.3 (737)	97.2 (173)
計	100.0 (941)	100.0 (1017)	100.0 (907)	100.0 (178)

NA11 (川崎 2、神戸 2、福岡 2、関学生親 0)

平均 3.28(2815) 川崎 2.96 (922) 神戸 2.93 (996) 福岡 2.73 (897) 関学生親 3.55 (178) (単位：人)

Q17. 一緒にお住まいになっているかたはどなたですか。【すべてに○】

○をつけた割合	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 配偶者	65.5 (604)	64.1 (639)	58.6 (527)	79.8 (142)
2. 子ども	46.5 (429)	40.5 (404)	40.1 (361)	87.1 (155)
3. 子どもの配偶者	1.1 (10)	1.3 (13)	1.7 (15)	1.1 (2)
4. あなた(または配偶者)の父親	12.0 (111)	11.2 (112)	10.1 (91)	7.9 (14)
5. あなた(または配偶者)の母親	18.3 (169)	17.2 (171)	18.2 (164)	16.3 (29)
6. 孫	2.0 (18)	2.2 (22)	1.7 (15)	0.6 (1)
7. あなた(または配偶者)のきょうだい	8.4 (77)	6.8 (68)	7.4 (67)	1.1 (2)
8. あなた(または配偶者)の祖父・祖母	0.7 (6)	1.1 (11)	1.9 (17)	0.6 (1)
9. その他の親族()	1.1 (10)	0.8 (8)	0.7 (6)	0.0 (0)
10. その他()	1.1 (10)	0.7 (7)	1.4 (13)	0.6 (1)

Q18. あなた（および配偶者の方）のごきょうだい構成についてお聞きます。

	関学生親	
1. 一人っ子	9.1	(16)
2. 長子長男	18.9	(33)
3. 長子以外長男	20.6	(36)
4. 姉妹のみ長女	13.7	(24)
5. 長子長女	9.1	(16)
6. 長子以外長女	17.1	(30)
7. その他	11.4	(20)
計	100.0	(175)

NA=3

Q19(1). あなた(および配偶者)の親御さんについてお聞きます。

①ご健在ですか 両親とも他界している場合⇒Q20

〈あなたの父〉

	川崎		神戸		福岡		関学生親
1. ご健在	51.5	(469)	43.5	(420)	47.0	(414)	57.3 (102)
2. 他界した	48.5	(441)	56.5	(546)	53.0	(466)	42.7 (76)
計	100.0	(910)	100.0	(966)	100.0	(880)	100.0 (178)

NA=115 (川崎 33、神戸 53、福岡 29、関学生親 0)

〈あなたの母〉

	川崎		神戸		福岡		関学生親
1. ご健在	68.4	(631)	58.9	(575)	65.6	(588)	77.5 (138)
2. 他界した	31.6	(291)	41.2	(402)	34.4	(308)	22.5 (40)
計	100.0	(922)	100.0	(977)	100.0	(896)	100.0 (178)

NA76 (川崎 21、神戸 42、福岡 13、関学生親 0)

〈配偶者の父〉

	川崎		神戸		福岡		関学生親
1. ご健在	48.3	(291)	38.1	(237)	42.5	(231)	51.9 (82)
2. 他界した	51.7	(312)	61.9	(385)	57.5	(313)	48.1 (76)
計	100.0	(603)	100.0	(622)	100.0	(544)	100.0 (158)

NA=106 (川崎 27、神戸 52、福岡 27、関学生親 0)

非該当=1016 (川崎 313、神戸 345、福岡 338、関学生親 20)

〈配偶者の母〉

	川崎		神戸		福岡		関学生親
1. ご健在	65.3	(395)	56.9	(359)	62.2	(342)	85.4 (135)
2. 他界した	34.7	(210)	43.1	(272)	37.8	(208)	14.6 (23)
計	100.0	(605)	100.0	(631)	100.0	(550)	100.0 (158)

NA=89 (川崎 25、神戸 43、福岡 21、関学生親 0)

非該当=1016 (川崎 313、神戸 345、福岡 338、関学生親 20)

Q19(2). あなたの親御さんについてお聞きします。

①あなたと同居していますか(父・母のどちらか1人以上)

	関学生親	
1. 同居	18.7	(28)
2. 別居	81.3	(122)
計	100.0	(150)

非該当=28

②あなたと同じ市区町村内にお住まいですか

	関学生親	
同市区町村内	23.8	(29)
同市区町村外	76.2	(93)
計	100.0	(122)

非該当=56

③あなたと同じ都道府県内に お住まいですか

	関学生親	
同都道府県内	48.4	(45)
同都道府県外	51.6	(48)
計	100.0	(93)

非該当=85

④あなたの住居から別居されている親御さん(父母別居の 場合、距離が近い方)の住居 まで、車で行くと仮定した場合、所要時間は何分ですか。

	関学生親	
1. 片道(時間 分)	90.8	(109)
2. 車ではいけない距離である	4.2	(5)
3. わからない	5.0	(6)
計	100.0	(120)

NA=2
非該当=56

⑤「1年間」に何回会いましたか
(2019年)

	関学生親	
1. 週に1回以上	25.9	(30)
2. 3か月に一回以上	44.8	(52)
3. 年1~2回程度	25.9	(30)
4. まったく会わなかった	3.4	(4)
計	100.0	(116)

NA=6、非該当=56

⑤「1年間」に何回会いましたか
(2020年)

	関学生親	
1. 週に1回以上	21.6	(25)
2. 3か月に一回以上	38.8	(45)
3. 年1~2回程度	25.0	(29)
4. まったく会わなかった	14.7	(17)
計	100.0	(116)

NA=6、非該当=56

⑥「1 年間」に何回連絡を取りましたか
(2019 年)

	関学生親	
1. 週に 1 回以上	44.7	(51)
2. 3 か月に一回以上	49.1	(56)
3. 年 1～2 回程度	5.3	(6)
4. まったく会わなかった	0.9	(1)
計	100.0	(114)

NA=8、非該当=56

⑥「1 年間」に何回連絡を取りましたか
(2020 年)

	関学生親	
1. 週に 1 回以上	43.9	(50)
2. 3 か月に一回以上	50.9	(58)
3. 年 1～2 回程度	4.4	(5)
4. まったく連絡しなかった	0.9	(1)
計	100.0	(114)

NA=8、非該当=56

Q20. あなたのおつきあいについてお聞きます。日ごろ同居家族以外で、親しくおつきあい（よく行き 来したり、一緒に遊びに行ったり）している ①親戚、②職場の人、③近所の人、④上記以外の人 は、それぞれ何人くらいいますか。

①親戚
(同居家族以外)

	川崎		神戸		福岡		関学生親	
1. 0 人	40.7	(350)	37.0	(333)	38.7	(311)	36.6	(63)
2. 1～4 人	51.9	(447)	53.1	(478)	51.4	(413)	54.7	(94)
3. 5 人以上	7.4	(64)	10.0	(90)	9.8	(79)	8.7	(15)
計	100.0	(861)	100.0	(901)	100.0	(803)	100.0	(172)

NA=312(川崎 82、神戸 118、福岡 106、関学生親 6)

②職場の人
(仕事を通じて知り
合った人など)

	川崎		神戸		福岡		関学生親	
1. 0 人	41.4	(346)	37.6	(323)	39.1	(305)	42.8	(74)
2. 1～4 人	43.2	(361)	45.8	(393)	45.6	(356)	41.0	(71)
3. 5 人以上	15.3	(128)	16.6	(143)	15.4	(120)	16.2	(28)
計	100.0	(835)	100.0	(859)	100.0	(781)	100.0	(173)

NA=401(川崎 108、神戸 160、福岡 128、関学生親 5)

③近所の人
(近隣・地域活動・子どもの学校関連など)

	川崎		神戸		福岡		関学生親	
1. 0 人	56.6	(482)	50.2	(445)	54.0	(431)	46.6	(82)
2. 1～4 人	32.9	(280)	36.8	(326)	32.7	(261)	38.1	(67)
3. 5 人以上	10.5	(89)	13.1	(116)	13.3	(106)	15.3	(27)
計	100.0	(851)	100.0	(887)	100.0	(798)	100.0	(176)

NA=337(川崎 92、神戸 132、福岡 111、関学生親 2)

④上記以外の人

	川崎		神戸		福岡		関学生親	
1. 0 人	37.5	(299)	35.6	(295)	38.0	(289)	41.5	(71)
2. 1～4 人	41.6	(332)	43.0	(356)	40.3	(307)	36.8	(63)

3. 5人以上	20.9 (167)	21.4 (177)	21.7 (165)	21.6 (37)
計	100.0 (798)	100.0 (828)	100.0 (761)	100.0 (171)

NA=491(川崎 145、神戸 191、福岡 148、関学生親 7)

Q21. 日ごろ同居家族以外で、あなたが①最も親しいと考える人と、②最も頼りにしている人は、次のどの種類の人ですか。

①最も親しい人

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 親戚(同居家族以外)	33.4 (305)	37.8 (371)	34.1 (301)	34.7 (61)
2. 職場の人	14.6 (133)	13.4 (131)	15.8 (139)	19.9 (35)
3. 近所の人	9.5 (87)	9.3 (91)	12.0 (106)	9.1 (16)
4. 上記以外の人()	30.8 (281)	27.7 (272)	26.8 (236)	29.5 (52)
5. 親しい人はいない	11.7 (107)	11.8 (116)	11.3 (100)	6.8 (12)
計	100.0 (913)	100.0 (981)	100.0 (882)	100.0 (176)

NA=97(川崎 30、神戸 38、福岡 27、関学生親 2)

②最も頼りにしている人

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 親戚(同居家族以外)	48.1 (389)	49.8 (445)	51.7 (415)	52.4 (89)
2. 職場の人	10.4 (84)	8.8 (79)	8.2 (66)	15.3 (26)
3. 近所の人	8.0 (65)	6.3 (56)	7.2 (58)	7.6 (13)
4. 上記以外の人()	16.9 (137)	17.9 (160)	15.3 (123)	10.0 (17)
5. 頼りにしている人はいない	16.6 (134)	17.1 (153)	17.6 (141)	14.7 (25)
計	100.0 (809)	100.0 (893)	100.0 (803)	100.0 (170)

NA=374(川崎 134、神戸 126、福岡 106、関学生親 8)

Q21SQ. Q21 で家族を含む「1. 同居家族以外の親戚」が選択肢にない場合、次のうちどれを選択しますか。

①最も親しい人

	関学生親	
1. 職場の人	23.9	(37)
2. 近所の人	20.0	(31)
3. 上記以外の人	40.6	(63)
4. 親しい人はいない	15.5	(24)
計	100.0	(155)

NA23

②最も頼りにしている人

	関学生親	
1. 職場の人	26.6	(41)
2. 近所の人	18.2	(28)
3. 上記以外の人	30.5	(47)
4. 親しい人はいない	24.7	(38)
計	100.0	(154)

NA24

Q22(1). 次の休日の過ごし方のうち、あなたが最も好きな休日の過ごし方はどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでお答えください。【1つだけ○】

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. スポーツ、スポーツ観戦、アウトドアなど	19.2 (176)	15.5 (155)	20.1 (179)	19.7 (35)
2. 音楽活動、ライブ・コンサート鑑賞など	7.8 (71)	5.5 (55)	6.3 (56)	4.5 (8)
3. 美術館・博物館訪問、観劇、映画鑑賞など	5.9 (54)	8.9 (89)	7.2 (64)	6.2 (11)
4. 外食、ショッピングなど	18.8 (172)	21.7 (216)	22.0 (196)	28.1 (50)
5. パチンコ、競馬、競輪、競艇など	1.7 (16)	2.4 (24)	2.2 (20)	0.6 (1)
6. 自宅でゆっくりしたい (庭いじり、日曜大工、料理・掃除なども含む)	39.8 (364)	40.8 (407)	36.7 (326)	37.1 (66)
7. その他(具体的に記入)	6.8 (62)	5.1 (51)	5.4 (48)	3.9 (7)
計	100.0 (915)	100.0 (997)	100.0 (889)	100.0 (178)

NA=70 (川崎 28、神戸 22、福岡 20、関学生親 0)

Q22(2). 次の休日の過ごし方のうち、あなたが実際に最もよく行っている休日の過ごし方はどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでお答えください。【1つだけ○】

	関学生親
1. スポーツ、スポーツ観戦、アウトドアなど	17.4 (31)
2. 音楽活動、ライブ・コンサート鑑賞など	1.1 (2)
3. 美術館・博物館訪問、観劇、映画鑑賞など	3.4 (6)
4. 外食、ショッピングなど	23.0 (41)
5. パチンコ、競馬、競輪、競艇など	1.1 (2)
6. 自宅でゆっくりしたい (庭いじり、日曜大工、料理・掃除なども含む)	47.2 (84)
7. その他(具体的に記入)	6.7 (12)
計	100.0 (178)

Q23. あなたの平均的な平日の過ごし方についてお聞きします。1日24時間を次の項目にふり分けると、それぞれのくらいになりますか。すべて足し合わせると **24** になるようにご記入ください。

	川崎	神戸	福岡	関学生親
記入あり	94.8 (894)	97.0 (990)	95.2 (866)	99.5 (177)
記入なし	5.2 (50)	3.0 (31)	4.8 (44)	0.5 (1)
計	100.0 (943)	100.0 (1019)	100.0 (909)	100.0 (178)

平均時間（単位 時間：分）

項目	例	川崎	神戸	福岡	関学親
睡眠	昼寝も含む	6:39	6:53	6:48	6:48
職業関連 (学業を含む)	労働時間、残業、仕事の準備、休憩、アルバイト、内職、自営業の手伝い、通勤時間なども含む (授業、部活、給食、宿題、通学時間も含む)	7:41	6:33	7:02	7:47
食事・身の周りの用事	朝食、昼食、夕食、入浴、洗顔、化粧、着替え、ひげ剃り、通院 など	2:24	2:28	2:25	2:23
家事	炊事、掃除、洗濯、買い物、ゴミ捨て など	2:03	2:13	2:02	2:27
育児	世話、付き添い、送り迎え、遊び相手 など	0:34	0:25	0:6	0:13
介護	世話、看病、付き添い、送り迎え など	0:13	0:09	0:11	0:06
(自宅や敷地内で過ごす) 自由時間	テレビ、インターネット、新聞を読む、読書、日記、ラジオ講座、庭いじり など	3:24	3:57	3:44	3:20
(自宅外で過ごす) 自由時間	映画、スポーツジム、習いごと、サークル活動、ウィンドウショッピング、交流(友人と外食)、ボランティア など	0:58	1:19	1:15	0:52

Q24. あなたの世帯の家事(炊事、掃除、洗濯、買い物、ゴミ捨てなど)についてお聞きします。日ごろあなたはどの程度家事をしていますか。

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. すべてしている	31.5 (292)	33.1 (332)	36.5 (329)	30.9 (54)
2. ほとんどしている	20.4 (189)	19.3 (193)	18.8 (169)	25.1 (44)
3. 半分くらいしている	17.9 (166)	16.3 (163)	13.8 (124)	11.4 (20)
4. あまりしていない	24.0 (222)	25.1 (252)	24.0 (216)	25.1 (44)
5. まったくしていない	6.2 (57)	6.2 (62)	7.0 (63)	7.4 (13)
計	100.0 (926)	100.0 (1002)	100.0 (901)	100.0 (175)

NA=45(川崎 17、神戸 17、福岡 8、関学生親 3)

Q25. あなたが最もよく利用する店舗・病院はどちらにありますか。それぞれについてあてはまるものを1つだけ選んでお答えください。【1つだけ○】

〈食料(朝食や夕食の材料)の購入〉

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 自宅から 800m 圏内(徒歩 10 分程度)	66.0 (603)	52.7 (519)	60.5 (532)	51.7 (92)
2. 自宅から 2.4km 圏内(徒歩 30 分程度)	25.9 (237)	35.3 (347)	30.8 (271)	35.4 (63)
3. その他の市内	4.5 (41)	8.9 (88)	6.5 (57)	6.2 (11)
4. 市外	2.0 (18)	0.8 (8)	1.0 (9)	4.5 (8)
5. 店舗等は利用しない	1.6 (15)	2.2 (22)	1.3 (11)	2.2 (4)
計	100.0 (914)	100.0 (984)	100.0 (880)	100.0 (178)

NA=93(川崎 29、神戸 35、福岡 29、関学生親 0)

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 自宅から 800m 圏内(徒歩 10 分程度)	13.5 (122)	9.2 (89)	7.9 (69)	6.8 (12)
2. 自宅から 2.4km 圏内(徒歩 30 分程度)	35.0 (317)	34.0 (330)	36.0 (316)	32.2 (57)
3. その他の市内	22.9 (207)	47.9 (466)	48.3 (424)	27.7 (49)
4. 市外	23.0 (208)	5.1 (50)	3.0 (26)	26.6 (47)
5. 店舗等は利用しない	5.6 (51)	3.8 (37)	4.9 (43)	6.8 (12)
計	100.0 (905)	100.0 (972)	100.0 (878)	100.0 (177)

〈家電の購入〉

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 自宅から 800m 圏内(徒歩 10 分程度)	12.7 (114)	9.5 (92)	10.3 (90)	8.5 (15)
2. 自宅から 2.4km 圏内(徒歩 30 分程度)	32.9 (295)	36.7 (355)	36.4 (318)	39.0 (69)
3. その他の市内	29.1 (261)	42.9 (415)	44.9 (392)	30.5 (54)
4. 市外	16.6 (149)	3.5 (34)	2.2 (19)	16.9 (30)
5. 店舗等を利用しない	8.8 (79)	7.4 (72)	6.2 (54)	5.1 (9)
計	100.0 (898)	100.0 (968)	100.0 (873)	100.0 (177)

〈床屋・美容院〉

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 自宅から 800m 圏内(徒歩 10 分程度)	34.0 (308)	31.1 (304)	32.3 (283)	23.0 (41)
2. 自宅から 2.4km 圏内(徒歩 30 分程度)	32.3 (293)	31.8 (311)	35.8 (314)	43.8 (78)
3. その他の市内	11.7 (106)	26.3 (257)	23.8 (209)	18.0 (32)
4. 市外	17.1 (155)	5.8 (57)	2.9 (25)	11.8 (21)
5. 店舗等を利用しない	5.0 (45)	5.0 (49)	5.2 (46)	3.4 (6)
計	100.0 (907)	100.0 (978)	100.0 (877)	100.0 (178)

〈病院(風邪を引いたり体調を崩した時)〉

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 自宅から 800m 圏内(徒歩 10 分程度)	49.2 (447)	45.4 (448)	39.8 (352)	42.6 (75)
2. 自宅から 2.4km 圏内(徒歩 30 分程度)	36.0 (327)	37.2 (367)	40.7 (360)	34.7 (61)
3. その他の市内	9.0 (82)	14.7 (145)	16.9 (149)	16.5 (29)
4. 市外	4.6 (42)	1.9 (19)	1.1 (10)	2.8 (5)
5. 店舗等を利用しない	1.2 (11)	0.7 (7)	1.5 (13)	3.4 (6)
計	100.0 (909)	100.0 (986)	100.0 (884)	100.0 (176)

NA=94(川崎 34、神戸 33、福岡 25、関学生親 2)

Q26(1). Q25 の「食料(朝食や夕食の材料)の購入」であなたが思い浮かべた店舗の店舗名と支店名をお書きください。支店名がわからない場合は、町名など場所を示すことをお書きください。

1. 店舗名【
5. 店舗等を利用しない

	関学生親
店舗名記入あり	89.6 (155)
店舗名記入なし	10.4 (18)
計	100.0 (173)

店舗利用無し 5

Q26(2). その店舗へ行く場合、日ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 徒歩	47.7 (430)	40.0 (390)	32.9 (287)	26.6 (45)
2. 自転車	22.9 (206)	14.2 (138)	17.2 (150)	16.0 (27)
3. バイク	1.9 (17)	2.4 (23)	2.2 (19)	0.6 (1)
4. 自動車	23.5 (212)	37.0 (360)	44.7 (390)	55.6 (94)
5. 路線バス	2.4 (22)	4.5 (44)	1.4 (12)	0.6 (1)
6. 鉄道	1.6 (14)	1.6 (16)	0.8 (7)	0.6 (1)
7. その他	0.0 (0)	0.3 (3)	0.9 (8)	0.0 (0)
計	100.0 (901)	100.0 (974)	100.0 (873)	100.0 (169)

NA=79(川崎 27、神戸 23、福岡 25、関学生親 4)

非該当=53(川崎 15、神戸 22、福岡 11、関学生親 5)

Q26(3). 現在お住まいの住居からその店舗へ、日ごろ利用している交通手段で何分かかりますか。

平均(単位：分)

	関学生親	
片道()分	8:46 (170)	非該当=8

Q27(1). Q25 の「外出着などの衣料品の購入」であなたが思い浮かべた店舗の名前をお書きください。

またその店舗がある市町名または最寄駅名もお書きください。

(例)「阪急百貨店うめだの紳士服売り場」(梅田)、「ガーデنزのユニクロ」(西宮市)、「三宮センター街の○○」(JR 元町)

	関学生親
店舗名記入あり	83.1 (128)
店舗名記入なし	16.9 (26)
計	100.0 (154)

店舗利用無し 24

	関学生親
市町名・最寄り駅名記入あり	79.2 (122)
市町名・最寄り駅名記入なし	20.8 (32)
計	100.0 (154)

非該当=24

Q27(2). その店舗へ行く場合、日ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。【1つだけ○】

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 徒歩	14.4 (124)	11.3 (107)	6.9 (58)	5.5 (8)
2. 自転車	12.1 (104)	5.7 (54)	8.0 (67)	10.3 (15)
3. バイク	1.5 (13)	1.8 (17)	1.8 (15)	0.7 (1)
4. 自動車	28.4 (244)	42.3 (402)	54.1 (454)	60.3 (88)

5. 路線バス	10.1	(87)	8.1	(77)	13.2	(111)	1.9	(2)
6. 鉄道	33.2	(285)	30.1	(286)	14.5	(122)	21.9	(32)
7. その他	0.2	(2)	0.8	(8)	1.4	(12)	0.0	(0)
計	100.0	(859)	100.0	(951)	100.0	(839)	100.0	(146)

NA=99(川崎 33、神戸 31、福岡 27、関学生親 8)

非該当=155(川崎 51、神戸 37、福岡 43、関学生親 24)

Q27(3). 現在お住まいの住居からその店舗へ、日ごろ利用している交通手段で何分かかりますか。

平均(単位：分)

	関学生親
片道()分	28:0 (155)

非該当=23

Q28(1). Q26の「家電の購入」であなたが思い浮かべた店舗の名前をお書きください。またその店舗のある市町名または最寄駅名もお書きください。

(例)「エディオン西宮店」(西宮市)、「ヨドバシカメラ梅田」(大阪市)、「〇〇商店街の〇〇」(尼崎市)

	関学生親
店舗名記入あり	86.1 (130)
店舗名記入なし	13.9 (21)
計	100.0 (151)

店舗利用無し 27

	関学生親
市町名・最寄り駅名記入あり	78.6 (114)
市町名・最寄り駅名記入なし	21.4 (31)
計	100.0 (145)

非該当=33

Q28(2). その店舗へ行く場合、日ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。【1つだけ○】

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 徒歩	12.8 (106)	9.4 (85)	7.0 (58)	6.4 (9)
2. 自転車	9.0 (74)	4.8 (44)	6.7 (55)	9.2 (13)
3. バイク	0.6 (5)	1.4 (13)	1.2 (10)	75.9 (107)
4. 自動車	44.7 (369)	60.9 (554)	67.5 (556)	0.7 (1)
5. 路線バス	7.6 (63)	5.6 (51)	8.3 (68)	6.4 (9)
6. 鉄道	23.8 (196)	14.3 (130)	6.2 (51)	0.7 (1)
7. その他	1.5 (12)	3.5 (32)	3.2 (26)	0.7 (1)
計	100.0 (825)	100.0 (909)	100.0 (824)	100.0 (141)

NA=116(川崎 39、神戸 38、福岡 31、関学生親 8)

非該当=234(川崎 79、神戸 72、福岡 54、関学生親 29)

Q28(3). 現在お住まいの住居からその店舗へ、日ごろ利用している交通手段で何分かかりますか。

平均(単位：分)

	関学生親
片道()分	18:7 (143)

非該当=35

Q29(1). Q26の「床屋・美容院」であなたが思い浮かべた店舗の名前をお書きください。またその店舗がある市町名または最寄駅名もお書きください。

(例)「クイックカットBB ドンキホーテ西宮」(西宮市)、「サロン・パリ」(大阪市梅田)、「〇〇理容室」(伊丹市)

	関学生親	
店舗名記入あり	66.9	(115)
店舗名記入なし	33.1	(57)
計	100.0	(172)

店舗利用無し 6

	関学生親	
市町名・最寄り駅名記入あり	68.4	(117)
市町名・最寄り駅名記入なし	31.6	(54)
計	100.0	(171)

非該当=7

Q29(2). その店舗へ行く場合、日ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。【1つだけ○】

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 徒歩	37.6 (324)	32.9 (310)	28.1 (235)	23.1 (33)
2. 自転車	19.3 (166)	10.2 (96)	16.8 (141)	15.4 (22)
3. バイク	1.9 (16)	3.1 (29)	1.8 (15)	1.4 (2)
4. 自動車	11.5 (99)	27.8 (262)	37.4 (313)	49.7 (71)
5. 路線バス	6.3 (54)	7.4 (70)	6.3 (53)	1.4 (2)
6. 鉄道	23.1 (199)	17.6 (166)	8.4 (70)	9.1 (13)
7. その他	0.5 (4)	1.1 (10)	1.2 (10)	0.0 (0)
計	100.0 (862)	100.0 (943)	100.0 (837)	100.0 (143)

NA=118(川崎 36、神戸 27、福岡 26、関学生親 29)

非該当 146(川崎 45、神戸 49、福岡 46、関学生親 6)

Q29(3). 現在お住まいの住居からその店舗へ、日ごろ利用している交通手段で何分かかりますか。

平均(単位：分)

	関学生親
片道()分	15:7 (144)

非該当=34

Q30(1). Q26の「病院(風邪を引いたり体調を崩した時)」であなたが思い浮かべた病院の名前をお書きください。またその病院がある市町名または最寄駅名もお書きください。

(例)「〇〇内科医院」(尼崎市)、「西宮市民病院」(西宮市)、「〇〇診療所」(大阪府岬町)

	関学生親	
病院名記入あり	85.4	(140)
病院名記入なし	14.6	(24)
計	100.0	(164)

店舗利用無し 14

	関学生親	
市町名・最寄り駅名記入あり	80.4	(131)
市町名・最寄り駅名記入なし	19.6	(32)
計	100.0	(163)

非該当=15

Q30(2). その病院へ行く場合、日ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。【1つだけ○】

	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 徒歩	47.5 (428)	43.1 (424)	32.0 (280)	26.1 (40)
2. 自転車	19.4 (175)	9.7 (95)	11.9 (104)	15.7 (24)

3. バイク	1.4	(13)	2.0	(20)	1.1	(10)	1.3	(2)
4. 自動車	16.6	(150)	32.1	(316)	45.7	(400)	53.6	(82)
5. 路線バス	6.7	(60)	5.2	(51)	3.9	(34)	1.3	(2)
6. 鉄道	7.5	(68)	6.6	(65)	3.5	(31)	2.0	(3)
7. その他	0.9	(8)	1.3	(13)	1.8	(16)	0.0	(0)
計	100.0	(902)	100.0	(984)	100.0	(875)	100.0	(153)

NA=91(川崎 30、神戸 28、福岡 21、関学生親 12)

非該当=44(川崎 11、神戸 7、福岡 13、関学生親 13)

Q30(3). 現在お住まいの住居からその病院へ、日ごろ利用している交通手段で何分かかりますか。

平均(単位：分)

	関学生親	
片道 () 分	11:6 (156)	非該当=22

Q31. あなたが「この1年間」に、最もよく利用したコンビニはどちらですか。その店舗名と支店名をお書きください。支店名がわからない場合は、町名や駅名など場所を示すことを詳細にお書きください。

(例)「阪急梅田のアズナス」、「西宮北口のファミマ(南口バスロータリーのところ)」、「ローソン西宮青木店。ハローワークの近く」

	関学生親			関学生親
コンビニ名記入あり	87.5 (147)		市町名・最寄り駅名記入あり	79.6 (133)
コンビニ名記入なし	12.5 (21)		市町名・最寄り駅名記入なし	20.4 (34)
計	100.0 (168)		計	100.0 (167)

店舗利用無し 10

非該当=11

Q32. 現在、あなたと家計(生計)を共にしているかたはどなたですか。【すべてに○】

○をつけた割合	川崎	神戸	福岡	関学生親
1. 配偶者	76.6 (605)	73.4 (653)	73.2 (544)	88.5 (154)
2. 子ども	42.4 (335)	36.9 (326)	38.5 (286)	63.2 (110)
3. 子どもの配偶者	0.5 (4)	0.6 (5)	1.1 (8)	0.6 (1)
4. あなた(または配偶者)の父親	12.7 (100)	11.9 (105)	11.4 (85)	4.0 (7)
5. あなた(または配偶者)の母親	17.5 (138)	16.0 (141)	19.7 (146)	7.5 (13)
6. 孫	1.5 (12)	1.1 (10)	1.3 (10)	0.0 (0)
7. あなた(または配偶者)のきょうだい	6.7 (53)	4.9 (43)	7.1 (53)	0.6 (1)
8. あなた(または配偶者)の祖父・祖母	0.5 (4)	0.6 (5)	1.2 (9)	0.6 (1)
9. その他の親族()	0.3 (2)	0.6 (5)	0.4 (3)	0.0 (0)
10. その他()	1.3 (10)	3.3 (29)	2.3 (17)	0.0 (0)

NA=459(川崎 153、神戸 136、福岡 166、関学生親 4)

Q33. 現在のあなたの世帯の家計(生計)の収入はどのように構成されていますか。家計を共にしているかたの合計でお考えください。収入全体を10とし、すべて足し合わせて10になるようにご記入ください。

(例)あなたの勤労所得6割、配偶者の年金所得2割、子どもの勤労所得2割

割合の平均

(1～9 回答あり)	川崎(806)	神戸(853)	福岡(775)	関学生親(169)
1. あなたの勤労所得	4.34	3.80	4.26	4.75
2. 配偶者の勤労所得	2.89	2.38	2.44	4.18
3. その他家族の勤労所得	0.80	0.80	0.78	0.22
4. あなたの年金所得	0.84	1.43	1.26	0.08
5. 配偶者の年金所得	0.52	1.02	0.57	0.03
6. その他家族の年金所得	0.23	0.22	0.31	0.09
7. 財産所得、保険など	0.24	0.23	0.24	0.20
8. 行政からの支援	0.10	0.07	0.09	0.00
9. その他	0.02	0.06	0.09	0.11
10. 答えたくない	(64)	(102)	(38)	(9)

生活実態調査 関学生親版

科学研究費 基礎研究

「政策形成に貢献する新しい社会調査方法の開発」

(研究代表者 関西学院大学社会学部教授 大谷信介)

一調査ご協力のお願いー

関西学院大学社会学部大谷研究室では、社会学領域で蓄積されてきた社会調査に関する研究成果を応用し、既存の政府統計や地方自治体調査を刷新することのできる新たな「市民生活実態調査」を開発していくことを目的として、日々研究に励んでおります。

2019年には「政策形成に貢献し調査困難状況に対処可能な社会調査方法の研究」の一環として、文部科学省から研究費の助成を受け、「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」を実施しました。この調査では、〈どんな人が、どこに住み、どこで働き、どのような問題を抱えているのか〉を正確かつ簡潔に測定することを通じて、自治体の政策形成に貢献できるデータを構築しようとしてきました。現在は、この調査に回答いただいた2876名のデータを分析しながら、社会調査法に関する本を出版することを目標に、研究や執筆を進めております。

この「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」の調査票の中には、大谷研究室の学生約40名が会議を重ねて開発した質問文が多く盛り込まれています。回答率や回答結果からは、ある程度、これらの質問の有用性について成果が表れていますが、今後実用化していくためには、未だ改善の余地があります。

今回の調査では、調査分析の新しい方法として生活行動の空間的分析方法を試行検証しております。現住所や職場等について、住所を正確に記入していただきたく思います。店舗・病院については、後でネットで調べて必要事項を入力する方法を提案しております。その点を考慮いただき、できるだけ詳しく記入していただければ幸いです。

また、この調査とともにお子さんへ聞き取り調査をお願いしていますので、そちらの回答にもご協力ください。

調査に関しては、お子さんの学籍番号が多数の場合はお父様、多数の場合はお母様が回答してください。
*一人親・単身赴任等の場合は、答えられる方が回答してください。

なお、質問文中にある「この1年間」とは、2019年12月～2020年11月とお考えください。

なにとぞご協力のほど、お願い申し上げます

お子さんの学籍番号 ()
回答された方 1. お父様 2. お母様 3. その他 ()

1

移動型について

Q1. 現住所を記入してください。

[]

Q2(1). 現在お住まいの市区町村を含めて、あなたがこれまでお住まいになったことがある場所はどちらですか。あてはまる番号すべてに○をつけ、()に居住経験のある市区町村の数を記入してください。同じ都道府県で市区町村が変わった場合も数に含みます。**【すべてに○】**

例) ・生まれてからずっと戸田市に住んでいる →28 兵庫県に○、(1)と記入

・西宮市から神戸市に移動した。 →28 兵庫県に○、(2)と記入

・大阪市北区から大阪市淀川区、その後大阪府高槻市に移動した。

→27 大阪府に○、(3)と記入

・宝塚市の実家から福岡市西区に大学進学し、その後宝塚市にリターン就職し、1人暮らしをした。 →28 兵庫県に○、(1)、40 福岡県に○、(1)と記入

- | | | | | | | | | |
|----|------|-----|----|------|-----|----|------|-----|
| 1 | 北海道 | () | 17 | 石川県 | () | 33 | 岡山県 | () |
| 2 | 青森県 | () | 18 | 福井県 | () | 34 | 広島県 | () |
| 3 | 宮城県 | () | 19 | 山梨県 | () | 35 | 山口県 | () |
| 4 | 岩手県 | () | 20 | 長野県 | () | 36 | 徳島県 | () |
| 5 | 秋田県 | () | 21 | 岐阜県 | () | 37 | 香川県 | () |
| 6 | 山形県 | () | 22 | 静岡県 | () | 38 | 愛媛県 | () |
| 7 | 福島県 | () | 23 | 愛知県 | () | 39 | 高知県 | () |
| 8 | 茨城県 | () | 24 | 三重県 | () | 40 | 福岡県 | () |
| 9 | 栃木県 | () | 25 | 滋賀県 | () | 41 | 佐賀県 | () |
| 10 | 群馬県 | () | 26 | 京都府 | () | 42 | 長崎県 | () |
| 11 | 埼玉県 | () | 27 | 大阪府 | () | 43 | 熊本県 | () |
| 12 | 千葉県 | () | 28 | 兵庫県 | () | 44 | 大分県 | () |
| 13 | 東京都 | () | 29 | 奈良県 | () | 45 | 宮崎県 | () |
| 14 | 神奈川県 | () | 30 | 和歌山県 | () | 46 | 鹿児島県 | () |
| 15 | 新潟県 | () | 31 | 鳥取県 | () | 47 | 沖縄県 | () |
| 16 | 富山県 | () | 32 | 島根県 | () | 48 | 海外 | () |

Q2(2). 5年前(2015年)はどこにお住まいでしたか。該当する番号に○をつけ、都道府県名と市区町村をお書きください。**【1つだけ○】** 政令指定都市・東京23区の方は区までお書きください。

1. 現住所と同じ
 2. 同じ市区町村内の他の場所
 3. 同じ県内の他の市区町村
 4. 他の都道府県
 5. 海外
- [国名] [都道府県] [市区町村]

2

Q2(3). 現在お住まいの市区町村に住み始めて何年ですか。

()年

Q3(1). 現在お住まいの住居に住み始めて何年ですか。

()年

Q3(2). あなたはこれまでに同回転居された経験がありますか。()に回数をお書きください。生まれ
てからずっと同じ住居にお住まいの方は(0)とお書きください。同じ都道府県や市区町村で
の移動も含みます。

()回 ※(0)と回答した方は、Q4へ

Q3(3). あなたが現在お住まいの住居に引っ越してくる前は、どちらにお住まいでしたか。住所をお書き
ください。

[]

Q3(4). 現在お住まいの住居に引っ越してきた最も大きな理由は次のうちどちらですか。最もあてはまる
ものを1つだけ選んでお書きください。【1つだけ○】

1. 進学のため
2. 就職のため
3. 親との同居・近居のため
4. 親の介護のため
5. 子育てのため
6. 親と子の同居・近居のため
7. 親の介護のため
8. その他 ()

Q4. あなたがらだんよく使う鉄道の最寄り駅(私鉄・地下鉄)は、どちらですか。

【駅名】 [] 【駅名】

Q5. あなたがらだんよく使う最寄りのバス停はどちらですか。

1. 【バス停名】 [] 2. 分からない

あなた・配偶者について

Q6. あなたの性別は次のどちらですか。

1. 男性 2. 女性

Q7. あなたは現在、結婚（内縁の関係・事実婚も含む）されていますか。

1. 結婚している（再婚を含む） 2. 結婚していましたが、配偶者と死別した
3. 結婚していましたが、配偶者と離別した 4. 結婚したことはない

～「1. 結婚している」を選択した方は、配偶者についてもご回答ください～

Q8. あなた（および配偶者）の年齢はいくつですか。

あなた	配偶者（あなたの夫や妻）
(歳)	(歳)

Q9(1). あなた（および配偶者）の最後に行かれた（中退および在学中を含む）学校はどれですか。

あなた	配偶者（あなたの夫や妻）
1. 中学 2. 高校 3. 高等・短大・専門学校 (高校卒業後に進学したもの) 4. 大学・大学院	1. 中学 2. 高校 3. 高等・短大・専門学校 (高校卒業後に進学したもの) 4. 大学・大学院

Q9(2). あなた（および配偶者）の最後に行かれた（中退および在学中を含む）学校の所在地はどちらに
なりますか。都道府県名と市区町村名をお書きください。政令指定都市・東京23区の方は区ま
でお書きください。

あなた	配偶者（あなたの夫や妻）
[都道府県] [市区町村]	[都道府県] [市区町村]

Q10. あなた（および配偶者）の出身地はどちらですか。出身地とは、15歳までに主に過ごされたところ
をお書きください。合併後の自治体名をお書きください。政令指定都市・東京23区の方は区まで
お書きください。

あなた	配偶者（あなたの夫や妻）
1. 【 都道府県 】 [市区町村]	1. 【 都道府県 】 [市区町村]
2. 外国 【 国名 】	2. 外国 【 国名 】

Q11. 現在のあなた（および配偶者）の主な職業は次のどれですか。【1つだけ○】

あなた	配偶者（あなたの夫や妻）
1. 農・林・漁業従事者（家族従事者を含む） 2. 1.以外の自営業者（家族従事者を含む） 3. 会社員（経営者を含む） 4. 教員（公立学校を含む） 5. 公務員（教員は除く） 6. パート・アルバイト・派遣等 (控除や扶養の範囲を超える) 7. パート・アルバイト・派遣等 (控除や扶養の範囲内) 8. その他（具体的に） 9. 無職 10. 専業主婦・専業主夫 11. 学生	1. 農・林・漁業従事者（家族従事者を含む） 2. 1.以外の自営業者（家族従事者を含む） 3. 会社員（経営者を含む） 4. 教員（公立学校を含む） 5. 公務員（教員は除く） 6. パート・アルバイト・派遣等 (控除や扶養の範囲を超える) 7. パート・アルバイト・派遣等 (控除や扶養の範囲内) 8. その他（具体的に） 9. 無職 10. 専業主婦・専業主夫 11. 学生

※9.～11.に○をつけた方は、⇒Q16にお進みください

通勤・働き方について

Q12. 職場はどちらにありますか。①住所、②郵便番号、③最寄り駅、④最寄りのバス停をお答えください。①から④まですべてご記入ください。④バス停がない場合には【(2)バス停はない】に○

あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
1. 職場は自宅である⇒Q14へ			
2. ①【市街市町村】	2. ①【市街市町村】	2. ①【市街市町村】	2. ①【市街市町村】
②【市街市町村】	②【市街市町村】	②【市街市町村】	②【市街市町村】
③【市街市町村】	③【市街市町村】	③【市街市町村】	③【市街市町村】
④【市街市町村】	④【市街市町村】	④【市街市町村】	④【市街市町村】
(2)バス停はない			

Q13(1). 主な通勤手段は次のどれですか。【1つだけ○】 また、日ごろ使う交通手段でかかる通勤時間（家から職場までにかかる所要時間）はどれくらいですか。

あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
1. 徒歩	1. 徒歩	1. 徒歩	1. 徒歩
2. 自転車	2. 自転車	2. 自転車	2. 自転車
3. バイク	3. バイク	3. バイク	3. バイク
4. 自動車	4. 自動車	4. 自動車	4. 自動車
通勤時間 片道（時間 分）	通勤時間 片道（時間 分）	通勤時間 片道（時間 分）	通勤時間 片道（時間 分）

Q13(2). 利用している通勤手段の組み合わせは次のどれですか。【1つだけ○】

あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
1. 徒歩のみ	1. 徒歩のみ	1. 徒歩のみ	1. 徒歩のみ
2. 自転車	2. 自転車	2. 自転車	2. 自転車
3. バイク	3. バイク	3. バイク	3. バイク
4. 自動車	4. 自動車	4. 自動車	4. 自動車
5. 徒歩+自転車	5. 徒歩+自転車	5. 徒歩+自転車	5. 徒歩+自転車
6. 徒歩+バイク	6. 徒歩+バイク	6. 徒歩+バイク	6. 徒歩+バイク
7. 自転車+バイク	7. 自転車+バイク	7. 自転車+バイク	7. 自転車+バイク
8. バイク+自転車	8. バイク+自転車	8. バイク+自転車	8. バイク+自転車
9. バイク+バイク	9. バイク+バイク	9. バイク+バイク	9. バイク+バイク
10. その他（ ）	10. その他（ ）	10. その他（ ）	10. その他（ ）

Q14. 平均的な・最も多い出勤時刻（家を出る時刻）と、帰宅時刻（家に着く時刻）はいつですか。職場が自宅の場合は、仕事の開始時刻と終了時刻をお答えください。

あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
出勤 午前・午後（時 分）	出勤 午前・午後（時 分）	出勤 午前・午後（時 分）	出勤 午前・午後（時 分）
帰宅 午前・午後（時 分）	帰宅 午前・午後（時 分）	帰宅 午前・午後（時 分）	帰宅 午前・午後（時 分）

Q15. あなた（および配偶者）の、この1週間の生活についてお聞きします。この1週間とは、調査票が届いた日を7日目としてその前7日間とお考えください。（家事・育児・介護などは含めずお答えください）

あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
①1週間のうち、働いた日は何日ありましたか	1.（日） 2.働かなかった	1.（日） 2.働かなかった	1.（日） 2.働かなかった
②1週間で、合計何時間くらい働きましたか	1.（時間） 2.働かなかった	1.（時間） 2.働かなかった	1.（時間） 2.働かなかった

人付き合いについて

Q16. 現在お住まいの住居と一緒に住んでいるかは何人ですか。

1. あなたお一人 ⇒Q18へ 2. あなたを含めて（人）

Q17. 一緒にお住まいになっているかとはどなたですか。【すべてに○】

1. 配偶者
2. 子ども
3. 子どもの配偶者
4. あなた（または配偶者）の父親
5. あなた（または配偶者）の母親
6. 孫
7. あなた（または配偶者）のきょうだい
8. あなた（または配偶者）の祖父・祖母
9. その他の親族（ ）
10. その他（ ）

Q18. あなた（および配偶者の方）のごきょうだい構成についてお聞きします。

あなた		配偶者	
1. 一人っ子である	1. 一人っ子である	1. 一人っ子である	1. 一人っ子である
2. 長男（弟や妹がいる）	2. 長男（弟や妹がいる）	2. 長男（弟や妹がいる）	2. 長男（弟や妹がいる）
3. 長女（弟や妹がいる）	3. 長女（弟や妹がいる）	3. 長女（弟や妹がいる）	3. 長女（弟や妹がいる）
4. 次男（弟や妹がいる）	4. 次男（弟や妹がいる）	4. 次男（弟や妹がいる）	4. 次男（弟や妹がいる）
5. 次女（弟や妹がいる）	5. 次女（弟や妹がいる）	5. 次女（弟や妹がいる）	5. 次女（弟や妹がいる）
6. その他（ ）	6. その他（ ）	6. その他（ ）	6. その他（ ）

Q19(1). あなた（および配偶者）の親類さんについてお聞きします。

あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
ご健在ですか	父 1. ご健在 2. 他界した母 1. ご健在 2. 他界した	父 1. ご健在 2. 他界した母 1. ご健在 2. 他界した	父 1. ご健在 2. 他界した母 1. ご健在 2. 他界した

Q19 (2). あなたの親御さんについてお聞きます。

①あなたと同居していますか (父・母のどちらか一人以上)	1. 同じ建物内・敷地内に同居 ※1. はい 2. いいえ	2. 別居 ※1. はい 2. いいえ
②あなたと同じ市区町村内に お住まいですか	※1. はい を選択した場合⇒④へ	
③あなたと同じ都道府県内に お住まいですか	1. はい 2. いいえ	
④あなたの住居から別居され ている親御さん(父母別居の 場合、距離が近い方)の住居 まで、車で往くと仮定した場 合、所要時間は何分ですか。	1. 片道 (時間 分) 2. 車で往かない距離である 3. わからない	
⑤「1年間」に何回会いまし たか	(1)新型コロナウイルス 感染拡大前(2019年)	(2)新型コロナウイルス 感染拡大後(2020年)
	1. 週に1回以上 2. 3ヶ月に1回以上 3. 年1～2回程度 4. 全く会わなかった	1. 週に1回以上 2. 3ヶ月に1回以上 3. 年1～2回程度 4. 全く会わなかった
⑥「1年間」に何回連絡を取 りましたか	1. 週に1回以上 2. 3ヶ月に1回以上 3. 年1～2回程度 4. 全く連絡しなかった	

Q19 (3). 配偶者の親御さんについてお聞きます。

①あなたと同居していますか (父・母のどちらか一人以上)	1. 同じ建物内・敷地内に同居 ※1. はい 2. いいえ	2. 別居 ※1. はい 2. いいえ
②あなたと同じ市区町村内に お住まいですか	※1. はい を選択した場合⇒④へ	
③あなたと同じ都道府県内に お住まいですか	1. はい 2. いいえ	
④あなたの住居から別居され ている親御さん(父母別居の 場合、距離が近い方)の住居 まで、車で往くと仮定した場 合、所要時間は何分ですか。	1. 片道 (時間 分) 2. 車で往かない距離である 3. わからない	
⑤「1年間」に何回会いまし たか	(1)新型コロナウイルス 感染拡大前(2019年)	(2)新型コロナウイルス 感染拡大後(2020年)
	1. 週に1回以上 2. 3ヶ月に1回以上 3. 年1～2回程度 4. 全く会わなかった	1. 週に1回以上 2. 3ヶ月に1回以上 3. 年1～2回程度 4. 全く会わなかった

7

⑥「1年間」に何回連絡を取 りましたか	1. 週に1回以上 2. 3ヶ月に1回以上 3. 年1～2回程度 4. 全く連絡しなかった	1. 週に1回以上 2. 3ヶ月に1回以上 3. 年1～2回程度 4. 全く連絡しなかった
------------------------	--	--

Q20. あなたのおつきあいについてお聞きます。日ごろ同居家族以外で、親しくおつきあい(よく行き来したり、一緒に遊びに行ったり)している ①親戚、②職場の人、③近所の人、④上記以外の人 は、それぞれ何人くらいいますか。

①同居家族以外の親戚	1. 0人	2. 1～4人	3. 5人以上
②職場の人(仕事を通じて知り合った人 など)	1. 0人	2. 1～4人	3. 5人以上
③近所の人(近隣・地域活動・子どもの 学校関連など)	1. 0人	2. 1～4人	3. 5人以上
④上記以外の人	1. 0人	2. 1～4人	3. 5人以上

Q21. 日ごろ同居家族以外で、あなたが①最も親しいと考える人と、②最も頻りにしている人は、次のどの種類の人ですか。

①最も親しい人	②最も頻りにしている人
1. 同居家族以外の親戚(具体的に記入)	1. 同居家族以外の親戚(具体的に記入)
2. 職場の人	2. 職場の人
3. 近所の人	3. 近所の人
4. 上記以外の人(具体的に記入)	4. 上記以外の人(具体的に記入)
5. 親しい人はいない	6. 頻りにしている人はいない

Q21 SQ. Q21で家族を含む「1. 同居家族以外の親戚」が選択肢がない場合、次のうちどれを選択しますか。

①最も親しい人	②最も頻りにしている人
1. 職場の人	1. 職場の人
2. 近所の人	2. 近所の人
3. 上記以外の人	3. 上記以外の人
4. 親しい人はいない	4. 親しい人はいない

8

最も好きな休日の過ごし方について

Q22(1). 次の休日の過ごし方のうち、あなたが最も好きな休日の過ごし方はどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでお答えください。【1つだけ○】

1. スポーツ、スポーツ観戦、アウトドアなど
2. 音楽活動、ライブ・コンサート鑑賞など
3. 美術館・博物館訪問、観劇、映画鑑賞など
4. 外食、ショッピングなど
5. パチンコ、競馬、競輪、競艇など
6. 自宅でゆっくりしたい(庭いじり、日曜大工、料理・掃除なども含む)
7. その他

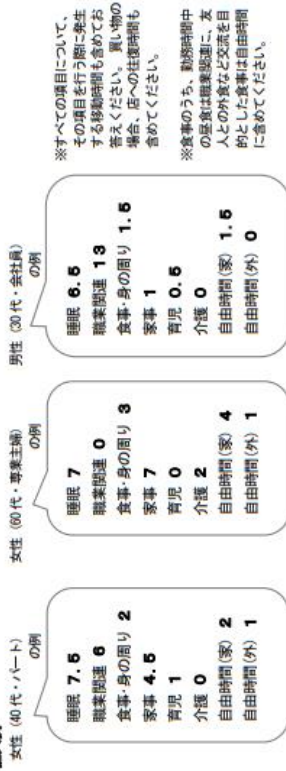
Q22(2). 次の休日の過ごし方のうち、あなたが選別に最もよく行っている休日の過ごし方はどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでお答えください。【1つだけ○】

1. スポーツ、スポーツ観戦、アウトドアなど
2. 音楽活動、ライブ・コンサート鑑賞など
3. 美術館・博物館訪問、観劇、映画鑑賞など
4. 外食、ショッピングなど
5. パチンコ、競馬、競輪、競艇など
6. 自宅でゆっくりしたい(庭いじり、日曜大工、料理・掃除なども含む)
7. その他

生活時間について

Q23. あなたの平均的な平日の過ごし方についてお聞きします。1日24時間を次の項目にふりわけると、それぞれのくらのいになりますか。すべて足し合わせると24になるようにご記入ください。

記入例



項目	例	あなた
睡眠	寝寝も含む	(時間)
職業関連 (学業を含む)	労働時間、残業、仕事の準備、休憩、アルバイト、内職、自営業の手伝い、通勤時間なども含む (授業、部活、給食、宿題、通学時間も含む)	(時間)
食事・身の周りの用事	朝食、昼食、夕食、入浴、洗顔、化粧、着替え、ひげ剃り、通院 など	(時間)
家事	炊事、掃除、洗濯、買い物、ゴミ捨て など	(時間)
育児	世話、付き添い、送り迎え、遊び相手 など	(時間)
介護	世話、看病、付き添い、送り迎え など	(時間)
(自宅や敷地内で過ごす) 自由時間	テレビ、インターネット、新聞を読む、読書、日記、ラジオ講座、園いじり など	(時間)
(自宅外で過ごす) 自由時間	映画、スポーツジム、習いごと、サークル活動、ウィンドウショッピング、交流(友人と外食)、ボランティア など	(時間)

Q24. あなたの世帯の家事（炊事、掃除、洗濯、買い物、ゴミ捨てなど）についてお聞きします。
日ごろあなたはどの程度家事をしていますか。

1. すべてしている
2. ほとんどしている
3. 半分くらいしている
4. あまりしていない
5. まったくしていない

生活面について

Q25. あなたが最もよく利用する店舗・病院はどちらにありますか。それぞれについてあてはまるものを1つだけ選んでお答えください。【1つだけ○】

	自宅から 800m 圏内 (徒歩 10 分程度)	自宅から 2.4km 圏内 (徒歩 30 分程度)	その他の 市内	市外	店舗等は 利用しない
食料（朝食や夕食の材料）の購入	1	2	3	4	5
外出着などの衣料品の購入	1	2	3	4	5
家電の購入	1	2	3	4	5
床屋・美容院	1	2	3	4	5
病院（風邪を引いたり体調を崩した時）	1	2	3	4	5

Q26 (1). Q25の「食料（朝食や夕食の材料）の購入」であなたが思い浮かべた店舗の店舗名と支店名をお書きください。支店名がわからない場合は、町名など場所を示すことをお書きください。

(例)「ライフ西宮北口店」「イズミヤガーデنز店」「阪神百貨店梅田店」「産直市○○」
「○○駅前○○商店」「ローソン○○店」

1. 店舗名【
5. 店舗等を利用しない】

Q26 (2). その店舗へ行く場合、日ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。

【1つだけ○】

1. 徒歩
2. 自転車
3. バイク
4. 自動車
5. タクシー
6. 路線バス・路面電車
7. 鉄道
8. フェリー・船
9. その他

Q26 (3). 現在お住まいの住居からその店舗へ、日ごろ利用している交通手段で何分かかりますか。
片道（ ）分

Q27 (1). Q25の「外出着などの衣料品の購入」であなたが思い浮かべた店舗の名前をお書きください。またその店舗がある市町名または最寄駅名もお書きください。

(例)「阪急百貨店うめだの紳士服売り場」(梅田)、「ガーデنزのユニクロ」(西宮市)、「三宮センター街の○○」(西元町)

1. 店舗名【
市町名・最寄駅名【
5. 店舗は利用しない】

Q27 (2). その店舗へ行く場合、日ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。【1つだけ○】

1. 徒歩
2. 自転車
3. バイク
4. 自動車
5. タクシー
6. 路線バス・路面電車
7. 鉄道
8. フェリー・船
9. その他

Q27 (3). 現在お住まいの住居からその店舗へ、日ごろ利用している交通手段で何分かかりますか。
片道（ ）分

Q28 (1). Q26の「家電の購入」であなたが思い浮かべた店舗の名前をお書きください。またその店舗がある市町名または最寄駅名もお書きください。

(例)「エディオン西宮店」(西宮市)、「ヨドバシカメラ梅田」(大阪市)、「○○商店街の○○」(尼崎市)

1. 店舗名【
市町名・最寄駅名【
5. 店舗は利用しない】

Q28 (2). その店舗へ行く場合、日ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。【1つだけ○】

1. 徒歩
2. 自転車
3. バイク
4. 自動車
5. タクシー
6. 路線バス・路面電車
7. 鉄道
8. フェリー・船
9. その他

Q28 (3). 現在お住まいの住居からその店舗へ、日ごろ利用している交通手段で何分かかりますか。
片道（ ）分

Q29 (1). Q26の「床屋・美容院」であなたが思い浮かべた店舗の名前をお書きください。またその店舗がある市町名または最寄駅名もお書きください。

(例)「クイックカット88 ドンキホーテ西宮」(西宮市)、「サロン・パリ」(大阪市の梅田)、「○○理容室」(伊丹市)

1. 店舗名【
市町名・最寄駅名【
5. 店舗は利用しない】

家族構成について

Q32. 現在、あなたと家計（生計）を共にしているかたはどなたですか。【すべてに○】

1. 配偶者

2. 子ども

3. 子どもの配偶者

4. あなた（または配偶者）の父親

5. あなた（または配偶者）の母親

6. 孫

7. あなた（または配偶者）のきょうだい

8. あなた（または配偶者）の祖父・祖母

9. その他の親族（

10. その他（

Q33. 現在のあなたの世帯の家計（生計）の収入はどのように構成されていますか。家計を共にしているかたの合計でお考えください。収入全体を10とし、すべて足し合わせて10になるようにご記入ください。

(例) あなたの勤労所得6割、配偶者の年金所得2割、子どもの勤労所得2割の場合

	(例)	あなたの世帯
1. あなたの勤労所得	6	()
2. 配偶者の勤労所得	0	()
3. その他家族（親、子ども、その他）の勤労所得	2	()
4. あなたの年金所得	0	()
5. 配偶者の年金所得	2	()
6. その他家族（親、子ども、その他）の年金所得	0	()
7. 財産所得（不動産収入や投資など、保険など	0	()
8. 行政からの支援（生活保護など）	0	()
9. その他（子や親からの援助など）	0	()
10. 答えたくない		

これで質問は終わりです。
お忙しいなか、本当にありがとうございました。

Q29 (2). その店舗へ行く場合、日ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。【1つだけ○】

1. 徒歩

2. 自転車

3. バイク

4. 自動車

5. タクシー

6. 路線バス・路面電車

7. 鉄道

8. フェリー・船

9. その他

Q29 (3). 現在お住まいの住居からその店舗へ、日ごろ利用している交通手段で何分かりますか。

片道 () 分

Q29 (1). Q26の「病院（風邪を引いたり体調を崩した時）」であなたが思い浮かべた病院の名前をお書きください。またその病院がある市町名または最寄駅名もお書きください。

(例) 「〇〇内科医院」(尼崎市)、「西宮市民病院」(西宮市)、「〇〇診療所」(大阪府堺市)

1. 店舗名【

市町名・最寄駅名【

5. 店舗は利用しない

Q30 (2). その病院へ行く場合、日ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。【1つだけ○】

1. 徒歩

2. 自転車

3. バイク

4. 自動車

5. タクシー

6. 路線バス・路面電車

7. 鉄道

8. フェリー・船

9. その他

Q30 (3). 現在お住まいの住居からその病院へ、日ごろ利用している交通手段で何分かりますか。

片道 () 分

Q31. あなたが「この1年間に」、最もよく利用したコンビニはどちらですか。その店舗名と支店名をお書きください。支店名がわからない場合は、町名や駅名など場所を示すことを詳細にお書きください。

(例) 「阪急梅田のアズナス」、「西宮北口のファミマ（南口バスロータリーの近く）」
「ローソン西宮青木店。ハローワークの近く」

1. 店舗名【

市町名・最寄駅名【

5. 店舗は利用しない

「関学生親版生活実態調査」聞き取り調査票

—学生のみなさんへ—

関西学院大学社会学部大谷研究室では、社会学領域で蓄積されてきた社会調査に関する研究成果を応用し、既存の政府統計や地方自治体調査を刷新することのできる新たな「市民生活実態調査」を開発していくことを目的として、日々研究に励んでおります。

2019 年には「政策形成に貢献し調査困難状況に対応可能な社会調査方法の研究」の一環として、文部科学省から研究費の助成を受け、「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」を実施しました。この調査では、〈どんな人が、どこに住み・どこで働き・どのように暮らし・どのような問題を抱えているのか〉を正確かつ簡潔に測定することを通じて、自治体の政策形成に貢献できるデータを構築しようと試みました。現在は、この調査に回答いただいた 2876 名のデータを分析しながら、社会調査法に関する本を出版することを目標に、研究や執筆を進めております。

この「川崎・神戸・福岡市民生活実態調査」の調査票の中には、大谷研究室の学生約 40 名が会議を重ね開発した質問文が多く盛り込まれています。回答率や回収結果からは、ある程度、これらの質問の有用性について成果が表れつつありますが、今後更強化していくためには、未だ改善の余地があります。

そのため、学生のみなさんには、親御さんの回答をもとに、以下の課題について聞き取り調査を行っていただきたいです。ここでいただいたデータは、新たな社会調査法を確立するための貴重なデータとして大切に扱わせていただきます。よろしくお願いいたします。

学籍番号が奇数の場合は父親、偶数の場合は母親に回答してもらってください。

(一人親・単身赴任等の場合は、答えられる方が回答してください。)

聞き取り調査の結果は、別紙の課題速出用紙に入力してください。

あなたの学籍番号 ()
回答された方 1. 父 2. 母 3. その他 ()

通勤に関する質問について(Q4-5、Q12-13(2))

大谷ゼミでは、「関西ニュータウン調査」や「西宮マンション調査」で「無寄り駅」を問う形式を採用し、それぞれ 70.8%、83.9%の回答を得ることができました。「愛媛・長崎県民生活実態調査」では(郵便番号)を問う質問形式で、74.5%の回答が得られました。通勤に関する質問文は、通勤先の住所を聞くことなく場所を把握し、そのデータをGoogleMap 等に入れた空間的に分析する方法を検討することが目的です。今回は場所を特定するために、(郵便番号) (無寄り駅) (無寄りのバス停) のどの方法が良いのか検討できるよう、3 つの質問形式と住所についてすべてに回答してもらっています。

すべてに回答していただいた感想をいただくことで、今後の調査でどのように質問文を作成していくべきか提案していきたいと考えています。

【課題 A】

① 「職場所在地を問う質問文について」

Q12 の職場所在地について、(郵便番号)、(無寄り駅)、(無寄りのバス停) の3種類の質問を行っています。どの質問が回答しやすいですか。どのような印象をお持ちかなど感想なども聞き取り、率直にお答えください。

※バス停についてはより詳しく感想をお聞きしたいので、意見がある場合には具体的に書きください。

例)バス停は近くにないので回答しづらいが、電車通勤をしているので電車は回答しやすい。

自宅近くにバス停があるので、

郵便番号は名刺を見て回答できたが、職場周辺に交通機関がなく、回答できなかった。

最寄り駅が近くに複数ある(例)JR 三宮、阪急神戸三宮)ためどちらを回答すればよいのか難しかった。バス停はない、バス停は利用していない

② 「コロナウイルスによる通勤の変化について」

コロナウイルス発生後、通勤に変化はありましたか。聞き取りを行い、具体的にまとめてください。

例)在宅勤務になり、通勤をしなくなった。Q12 でいう「自宅が職場である」に強化した。

自営業のためコロナ前後で通勤に変化はない。

コロナ前は電車通勤だったが、コロナ後は自転車通勤をしている。

人付き合いに関する質問について(Q16-21SQ)

人付き合いに関する質問文は、回答者がどのような人間関係を築いているのか把握することが目的です。

Q20 について、市民生活実態調査では①～④の各ネットワークの規模を把握するために「0 人」「1～4 人」「5 人以上」の3つの選択肢を設けました。しかし、回収結果から「1～4 人」と「5 人以上」の規模の違いを反映させることが困難であったため、選択肢を「人数」という規模を測定するものから「いる・いない」という事実のみを問うものへ変更を検討しています。また、①～④の所属についても再検討しています。

Q21 について、県民生活実態調査・市民生活実態調査では「親しい人」のみならず、行政からの要望もあり「頼りにしている人」を質問項目に加えました。「親しい人」と「頼りにしている人」(は分けて考えて欲しいのですが、①②ともに同じ選択肢を回答した人が、県民・市民調査ともに 6 割以上であり、意味の違いを正しく認識できていない可能性あります。回答者はこの二つの意味の違いを認識できているのか、また、この意味の違いをどのように捉えているのかを知りたいです。

「関学生親版生活実態調査」聞き取り調査票

【課題 B】

④各所属で親しくおつきあっている人の人数を問う質問

Q20 でそれぞれどのような関係の人を人数に含めましたか。含めた方との関係や、含めるか迷った方を記入してください。また、()内に人数を記入してください。

例) 1. 同居家族以外の親戚：結婚して家を出た姉と週末に買い物に行きます。(1人)

2. 職場：会社の同僚とよく飲みに行きます(5人)

3. 近所：昔年の幼馴染のママ友とは今でもよくご飯に行く関係で、仲良くしています。お隣さんとはおつきあいをする関係です。また、挨拶や世間話をする程度のご近所さんがいるのですが、それが「親しくおつきあう」になるのかかわりかたはわかりませんが、言えなかつたです。(2人)

4. 上記以外の人：中学校の友達、高校の友達とは今でもご飯に行ったり、関係が険しいです。大学の友だちと職場も一緒なので、どちらかに言えればいいのか迷いましたが、こちらに含めました。(10人)

⑤「最も親しい人」と「最も頻りにしている人」の属性を問う質問

Q21 で「親しい人」と「頻りにしている人」の通いはどのようなように解釈しましたか。「親しい人」と「頻りにしている人」を分けて箇条書きで記入してください。

例) 「親しい人」：・家族のことを話せる人

・一緒にごはんやショッピングに行ける人

「頻りにしている人」：・うわべではなく本音で話せる人・自分の身に何か起こった時にとまに助けてくれる人

・信用していて、お金のこともと大切なことを相談できる人

最も好きな休日の過ごし方に関する質問について(Q22(1)-(2))

この質問文は、市民を体育会系や文化系等、タイプ別に分類することが可能なかを目的・趣旨として設けました。しかし、選択肢も非常に難しく、大会研究家の学生で議論を進めた結果、以下の問いの7つの選択肢に落ち着きました。川崎・神戸・福岡市民生活実態調査では、「最も好きな休日の過ごし方」を問うている為、普段行っている休日の過ごし方のギャップが生まれている可能性があり、正確に市民の余暇時間の実態把握、タイプ別に分類することが困難であった。その為、質問文のワーディング及び選択肢については再度検討し直す必要があると思っています。

【課題 C】実際にやっている休日の過ごし方を問う質問文について

Q22(1)において、その選択肢を選択した経緯を教えてください。回答に悩んだ場合は、身体的にどのようなように悩んだかを記入してください。また、「最も好きな休日の過ごし方」を問うと、実際の過ごし方と異なる可能性もあります。その点についてはどのように思われますか。その他にも、この質問文および選択肢に対する率直な感想と、どのように改善したらさらに良い質問になるのかについてご意見をいただけると幸いです。

例) 得意で忙しく、疲れているときは自宅がゆつくりしたいと思うが、元気がときはショッピングをしたいと思うので、回答に悩んだ。「好きな」と限定されることで実際の過ごし方とは大幅に違いが出てしまうと感じた。

生活時間に関する質問について(Q23-24)

これまで、国や自治体が行ってきた生活時間に関する調査(総務省社会生活基本調査・NHK国民生活時間調査)では、15分刻みの時間軸に合わせ、2日分の生活時間を記入してもらう調査形式を採用してきました。我々は、この調査対象者への負担が大きい質問を見直し、簡潔に回答できるよう、生活時間を24時間に振り分けるQ23を開発しました。

川崎・神戸・福岡市民生活実態調査では、調査対象者の80.4%が正確に回答しており、回答率という観点からは成果が表れています。しかし、他の調査と結果が一致しない項目があり、回答者の年齢、性別などを踏まえても、その要因を説明することができませんでした。そこで、この質問の特性が結果に及ぼす影響について明らかにし、よりよい質問文を作るために、皆さんには、親御さんへの聞き取り調査を行ってもらいたいと思っています。

①では、Q23への回答の仕方について聞いています。私たちは、他の調査と結果が異なっていた理由について、24時間に合わせるために、一度決まった答えを書き換えた項目や、実際の時間配分とは多少異なる回答をした項目(これらを調節弁と呼ぶ)があったが、それらについて考えてみましょう。また、記入例の結果に影響を与えてしまった(迷った記入例の時間をそのまま書き写してしまう)ということも考えました。そこで、親御さんがどのような回答したのかについて把握するために、下記の設問に基づいて聞き取ってください。

②では、「平均的な平日の過ごし方」というワーディングについて聞いています。私たちの質問文ではこのワーディングを用い、生活時間を大まかに捉えようとしたのですが、毎日睡眠時間が異なる人や、週2日のみ残業関連に時間を費やす人にとっては答えにくい質問であったかも知れません。一方で、総務省やNHKが行っている調査では、調査対象日の午前0時から、15分刻みの時間軸に沿って24時間の生活時間を聞いています。そこで、どちらの方式の方が答えやすいかについて、下記の設問に基づいて聞き取ってください。

【課題 D】

① 回答の仕方について

1. どういった順番で回答を決めたのか
2. どの項目を「調節弁」として扱っていたのか
3. 回答の際に記入例に書かれた時間を参考にしたりしたか
4. 参考にしたりしたら、どの程度回答に反映させたのか

例) 私の母は、1家族2育児3介護4睡眠5残業関連6食事・身の回りの用事7(自宅内)自由時間8(自宅外)自由時間という順番で回答しました。母はパートの主婦なので、家事に費やす時間が一番長く、すぐに回答が決まりました。しかし、暮る時間が毎日異なっていたり、パートも週3日で行っているため、これらの項目は回答しにくかつたようです。そのため、8時間と書いていた睡眠時間を、40代女性(パート)の例を参考に、7.5時間と記入していました。自由時間は24時間に合わせるためになどなく記入したと言っていました(=調節弁)。

②「平均的な平日の過ごし方」というワーディングについて

1. 「平均的な平日の過ごし方」と「指定した日の過ごし方」では、どちらの聞き方がいいと思うか
2. このワーディングによって、回答しづらさと感じる項目があったか
3. 回答しづらさと感じた場合には、その項目はどれで、実際にどのように回答したのか

例) 私の父は、「指定した日の過ごし方」の方がいいと思います。日によって睡眠時間が5時間の日もあり、8時間の日もあるため、「平均的な平日の過ごし方」を探えるのに苦労していました。そのため、間違って6.5時間と書いていました。

例) 私の母は、「平均的な平日の過ごし方」の方がいいと思います。たまたま残業があって睡眠時間が短かった日などが指定されると、いつものルーティンとは異なった情報が提供されてしまうと言っていました。このワーディングで困ったところは特になかったようです。

生活圏に関する質問について(Q25-31)

人々の生活圏を把握するために、県民生活実態調査では「最もよく利用する食料品を購入する店舗」と「風邪を引いたり体調を崩したときに通院する病院」の名前と場所を書いてもらいました。具体的な店舗名・病院名を書いても構いません。また、GoogleMap 検索で距離や所要時間を測定することができました。しかし、この検索作業には膨大な時間と手間がかかりました。そこで市民生活実態調査では簡略化した質問文を採用しました。この簡略化が妥当だったのかどうかを検証する必要があります。そこで「生活実態調査（聞き取り版）」では、簡略化した質問（Q25）と、具体的に名前を書いてもらう質問の両方を質問しました。

【課題 E】

①「最もよく利用する食料品を購入する店舗」をどうやって決めたのか

「食料（朝食や夕食の材料）を購入する店舗」として、なぜその「店舗」が回答されたのでしょうか。親御さんがどのような買い物の行動をしているのかを踏まえ、その「店舗」を選んだ理由を聞き取ってください。また、市民生活実態調査では「あなたが利用する店舗」を質問しましたが、県民生活実態調査では「あなたの世帯が利用する店舗」を質問しました。「県民生活実態調査（聞き取り版）」でも「あなたが利用する店舗」を質問しました。もし「あなたの世帯が利用する店舗」であれば、回答結果は異なるでしょうか？異なる場合、その理由を書ってください。

例) 食料品購入にあたって、3つのスーパーを使い分けている。最もよく利用するのは最高ではないが、周辺のスーパーのなかで最も価格が安いスーパーだ。ただし運賃がない店舗もあるため、そういったものは他のスーパーの割引で買っている。3つのスーパーでそれぞれ利用頻度が高いが、強い印象は最も安いスーパーだ。買い物は母がしているため、「あなたの世帯」で問われても、回答結果は変わらない。

②「病院（風邪を引いたり体調を崩した時）をどうやって決めたのか

「病院（風邪を引いたり体調を崩した時）」として、なぜその「病院」が回答されたのでしょうか。普段その病院をどのように使っているのか、その病院はどのような位置づけなのか、その病院は「最も利用する病院」なのかを聞き取ってください。

例) 父は花粉症のためふだんからこのクリニックを利用しており、風邪であればここを利用する。とのこと。あまり近くはないが、知人から紹介されたのをきっかけに気に入って通い続けている。インフルエンザの予防接種もするなど、かかりつけ医的存在だ。ただし、最も頻繁に利用している病院は、腰のヘルニアの治療に通っている家の近所の整形外科である。

③簡略化した質問文（Q25）に対するご意見

市民生活実態調査では質問を簡略化した一方、「店舗（病院）」のほか、「外出先などの衣料品を買う店舗」「家電を買う店舗」「床屋・美容院」を質問に加えました。この簡略化・項目追加した質問に対する親御さんの意見を聞かせてください。

例) 具体的な店舗と場所を書くほうが、書きやすかった。店舗、家電、病院は行くところは決まっているので、床屋は何かのついでに10分カットを利用することが多いので特定の店はないから書きにくかった（最近行ったところを回答した）。距離の質問文は、遠距離なら何とかなえられるかと思うが、間違っているかもしれない。

家計構造に関する質問について(Q32-33)

大谷ゼミでは、「市民生活実態調査」で（生計）と（家計構造）を問う質問文を採用し、それぞれ84.1%、84.7%の回答を得ることが出来ました。しかし生計を共にしている人を問う質問文には、正確に把握できているのかからといった不安要素があります。家計構造を問う質問文には、回答者がその回答を選んだ根拠が把握できない為、得られたデータが正確に断定できないという課題があります。また選択肢が網羅的でない可能性があり、検討が必要です。今後はそのような不安要素を改善していきたいと考えていますので、下記2つの質問に回答いただけたらと思います。

【課題 F】

①生計を共にしている人を問う質問文

Q32の生計を共にしている人について、親御さんがこの質問文にどのような経緯で回答したのか、家計構造を問う質問文と比べてイメージする世帯人員に適い合ったかなどを詳細に聞き取って、書いてください。

例) 私の父は、生計を共にしている人を問う質問文に関して、世帯の支出をベースに回答していました。私の家族は父と私の兄の4人暮らしです。そのため、1配膳者2.2人と回答したそうです。家計構造を問う質問文では、こどもである私のアルバイト代は家計に入れていないけれど、生計を共にする人ど聞かれた場合は私のことも入れていることから、収入ベースで考えるか支出ベースで考えるかという所を聞いています。

②家計構造を問う質問文

Q33の家計構造を問う質問文について、親御さんが①何を基に回答したのか、②回答項目にない収入としてどんなものがあったかについて詳細に聞き取って書いてください。

例) 私の父は、源泉徴収票を基に家計構造を問う質問文に回答していました。また兄が家にいなくなる限り、正確な金額は分からないということで直接聞き取って記入していました。選択肢にない項目として、株取引で得た収入と美術収入があったそうですが、今回はすべて財産収入として記入していました。また、転売によって得ている利益は本人の勤労所得として回答したそうです。

「生活実態調査 関学生親版 コーディングマニュアル」

生活実態調査 関学生親版 コーディングマニュアル

作成：大谷ゼミ 4 回生

準備するもの

- ・ A 生活実態調査「調査票」（関学親版）の回答してもらったもの
 - B 生活実態調査「聞き取り調査票」（受講生）
 - C「課題提出用紙」（Word）
- ・ D「課題提出シート」（Excel）・・・提出用
- ・ E「コーディングルール」（Excel）
- ・ F「都道府県コード一覧表」（PDF）
- ・ G「市区町村コード一覧表」（PDF）
- ・ H「関学生親版コーディングマニュアル」（パワーポイント）・・・本スライド

課題提出について

- ① A「調査票」での回答内容を、D「課題提出シート」（Excel）に入力してください。
- ② 入力後は、D「課題提出シート」のファイル名を「**学籍番号8桁.xlsx**」と変更し保存したうえで、**提出してください。**
例)学籍番号23019999の方 → 「23019999.xlsx」

12月12日(土)17:00までにLUNAに提出してください
今回は締め切りが**土曜日**までですので、注意してください

作業方法についての提案

※作業の際、以下の方法で行っていくことをおすすめします。

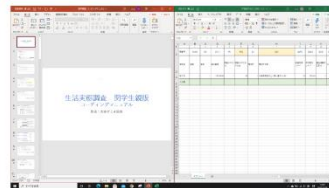
下の写真のように、2画面で入力作業を進めてください。

※左右で表示する場合、Windowsでは、Windowsキーと左右キーのどちらかを同時に押すことができます。

パワーポイントは編集画面のまま閲覧すると作業しやすいです。

※「都道府県コード一覧表」と「市区町村コード一覧表」は適宜使用しますので、すぐ確認できるように最初に見て準備しておくとういでしょう。

パワーポイントには適宜音声が含まれますので、それらを参考にして入力作業を進めてください。



注意事項

- ・ D「課題提出シート」の入力欄(緑色)に入力してください。
- ・ 数字はすべて**半角**、文字は**全角**で入力してください。特に住所を入力する際は、十分注意してください。
- ・ D「課題提出シート」の問番号が黄色の箇所は**文字入力**です。住所や駅名、バス停など文字入力のときに間違いないよう入力してください。
- ・ 都道府県コードは、「市区町村コード一覧表」の中にもありますが、そちらを参照するのではなく「**都道府県コード一覧表**」を参照して入力してください。
- ・ また、政令指定都市の市のコードは、「市区町村コード一覧表」の最後にまとめて書いてありますので、そちらを参照して入力してください。

学籍番号と回答された方について

- tikuNo** 所属学部について、社会学部=1、その他の学部=2を入力する
- CN 学年について、数字を入力する
- CN2 学籍番号を8桁で入力する
- AN 回答された方について、○されている数字を入力する、記入なし=0
- AN2 AN=3と回答した方は、()に書かれている文字を入力する、記入なし=0
※AN=1、2と入力した方は、「88」を入力する

おうちの学籍番号（回答された方）

1. お父様 2. お母様 3. その他()

問番号	性別	CN	CN2	AN	AN2
区別名	性別	学年	学籍番号	回答された方	回答された方
記入例	1	2	23019999	1	88
5.5.5.5					

移動歴について：Q1 現住所

- Q1 現住所の【 】に記入あり=1、記入なし=0 を入力する
- Q1A 【 】に記入されている住所をそのまま入力する、記入なし=0
- Q1PC Q1Aで入力した住所について、都道府県コードを「都道府県コード一覧表」を参考に入力する
- Q1CC Q1Aで入力した住所について、市区町村コードを「市区町村コード一覧表」を参考に入力する

Q1	Q1A	Q1PC	Q1CC
現住所	現住所文字	都道府県コード	市区町村コード
1	兵庫県芦屋市上ヶ原一丁目1-155	26	283049

Q1. 現住所を記入してください

1

移動歴について：Q2(1) 居住経験のある市区町村

- Q2(1) 居住経験のある市区町村について、記入あり=1、1か所も記入なし=0 を入力する
- Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、**居住経験がない都道府県には「0」を入力する**
※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)

居住経験のある市区町村について、記入あり=1、1か所も記入なし=0 を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

Q2(1)P1~Q2(1)P48 記入されている数字を入力する、居住経験がない都道府県には「0」を入力する

※Q2(1)で「0」を入力した方は全ての都道府県に「999」を入力する

移動歴について：Q2(2) 5年前居住地

- Q2(2) ○されている数字を入力する、記入無=99
※「99」と入力した方は以下の質問にはすべて「99」と入力する
- Q2(2)3P~Q2(2)3CC Q2(2)で「3」と入力した方→ 【 】に記入されている都道府県名および市区町村名および市区町村コードを入力する
記入無=0
Q2(2)で「3」と入力していない方→すべてに「88」と入力する
- Q2(2)4P~Q2(2)4CC Q2(2)で「4」と入力した方→ 【 】に記入されている都道府県名および市区町村名および市区町村コードを入力する
記入無=0
Q2(2)で「4」と入力していない方→すべてに「88」と入力する
- Q2(2)5 Q2(2)で「5」と入力した方→ 【 】に記入されている国名を入力する
記入無=0
Q2(2)で「5」と入力していない方→「88」と入力する

Q2(2)

5年前居住地について、記入あり=1、記入なし=0 を入力する

※「99」と入力した方は以下の質問にはすべて「99」と入力する

Q2(2)3P~Q2(2)3CC Q2(2)で「3」と入力した方→ 【 】に記入されている都道府県名および市区町村名および市区町村コードを入力する

記入無=0

Q2(2)で「3」と入力していない方→すべてに「88」と入力する

Q2(2)4P~Q2(2)4CC Q2(2)で「4」と入力した方→ 【 】に記入されている都道府県名および市区町村名および市区町村コードを入力する

記入無=0

Q2(2)で「4」と入力していない方→すべてに「88」と入力する

Q2(2)5 Q2(2)で「5」と入力した方→ 【 】に記入されている国名を入力する

記入無=0

Q2(2)で「5」と入力していない方→「88」と入力する

Q2(2)3P~Q2(2)3CC Q2(2)で「3」と入力した方→ 【 】に記入されている都道府県名および市区町村名および市区町村コードを入力する

記入無=0

Q2(2)で「3」と入力していない方→すべてに「88」と入力する

移動歴について：Q2(3) 市区町村居住年数

- Q2(3) ()に記入されている年数を数字で入力する、記入無=99
- Q2(3) 現在お住まいの市区町村に居住開始して何年ですか。()年

移動歴について：Q3(1) 住居居住年数

- Q3(1) ()に記入されている年数を数字で入力する、記入無=99
- Q3(1) 現在お住まいの住居に居住開始して何年ですか。()年

移動歴について：Q3(2) 転居経験回数

- Q3(2) ()に記入されている数字を入力、記入無=99

Q3(2)

転居経験回数について、記入あり=1、記入なし=0 を入力する

※「99」と入力した方は以下の質問にはすべて「99」と入力する

Q3(2)3P~Q3(2)3CC Q3(2)で「3」と入力した方→ 【 】に記入されている都道府県名および市区町村名および市区町村コードを入力する

記入無=0

Q3(2)で「3」と入力していない方→すべてに「88」と入力する

Q3(2)4P~Q3(2)4CC Q3(2)で「4」と入力した方→ 【 】に記入されている都道府県名および市区町村名および市区町村コードを入力する

記入無=0

Q3(2)で「4」と入力していない方→すべてに「88」と入力する

Q3(2)5 Q3(2)で「5」と入力した方→ 【 】に記入されている国名を入力する

記入無=0

Q3(2)で「5」と入力していない方→「88」と入力する

Q3(2)3P~Q3(2)3CC Q3(2)で「3」と入力した方→ 【 】に記入されている都道府県名および市区町村名および市区町村コードを入力する

記入無=0

Q3(2)で「3」と入力していない方→すべてに「88」と入力する

「生活実態調査 関学生親版 コーディングマニュアル」

移動歴について：Q3(3) 前住居住所

- Q3(3) 記入あり=1、記入無=0
※ Q3(2)で「0」と入力した方はQ3(3)~Q3(3)ACCは「88」と入力する
- Q3(3)A 【 】に記入されている住所を入力する、記入無=99
- Q3(3)APC Q3(3)Aで入力した住所の都道府県コードを入力する、記入無=99
- Q3(3)ACC Q3(3)Aで入力した住所の市区町村コードを入力する、記入無=99

Q3(3) あなたが現在お住まいの住所に引っ越してきている都は、どちらにお住まいですか。住所をお書きください

Q3(3)	Q3(3)A	Q3(3)APC	Q3(3)ACC
前住居住所	前住居住所の都道府県コード	前住居住所の市区町村コード	前住居住所の市区町村コード
1	1	25	250101

移動歴について：Q3(4) 転居理由

- Q3(4) ○されている数字を入力する、記入無=0
※ Q3(2)で「0」と入力した方はQ3(4)とQ3(4)2は「88」と入力する
- Q3(4)2 Q3(4)で「8」と入力した方のみ()に記入されていることを入力する
「8」に○されているが()に記入無のときは「0」を入力する
※Q3(4)で1~7を入力した人は「88」を入力する

Q3(4) 前住居住所以外の住所に引っ越してきた最も大きな理由は何ですか。最も多いものを1つから5つまで記入してください。【1つだけ○する】

1. 進学のため
2. 就職のため
3. 結婚のため
4. 転居のため
5. 子育てのため
6. 親との同居・近居のため
7. 親の介護のため
8. その他()

Q3(4)	Q3(4)2
転居理由	転居理由の付記
1	88

移動歴について：Q4 普段よく使う鉄道の最寄り駅

- Q4C 鉄道会社について、記入あり=1 記入なし=0 と入力する
- Q4W 鉄道会社名を入力する(例「JR」「阪急」「大阪メトロ」)、記入なし=0
- Q4S 鉄道駅について、記入あり=1 記入なし=0 と入力する
- Q4SW 鉄道駅名を、「駅」まで入力する(例「大阪梅田駅」「神戸三宮駅」)、記入なし=0

Q4 あなたが最もよく使う鉄道の最寄り駅(「私鉄」・「地下鉄」は、どちらですか。)

Q4C	Q4W	Q4S	Q4SW
鉄道会社	鉄道会社名	鉄道駅	鉄道駅名
1	1	1	1

移動歴について：Q5 普段よく使う最寄りのバス停

- Q5 バス会社またはバス停少なくとも一つに記入あり=1、分らないに○のある場合=2
Q5全記入なし=99と入力する
- Q5=2の場合、Q5BC~Q5BSWまではすべて「88」と入力する
- Q5BC バス会社について、記入あり=1、記入なし=0 と入力する
- Q5BCW バス会社名を記入する(例「阪急バス」「阪神バス」「神戸市バス」)、記入なし=0
- Q5BS バス停名について、記入あり=1、記入なし=0 と入力する
- Q5BSW バス停名について「○○バス停」の「○○」の部分のみ入力する、記入なし=0

Q5 あなたが最もよく使う最寄りのバス停はどちらですか。

1. 〇
- 1
- 2
- 3

Q5	Q5BC	Q5BCW	Q5BS	Q5BSW
バス停名	バス会社	バス会社名	バス停名	バス停名
1	1	1	1	1

あなた・配偶者について：Q6 Q7 Q8 性別・婚姻状況・年齢

- Q6 1.男性に○=1 2.女性に○=2 を記入 ※回答がない場合 99 を記入
- Q7 1に○=1 2に○=2 3に○=3 4に○=4 を記入 ※回答がない場合 99 を記入
- Q8 本人年齢に関して 書かれている数字をそのまま記入 記入がない場合は 999 を記入
- Q8S 配偶者年齢に関して 書かれている数字をそのまま記入 記入がない場合は 999 を記入
※Q7=2,3,4と記入している場合「888」を記入

Q6 あなたの性別はどちらですか。

1. 男性
2. 女性

Q7 あなたは婚姻、結婚(再婚・事実婚も含む) されていますか。

1. 結婚している(再婚を含む)
2. 結婚していないが、配偶者と同居している
3. 結婚していないが、配偶者と別居している
4. 結婚したことはない

→「1」を記入している場合は「888」を記入してください。

Q8 あなたの(および配偶者の)年齢はどちらですか。

あなた (歳) 配偶者 (あなたの氏名を)

Q6	Q7	Q8	Q8S
性別	婚姻状況	本人年齢	配偶者年齢
1	1	1	1

あなた・配偶者について：Q9(1) 最終学歴

- Q9(1) 「あなた」の最終学歴について、○されている数字を入力する、記入無=99
- Q9(1)S 「配偶者」の最終学歴について、○されている数字を入力する、記入無=99
※Q7=2,3,4と回答した方は、「88」を入力する

Q9(1) あなた、(および配偶者)の最終学歴はどちらですか。【1つだけ○する】

1. 小学校
2. 中学校
3. 高等学校・短大・専門学校
4. 大学・大学院
5. 職業訓練校
6. 海外大学・海外専門学校
7. 海外大学・海外専門学校
8. 大学・大学院

Q9(1)	Q9(1)S
本人学歴	配偶者学歴
1	1

あなた・配偶者について：Q9(2) 最終学歴所在地

- Q9(2)PW 「あなた」の最終学歴の都道府県について、記入あり=1、記入無=0を入力する
- Q9(2)PとQ9(2)PC 【 】に記入されている都道府県名と、「都道府県コード一覧表」を参照に都道府県コードを入力する
記入無=0
- Q9(2)CW 「あなた」の最終学歴の市区町村について、記入あり=1、記入無=0を入力する
- Q9(2)CとQ9(2)CC 【 】に記入されている市区町村名と、「市区町村コード一覧表」を参照に市区町村コードを入力する
記入無=0
- Q9(2)SPW~Q9(2)SCC 「配偶者」の最終学歴の所在地について、「あなた」と同様に入力する
※Q7=2~4と回答した方は、Q9(2)SPW~Q9(2)SCCは「88」と入力する

Q9(2) あなた、(および配偶者)の最終学歴の所在地はどちらですか。【1つだけ○する】

Q9(2)PW	Q9(2)P	Q9(2)PC	Q9(2)CW	Q9(2)C	Q9(2)CC	Q9(2)SPW	Q9(2)SPC	Q9(2)SCC	Q9(2)SCC
都道府県	都道府県名	都道府県コード	市区町村	市区町村名	市区町村コード	配偶者都道府県	配偶者都道府県名	配偶者都道府県コード	配偶者市区町村
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

あなた・配偶者について：Q10 出身地

- Q10 「あなた」の出身地が、国内=1、外国=2、記入無=99を入力する
- Q10PW 都道府県について、記入あり=1、記入無=0を入力する
※Q10=2と回答した方はQ10PW~Q10CCは「88」と入力
- Q10PとQ10PC 【 】に記入されている都道府県名と、「都道府県コード一覧表」を参照に都道府県コードを入力する
記入無=0
- Q10CW 市区町村について、記入あり=1、記入無=0を入力する
- Q10CとQ10CC 【 】に記入されている市区町村名と、「市区町村コード一覧表」を参照に市区町村コードを入力する
記入無=0
- Q10A 【 】に記入されている国名を入力する、記入無=0
※Q10=1と回答した方は「88」と入力
- Q10S~Q10SA 「配偶者」の出身地について、「あなた」と同様に入力する
※Q7=2~4と回答した方は、Q10S~Q10SAは「88」と入力する

Q10 あなた、(および配偶者)の出身地はどちらですか。【1つだけ○する】

1. 国内
2. 外国
3. その他
4. その他

Q10	Q10PW	Q10P	Q10PC	Q10CW	Q10C	Q10CC	Q10A	Q10S	Q10SA
出身地	都道府県	都道府県名	都道府県コード	市区町村	市区町村名	市区町村コード	国名	配偶者出身地	配偶者出身地
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

あなた・配偶者について：Q11

- Q11 書かれている数字をそのまま記入 記入がない場合=99を記入
- Q11C8 8.その他欄に書かれている場合そのまま記入 記入がない場合=0を記入
※Q11で8以外に回答⇒「88」を記入
- Q11S 書かれている数字をそのまま記入 記入がない場合=99を記入
※Q7=2,3,4に回答⇒「88」を記入
- Q11SC8 8.その他欄に書かれている場合そのまま記入 記入がない場合=0を記入
※Q7=2,3,4に回答or Q11Sで8以外に回答⇒「88」を記入

Q11 あなた、(および配偶者)の職業はどちらですか。【1つだけ○する】

1. 専業主婦・専業主夫
2. 自営業
3. 会社員
4. 公務員
5. 学生
6. その他
7. その他
8. その他

Q11	Q11C	Q11S	Q11SC
職業	本人職業	配偶者職業	配偶者職業
1	1	1	1

通勤・働き方について：Q12 通勤先所在地①

- Q12 本人職場について、自宅内=1 自宅外=2 Q12についてすべて記入がない場合は「99」
- Q12=1の方はQ121P~Q124BSWについてはすべて「88」
- Q121P 本人職場都道府県名について、記入あり=1 記入なし=0
- Q121PW 本人職場都道府県名を都道府県名まで記入する、記入なし=0
- Q121PC 都道府県コードを「都道府県コード一覧表」を参考に記入する、Q121PWが記入なし=0
- Q12S~Q121SPCの配偶者については、Q7=2,3,4の方「88」と入力、その他の方は、上記を参考に記入してください。

Q12	Q121P	Q121PW	Q121PC	Q12S	Q121SP	Q121SPW	Q121SPC
通勤先所在地	本人職場都道府県	本人職場都道府県名	本人職場都道府県コード	配偶者通勤先所在地	配偶者通勤先都道府県	配偶者通勤先都道府県名	配偶者通勤先都道府県コード
1	1	1	1	1	1	1	1

「生活実態調査 関学生親版 コーディングマニュアル」

通勤・働き方について：Q12 通勤先所在地①

Q11=9,10,11または、Q12=1の方は以下の項目についてはすべて「88」

- Q12③C 本人職場市区町村名について、記入あり=1 記入なし=0
Q12③CW 本人職場市区町村名を市区町村まで記入する(政令指定都市は区まで)、記入なし=0
Q12③CC 市区町村コードを「市区町村コード一覧表」を参考に入力する
Q12③T 通勤先住所の市区町村以下について、記入あり=1 記入なし=0
Q12③TW 市区町村以下の住所を文字入力する、記入なし=0

Q12③SC-Q12③STWの配偶者については、Q7=2,3,4の方「88」と入力、
その他の方は、上記を参考に入力してください。

Q12③C	Q12③CW	Q12③CC	Q12③T	Q12③TW	Q12③SC	Q12③SCW	Q12③SCC	Q12③ST	Q12③STW
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名

通勤・働き方について：Q12 通勤先所在地②

Q11=9,10,11または、Q12=1の方は以下の項目についてはすべて「88」

- Q12② 本人職場郵便番号についてハイフンを除いて入力
Q12=2で未記入の場合、「99」

Q12②Sの配偶者については、Q7=2,3,4の方「88」と入力、
その他の方は、上記を参考に入力してください。

Q12②	Q12②S
市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名

通勤・働き方について：Q12 通勤先所在地③

Q11=9,10,11または、Q12=1の方は以下の項目についてはすべて「88」

- Q12③C 本人職場鉄道会社について、記入あり=1 記入なし=0
Q12③CW 本人職場鉄道会社名を入力、記入なし=0
Q12③S 本人職場鉄道駅について、記入あり=1 記入なし=0
Q12③SW 本人職場鉄道駅名について「駅」をつけて入力、記入なし=0

Q12③SC-Q12③SSWの配偶者については、Q7=2,3,4の方「88」と入力、
その他の方は、上記を参考に入力してください。

Q12③C	Q12③CW	Q12③S	Q12③SW	Q12③SC	Q12③SCW	Q12③SS	Q12③SSW
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名

通勤・働き方について：Q12 通勤先所在地④

Q11=9,10,11の方、Q12=1の方は以下の項目についてはすべて「88」

- Q12④ 職場バス停について、記入あり=1 バス停はない=2 記入なし=0
Q12④BC 職場バス会社について、記入あり=1 記入なし=0
Q12④BCW 職場バス会社について文字入力、記入なし=0
Q12④BS 職場バス停について、記入あり=1 記入なし=0
Q12④BSW 職場バス停名について「バス停」を除いて入力、記入なし=0

Q12④S-Q12④SSWの配偶者については、Q7=2,3,4の方「88」と入力、
その他の方は、上記を参考に入力してください。

Q12④	Q12④BC	Q12④BCW	Q12④BS	Q12④BSW	Q12④S	Q12④SC	Q12④SS	Q12④SSW
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名

通勤・働き方について：Q13(1) 主な通勤手段

Q11=9,10,11の方、Q12=1の方はQ13=「88」、Q13(1)T=「888」と入力

- Q13(1) 本人通勤手段について、選択肢の番号をそのまま入力 記入なし=99
Q13(1)T 通勤時間の「〇時間〇〇分」を「〇〇分」に換算して入力、記入なし=999
(例：通勤時間 1時間25分) → 「85分」なので「85」と入力
Q7=2,3,4の方、Q11S=9,10,11の方、Q12S=1の方はQ13(1)S=「88」、Q13(1)ST=「888」と入力
Q13(1)S 本人通勤手段について、選択肢の番号をそのまま入力 記入なし=99
Q13(1)ST 通勤時間の「〇時間〇〇分」を「〇〇分」に換算して入力、記入なし=999
(例：通勤時間 1時間25分) → 「85分」なので「85」と入力

Q13(1)T	主な通勤手段	通勤時間
徒歩	徒歩	徒歩
自転車	自転車	自転車
バイク	バイク	バイク
自動車	自動車	自動車

通勤・働き方について：Q13(2) 通勤手段組み合わせ

Q11=9,10,11の方、Q12=1の方はQ13(2)~Q13(2)Wについてはすべて「88」

- Q13(2) 選択肢の番号をそのまま入力 記入なし=0
Q13(2)W Q13(2)=10の場合、その他の()内に記入されたものをそのまま入力する
Q13(2)=10で、()内に記入のない場合、0と入力
Q13(2)=1-9の場合、「88」と入力する
Q11=9,10,11の方、Q12=1の方は以下の項目についてはすべて「88」
Q13(2) 選択肢の番号をそのまま入力 記入なし=0
Q13(2)W Q13(2)=10の場合、その他の()内に記入されたものをそのまま入力する
Q13(2)=10で、()内に記入のない場合、0と入力
Q13(2)=1-9の場合、「88」と入力する

Q13(2)	Q13(2)W	Q13(2)S	Q13(2)SW
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名

通勤・働き方について：Q14 出勤・帰宅時刻

- Q14DTh 本人出勤時刻(時)は24時間法に変換して記入する(午後8時=20と記入)。
無記入の場合は99を入力する
Q14DTm 本人出勤時刻(分)はそのまま記入する。無記入の場合は99を入力する。

※職業 (Q11)が9.無職、10.専業主婦(夫)、11.学生の場合は88を入力する。
※婚姻状況 (Q7)が2.離別、3.死別、4.結婚したことはない場合、配偶者については88を入力する。
※帰宅時間も(時)は24時間法、(分)はそのまま記入する。
※配偶者についても同様のルールに則って記入する。

Q14	出勤時刻	帰宅時刻
市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名

通勤・働き方について：Q15 1週間の生活

- Q15① 本人労働日数有無は1に記入がある場合に1、働かなかった場合に2を記入する。
無記入の場合は999を入力する。
Q15①D 本人労働日数はそのまま記入する。Q15①が2の場合は0を記入する。無記入の場合は999を入力する。
Q15② 本人労働時間有無は1に記入がある場合に1、働かなかった場合に2を記入する。
無記入の場合は999を入力する。
Q15②H 本人労働時間はそのまま記入する。Q15②が2の場合は0を記入する。無記入の場合は999を入力する。

※婚姻状況 (Q7)が2.離別、3.死別、4.結婚したことはない場合、配偶者については888を入力する。
※配偶者についても同様のルールに則って記入する。

Q15	Q15①	Q15①D	Q15②	Q15②H	Q15③	Q15③D	Q15④	Q15④D
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名

人付き合いについて：Q16 同居人数

- Q16 ○されている数字を入力、記入無=99
Q16N Q16=2と回答した方のみ、()内に書かれている人数を入力、記入無=99
※Q16=1と回答した方は、「1」と記入

Q16	同居人数
市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名

同居人数	Q16	Q16N
市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名

人付き合いについて：Q17 同居人

- Q17A1-A10 各選択肢に○あり=1、○なし=0、全項目に記入がないのみすべての項目に「99」を記入
例) Q17A1 「配偶者」に○あり=1、○なし=0
※ Q17A1-A10は、すべての選択肢について入力
Q17A9W Q17A9=1と回答した方のみ、【 】内に書かれている文字を入力、記入無=0
※ Q17A9=0と回答した方は、「88」と入力
Q17A10W Q17A10=1と回答した方のみ、【 】内に書かれている文字を入力、記入無=0
※ Q17A10=0と回答した方は、「88」と入力

Q17	Q17A1	Q17A2	Q17A3	Q17A4	Q17A5	Q17A6	Q17A7	Q17A8	Q17A9	Q17A10
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名

「生活実態調査 関学生親版 コーディングマニュアル」

あなた・配偶者について：Q18 きょうだい構成

- Q18 「あなた」のきょうだい構成について、○されている数字を入力する、記入無=99
- Q18Z Q18=7と回答した方のみ、()に記入されている文字を入力する
○をしているが()に記入無=0を入力する
※ Q18=1~6と回答した方は「88」と入力する
- Q18S 「配偶者」のきょうだい構成について、○されている数字を入力する、記入無=99
- Q18SZ Q18S=7と回答した方のみ、()に記入されている文字を入力する
○をしているが()に記入無=0を入力する
※ Q18S=1~6と回答した方は「88」と入力する

Q18. あなた（および配偶者）のきょうだいの構成についてお答えします。

あなた	配偶者
1. 一人子である	1. 一人子である
2. 長子長女（次子次女以外）	2. 長子長女（次子次女以外）
3. 次子次女（長子長女以外）	3. 次子次女（長子長女以外）
4. 長男のみを産んだ	4. 長男のみを産んだ
5. 長女のみを産んだ	5. 長女のみを産んだ
6. 長子長女（次子次女以外）	6. 長子長女（次子次女以外）
7. その他（ ）	7. その他（ ）

Q18	Q18Z	Q18S	Q18SZ
記入無	記入無	記入無	記入無
1	00	1	00

人付き合いについて：Q19(1) 親について

- Q19(1)M 父健在=1、他界=2、記入無=99
- Q19(1)F 母健在=1、他界=2、記入無=99
- 以下、Q7=2.3.4のどれか回答した方は、「88」と入力
- Q19(1)SM 配偶者父健在=1、他界=2、記入無=99
- Q19(1)SF 配偶者母健在=1、他界=2、記入無=99

Q19(1). あなた（および配偶者）の親類さんについてお答えします。

ご親戚ですか	あなたの親類さん	配偶者（あなたの夫や妻）の親類さん
1. 父、ご健在	父 1. ご健在 2. 他界した	父 1. ご健在 2. 他界した
2. 母、ご健在	母 1. ご健在 2. 他界した	母 1. ご健在 2. 他界した
3. 両方とも健在	両方とも健在	両方とも健在

親類さん	父	母	配偶者父	配偶者母
記入無	1	1	1	1
記入無				

人付き合いについて：Q19(2)①②③ 親の居住地 ③も同様

- Q19(2)① 同じ建物内・敷地内に同居=1、別居=2、記入無=999
- Q19(2)② はい=1、いいえ=2、記入無=999
※ Q19(2)①=1と回答した方は、「888」と入力
- Q19(2)③ はい=1、いいえ=2、記入無=999
※ Q19(2)①=1またはQ19(2)②=1と回答した方は、「888」と入力

Q19(2). あなたの親類さんについてお答えします。

① 同じ建物内・敷地内に同居	② はい	③ はい
1. 同居	1. はい	1. はい
2. 別居	2. いいえ	2. いいえ
3. 記入無	3. 記入無	3. 記入無

親類さん	父	母	配偶者父	配偶者母
記入無	1	1	1	1
記入無				

人付き合いについて：Q19(2)④⑤⑥ 親との距離、交流頻度 ③も同様

- Q19(2)④ ○されている数字を入力、記入無=999
- 以下 Q19(2)④=2または3と回答した方は、「888」と入力
- Q19(2)⑤ 所要時間の「〇時間〇分」に記入された数字を「〇〇分」に換算して入力、記入無=999
- Q19(2)⑥(1)~Q19(2)⑥(2) ○されている数字を入力、記入無=999
- ※ Q19(3) 配偶者についても同様のルールに則って記入する。
Q7=2.3.4いずれかの場合は、Q19(3)④⑤⑥に「888」と入力

Q19(2). あなたの親類さんについてお答えします。

④ 1. 徒歩 2. 自転車 3. 自動車	⑤ 所要時間の「〇時間〇分」に記入された数字を「〇〇分」に換算して入力	⑥(1) 1. 徒歩 2. 自転車 3. 自動車	⑥(2) 1. 徒歩 2. 自転車 3. 自動車
1. 徒歩	1. 徒歩	1. 徒歩	1. 徒歩
2. 自転車	2. 自転車	2. 自転車	2. 自転車
3. 自動車	3. 自動車	3. 自動車	3. 自動車

親類さん	父	母	配偶者父	配偶者母
記入無	1	000	2	2
記入無				

人付き合いについて：Q20①②③④ おつきあい人数

- Q20①~Q20④ ○されている数字を入力、記入無=99

Q20. あなたのつきあひについてお答えします。自分と同居家族以外で、最もつきあひが多い人（よく行き来する人、一緒に食事や遊びをする人）について、性別、年齢、居住地、職業を記入してください。

① 性別	② 年齢	③ 居住地	④ 職業
1. 男性	1. 0-9	1. 0-9	1. 0-9
2. 女性	2. 10-19	2. 10-19	2. 10-19
3. 記入無	3. 20-29	3. 20-29	3. 20-29

親類さん	父	母	配偶者父	配偶者母
記入無	1	1	1	1
記入無				

人付き合いについて：Q21①最も親しい人 (Q21②最も頻りにしている人も同様) 人付き合いについて：Q21SQ①② Q21 1 以外の場合

- Q21① ○されている数字を入力、記入無=99
- Q21①W Q21①=1と回答した方のみ、()内に書かれている人物を入力、記入無=0
※ Q21①=2~5のどれか回答した方は、「88」と入力
- Q21①4W Q21①=4と回答した方のみ、()内に書かれている人物を入力、記入無=0
※ Q21①=1~3.5のどれか回答した方は、「88」と入力
- Q21①② ○されている数字を入力、記入無=99

Q21. 最も親しい人（または最も頻りにしている人）についてお答えします。

① 性別	② 年齢	③ 居住地	④ 職業
1. 男性	1. 0-9	1. 0-9	1. 0-9
2. 女性	2. 10-19	2. 10-19	2. 10-19
3. 記入無	3. 20-29	3. 20-29	3. 20-29

親類さん	父	母	配偶者父	配偶者母
記入無	1	000	2	2
記入無				

最も好きな休日の過ごし方について：Q22

- Q22(1) ○がついている選択肢の番号をそのままExcelに入力
※ 無回答の場合は「99」と入力
- Q22(2) ○がついている選択肢の番号をそのままExcelに入力
※ 無回答の場合は「99」と入力

Q22(1). あなたの好きな休日の過ごし方についてお答えします。【1つだけ選択】

1. スーパー、スーパーマーケット、コンビニエンスストアなど	2. 公園、野外、自然など	3. 映画、テレビ、ラジオなど	4. 読書、雑誌、新聞など	5. 音楽、楽器など	6. 料理、食事など	7. その他
1	2	3	4	5	6	7

Q22(1)	Q22(2)
記入無	記入無
1	1

生活時間について：Q23とQ24

- Q23①~⑥ そのまま数字を記入する。記入がない項目は0を記入する。
- ※ 全項目に記入がない場合のみ、すべての項目に99を入力する。

項目	Q23①	Q23②	Q23③	Q23④	Q23⑤	Q23⑥
記入無	1	1	1	1	1	1
記入無						

- Q24 そのまま数字を記入する（すべてしている場合は1）。
- ※ 無記入の場合は99を入力する。

Q24. あなたの生活時間についてお答えします。

項目	Q24
記入無	1
記入無	

Q23. あなたの生活時間についてお答えします。

項目	Q23①	Q23②	Q23③	Q23④	Q23⑤	Q23⑥
記入無	1	1	1	1	1	1
記入無						

生活圏について：Q25 店舗・病院

- Q25 ○がされている数字をそのまま記入
- 回答がない場合=99を記入

Q25. あなたの生活圏についてお答えします。【1つだけ選択】

項目	Q25
記入無	1
記入無	

項目	Q25	Q25	Q25	Q25	Q25
記入無	1	1	1	1	1
記入無					

生活圏について：Q26 食料品店舗

- Q26(1) 1.店舗名に○=1を記入 5.店舗等を利用しないに○=5を記入
両方無回答=99を記入
- Q26(1)2 店舗名記入あり=1を記入 店舗名記入なし=0を記入
※ Q26(1)に5と記入した場合=「88」を記入
- Q26(1)3 記入あり=そのまま記入 記入なし=0を記入
※ Q26(1)に5と記入した場合=「88」を記入

Q26(1). あなたの生活圏についてお答えします。【1つだけ選択】

項目	Q26(1)	Q26(1)2	Q26(1)3
記入無	1	1	1
記入無			

「生活実態調査 関学生親版 コーディングマニュアル」

生活圏について：Q26 食料品店舗までの交通手段

- Q26(2) ○されている数字をそのまま記入 ○がない場合⇒99を記入
※Q26(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入
- Q26(3) 書かれている数字をそのまま記入 記入なし⇒999
※Q26(1)に5と記入した場合⇒「888」を記入

Q26(2)：その店舗へ行く場合、目ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。【1つだけ○】

- 徒歩
- 自転車
- バイク
- 自動車
- タクシー
- 路線バス・路面電車
- 鉄道
- フェリー・船
- その他

Q26(3)：現在お住まいの住居からその店舗へ、目ごろ利用している交通手段で何分かかりますか。
片道（ ）分

Q26(2)	Q26(3)
食料品・文 書用紙	食料品・文 書用紙
4	10

生活圏について：Q27 外出着店舗

- Q27(1) 1.店舗名に○⇒1を記入 5.店舗は利用しない⇒5を記入
両方無回答⇒99を記入
- Q27(1)2 店舗名記入あり⇒1を記入 店舗名記入なし⇒0を記入
※Q27(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入
- Q27(1)3 記入あり⇒そのまま記入 記入なし⇒0を記入
※Q27(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入

Q27(1)：Q25の「外出着などの衣料品の購入」であなたが買い求めた店舗の名前をお書きください。またその店
舗がある市町村または最寄駅名もお書きください。
(例)「ユニクロ」(東京都) (大阪府)、「ユニクロ」(大阪府)、「ユニクロ」(大阪府) (大阪府)。

- 店舗名【
- 市町村・最寄駅名【
- 店舗は利用しない

Q27(1)	Q27(1)2	Q27(1)3
外出着・文 書用紙	外出着・文 書用紙	外出着・文 書用紙
1	1	1

生活圏について：Q27 外出着店舗

- Q27(1)4 外出着店舗の場所に記入あり⇒1を記入 外出着店舗の場所に記入なし⇒0を記入
※Q27(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入
- Q27(1)5 記入あり⇒そのまま記入 記入なし⇒0を記入
※Q27(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入

Q27(1)：Q25の「外出着などの衣料品の購入」であなたが買い求めた店舗の名前をお書きください。またその店
舗がある市町村または最寄駅名もお書きください。
(例)「ユニクロ」(東京都) (大阪府)、「ユニクロ」(大阪府)、「ユニクロ」(大阪府) (大阪府)。

- 店舗名【
- 市町村・最寄駅名【
- 店舗は利用しない

Q27(1)4	Q27(1)5
外出着・文 書用紙	外出着・文 書用紙
1	1

生活圏について：Q27 外出着店舗までの交通手段

- Q27(2) ○されている数字をそのまま記入 ○がない場合⇒99を記入
※Q27(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入
- Q27(3) 書かれている数字をそのまま記入 記入なし⇒999
※Q27(1)に5と記入した場合⇒「888」を記入

Q27(2)：その店舗へ行く場合、目ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。【1つだけ○】

- 徒歩
- 自転車
- バイク
- 自動車
- タクシー
- 路線バス・路面電車
- 鉄道
- フェリー・船
- その他

Q27(3)：現在お住まいの住居からその店舗へ、目ごろ利用している交通手段で何分かかりますか。
片道（ ）分

Q27(2)	Q27(3)
外出着・文 書用紙	外出着・文 書用紙
4	10

生活圏について：Q28 家電店舗

- Q28(1) 1.店舗名に○⇒1を記入 5.店舗は利用しない⇒5を記入
両方無回答⇒99を記入
- Q28(1)2 家電店舗の場所に記入あり⇒1を記入 家電店舗の場所に記入なし⇒0を記入
※Q28(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入
- Q28(1)3 記入あり⇒そのまま記入 記入なし⇒0を記入
※Q28(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入

Q28(1)：Q25の「家電の購入」であなたが買い求めた店舗の名前をお書きください。またその店
舗がある市町村または最寄駅名もお書きください。
(例)「エディオン」(東京都) (大阪府)、「エディオン」(大阪府)、「エディオン」(大阪府) (大阪府)。

- 店舗名【
- 市町村・最寄駅名【
- 店舗は利用しない

Q28(1)	Q28(1)2	Q28(1)3
家電	家電	家電
1	1	1

生活圏について：Q28 家電店舗

- Q28(1)4 家電店舗の場所に記入あり⇒1を記入 家電店舗の場所に記入なし⇒0を記入
※Q28(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入
- Q28(1)5 記入あり⇒そのまま記入 記入なし⇒0を記入
※Q28(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入

Q28(1)：Q25の「家電の購入」であなたが買い求めた店舗の名前をお書きください。またその店
舗がある市町村または最寄駅名もお書きください。
(例)「エディオン」(東京都) (大阪府)、「エディオン」(大阪府)、「エディオン」(大阪府) (大阪府)。

- 店舗名【
- 市町村・最寄駅名【
- 店舗は利用しない

Q28(1)4	Q28(1)5
家電	家電
1	1

生活圏について：Q28 家電店舗までの交通手段

- Q28(2) ○されている数字をそのまま記入 ○がない場合⇒99を記入
※Q28(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入
- Q28(3) 書かれている数字をそのまま記入 記入なし⇒999
※Q28(1)に5と記入した場合⇒「888」を記入

Q28(2)：その店舗へ行く場合、目ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。【1つだけ○】

- 徒歩
- 自転車
- バイク
- 自動車
- タクシー
- 路線バス・路面電車
- 鉄道
- フェリー・船
- その他

Q28(3)：現在お住まいの住居からその店舗へ、目ごろ利用している交通手段で何分かかりますか。
片道（ ）分

Q28(2)	Q28(3)
家電・文 書用紙	家電・文 書用紙
4	10

生活圏について：Q29 床屋店舗

- Q29(1) 1.店舗名に○⇒1を記入 5.店舗は利用しない⇒5を記入
両方無回答⇒99を記入
- Q29(1)2 床屋店舗の場所に記入あり⇒1を記入 床屋店舗の場所に記入なし⇒0を記入
※Q29(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入
- Q29(1)3 記入あり⇒そのまま記入 記入なし⇒0を記入
※Q29(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入

Q29(1)：Q26の「床屋・美容室」であなたが買い求めた店舗の名前をお書きください。またその店
舗がある市町村または最寄駅名もお書きください。
(例)「カットカット」(東京都) (大阪府)、「カットカット」(大阪府)、「カットカット」(大阪府) (大阪府)。

- 店舗名【
- 市町村・最寄駅名【
- 店舗は利用しない

Q29(1)	Q29(1)2	Q29(1)3
床屋・美容室	床屋・美容室	床屋・美容室
1	1	1

生活圏について：Q29 床屋店舗

- Q29(1)4 床屋店舗の場所に記入あり⇒1を記入 床屋店舗の場所に記入なし⇒0を記入
※Q29(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入
- Q29(1)5 記入あり⇒そのまま記入 記入なし⇒0を記入
※Q29(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入

Q29(1)：Q26の「床屋・美容室」であなたが買い求めた店舗の名前をお書きください。またその店
舗がある市町村または最寄駅名もお書きください。
(例)「カットカット」(東京都) (大阪府)、「カットカット」(大阪府)、「カットカット」(大阪府) (大阪府)。

- 店舗名【
- 市町村・最寄駅名【
- 店舗は利用しない

Q29(1)4	Q29(1)5
床屋・美容室	床屋・美容室
1	1

生活圏について：Q29 床屋店舗までの交通手段

- Q29(2) ○されている数字をそのまま記入 ○がない場合⇒99を記入
※Q29(1)に5と記入した場合⇒「88」を記入
- Q29(3) 書かれている数字をそのまま記入 記入なし⇒999
※Q29(1)に5と記入した場合⇒「888」を記入

Q29(2)：その店舗へ行く場合、目ごろ最も利用している交通手段は次のどれですか。【1つだけ○】

- 徒歩
- 自転車
- バイク
- 自動車
- タクシー
- 路線バス・路面電車
- 鉄道
- フェリー・船
- その他

Q29(3)：現在お住まいの住居からその店舗へ、目ごろ利用している交通手段で何分かかりますか。
片道（ ）分

Q29(2)	Q29(3)
床屋・美容室	床屋・美容室
4	10

[illegible]

※音声データを含むパワーポイントファイルはDVDに収録しています

—夫婦職業組み合わせ変数を SPSS で作成する方法—

※このマニュアルは川崎・神戸・福岡市民生活実態調査 SPSS 2021 年 1 月現在のものを使って作成

1. 目標変数の確認

目標変数：夫婦職業組み合わせ

既婚の夫・妻の就業状況を見て、以下のように分類する。

- | 〈夫〉 | 〈妻〉 |
|---------|------------------|
| 1=自営・勤め | & 自営・勤め ←共働きパターン |
| 2=自営・勤め | & パート（扶養範囲を超える） |
| 3=自営・勤め | & パート（扶養範囲内） |
| 4=自営・勤め | & 無職・専業主婦 |
| 5=パート | & パート |
| 6=無職 | & 自営・勤め・パート |
| 7=無職 | & 無職 |
| 8=その他 | |

2. 使用する変数の確認と値（カテゴリ）の統合

①使用する変数の確認

【Q21 本人職業】【Q21S 配偶者職業】【Q16 性別】【Q17 婚姻状況】
(使用する変数の度数分布もここで確認しておく)

②値（カテゴリ）の統合

【Q21 本人職業】【Q21S 配偶者職業】の値を統合する。

今回は、

〔1 農林漁業従事者・2 自営業者・3 会社員・4 教員・5 公務員〕⇒〔1 自営・勤め〕

〔9 無職・10 専業主婦・専業主夫〕⇒〔9 無職・専業主婦(夫)〕に統合。

★SPSS 上での手順（Q21 を Q21C へ）

（操作画面）データビュー画面

コマンドバーの「変換」をクリック

「他の変数への値の再割り当て(R)」をクリック

（操作画面）「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス

「入力変数→出力変数」ボックスの中に【Q21 本人職業】を入れる。

「名前(N)」に Q21C と入力。ラベルは付けなくても可。

（変数名は自由だが、今回は Q21 の Change という気持ち）

「変更」をクリックするとボックス内が「Q21→Q21C」となる。

「今までの値と新しい値(O)」をクリック

（操作画面）「今までの値と新しい値(O)」のダイアログボックス

「今までの値」のボックスにある「範囲(N)」に〔1〕、「から(T)」に〔5〕を入力。

「新しい値」のボックスにある「値(L)」に〔1〕を入力し、「追加(A)」をクリック。

「1thru5→1」という表示が登場（1 農林漁業従事者～5 公務員が 1 自営・勤めに集約された）。

続けて、「範囲(N)」に〔9〕、「から(T)」に〔10〕を入力。「値(L)」に〔9〕を入力し、「追加(A)」をクリック。

「9thru10→9」という表示が追加される（9 無職と 10 専業主婦(夫)が 9 無職・専業主婦(夫)に集約された）。

次に、「その他の全ての値(O)」を選択。「今までの値をコピー(P)」を選び、「追加(A)」をクリック。

「ELSE→Copy」という表示が追加される（統合しない値はそのままコピーされた）。

下方にある「続行」をクリック。「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックスに戻る。

（操作画面）「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス

左下にある「OK」をクリック。これで【Q21C】という変数ができた。

（確認）

「度数分布表(F)」に【Q21C】を追加すると、以下の表が出てくる（はず）。

Q21C					
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1.00	1280	44.5	44.5	44.5
	6.00	225	7.8	7.8	52.3
	7.00	304	10.6	10.6	62.9
	8.00	105	3.7	3.7	66.6
	9.00	776	27.0	27.0	93.5
	11.00	88	3.1	3.1	96.6
	99.00	98	3.4	3.4	100.0
	合計	2876	100.0	100.0	

③【Q21S 配偶者職業】も同様の手順で統合する（Q21S→Q21SC）。

Q21SC					
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1.00	934	32.5	32.5	32.5
	6.00	130	4.5	4.5	37.0
	7.00	193	6.7	6.7	43.7
	8.00	31	1.1	1.1	44.8
	9.00	549	19.1	19.1	63.9
	11.00	2	.1	.1	63.9
	88.00	994	34.6	34.6	98.5
	99.00	43	1.5	1.5	100.0
	合計	2876	100.0	100.0	

3. 夫の職業変数・妻の職業変数の作成

①回答者が既婚男性＝本人職業は夫の職業・配偶者職業は妻の職業

回答者が既婚女性＝本人職業は妻の職業・配偶者職業は夫の職業になる

これを踏まえると、

夫の職業＝（回答者が既婚男性）【本人職業】＋（回答者が既婚女性）【配偶者職業】

妻の職業＝（回答者が既婚女性）【本人職業】＋（回答者が既婚男性）【配偶者職業】となる。

夫・妻の職業変数を作るために、

夫の職業（回答者が既婚男性）【本人職業】＝Q21C2

（回答者が既婚女性）【配偶者職業】＝Q21SC2

妻の職業（回答者が既婚女性）【本人職業】＝Q21C2w

（回答者が既婚男性）【配偶者職業】＝Q21SC2w の4つの変数を作る。

※この時、職業については先ほど作成した統合バージョン（Q21CとQ21SC）を用いる。

②夫の職業：回答者が既婚男性の場合の本人職業（Q21C2）の作り方

★SPSS 上での手順（Q21CをQ21C2へ）

（操作画面）データビュー画面

コマンドバーの「変換」をクリック

「他の変数への値の再割り当て(R)」をクリック

（操作画面）「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス

「入力変数→出力変数」ボックスの中に【Q21C】を入れる。

「名前(N)」にQ21C2と入力。ラベルは付けなくても可。

（変数名は自由だが、ここではQ21Change その2という気持ち）

「変更」をクリックするとボックス内が「Q21C→Q21C2」となる。

ここでポイント。「IF(I)」をクリック。

（操作画面）「IF 条件」のダイアログボックス

「IF を満たしたケースを含む(I)」を選択。

ボックス内に【Q16 性別】を移動。下の電卓を使って、

「Q16=1」

さらに、&も入れて【Q17 婚姻状況】を追加。ボックス内が

「Q16=1 & Q17=1」（＝既婚男性）

になったら「続行(C)」をクリック。「他の変数への値の再割り当て(R)」に戻る。

（操作画面）「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス

「今までの値と新しい値(O)」をクリック

（操作画面）「今までの値と新しい値(O)」のダイアログボックス

「範囲(N)」に〔1〕、「から(T)」に〔11〕を入力（職業の選択肢全て）。

新しい値ボックスにある「今までの値をコピー(P)」を選択し、「追加(A)」をクリック。

「1thru 11→Copy」という表示が登場。

続けて、99（無回答）をシステム欠損値として扱いたいので、

「その他の全ての値(O)」を選択し、「システム欠損値(Y)」を選択。「追加(A)」をクリック。

「ELSE→SYSMIS」という表示が追加される。

下方にある「続行」をクリック。「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックスに戻る。

(操作画面)「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス
左下にある「OK」をクリック。これで【Q21C2】という変数ができた。

(確認)

「度数分布表(F)」に【Q21C2】を追加すると、以下の表が出てくる (はず)。

Q21C2					
		度数	パーセント	有効パーセン ト	累積パーセン ト
有効	1.00	600	20.9	71.2	71.2
	6.00	22	.8	2.6	73.8
	7.00	25	.9	3.0	76.7
	8.00	35	1.2	4.2	80.9
	9.00	159	5.5	18.9	99.8
	11.00	2	.1	.2	100.0
	合計	843	29.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	2033	70.7		
合計		2876	100.0		

③夫の職業：回答者が既婚女性の場合の配偶者職業 (Q21SC2) の作り方

★SPSS 上での手順 (Q21SC を Q21SC2 へ)

(操作画面) データビュー画面

コマンドバーの「変換」をクリック

「他の変数への値の再割り当て(R)」をクリック

(操作画面)「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス

「入力変数→出力変数」ボックスの中に【Q21SC】を入れる。

「名前(N)」に Q21SC2 と入力。ラベルは付けなくても可。

(変数名は自由だが、ここでは Q21SChange その2 という気持ち)

「変更」をクリックするとボックス内が「Q21SC→Q21SC2」となる。

ここでポイント。「IF(I)」をクリック。

(操作画面)「IF 条件」のダイアログボックス

「IF を満たしたケースを含む(I)」を選択。

ボックス内に【Q16 性別】を移動。下の電卓を使って、

「Q16=2」

さらに、&も入れて【Q17 婚姻状況】を追加。ボックス内が

「Q16=2 & Q17=1」 (=既婚女性)

になったら「続行(C)」をクリック。「他の変数への値の再割り当て(R)」に戻る。

(操作画面)「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス

「今までの値と新しい値(O)」をクリック

(操作画面)「今までの値と新しい値(O)」のダイアログボックス

「範囲(N)」に「1」、「から(T)」に「11」を入力（職業の選択肢全て）。

新しい値ボックスにある「今までの値をコピー(P)」を選択し、「追加(A)」をクリック。

「1thru 11→Copy」という表示が登場。

続けて、99（無回答）をシステム欠損値として扱いたいので、

「その他の全ての値(O)」を選択し、「システム欠損値(Y)」を選択。「追加(A)」をクリック。

「ELSE→SYSMIS」という表示が追加される。

下方にある「続行」をクリック。「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックスに戻る。

(操作画面)「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス

左下にある「OK」をクリック。これで【Q21SC2】という変数ができた。

(確認)

「度数分布表(F)」に【Q21SC2】を追加すると、以下の表が出てくる（はず）

Q21SC2					
		度数	パーセント	有効パーセン ト	累積パーセン ト
有効	1.00	725	25.2	72.9	72.9
	6.00	24	.8	2.4	75.3
	7.00	28	1.0	2.8	78.1
	8.00	22	.8	2.2	80.3
	9.00	196	6.8	19.7	100.0
	合計	995	34.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	1881	65.4		
合計		2876	100.0		

④妻の職業：回答者が既婚女性の場合の本人職業（Q21C2w）と
 妻の職業：回答者が既婚男性の場合の配偶者職業（Q21SC2w）も同様の手順で作る。
 （Q21C を Q21C2w へ）

Q21C2w					
		度数	パーセント	有効パーセン ト	累積パーセン ト
有効	1.00	249	8.7	24.7	24.7
	6.00	90	3.1	8.9	33.6
	7.00	224	7.8	22.2	55.9
	8.00	29	1.0	2.9	58.7
	9.00	415	14.4	41.2	99.9
	11.00	1	.0	.1	100.0
	合計	1008	35.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	1868	65.0		
合計		2876	100.0		

（Q21SC を Q21SC2w へ）

Q21SC2w					
		度数	パーセント	有効パーセン ト	累積パーセン ト
有効	1.00	203	7.1	24.2	24.2
	6.00	106	3.7	12.6	36.9
	7.00	165	5.7	19.7	56.6
	8.00	9	.3	1.1	57.6
	9.00	353	12.3	42.1	99.8
	11.00	2	.1	.2	100.0
	合計	838	29.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	2038	70.9		
合計		2876	100.0		

⑤【Q21C2】と【Q21SC2】を足し合わせて夫の職業変数（HusbandJob）を作る
 しかし困ったことに、この2つの変数を単純に足すと、全てがシステム欠損値になってしまう。なぜなら、
 どちらも IF 条件が付いているため、【Q21C2】では既婚女性の配偶者職業が欠損値、【Q21SC2】では既婚
 男性の本人職業が欠損値になってしまうからである。
 そこで、両変数の IF 条件を外した変数（Q21C3 と Q21SC3）を作る必要がある。

⑥【Q21C2】から【Q21C3】を作成する

★SPSS 上での手順（Q21C2 を Q21C3 へ）

（操作画面）データビュー画面

コマンドバーの「変換」をクリック

「他の変数への値の再割り当て(R)」をクリック

（操作画面）「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス

「入力変数→出力変数」ボックスの中に【Q21C2】を入れる。

「名前(N)」に Q21C3 と入力。ラベルは付けなくても可。

（変数名は自由だが、ここでは Q21Change その 3 という気持ち）

「変更」をクリックするとボックス内が「Q21C2→Q21C3」となる。

ここでポイント。「IF(I)」をクリック。

（操作画面）「IF 条件」のダイアログボックス

「全てのケースを含む(A)」を選択し、「続行(C)」をクリック。

「他の変数への値の再割り当て(R)」に戻る。

（操作画面）「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス

「今までの値と新しい値(O)」をクリック

（操作画面）「今までの値と新しい値(O)」のダイアログボックス

「範囲(N)」に「1」、「から(T)」に「11」を入力（職業の選択肢全て）。

新しい値ボックスにある「今までの値をコピー(P)」を選択し、「追加(A)」をクリック。

「1thru 11→Copy」という表示が登場。

続けて、「今までの値」のボックスにある「システム欠損値(S)」を選択し、

「新しい値」のボックスにある「値(L)」に「0」を入力し、「追加(A)」をクリック。

「SYSMIS→0」という表示が追加される。

下方にある「続行」をクリック。「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックスに戻る。

（操作画面）「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス

左下にある「OK」をクリック。これで【Q21C3】という変数ができた。

（確認）

「度数分布表(F)」に【Q21C3】を追加すると、以下の表が出てくる（はず）

Q21C3					
		度数	パーセント	有効パーセン ト	累積パーセン ト
有効	.00	2033	70.7	70.7	70.7
	1.00	600	20.9	20.9	91.6
	6.00	22	.8	.8	92.3
	7.00	25	.9	.9	93.2
	8.00	35	1.2	1.2	94.4
	9.00	159	5.5	5.5	99.9
	11.00	2	.1	.1	100.0
	合計	2876	100.0	100.0	

※システム欠損値が 0 になったことに注目

⑦同様の手順で、【Q21SC2】から【Q21SC3】を作成する

Q21SC3					
		度数	パーセント	有効パーセン ト	累積パーセン ト
有効	.00	1881	65.4	65.4	65.4
	1.00	725	25.2	25.2	90.6
	6.00	24	.8	.8	91.4
	7.00	28	1.0	1.0	92.4
	8.00	22	.8	.8	93.2
	9.00	196	6.8	6.8	100.0
	合計	2876	100.0	100.0	

※システム欠損値が0 になったことに注目

⑧【Q21C3】と【Q21SC3】を足し合わせて夫の職業変数（HusbandJob）を作る

★SPSS 上での手順（Q21C3+Q21SC3）

（操作画面）データビュー画面

コマンドバーの「変換」をクリック

「変数の計算(C)」をクリック

（操作画面）「変数の計算(C)」のダイアログボックス

「目標変数(T)」に HusbandJob と入力。

（変数名は自由だが、ここでは夫の職業という意味）

「数式(E)」のボックスに【Q21C3】を入れ、電卓で+を入力。その後ろに【Q21SC3】を挿入。

「Q21C3+Q21SC3」

になったら、下方にある「OK」をクリック。これで【HusbandJob】という変数ができた。

（確認）

「度数分布表(F)」に【HusbandJob】を追加すると、以下の表が出てくる（はず）

HusbandJob					
		度数	パーセント	有効パーセン ト	累積パーセン ト
有効	.00	1038	36.1	36.1	36.1
	1.00	1325	46.1	46.1	82.2
	6.00	46	1.6	1.6	83.8
	7.00	53	1.8	1.8	85.6
	8.00	57	2.0	2.0	87.6
	9.00	355	12.3	12.3	99.9
	11.00	2	.1	.1	100.0
	合計	2876	100.0	100.0	

⑨【Q21C2w】と【Q21SC2w】を足し合わせて妻の職業変数（WifeJob）を作る
 しかし、ここでも2つの変数を単純に足すと、全てがシステム欠損値になってしまう。
 そこで、両変数のIF条件を外した変数（Q21C3w と Q21SC3w）を作る必要がある。

⑩⑥の手順を基に【Q21C3w】と【Q21SC3w】作成する。

Q21C3w					
		度数	パーセント	有効パーセン ト	累積パーセン ト
有効	.00	1868	65.0	65.0	65.0
	1.00	249	8.7	8.7	73.6
	6.00	90	3.1	3.1	76.7
	7.00	224	7.8	7.8	84.5
	8.00	29	1.0	1.0	85.5
	9.00	415	14.4	14.4	100.0
	11.00	1	.0	.0	100.0
	合計	2876	100.0	100.0	

Q21SC3w					
		度数	パーセント	有効パーセン ト	累積パーセン ト
有効	.00	2038	70.9	70.9	70.9
	1.00	203	7.1	7.1	77.9
	6.00	106	3.7	3.7	81.6
	7.00	165	5.7	5.7	87.3
	8.00	9	.3	.3	87.7
	9.00	353	12.3	12.3	99.9
	11.00	2	.1	.1	100.0
	合計	2876	100.0	100.0	

⑪⑧の手順を基に【Q21C3w】と【Q21SC3w】を足し合わせて妻の職業変数（WifeJob）を作る

WifeJob					
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	.00	1030	35.8	35.8	35.8
	1.00	452	15.7	15.7	51.5
	6.00	196	6.8	6.8	58.3
	7.00	389	13.5	13.5	71.9
	8.00	38	1.3	1.3	73.2
	9.00	768	26.7	26.7	99.9
	11.00	3	.1	.1	100.0
	合計	2876	100.0	100.0	

4. 夫婦職業組み合わせ変数（JobCombination）を作る

①夫の職業と妻の職業をクロスさせてみる（正しく作れているか確認）

★SPSS 上での手順

（操作画面）「クロス集計表(C)」のダイアログボックス

「行(O)」に【HusbandJob】を、「列(C)」に【WifeJob】を入れて「OK」をクリック。

HusbandJob と WifeJob のクロス表									
度数		WifeJob							合計
		.00	1.00	6.00	7.00	8.00	9.00	11.00	
HusbandJob	.00	1020	6	1	2	0	9	0	1038
	1.00	7	418	158	310	18	413	1	1325
	6.00	0	4	14	15	2	11	0	46
	7.00	1	1	3	13	0	34	1	53
	8.00	1	3	9	14	10	20	0	57
	9.00	1	19	11	35	8	281	0	355
	11.00	0	1	0	0	0	0	1	2
合計		1030	452	196	389	38	768	3	2876

○のケースについては確認が必要（Q21 か Q21S に無回答かどうか）。

②夫の職業と妻の職業を組み合わせる (JobCombination=HusbandJob*100+WifeJob)

★SPSS 上での手順

(操作画面) データビュー画面

コマンドバーの「変換」をクリック

「変数の計算(C)」をクリック

(操作画面) 「変数の計算(C)」のダイアログボックス

「目標変数(T)」に JobCombination と入力。(変数名は自由だが、ここでは職業組み合わせという意味)

「数式(E)」のボックスに【HusbandJob】を入れ、電卓で*100+を入力。その後ろに【WifeJob】を挿入。

「HusbandJob*100+WifeJob」

になったら、下方にある「OK」をクリック。これで【JobCombination】という変数ができた。

(確認)

「度数分布表(F)」に【JobCombination】を追加すると、次の表が出てくる (はず)

JobCombination					
	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
有効	.00	1020	35.5	35.5	35.5
	1.00	6	.2	.2	35.7
	6.00	1	.0	.0	35.7
	7.00	2	.1	.1	35.8
	9.00	9	.3	.3	36.1
	100.00	7	.2	.2	36.3
	101.00	418	14.5	14.5	50.9
	106.00	158	5.5	5.5	56.4
	107.00	310	10.8	10.8	67.1
	108.00	18	.6	.6	67.8
	109.00	413	14.4	14.4	82.1
	111.00	1	.0	.0	82.2
	601.00	4	.1	.1	82.3
	606.00	14	.5	.5	82.8
	607.00	15	.5	.5	83.3
	608.00	2	.1	.1	83.4
	609.00	11	.4	.4	83.8
	700.00	1	.0	.0	83.8
	701.00	1	.0	.0	83.8
	706.00	3	.1	.1	83.9
	707.00	13	.5	.5	84.4
	709.00	34	1.2	1.2	85.6
	711.00	1	.0	.0	85.6
	800.00	1	.0	.0	85.6
	801.00	3	.1	.1	85.7
	806.00	9	.3	.3	86.1
	807.00	14	.5	.5	86.5
	808.00	10	.3	.3	86.9
	809.00	20	.7	.7	87.6
	900.00	1	.0	.0	87.6
	901.00	19	.7	.7	88.3
	906.00	11	.4	.4	88.7
	907.00	35	1.2	1.2	89.9
	908.00	8	.3	.3	90.2
	909.00	281	9.8	9.8	99.9
	1101.00	1	.0	.0	100.0
	1111.00	1	.0	.0	100.0
合計		2876	100.0	100.0	

【目標変数との関係】

〈夫〉 〈妻〉

1=自営・勤め & 自営・勤め ←共働きパターン [101]
 2=自営・勤め & パート(扶養範囲を超える) [106]
 3=自営・勤め & パート(扶養範囲内) [107]
 4=自営・勤め & 無職・専業主婦 [109]
 5=パート & パート [606] [607] [706] [707]
 6=無職 & 自営・勤め・パート [901] [906] [907]
 7=無職 & 無職 [909]
 8=その他 [108] [111] [601] [608] [609] [701] [709]
 [711] [801] [806] [807] [808]

[809] [908] [1101] [1111]

欠損値・異常欠損値

[0] [1] [6] [7] [9] [100] [700] [800] [900]

③目標変数に従って割り当てを行う

★SPSS 上での手順

(操作画面)「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス

「入力変数→出力変数」ボックスの中に【JobCombination】を入れる。

「名前(N)」に「夫婦職業組み合わせ」と入力。ラベルは付けなくても可。

(変数名は自由)

「変更」をクリックするとボックス内が「JobCombination→夫婦職業組み合わせ」となる。

「今までの値と新しい値(O)」をクリック

(操作画面)「今までの値と新しい値(O)」のダイアログボックス

上記のように目標変数に従って値を再割り当て。

(例:「今までの値」の「値(V)」に 101 を入力し、「新しい値」の「値(L)」に 1 を入力)

「続行」をクリック。「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックスに戻る。

(操作画面)「他の変数への値の再割り当て(R)」のダイアログボックス

左下にある「OK」をクリック。これで【夫婦職業組み合わせ】という変数ができた。

さらに、「変数ビュー」画面で「値ラベル(L)」をつけると、以下のようになる。

夫婦職業組み合わせ					
		度数	パーセント	有効パーセン ト	累積パーセン ト
有効	夫勤め・自営×妻勤め・自営	418	14.5	22.9	22.9
	夫勤め・自営×妻パート超	158	5.5	8.6	31.5
	夫勤め・自営×妻パート内	310	10.8	17.0	48.5
	夫勤め・自営×妻無職・専業主婦	413	14.4	22.6	71.1
	夫パート×妻パート	45	1.6	2.5	73.5
	夫無職×妻勤め・自営・パート	65	2.3	3.6	77.1
	夫無職×妻無職・専業主婦	281	9.8	15.4	92.5
	その他	138	4.8	7.5	100.0
	合計	1828	63.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	1048	36.4		
合計		2876	100.0		

(システム欠損値は、【Q21 本人職業】【Q21S 配偶者職業】【Q16 性別】【Q17 婚姻状況】いずれかが NA のケースである)

これで完成!

+a 様々なデータとクロス分析してみよう～

—Google Map を利用した空間的分析法のマニュアル—

以下の方法は事前に Google アカウント作成の上、ログインした状態で行う。

1.Excel 表の作成

分析を行いたいデータを Excel にまとめる。1 行目には現住所や交通手段など、「データの名前」を入力し、フィルターを設定しておく。

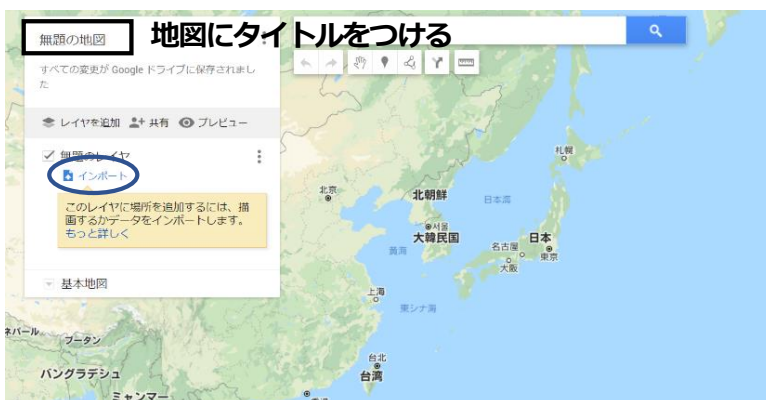
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	CN	住所	食料品	食料	衣類	衣類	家電	家電	床屋	床屋	病院	病院
2	10001	※住所は個人情報保護の観点から本報告書では見えないようにしています	1	1	3	4	3	4	1	1	4	1
3	10002		1	2	3	6	5		4	6	4	6
4	10003		1	1	4	6	4	6	1	1	1	1
5	10004		1	1	4	6	4	6	1	1	1	1
6	10005		1	1	4	6	4	6	4	6	4	6
7	10006		2	5	2	5	3	4	2	5	2	1
8	10007		1	1	2	4	2	4	1	1	1	4
9	10008		1	1	2	6	2	6	2	6	1	1
10	10009		1	1	3	1	3	5	2	4	3	5
11	10010		1	1	4	6	2	6	4	6	1	1
12	10011		2	4	4	6	3	4	5		1	1
13	10012		1	2	1	4	1	2	4	4	1	1
14	10013		1	1	2	1	2	5	1	1	2	1
15	10014		1	2	1	2	3	4	1	1	1	1
16	10015		1	1	4	6	2	4	1	1	2	6
17	10016		1	1	4	1	2	1	1	1	2	1

データの名前

※「データの名前」は合計 64 文字以下にする必要があり、特殊文字"<>{}|"は使用できない。上記が満たされていない Excel は使用できない。また、マップに表示できる最大のデータ数は 2000 までであり、2002 行目以降のデータはマップに表示されなくなる。そのため、2001 行以内かつ 1 行目は特殊文字を使わずに合計 64 文字以下にしておくことが条件となる。

2.データの読み込み

Google アカウントにログインした状態で Google Map を開き、左上のメニューを選択し、「マイプレイス」→「マイマップ」→「地図の作成」の順に選択する。



「インポート」をクリックするとマッピングに使用するファイルを選択する画面に移行する。ファイルは端末のデバイス、Google ドライブから選択することができる。

事前に作成した Excel データを選択すると「目印を配置する列の選択」となる。これはマップに表示する座標の選択であり、図 1 の Excel の場合、「住所」を選択する。その次の手順である「マーカーの列として使用する例」はどの「データの名前」を選択してもよい。

目印を配置する列の選択

地図上に目印を配置する場所を示す列（住所や緯度/経度のペアなど）をファイルから指定してください。すべての列がインポートされます。

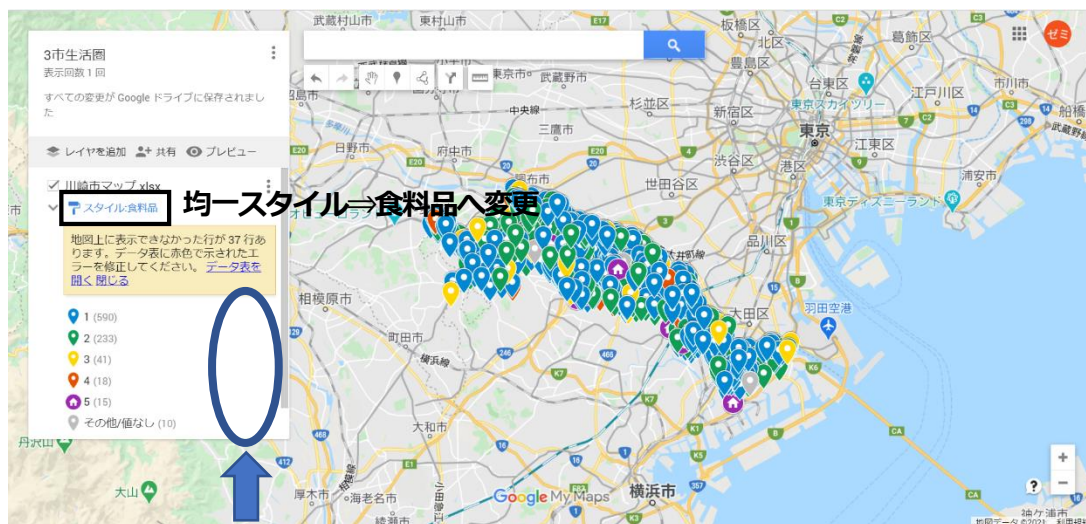
☐ areaC ?
☐ CN ?
☐ 本人住所 ?
☐ 店舗名 ?
☐ 店舗住所 ?
☐ 病院名 ?
☐ 病院住所 ?
☐ 買い物距離 ?

続行
戻る
キャンセル

※上の画像のように、住所データが複数表記されている Excel の場合、座標としたい住所データ（本人住所 or 店舗住所、病院住所）をこの時点で選択する。

3.色分け

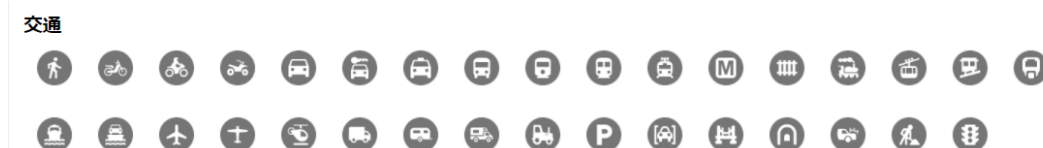
以下の手順を終えると地図上に Excel データがピンとなって表示される。ピンを色分けするために「均一スタイル」から「場所のグループ化方法」を色分けしたいデータ名に変更する。



↑の部分に出てくる色を塗るマークをクリックすることでピンの色を自身で変更できる。

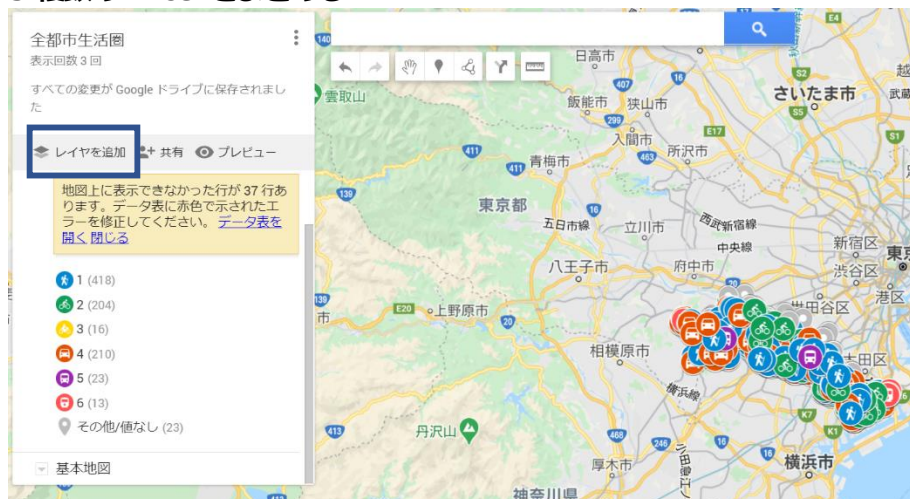
4.アイコンの編集

色分けの応用として色の編集の際に「他のアイコン」からピンのアイコンを変更することができる。アイコンの種類は多数存在し、交通手段別にアイコンを変えてマッピングすることも可能である。

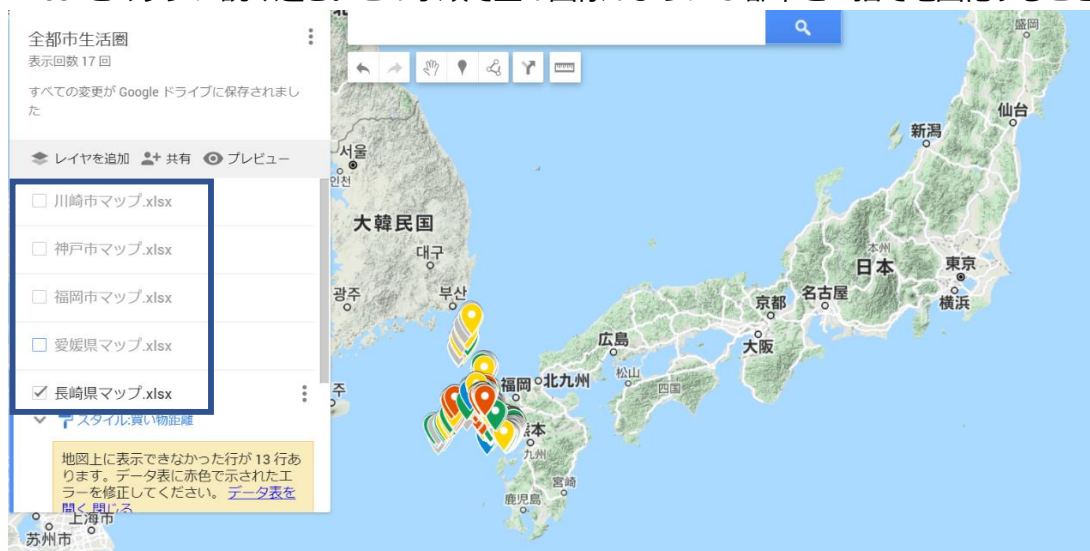


「交通」の項目から「1.徒歩 2.自転車 3.バイク 4.自転車 5.バス 6.電車」をそれぞれ対応するアイコンに編集すると、色分け以上にマップ上でピンが見やすくなる。

5.複数の Excel をまとめる



2000 データまでしか、1 つの Excel から表示できないため、県民生活実態調査・市民生活実態調査ともに県ごと、市ごとで Excel を分けなければならない。しかし、複数の Excel を同じマップ上で表示することは可能である。画像の左上「レイヤを追加」から 2 章の過程に移る。同様に「インポート」から次に使う Excel をマップに読み込む。この手順で上の画像のように 5 都市を一括で地図化することが可能になる。



レイヤは左のチェック欄で表示、非表示にすることができるため、複数の都市を 1 つのマップにまとめても分析したい都市をフォーカスすることは可能である。

枠内のチェック欄では長崎のみをチェックしているため、他の 4 都市はマップには表示されなくなる。将来的にはすべての都道府県、市町村のデータを 1 つにまとめたとしても、ある程度見やすく扱いやすいマップになるであろう。

大谷ゼミ 21 期生メンバー紹介

2年半の間、紆余曲折を共にした15名の個性あふれるゼミ生を紹介します！（順不同）

- ①関学に入ってよかったこと ②今ハマっていること ③高校時代の得意科目
④憧れの芸能人・将来はこんな人になりたい！ ⑤大谷ゼミを一言で表すと？ ⑥10年後の自分にメッセージ

久木元勝太（ゼミ長）

- ①一生の友人たちと出会えたこと ②ゴルフ ③英語 ④木村拓哉 信頼・尊敬される人
⑤毎週発表 ⑥いっぱしの大人であり続けてください

早瀬翔吾（副ゼミ長）

- ①他学部履修できる。キャンパスが綺麗でモチベを保てた！笑 ②普通ですが料理、最近はデザートも
③世界史 ④ひろゆき ⑤本当に優しい先生でした。
⑥僕の欠点をモチベを保てないこと、今も海外とか何かに向けてモチベを保っていますか

加藤凜沙子

- ①関西カルチャーに親しんだこと。素晴らしい友だちに出会えたこと！ ②ミシン・編み物・海外ドラマ鑑賞
③英語・数学 ④Camila Cabello 自信たっぷりて周りの人を自然と笑顔にできる人。
⑤正解が見つからない日々（笑） ⑥Be Positive♡ 人生に無駄なしだからね。

越智和歌音

- ①様々な価値観を持った人たちと出会えたこと ②韓国ドラマをみること ③日本史
④上白石萌音ちゃん！気遣いのできる人になりたいです ⑤忍耐！笑
⑥仕事大変だと思うけど、人生楽しんでください♡

中川明日菜

- ①様々なところから集まった人との出会い ②今までの旅行を写真・動画で振り返ること ③地理
④気配りのできる人になりたい ⑤鍛錬 ⑥身体には気をつけて仕事頑張ってください！

桑山航太郎

- ①とにかく色々な人と出会えた ②ゴルフ ③強いて言うなら英語 ④若林正恭
⑤社会調査の最先端 ⑥家族と仲良くして下さい。

藤原佳詠

- ①宝塚で一人暮らしができた ②東京 03 ③現代文・現代社会 ④マツコ DX みたいな教養のある面白い人
⑤多種多様 ⑥健康第一！

西田有梨沙

- ①校舎が綺麗、自由に大学生活が送れたこと ②コーヒーをブラックで飲んでみることに ③英語
④吉田羊さんみたいな大人！ ⑤業務過多（笑） ⑥どれだけ忙しくても自分の時間を作ってね！

酒井美羽

- ①社会学部に入学して社会問題について幅広く知り、関心を持てるようになったこと。
- ②健康な生活を送ること！食生活・運動など。 ③生物・化学。文系科目は苦手でした。
- ④人と会って話す時間を大切にしたい。この一年でその大切さを実感しました。 ⑤調査！分析！発表！修正！
- ⑥今の私は大好きな人たちに囲まれて幸せです！10年後の私もそうでありますように！

鈴木美玖

- ①パソコンが使えるようになった ②ストリート系ファッション ③数学
- ④ちょっと抜けた人になりたい ⑤可愛い ⑥食べすぎ注意

倉益萌々子

- ①綺麗なキャンパスでのびのびと学べること ②ゲーム、韓ドラをみること ③英語 ④聡明で明るい人
- ⑤ためになるゼミ！ ⑥楽しく生きてることを願ってます！幸せになってね♡

田中亮多

- ①色々な人に会えたこと ②温泉に行くこと ③社会 ④芯がある人 ⑤学びがある場所
- ⑥謙虚に視野を広く持ち行動する

吉田圭吾

- ①社会問題を幅広く学べたこと ②小説を読む ③現国 ④水沢林太郎 ⑤プレゼン力鍛えられる
- ⑥頑張ってください

松原寛次

- ①一生の友達がたくさんできた ②筋トレ ③日本史 ④ダルビッシュ有 ⑤毎週課題が大変だあ
- ⑥人生楽しんだもん勝ちやで～

船岳倫太郎

- ①友達に恵まれた ②料理 ③日本史 ④かっこいいソパ！ ⑤最高！！ ⑥まだ忙しくしてますか？

編集後記

大谷ゼミ 21 期生の活動は 2018 年 9 月に始まりました。それから約 2 年半。現在に至るまで、ゼミを通して様々なことを経験させていただきました。市民生活実態調査の調査票作成及びサンプリング作業や結果の分析など「大谷ゼミだからできたこと」はこれからの人生にきっと役に立つと思っています。

2020 年は新型コロナウイルスの影響によって、1 年間リモート形式でのゼミ活動となりました。例年のようなゼミが困難な状況の中、大谷先生は長期休暇中であっても毎週金曜日の 3・4 限にゼミを開き、ご指導して下さいました。その結果、こうして自分たちの研究を報告書という形にすることができました。本当にありがとうございました。また此処にたどり着くまでには、松川先生や歴代の先輩方、川崎・神戸・福岡市の職員の方々など、様々な方のご協力がありました。21 期生を代表して御礼申し上げます。

最後になりますが、大谷先生、松川先生には本当にお世話になりました。先生方は常に「社会で活躍するためには何が必要か」ということを教えてくださっていたように思います。大谷ゼミで学んだことを糧に、これからの人生を歩んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。

大谷ゼミ 21 期生一同



発行 2021 年 3 月 18 日

関西学院大学社会学部 大谷研究室

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155

TEL 0798-54-6378